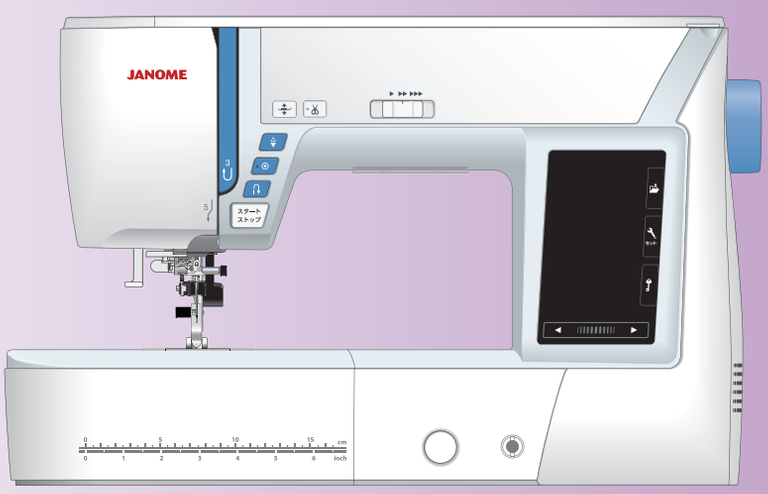
取扱説明書



JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示

⚠ 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の原因になります。

 禁　止	ストーブ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～ 35℃です。
 禁　止	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
 必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。
 必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
 必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因になります。

 分解禁止	お客様自身での分解はしないでください。
 接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
 禁　止	ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
 禁　止	曲がった針や、先のつぶれた針はご使用にならないでください。
 禁　止	このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。 付属の専用電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因になります。

 禁　止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。
 禁　止	ミシンの通風口はふさがないでください。
 注　意	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
 必ず実行	ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。
 必ず実行	プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
 必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
 必ず実行	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
 必ず実行	以下のことを行うときは、ロックキーを押してミシンをロック状態にしてください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき ・針、針板を交換するとき
 必ず電源プラグを抜く	ミシンのお手入れを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

目　次

◎お取り扱いについてのお願い 2

◎各部のなまえ 3

◎標準付属品と収納場所 ..... 4 ～ 5
- ●標準付属品 4
- ●収納場所（1）（天板収納部） 5
- ●収納場所（2）（補助テーブル収納部） 5

◎操作方法 ..... 6 ～ 19
- ●電源のつなぎ方 6
  - ★スタート / ストップボタンを使用する場合 6
  - ★フットコントローラーを使用する場合 6
- ●速さの調節 7
  - ★スピードコントロールつまみ 7
  - ★フットコントローラー 7
- ●操作ボタン ..... 8 ～ 9
- ●画面（タッチパネル） 10
- ●ロックキーの使い方 11
- ●押さえ上げ 12
- ●ニーリフト 12
- ●送り歯ドロップつまみ 13
- ●送り調節ねじ（模様の形の調節） 13
- ●押さえの外し方、付け方 14
- ●押さえホルダーの外し方、付け方 15
- ●上送り押さえのセット方法 16
- ● PD-H：フリーキルト押さえの取り付け方 17
- ●針板の外し方、付け方 18
- ●針の取りかえ 19
- ●布に適した糸や針を選ぶ目安 19

◎ぬう前の準備 ..... 20 ～ 26
- ●下糸の準備 ..... 20 ～ 23
  - ★ボビンの取り出し 20
  - ★糸こまのセット 20
  - ★補助糸立て棒の使い方 21
  - ★下糸巻き ..... 21 ～ 22
  - ★ボビンのセット 23
- ●上糸の準備 ..... 24 ～ 25
  - ★上糸かけ 24
  - ★糸通し 25
- ●下糸を針板の上に引き出す場合 26

◎実用ぬい ..... 27 ～ 43
- ●実用ぬいの画面 27
- ●実用ぬいの調節画面 ..... 28 ～ 31
  - ★ぬい目の幅調節キー 29
  - ★ぬい目のあらさ調節キー 30
  - ★糸調子調節キー 31
- ●ぬい目の幅（針位置）、ぬい目のあらさ、糸調子のオート値の変更 32
- ●直線（直線状模様）ぬい ..... 33 ～ 39
  - ★直線ぬい（中針位置） ..... 33 ～ 34
  - ★上送り押さえの使い方 35
  - ★自動返しぬい 36
  - ★自動止めぬい 36
  - ★直線ぬい（左針位置） 37
  - ★三重ぬい 37
  - ★伸縮ぬい（ニットステッチ） 37
  - ★針板ガイドの使い方 38
  - ★直線ぬい用針板の使い方 39
- ●しつけぬい 40
- ●つくろいぬい 41
- ●かがりぬい ..... 41 ～ 42
  - ★かがりぬい（1） 41
  - ★かがりぬい（2） 41
  - ★ニットステッチ（1） 42
  - ★ニットステッチ（2） 42
- ●バック直線ぬい 43
- ●ファゴティング 43
- ●その他の実用ぬい 43

◎ボタンホール・特殊模様 ..... 44 ～ 60
- ●ボタンホール・特殊模様の画面 44
- ●ボタンホールの種類と用途 45
- ●スクエアボタンホール ..... 46 ～ 49
  - ★ボタンホールの調節画面 49
- ●メモリーボタンホール（スクエアボタンホール） ..... 50 ～ 51
- ●ラウンドボタンホール 52
- ●キーホールボタンホール 52
- ●ニットボタンホール 52
- ●ボタンホール安定板の使い方 53
- ●たまぶちボタンホール ..... 54 ～ 55
- ●芯入りボタンホール 56
- ●つくろいぬい（ダーニング） ..... 57 ～ 58
- ●かんぬき 59
- ●アイレット 60

◎飾りぬい ..... 61 ～ 75
- ●飾りぬいの画面 ..... 61 ～ 63
  - ★模様選択画面 63
- ●模様組み合わせモード ..... 64 ～ 73
  - ★模様組み合わせぬいの例 65
  - ★反転キーの使い方 ..... 66 ～ 67
  - ★模様頭出しキーの使い方 68
  - ★プレビュー機能 69
  - ★編集機能 ..... 70 ～ 71
  - ★模様全長表示機能 ..... 72 ～ 73
- ●模様の長さ調節機能（エロンゲーション） 74
- ●つなぎもようグループの使い方 75

◎文字ぬい ..... 76 ～ 81
- ●文字ぬいの画面 ..... 76 ～ 77
  - ★模様選択画面 77
- ●文字ぬいの例 ..... 78 ～ 81
  - ★統一糸調子機能 81

目　　次

◎用途選択 ..... 82 ～ 112
- ●用途選択の画面 ..... 82 ～ 83
  - ★模様選択画面 84
- ●地ぬい 85
- ●ふちかがり 86
- ●まつりぬい ..... 87 ～ 88
- ●シェルタック 89
- ●三つ巻きぬい 90
- ●ファスナー付け ..... 91 ～ 93
- ●コンシールファスナー付け（オプション） .... 94 ～ 95
- ●ギャザー 96
- ●しつけ 97
- ●ボタン付け ..... 97 ～ 99
- ●かんぬき 100
- ●アップリケ ..... 100 ～ 101
- ●パッチワーク ..... 102 ～ 103
- ●キルティング ..... 104 ～ 112
  - ★直線ぬい 104
  - ★とじぬい 105
  - ★フリーキルティング ..... 106 ～ 110
  - ★刺し子風ステッチ 111
  - ★手ぬい風キルトぬい 111
  - ★バリアブル ZZ（可変ジグザグ） 112

◎ 2 本針ぬい ..... 113 ～ 114

◎模様データの保存・呼び出し ..... 115 ～ 120
- ●模様データの保存 ..... 115 ～ 119
- ●模様データの呼び出し ..... 119 ～ 120

◎ミシンの設定 ..... 121 ～ 128

◎ミシンのお手入れ ..... 129 ～ 130
- ●かまと送り歯、糸切り部の掃除 129
- ●糸案内カバーの掃除 130

◎こんなときには ..... 131 ～ 134
- ●注意メッセージが表示された場合 ..... 130 ～ 132
- ●ブザー音の種類 132
- ●ミシンの調子が悪いときの直し方 ..... 133 ～ 134

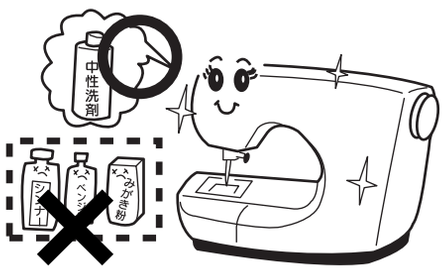
◎模様一覧表 ..... 135 ～ 137

◎お取り扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などでぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



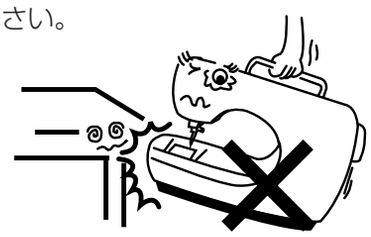
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。



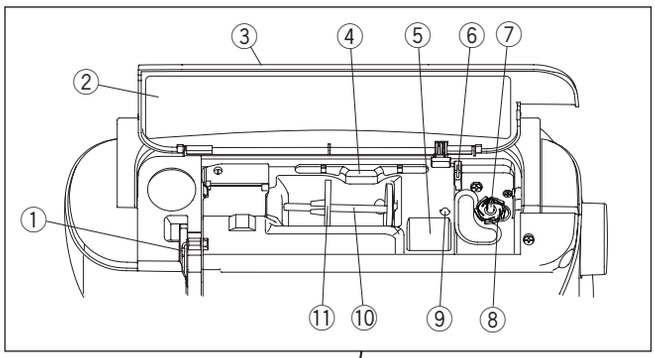
③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。

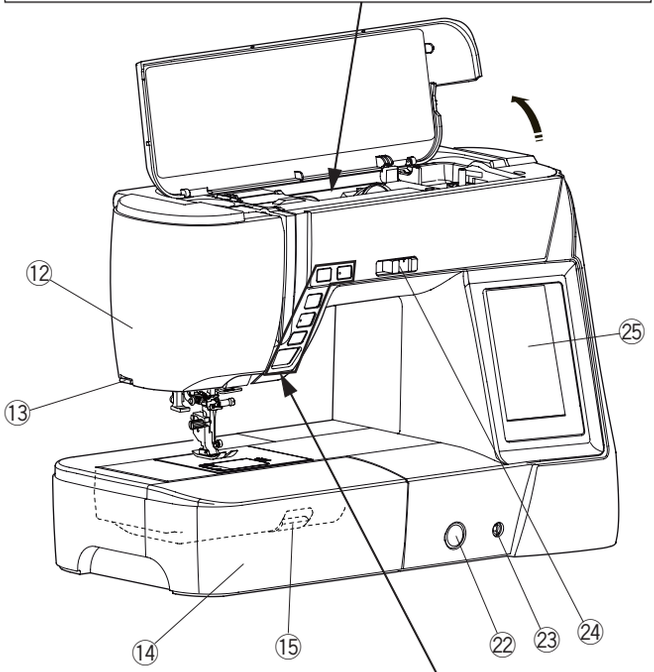


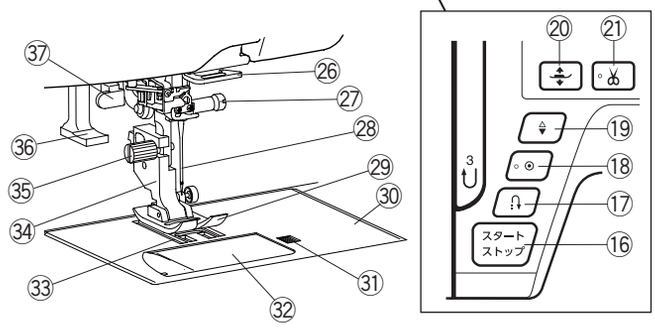
◇修理・調整についてのご案内

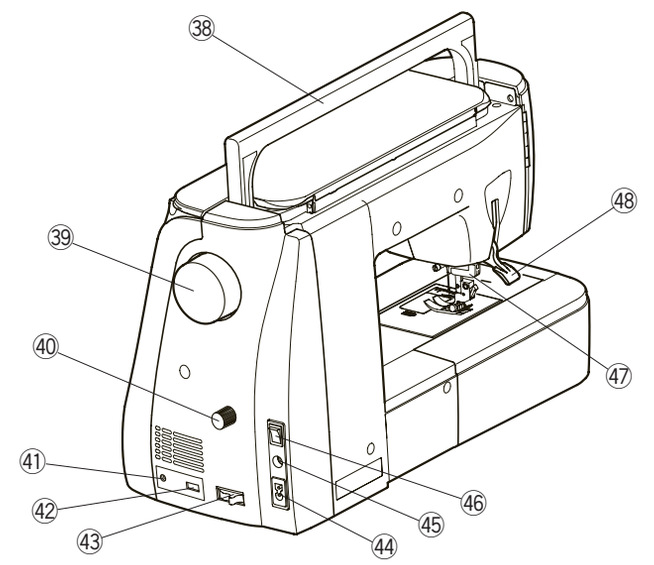
万一不調になったり故障が生じたときは、「◎こんなときには」（131 ～ 134 ページ）により点検・調整を行ってください。

◎各部のなまえ







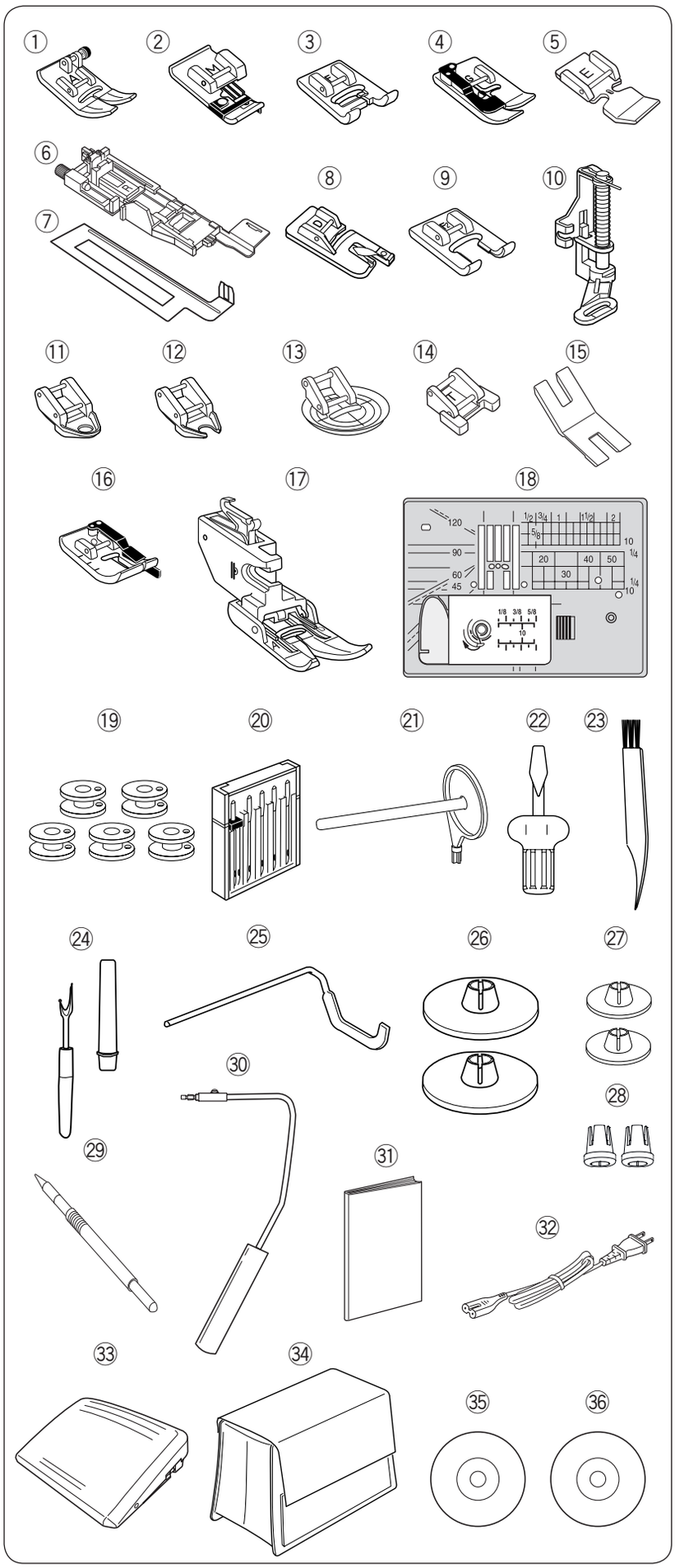


① 天びん
② 早見板
③ 天板
④ タッチペン収納場所
⑤ 小物置きスペース
⑥ 糸切り（下糸巻き用）
⑦ 糸巻き軸
⑧ 糸切りホルダー
⑨ 補助糸立て棒取り付け穴
⑩ 糸立て棒
⑪ 糸こま押さえ（大）
⑫ 面板
⑬ 糸切り
⑭ 補助テーブル
⑮ 針板開放レバー
⑯ スタート / ストップボタン
⑰ 返しぬいボタン
⑱ 止めぬいボタン
⑲ 上下停針ボタン
⑳ 押さえ上下移動ボタン
㉑ 糸切りボタン
㉒ 送り調節ねじ（ふた付）
㉓ ニーリフト取り付け穴
㉔ スピードコントロールつまみ
㉕ 画面（タッチパネル）
㉖ アーム糸案内
㉗ 針止めねじ
㉘ 針
㉙ 押さえ
㉚ 針板
㉛ 角板開放ボタン
㉜ 角板
㉝ 送り歯
㉞ 押さえホルダー
㉟ 押さえホルダー止めねじ
㊱ 糸通しレバー
㊲ ボタンホール切りかえレバー
㊳ 手さげハンドル
㊴ はずみ車
㊵ 上送り調節ダイヤル
㊶ 自動糸切り外部操作端子
㊷ USB 差し込み口
㊸ 送り歯ドロップつまみ
㊹ プラグ受け
㊺ フットコントローラープラグ受け
㊻ 電源スイッチ
㊼ 上送り装置
㊽ 押さえ上げ

※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

◎標準付属品と収納場所

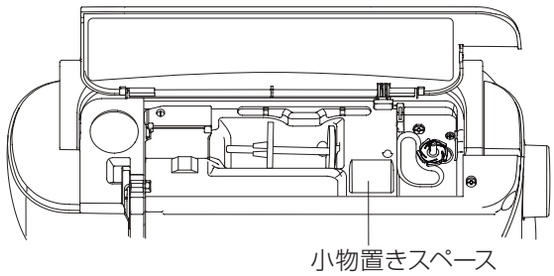
●標準付属品



① A：基本押さえ
※ミシンの押さえホルダーに付いています。
② M：縁かがり押さえ
③ F：サテン押さえ
④ G：まつりぬい押さえ
⑤ E：ファスナー押さえ
⑥ R：ボタンホール押さえ
⑦ ボタンホール安定板
⑧ D：三つ巻き押さえ
⑨ F2：クラフト F 押さえ
⑩ PD-H：フリーキルト押さえ
⑪ QC：丸穴キルト押さえ
⑫ QO：前あきキルト押さえ
⑬ QV：透明キルト押さえ
⑭ T：ボタン付け押さえ
⑮ ボタン付けプレート
⑯ O：パッチワーク押さえ
⑰ 上送り押さえホルダー、AD：上送り押さえ
⑱ 直線ぬい用針板
※補助テーブルに収納されています。
⑲ ボビン〔5 個〕
※ 1 個は、ミシンの内がまに入っています。
⑳ 針ケース
- ブルー針〔11 番〕…2 本
- レッド針〔14 番〕…1 本
- パープル針〔14 番〕…1 本
- 2 本針…1 本

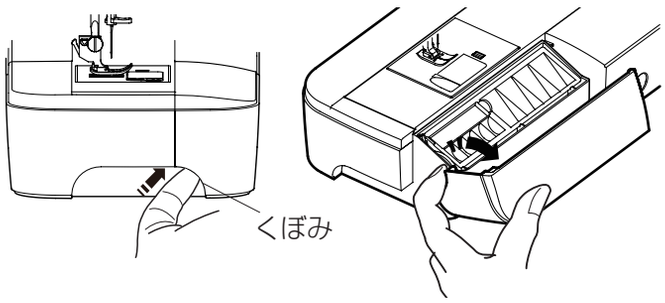
㉑ 補助糸立て棒
㉒ ドライバー
㉓ ミシンブラシ
㉔ シームリッパー
㉕ キルティングガイド
㉖ 糸こま押さえ（大）
※ 1 個は、ミシンの糸立て棒に付いています。
㉗ 糸こま押さえ（小）
㉘ 糸こま押さえ（特殊）
㉙ タッチペン
㉚ ニーリフト
㉛ 取扱説明書
㉜ 電源コード
㉝ フットコントローラー
㉞ ミシンカバー
㉟ 説明 DVD
㊱ ステッチコンポーザー CD-ROM

●収納場所（1）（天板収納部）



天板を上に開けると、小物置きスペースに、押さえやボビン等の小物が収納できます。

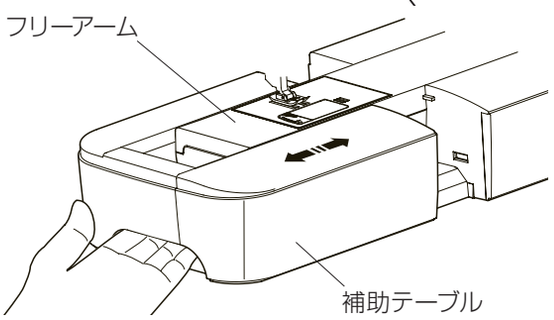
●収納場所（2）（補助テーブル収納部）



補助テーブルのカバーを開けると、押さえやボビン等、その他の小物が収納できます。

【補助テーブルのカバーの開け方】

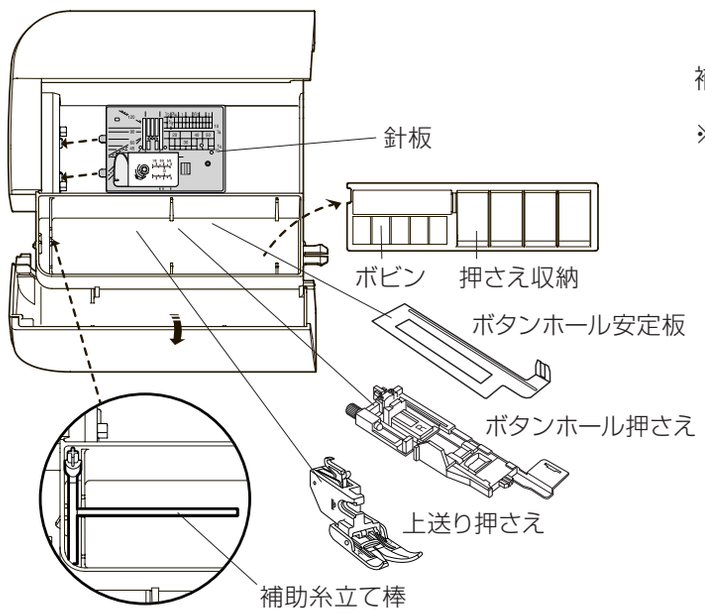
補助テーブル左側のくぼみに指をかけ、手前に引いて開けます。



【補助テーブルの外し方・取り付け方】

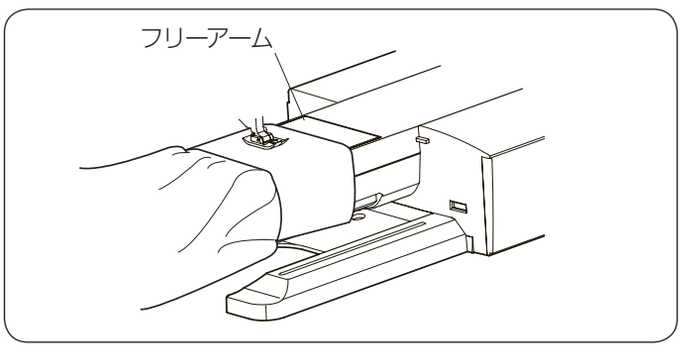
補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

取り付けるときは、フリーアームにそわせ、突き当たるまで押し込んで取り付けます。



補助テーブルを外すと針板などが収納できます。

※ 針板は、図のように収納してください。
また、R: ボタンホール押さえ、ボタンホール安定板、上送り押さえホルダーと押さえも図の位置に収納してください。



フリーアームの使い方

補助テーブルを外すとフリーアームになります。
そでぐちやすそなどのぬい、および袋物のくち端の始末に利用できます。

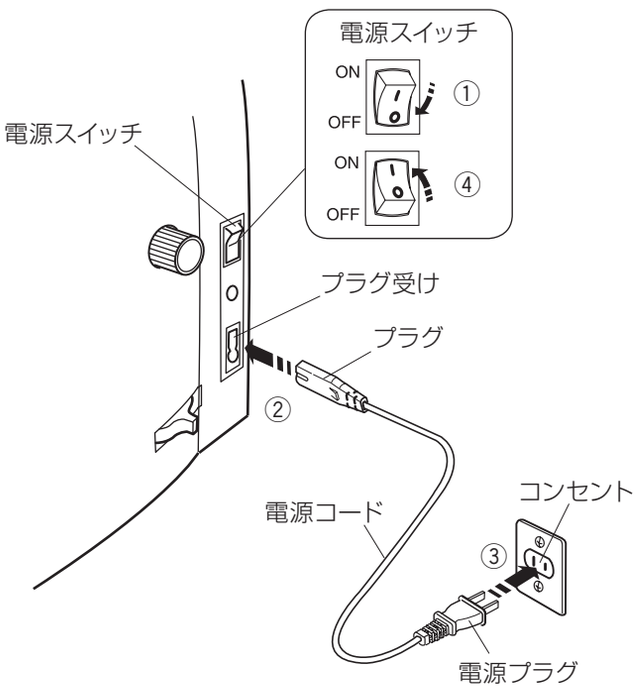
◎操作方法

●電源のつなぎ方

⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
  ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電・火災の原因になります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
  ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり火災の原因になります。

★スタート / ストップボタンを使用する場合



① 電源スイッチを「OFF」（切）にします。

② 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込みます。

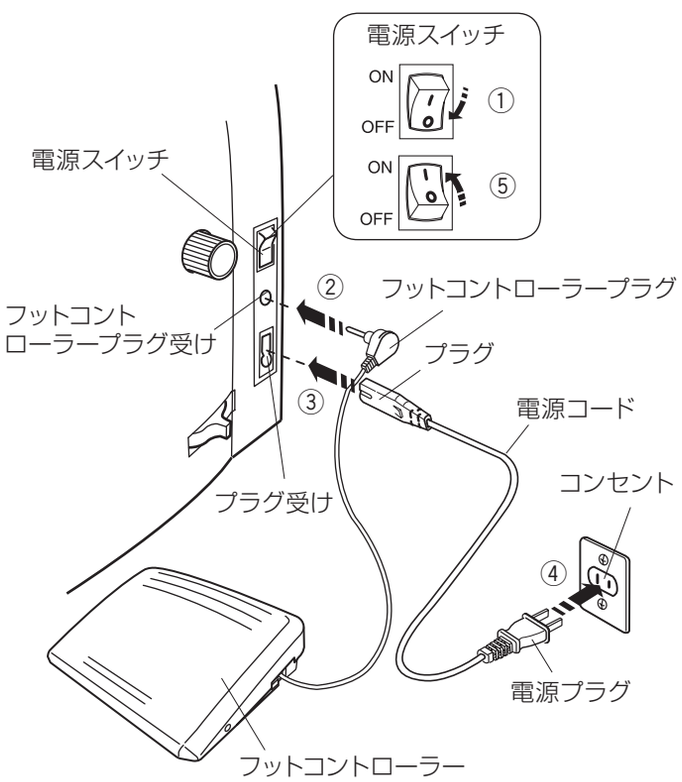
③ 電源プラグをコンセントに差し込みます。

④ 電源スイッチを「ON」（入）にします。

※ 電源スイッチを入れると、ミシンの準備のための初期設定が数秒間行われます。
初期設定中は針などが動きますので、ミシンに触れないでください。

※ 電源スイッチの「ON」（入）、「OFF」（切）の操作は 5 秒以上間かくをあけてください。

★フットコントローラーを使用する場合



※ フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

① 電源スイッチを「OFF」（切）にします。

② フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。

③ 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込みます。

④ 電源プラグをコンセントに差し込みます。

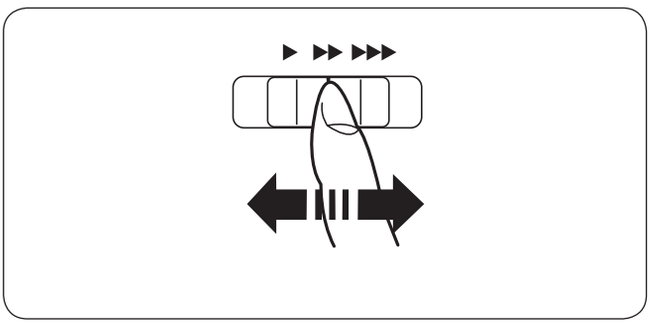
⑤ 電源スイッチを「ON」（入）にします。

※ フットコントローラーのコードの取り出し方と収納方法は 7 ページをごらんください。

※ フットコントローラーを接続すると、スタート／ストップボタンは使用できません。

●速さの調節

★スピードコントロールつまみ

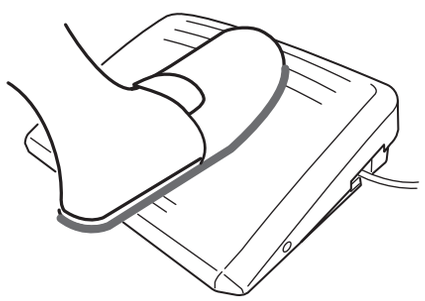


ぬう速さは、スピードコントロールつまみやフットコントローラーで調節します。

スピードコントロールつまみは、スタート / ストップボタン使用時のぬう速さを調節できます。
つまみの位置が右側になるほど速くなります。

※ フットコントローラー使用時は、フットコントローラーをいっぱいに踏み込んだときの最高速度を調節できます。

★フットコントローラー



※ フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

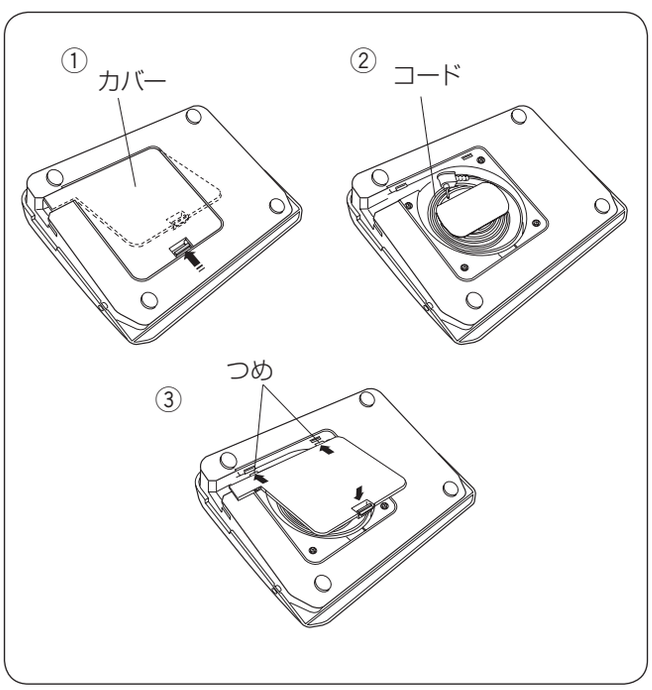
フットコントローラーの踏みかげんで、ぬう速さが調節できます。

- 深く踏む→速くなる。
- 浅く踏む→遅くなる。

※ スピードコントロールつまみは、通常、いちばん右側の位置（最高速）にして、踏みかげんで調節してください。
初心者の方が細かいものをぬうときなどは低速側にしておくと、フットコントローラーをいっぱいに踏み込んでもスピードが出ないので使いやすくなります。

⚠ 注意

- フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因になります。
- フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
  動作不良を起こし、けが・故障の原因になります。



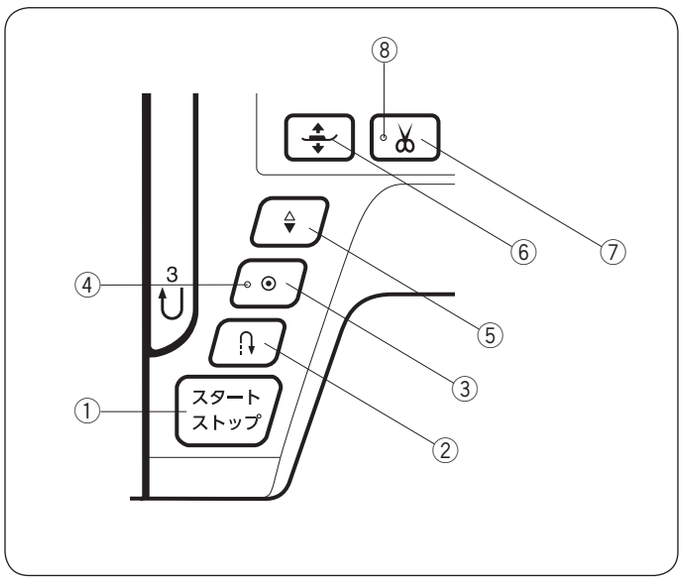
【コードの取り出し方と収納方法】

① フットコントローラーを使用するときは、底のカバーを外してコードを取り出します。

② フットコントローラーを使用しないときは、底のカバーを外してコードを巻き付けて収納します。

③ カバーは、先に 2 カ所のつめを押し込んでから取り付けます。

●操作ボタン



①スタート / ストップボタン

ボタンを押すと、ミシンはゆっくり動きはじめてからスピードコントロールつまみでセットした速さになります。（スロースタート機能）

もう一度押すと停止します。（通常は針が下の位置で停止します。）

※ ボタンのランプの色がミシン停止中は緑に、運転中は赤になります。

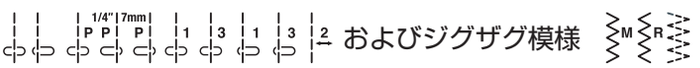
※ ボタンを押してスタートさせるときおよび停止させるときに、指をはなさないで押し続けているあいだは、ミシンは低速で動きます。

※ ミシンを停止したとき、通常は針が下の位置で停止しますが、針を上の位置に停止することもできます。
「◎ミシンの設定／【通常ぬい設定】②針停止位置」（125 ページ）をごらんください。

※ 動きはじめの速度（スロースタート機能）は、かえることができます。
「◎ミシンの設定／【通常ぬい設定】③スロースタート調節」（125 ページ）をごらんください。

※ フットコントローラーを接続しているときは、スタート / ストップボタンは使用できません。

②返しぬいボタン

■ 直線模様（直線針板模様含む） 

およびジグザグ模様

の場合

《ミシン停止中》（フットコントローラーを接続していないときのみ）
ボタンを押しているあいだは低速で返しぬいを行い、指をはなすとミシンは停止します。

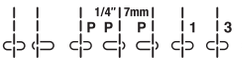
《ミシン運転中》
ボタンを押しているあいだは返しぬいを行い、指をはなすと前進ぬいにもどります。

■ その他の模様の場合
ぬい途中にボタンが押されると、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。
停止してから押した場合、運転再開後、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

※ じつようぬいグループの模様  （36 ページ参照）およびボタンホールグループの模様 

は、特殊な使い方になります。（50、57、59 ページ参照）

③止めぬいボタン

■ 直線模様（直線針板模様含む） 

およびジグザグ模様 

の場合

ぬい途中にボタンが押されると、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。
停止してから押した場合、運転再開後、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

■ その他の模様の場合

ぬい途中にボタンが押されると、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。
停止してから押した場合、運転再開後、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

※ ぬう前にボタンを押しておくと、模様を 1 つだけぬったあと、ほつれ止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

④止めぬいランプ

使用できるときはランプが点灯します。
止めぬいが受け付けられているあいだ止めぬいランプが点滅します。

⑤上下停針ボタン

ミシンが停止しているときにボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に、下にあるときは上に移動させることができます。

※ ミシンを停止したときの針位置の設定方法は、「◎ミシンの設定／【通常ぬい設定】②針停止位置」（125 ページ）をごらんください。

⑥押さえ上下移動ボタン

ミシンが停止しているときに、押さえの位置を上下に移動させることができます。

⑦糸切りボタン

ぬい終わったあとボタンを押すと、上糸と下糸を自動的に切ります。（自動糸切り）
（針が布にささった状態でも、糸切りボタンを押すと針は上の位置に移動します。）

糸切り後は下糸を針板の上に引きあげないで、そのままの状態でぬうことができます。

※ 通常は、ぬい終わったあと糸切りボタンを押して上糸と下糸を切りますが、糸切りボタンを使用しないで、ぬい終わると同時に自動的に糸切りを行うこともできます。「◎ミシンの設定／【通常ぬい設定】⑧通常ぬいオートストップ時の糸切り」（126 ページ）をごらんください。

⑧糸切りランプ

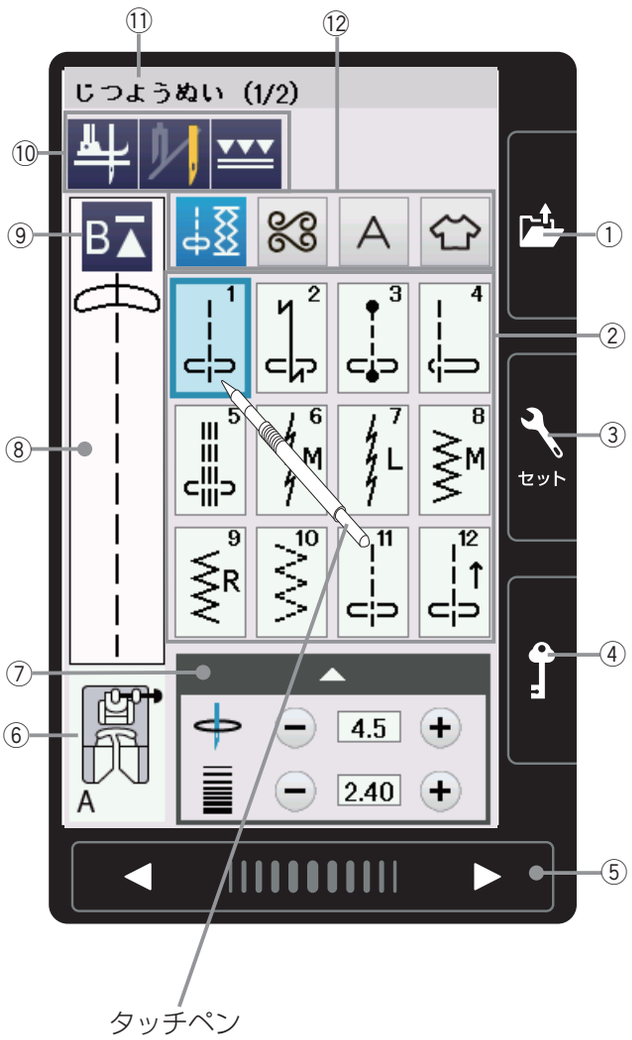
使用できるときはランプは点灯します。自動糸切り中にランプが点滅します。

糸切りの注意事項

- 30 番および 30 番より太い糸や特殊な糸を切る場合、2 本針ぬいで糸を切る場合は、ミシンの面板に付いている糸切りを使用してください。
  …「◎実用ぬい／●直線（直線状模様）ぬい／★直線ぬい（中針位置）／〔面板の糸切りの使い方〕欄」（34 ページ）参照
- 糸こまの糸残りが少ないものは使用しないでください。糸がらみの原因になります。
- 糸切り部の掃除をときどき行ってください。糸切り部に糸くずがたまると故障の原因になります。
  …「◎ミシンのお手入れ／●かまと送り歯、糸切り部の掃除」（129 ページ）参照
- 糸が切れず糸がからんでしまった場合は、ロックキーによりミシンをロック状態にしてから針板を外し、からんでいる糸を取り除いてください。
  …「◎ミシンのお手入れ／●かまと送り歯、糸切り部の掃除」（129 ページ）参照

●画面（タッチパネル）

〔電源投入時のじつようぬい画面〕



※ 画面のキーは付属のタッチペンか指で押してください。先のとがったものなどで押すと故障の原因になります。（タッチペンを使うことをおすすめします。）

① **ファイルオープンキー**（119 ページ参照）
ミシンや USB メモリに保存してある模様データを呼び出すときに使います。

② **模様選択キー**
模様を直接選んでぬうことができます。

③ **セットキー**（121 ページ参照）
ミシンを初期の状態（購入時の設定状態）からお好みの状態に設定するときに使います。

④ **ロックキー**（11 ページ参照）
押さえや針の交換、糸のセットを行うときなどに使います。
すべて（押さえ上下移動ボタンは除く）のボタンやキーの操作を受け付けなくし、ミシンも動きません。ミシンが現在設定されている状態を保持したまま安全に押さえや針の交換、糸のセットなどを行うことができます。

⑤ **ページキー**
現在表示されている模様選択画面や設定画面の次または前のページ（画面）を表示させるときに使います。
▶ キーを押すと次のページ、◀ キーを押すと前のページに 1 ページごとにかわります。
キーを押し続けると連続してかわります。
また、中央の帯状のキーを押しながら右側にスライドさせると次のページ、左側にスライドさせると前のページにかえることができます。

⑥ 選ばれている模様の代表的なぬいに適した押さえが表示されます。（ぬい目的によって、使用する押さえは異なります。）

⑦ **調節キー**（28 ページ参照）
選ばれている模様のぬい目の幅、あらさ、糸調子、押さえ圧の変更ができます。
（模様によって、調節項目は異なります。）

⑧ 選ばれている模様のぬいイメージが表示されます。

⑨ **模様頭出しキー**（68 ページ参照）
模様をぬっている途中でミシンを止めた場合、次にぬうときにその模様の最初からぬうことができます。

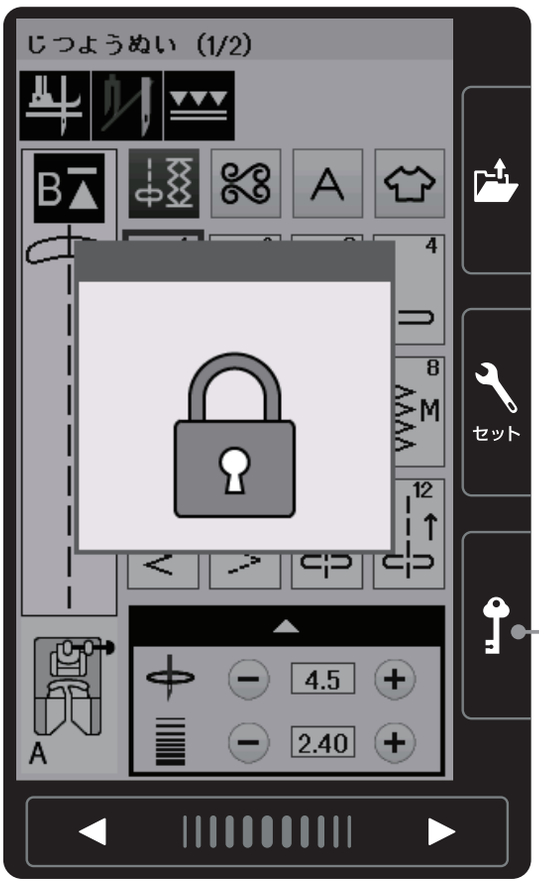
⑩ **設定キー**（27、77 ページ参照）
選ばれている模様に設定されているぬい条件をお好みのぬい条件に変更できます。

⑪ 選ばれている模様グループの名称とページが表示されます。

⑫ 目的の模様が属している模様グループを選ぶときに使います。

●ロックキーの使い方

〔メッセージ画面〕



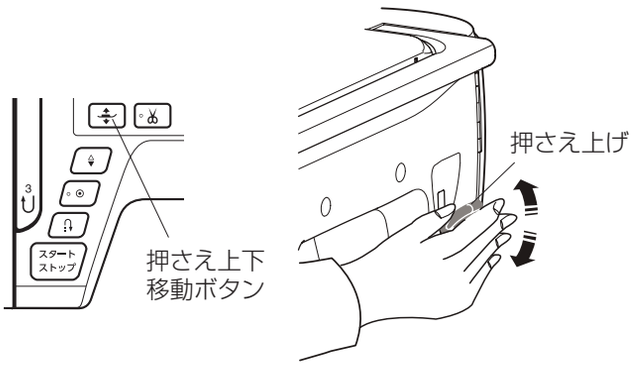
ロックキーを押すとミシンがロック状態になったことを示すメッセージ画面が表示され、メッセージ画面が表示されているあいだは、押さえ上下移動ボタンを除くすべてのボタンなどが受け付けません。ミシンも動きません。ミシンが現在設定されている状態を保持したまま安全に押さえや針、針板の交換、糸のセットなどを行うことができます。

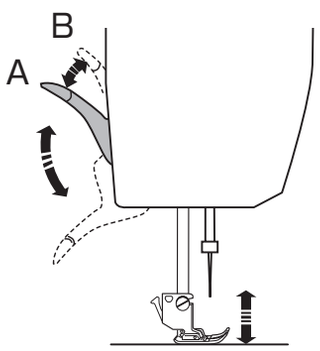
※ 押さえや針、針板の交換、糸のセットなどを行うときに、ロック状態にしないで、電源スイッチを切った状態で行うと、押さえ上げで押さえのあげさげができない場合があります。

※ ロック状態を解除する場合は、ロックキーを押してください。

※ ロックキーを押すと、押さえがさがった状態になります。

●押さえ上げ



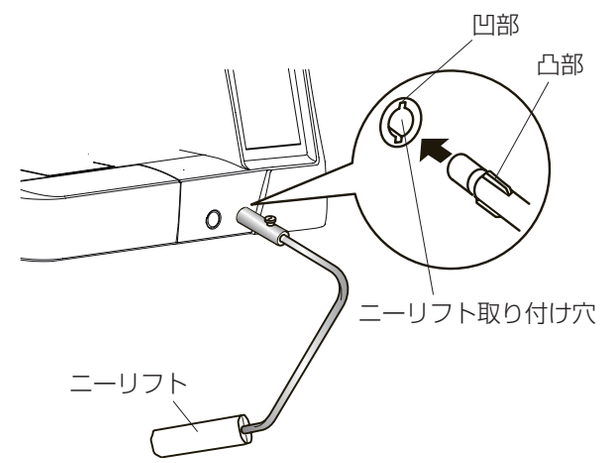


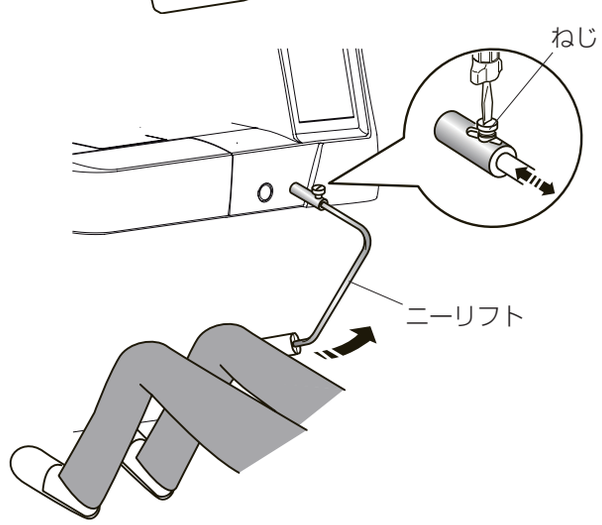
押さえ上げは、押さえを交換するときや、厚い布を入れるときなど特殊な場合に使います。

※ 押さえ上げは、普通にあげて止まる位置（A の位置）よりさらにあげることができ（B の位置）、厚い布が入れやすくなります。

※ 通常の押さえのあげさげは、押さえ上下移動ボタンを使用してください。
押さえ上げを使用すると、ミシンがスタートしなかったり、自動糸切りができない場合があります。
（押さえの上下移動ボタンは 9 ページをごらんください。）

●ニーリフト





ニーリフトを取り付けると、押さえ上下移動ボタンを使わないで押さえのあげさげができます。
手を使わずにひざの動作で行いますのでキルトなどをぬうときに便利です。

※ ニーリフトを使用した横振り機能（バリアブルジグザグ）は「◎用途選択／●キルティング／★バリアブル ZZ（可変ジグザグ）」（112 ページ）をごらんください。

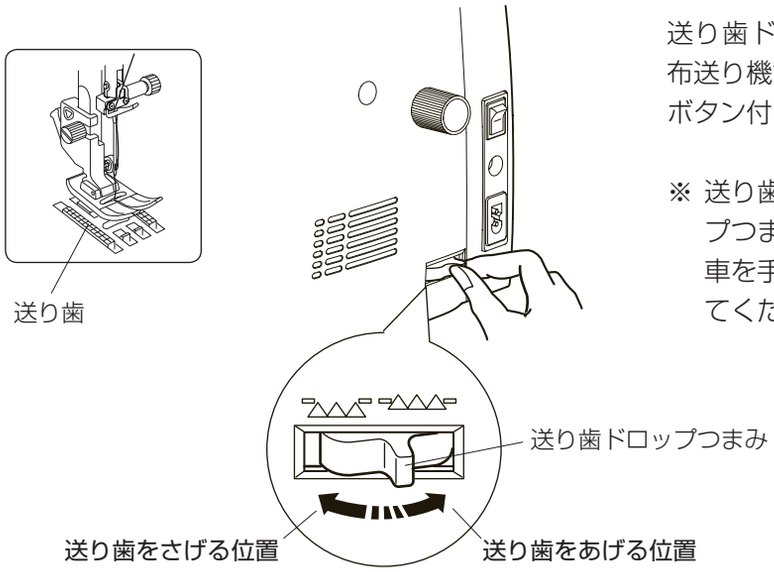
取り付けは、ニーリフトの凸部をニーリフト取り付け穴の凹部に合わせ、差し込みます。

ニーリフトの角度調節は、ねじをゆるめてニーリフトを出し入れし、お好みの角度の位置でねじをしめて固定します。

ひざを使ってニーリフトを右側に押すと押さえがあがり（2 段階）、もどすと押さえがさがります。

※ ぬい中は、ニーリフトに触れないように注意してください。

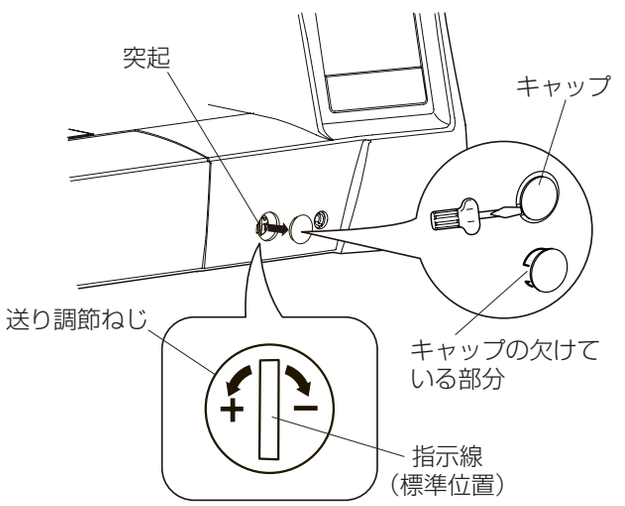
●送り歯ドロップつまみ



送り歯ドロップつまみで送り歯を常時さげた状態にし、布送り機能をなしにすることができます。
ボタン付けなどを行うときに使用します。

※ 送り歯をさげた場合、ぬいが終わったら送り歯ドロップつまみを「送り歯をあげる位置」にもどし、はずみ車を手で手前にまわして送り歯があがることを確認してください。

●送り調節ねじ（模様の形の調節）



布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては模様の形がくずれて正しい形でぬえない場合があります。
実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、模様の形がくずれている場合は送り調節ねじで調節します。

キャップを外すと調節ができます。
キャップは、左側のすきまにドライバーを入れて外します。
（ミシン本体およびキャップに傷がつかないように注意してください。）
取り付けるときは、キャップの欠けている部分を左側にして、取り付け部の突起に合わせてはめ込みます。

※ 図のように指示線を垂直にした位置が、標準的な条件での模様を正しくぬえる目安の位置です。

※ 送り調節ねじの位置をかえた場合は、ぬい終わったあと標準位置（指示線が垂直位置）にもどしてください。

【模様の形の整え方】

図 1 のように模様がつまっているときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。

図 2 のように模様が伸びているときは、送り調節ねじを「−」方向にまわします。

《模様の場合：模様 15（キルトグループ）の例》

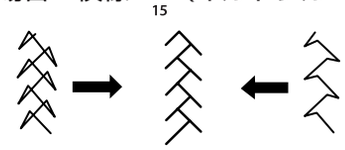


図 1　正しい形　図 2

【文字の形の整え方】

図 1 のように文字がつまっているときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。

図 2 のように文字が伸びているときは、送り調節ねじを「−」方向にまわします。

《文字の場合：「8」の例》

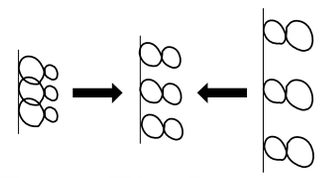


図 1　正しい形　図 2

【ニットボタンホール 08 10（ボタンホールグループ）の左右のぬい目のあらさの整え方】

図 1 のように左側があらいときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。

図 2 のように右側があらいときは、送り調節ねじを「−」方向にまわします。

《ニットボタンホールの場合：模様 08（ボタンホールグループ）の例》

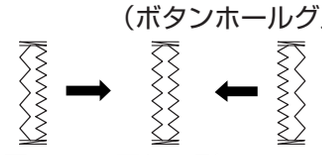


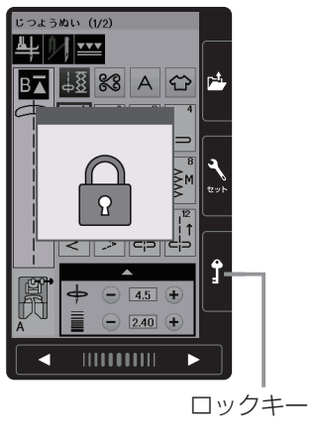
図 1　正しい形　図 2

●押さえの外し方、付け方

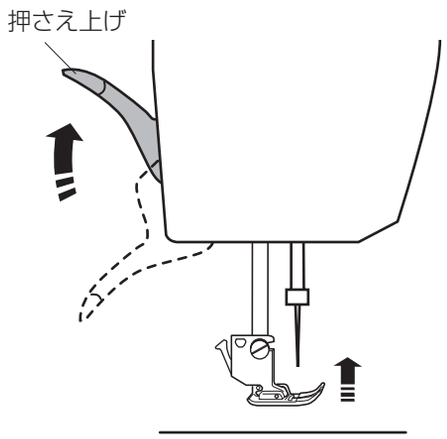
①



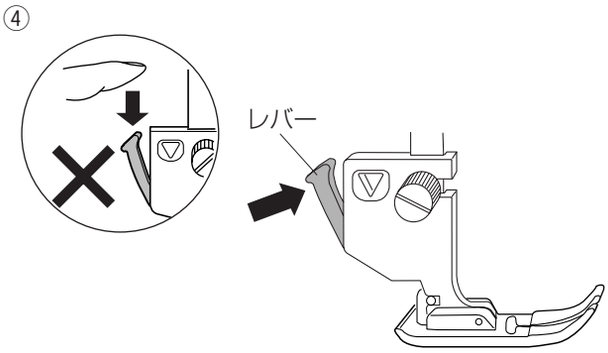
②

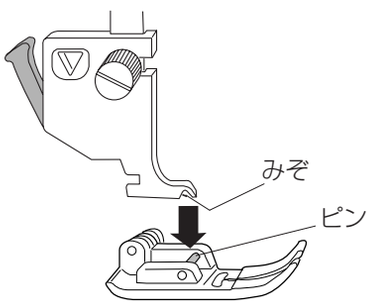


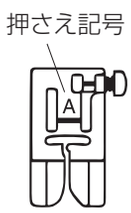
③



④







⚠ 注意

- 押さえの取り外し・取り付けは、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。けがの原因になります。
- 押さえは模様に合ったものをご使用ください。押さえが合っていないと針が押さえにあたり、けがの原因になります。

【押さえの外し方】

① 電源スイッチを入れた状態で、上下停針ボタンを押して針をあげます。

② ロックキーを押してミシンをロック状態にします。
※ ロックキーの使い方は 11 ページをごらんください。

③ 押さえ上げで押さえをあげます。
※ 押さえ上下移動ボタンで押さえをあげると、このあとで押さえを付けるときに、押さえ上げで押さえをさげることができません。

④ 押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押して、押さえを外します。
※ レバーを上から押さないでください。故障の原因になります。

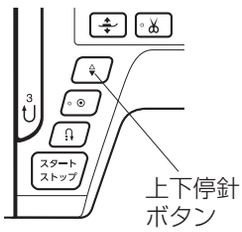
【押さえの付け方】

押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げをゆっくりさげます。

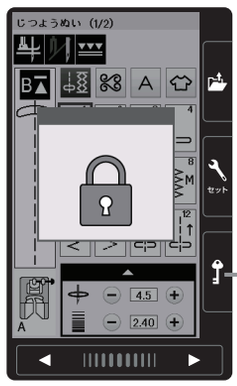
※ 押さえは、模様に合ったものを使用してください。
押さえには記号が付いています。

●押さえホルダーの外し方、付け方

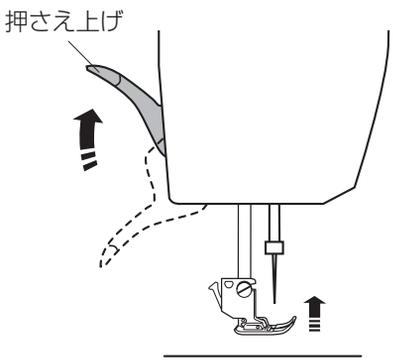
①



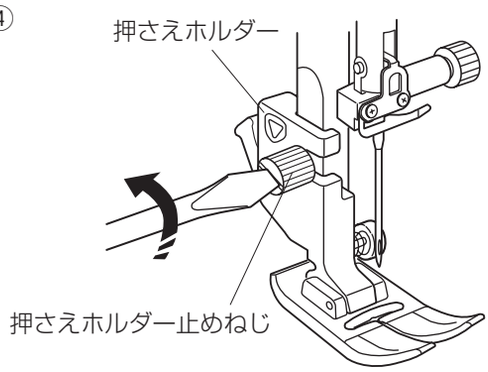
②

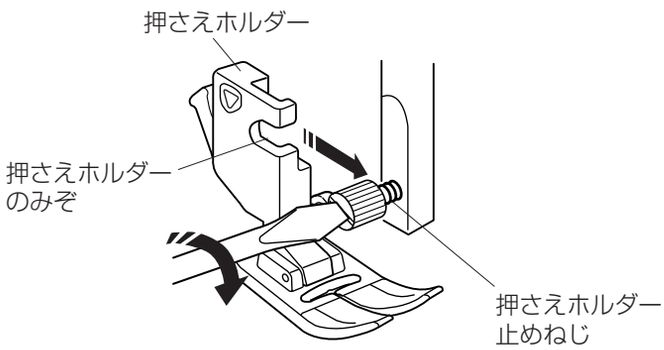


③



④





⚠ 注意

押さえホルダーの取り外し・取り付けは、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。けがの原因になります。

【押さえホルダーの外し方】

① 電源スイッチを入れた状態で、上下停針ボタンを押して針をあげます。

② ロックキーを押してミシンをロック状態にします。
※ ロックキーの使い方は 11 ページをごらんください。

③ 押さえ上げで押さえをあげます。
※ 押さえ上下移動ボタンで押さえをあげると、このあとで押さえを付けるときに、押さえ上げで押さえをさげることができません。

④ ドライバーで押さえホルダー止めねじを左にまわしてゆるめ、押さえホルダーを外します。

【押さえホルダーの付け方】

※ 押さえホルダーは、押さえが付いた状態で取り付けてください。押さえが付いていないと正常な取り付けができません。

① 電源スイッチを入れた状態で、上下停針ボタンを押して針をあげます。

② ロックキーを押してミシンをロック状態にします。

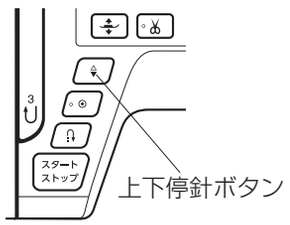
③ 押さえ上げで押さえをあげます。

④ 押さえホルダーのみぞを、うしろ側から押さえホルダー止めねじに合わせ、押さえホルダーを仮止めしておきます。

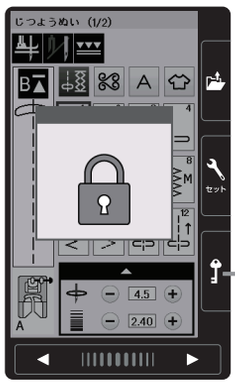
⑤ 押さえ上げをさげ、押さえホルダー止めねじを一度少しゆるめてから、押さえが針板に押し付けられた状態で押さえホルダー止めねじを右にまわしてドライバーでしっかりしめます。

●上送り押さえのセット方法

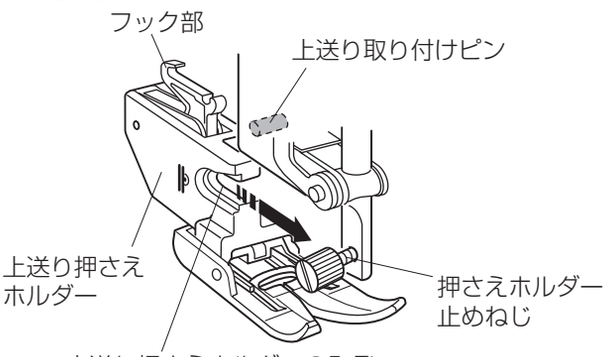
①



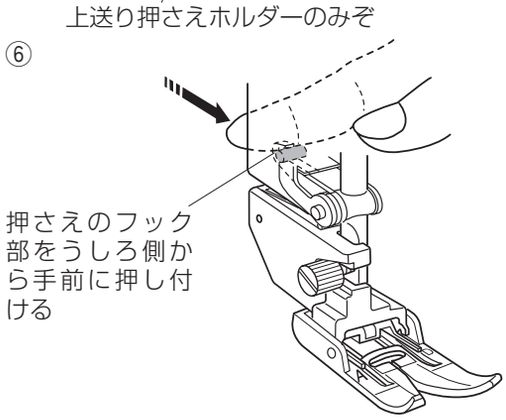
②



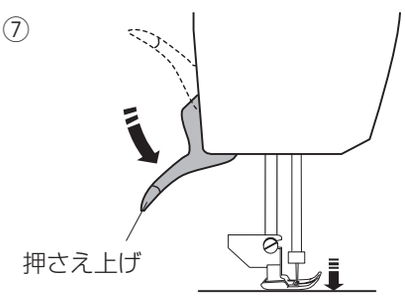
③④ ⑤



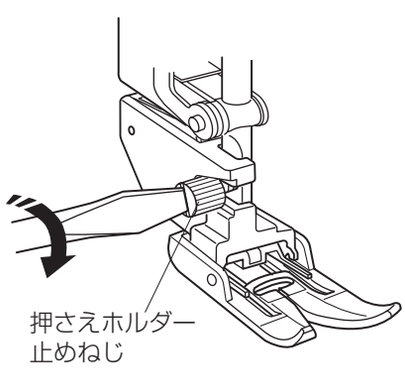
⑥



⑦



⑧



⚠ 注意

上送り押さえの取り外し・取り付けは、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。けがの原因になります。

※ 上送り押さえホルダーは、押さえが付いた状態で取り付けてください。
押さえが付いていないと正常な取り付けができません。

① 電源スイッチを入れた状態で、上下停針ボタンを押して針をあげます。

② ロックキーを押してミシンをロック状態にします。
※ ロックキーの使い方は 11 ページをごらんください。

③ 押さえ上げで押さえをあげます。
※ 押さえ上下移動ボタンで押さえをあげると、このあと手順⑦で押さえ上げで押さえをさげることができません。

④ ドライバーで押さえホルダー止めねじを左にまわしてゆるめ、押さえホルダーを外します。
押さえホルダーの外し方は、15 ページをごらんください。

⑤ 上送り押さえホルダーのみぞを押さえホルダー止めねじに合わせ、押さえホルダー止めねじを上送り押さえホルダーにふれる位置まで指で右にまわし、上送り押さえホルダーを仮止めしておきます。

⑥ 上送り押さえホルダーのフック部をうしろ側から手前に「カチン」と音がして止まるまでしっかりと押し付けます。

※ 上送り押さえホルダーのフック部が上送り装置の上送り取り付けピンにしっかりと押し付けられた状態になっていないと、上送りが正常にはたらきません。

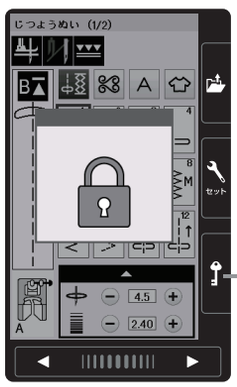
⑦ 押さえ上げをゆっくりさげてから、はずみ車を手で手前にまわして針をいちばん下までさげます。

⑧ 押さえホルダー止めねじを一度少しゆるめてから、上送り押さえが針板に押し付けられた状態で、押さえホルダー止めねじをドライバーでしっかりしめます。

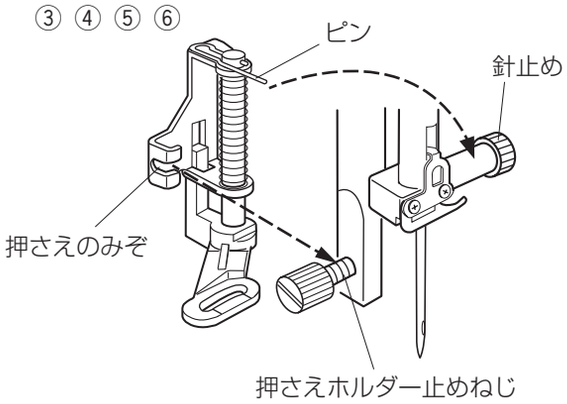
※ 上送り押さえホルダーを外すときは、通常の押さえホルダーを外す場合と同じ方法（15 ページ手順①②の方法）で針と押さえをあげ、押さえホルダー止めねじをゆるめてから上送り押さえホルダーをうしろ側に引いて外してください。

● PD-H: フリーキルト押さえの取り付け方

① ②



③ ④ ⑤ ⑥



⚠ 注意

PD-H：フリーキルト押さえの取り外し・取り付けは、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。けがの原因になります。

① 電源スイッチを入れた状態で、上下停針ボタンを押して針をあげます。

② ロックキーを押してミシンをロック状態にします。
※ ロックキーの使い方は 11 ページをごらんください。

③ 押さえ上げをあげます。

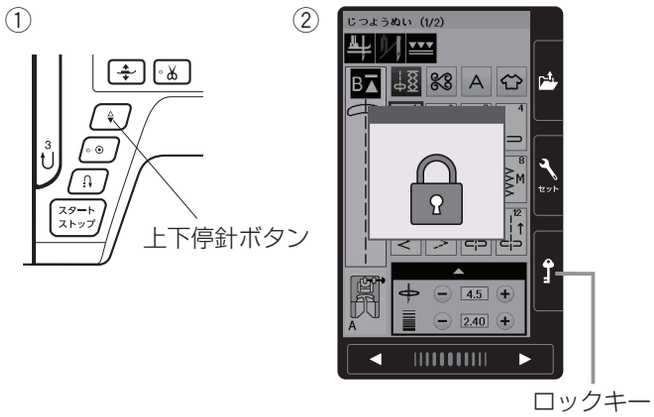
④ 押さえホルダーを外します。
押さえホルダーの外し方は 15 ページをごらんください。

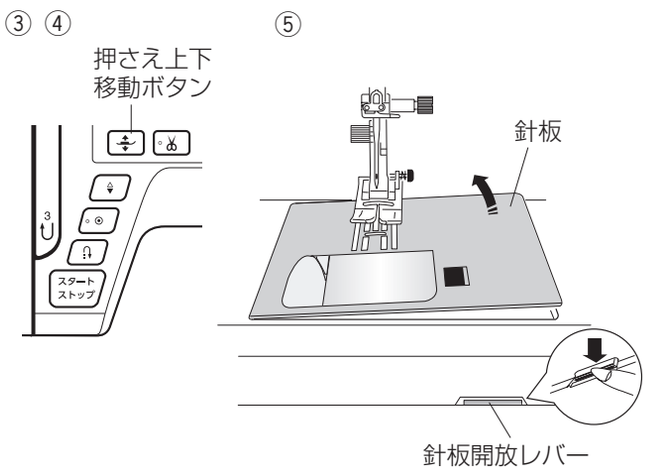
⑤ 針と押さえ上げがあがっている状態で、フリーキルト押さえのピンを針止めの上にのせ、押さえのみぞを、うしろ側から押さえホルダー止めねじに合わせ、押さえホルダー止めねじをドライバーでしっかりしめます。
※ 取り付け後、押さえが傾いていない事を確認してください。針が押さえにあたり、けがの原因になります。

⑥ ロックキーを押して、ロック状態を解除します。

※ 取り外すときは、電源スイッチを入れた状態でロックキーを押してミシンをロック状態にします。針と押さえ上げをあげ、押さえホルダー止めねじをドライバーでゆるめ、フリーキルト押さえを取り外します。

●針板の外し方、付け方





> **⚠ 注意**
>
> 針板の交換は、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。
> けがの原因になります。

【針板の外し方】

① 電源スイッチを入れた状態で、上下停針ボタンを押して針をあげます。

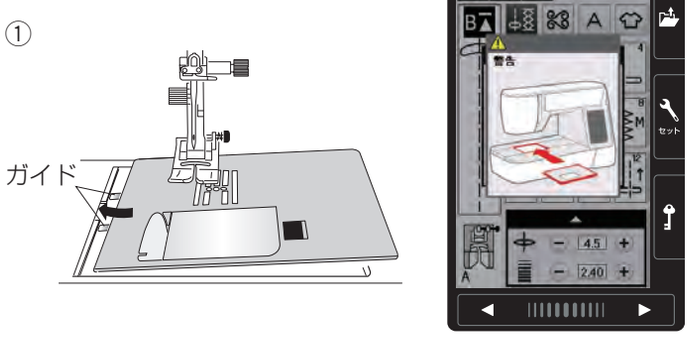
② ロックキーを押してミシンをロック状態にします。
※ ロックキーの使い方は 11 ページをごらんください。

③ 押さえ上下移動ボタンで押さえをあげます。
※ 押さえをあげるとき、押さえ上げであげるよりも押さえ上下移動ボタンであげるほうが高くあがり、針板が取り外しやすくなります。

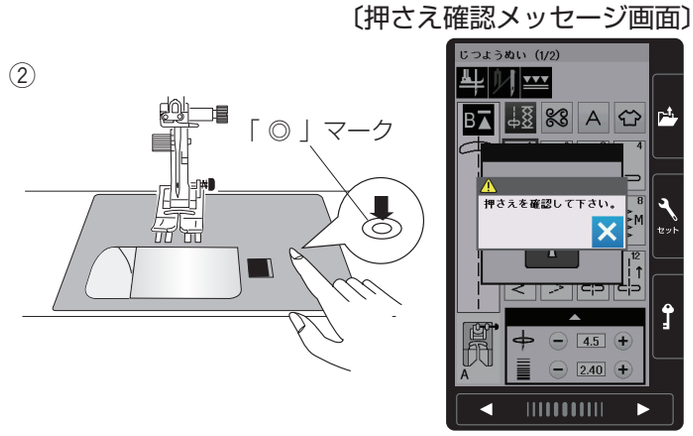
④ 補助テーブルを外します。

⑤ フリーアーム中央の下にある針板開放レバーをさげると、針板を外すことができます。

〔警告メッセージ画面〕



〔押さえ確認メッセージ画面〕



【針板の付け方】

① ミシンの針板取り付け部左側に針板の 2 つのガイドを入れます。

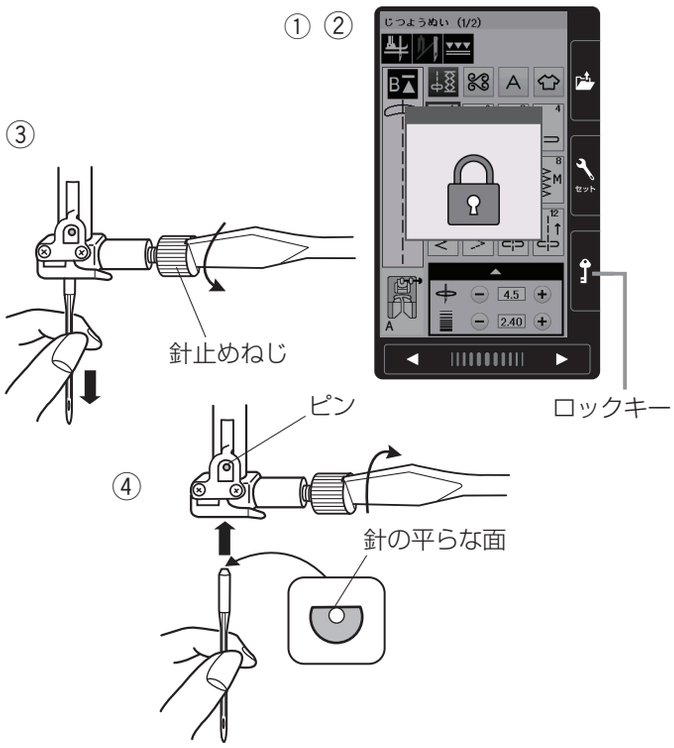
② 針板右側にある「◎」マークが付いている場所を「パチン」と音がするまで指でしっかりと押しつけて、針板を固定します。

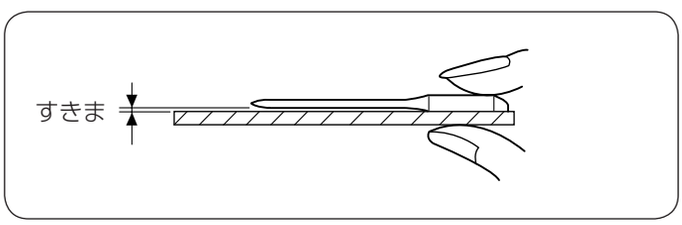
※ 針板を取り付け後、押さえ確認メッセージが表示されます。押さえを確認したあと、閉じるキーを押します。また、はずみ車を手で手前にゆっくりまわして、針が針板にあたらないことを確認してください。

※ 押さえ確認メッセージが消えたら、ロックキーを押して、ロックを解除します。

※ ミシンの電源スイッチが入っている場合は、針板が外れているあいだ、針板が外れていることを示す警告メッセージ画面が表示されています。
針板を取り付けたとき、このメッセージ画面が消えることを確認してください。消えない場合は、もう一度取り付け直してください。

●針の取りかえ





⚠ 注意

針の交換は、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。けがの原因になります。

① 電源スイッチを入れた状態で、上下停針ボタンを押して針をあげます。

② ロックキーを押してミシンをロック状態にします。
※ ロックキーの使い方は 11 ページをごらんください。
※ 押さえは、さがった状態のままにしておきます。

③ 針止めねじを手前に 1 ～ 2 回まわしてゆるめ、針を外します。

④ 取り付けは、針の平らな面を向こう側に向けてピンにあたるまで差し込み、針止めねじをドライバーでしっかりしめます。

※ 正しく針が付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

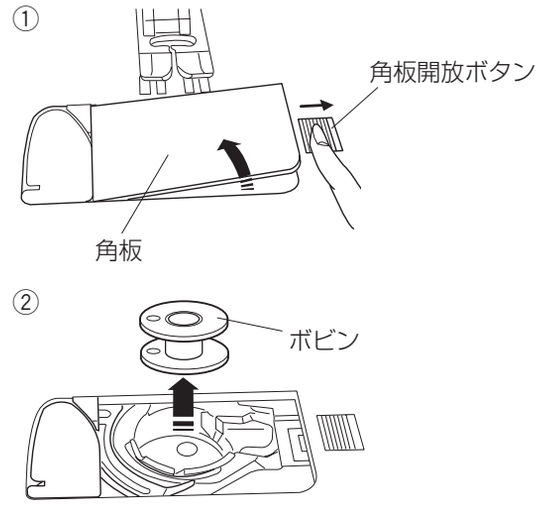
布の種類		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル　90 番	9 番～ 11 番 または ブルー針
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	絹糸　50 番 綿糸　60 番 ポリエステル , ナイロン　50 番～ 90 番	11 番～ 14 番 または ブルー針 , レッド針 , パープル針
		綿糸　50 番	14 番またはレッド針 , パープル針
厚い布	デニム ツィード コート地	絹糸　50 番 綿糸　40 番～ 50 番 ポリエステル　40 番～ 50 番	14 番～ 16 番 または レッド針、パープル針
		ポリエステル　30 番 綿糸　30 番	16 番

※ ブルー針〔11 番〕・レッド針〔14 番〕・パープル針〔14 番〕は、標準付属品の針ケースに入っています。
※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをして確かめてください。
※ 通常は、上糸と下糸は同じものを使用してください。
※ ブルー針（柄の部分が青色の針）およびパープル針（柄の部分が紫色の針）は、目とびの防止効果があります。

◎ぬう前の準備

●下糸の準備

★ボビンの取り出し



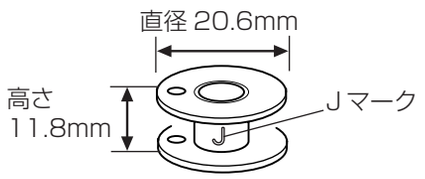
※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

① 押さえ上げをあげ、角板開放ボタンを右へずらして角板を外します。

② ボビンを取り出します。

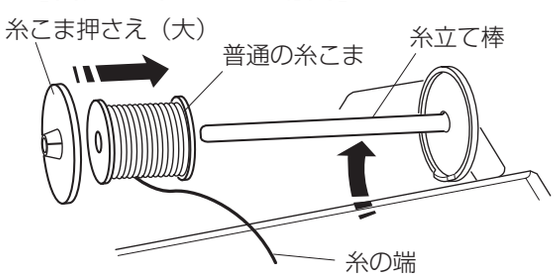
お願い

ボビンは当社専用のＪマーク付きのプラスチックボビンをおすすめします。
（お買い上げの販売店へご相談ください。）



★糸こまのセット

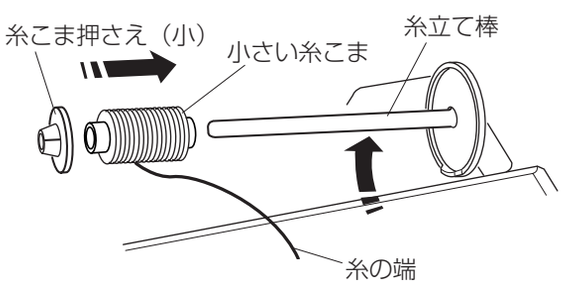
【普通の糸こまの場合】



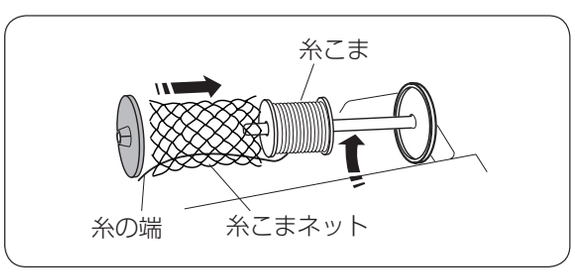
糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前に出るように糸こまを向けて糸立て棒に入れ、糸こま押さえを押しつけて糸こまを押さえます。

※ 普通の糸こまには糸こま押さえ（大）を、小さい糸こまには糸こま押さえ（小）を使います。

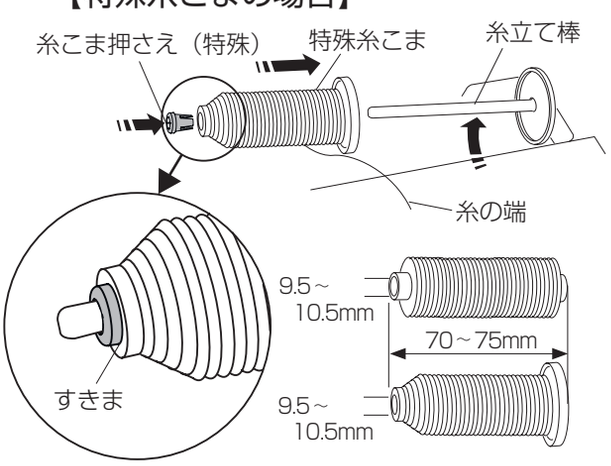
【小さい糸こまの場合】



※ レジロンなど伸縮性の糸を使用する場合には、市販の糸こまネット使用をおすすめします。
糸外れや糸のよじれ防止効果があります。
糸こまネットは、糸こまの大きさに合わせて折り曲げるか、切って使用してください



【特殊糸こまの場合】

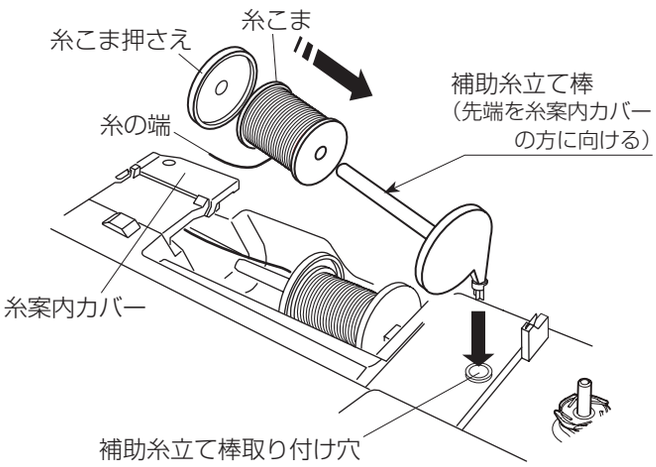


図のような長さの糸こまを使用するときには、糸こま押さえ（特殊）を使用することで、糸こまを固定することができます。

糸こま押さえ（特殊）は、図のように、糸こまを糸立て棒にセットしたあと、糸こまの穴に入れてください。

※ 糸こまと糸こま押さえ（特殊）のあいだにはすきまがないようにしてください。

★補助糸立て棒の使い方

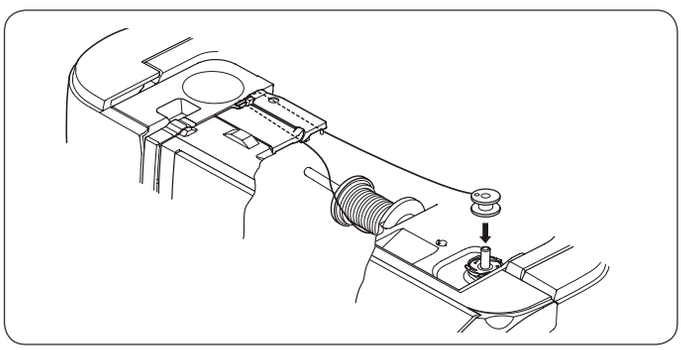


付属の補助糸立て棒は、ミシンに付いている糸立て棒に糸こまをセットした状態のまま別の糸こまで糸巻きをするときや、2 本針ぬいのときなどに使います。

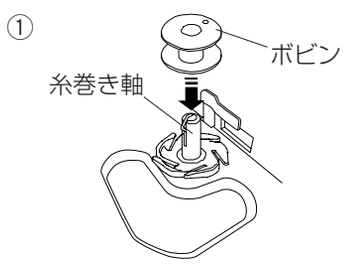
補助糸立て棒の先端を糸案内カバーの方に向けて、補助糸立て棒取り付け穴に差し込みます。
（正しい位置に差し込んだ場合、補助糸立て棒は回転しないで固定されます。）

糸こまの向きや固定方法は、「★糸こまのセット」（20 ページ）をごらんください。

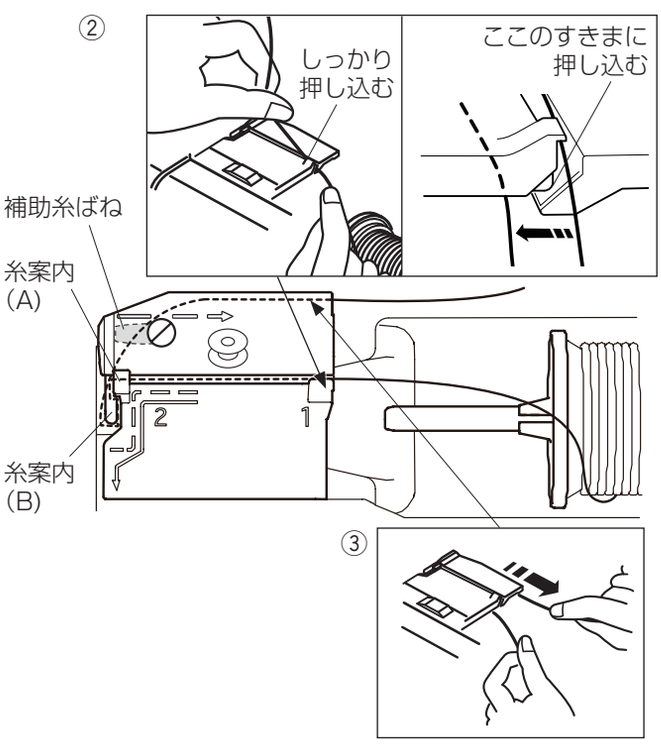
★下糸巻き



※ 糸巻きのときは、スピードコントロールつまみを最高速（いちばん右側の位置）にセットしてください。



① 糸巻き軸にボビンを差し込みます。

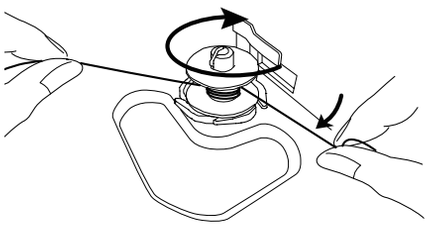


② 糸を両手で持ち、糸案内カバーのすきまに「パチン」と音がするまで押し込みます。

③ 糸案内（A) と糸案内（B) の順に糸をかけ、糸案内カバーのうしろにまわして、必ず糸を強めに引いて、右に引き出します。

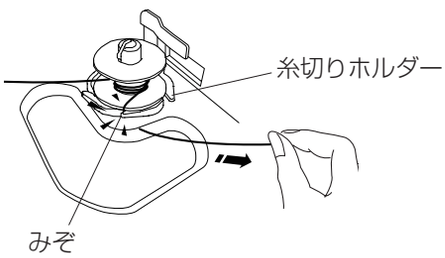
※ 糸を補助ばねの下に確実に通すために、糸こま側の糸を左手で持ち、引き出した糸を右手で強めに引いてください。
補助ばねの下を通していないと、糸巻き不良の原因になります。

④



④ 右に引き出した糸を左手で押さえ、右手で糸の端をボビンに右まわり（時計方向）に４～５回巻きます。

⑤



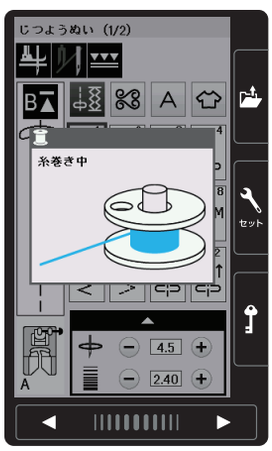
⑤ ボビンに４～５回巻いた糸を、ボビンの下にある糸切りホルダーのみぞに入れ、みぞにそって引いて糸を切ります。

※ みぞは５カ所あり、中にカッターが内蔵されています。

〔糸巻き表示画面〕

⑥

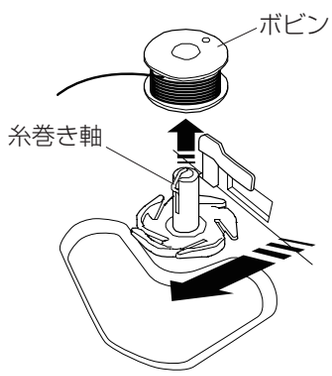




⑥ ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。

※ 画面が左の「糸巻き中」の表示になります。

⑦

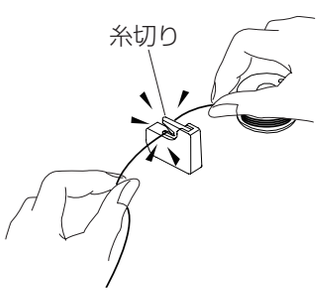


⑦ ミシンをスタートさせます。
巻き終わるとボビンの回転が自動的に止まるので、ボビンの回転が止まったらミシンを停止し、ボビンを左にもどします。

※ ボビン（糸巻き軸）は、必ずミシンを停止してからもどしてください。

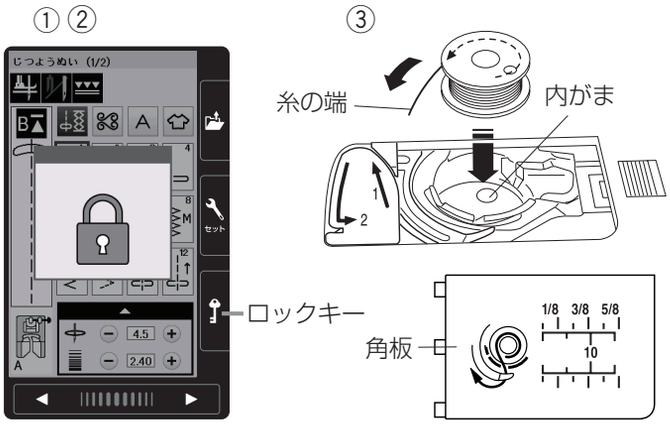
※ ミシンを停止しないで放置しておくと、安全のためにミシンがスタートしてから約 90 秒で自動停止します。

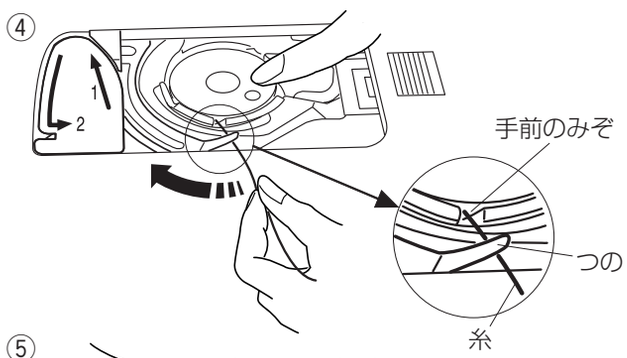
⑧



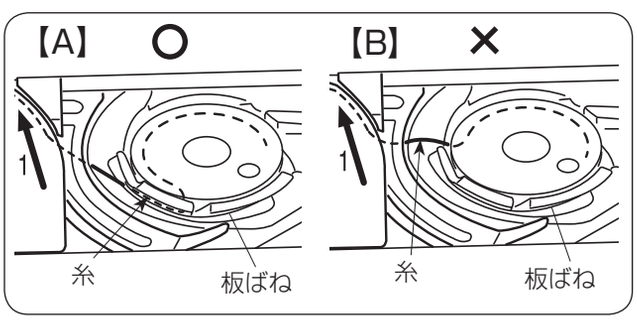
⑧ 糸巻き軸からボビンを外し、糸切りで糸を切ります。

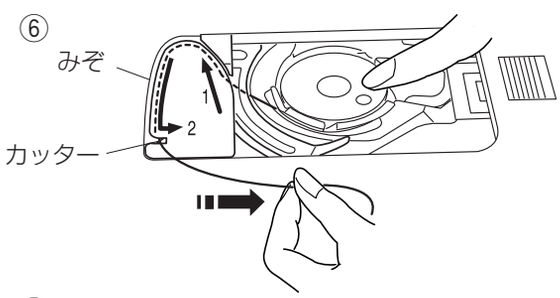
★ボビンのセット

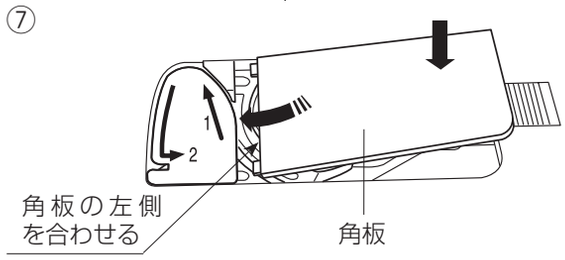












⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。けがの原因になります。

① 電源スイッチを入れた状態でロックキーを押してミシンをロック状態にします。

※ ロックキーの使い方は 11 ページをごらんください。

② 針がさがっている場合は、はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。

※ 押さえ上下移動ボタンで押さえをあげると、このあと押さえをさげるときに、押さえ上げで押さえをさげることができません。

③ 糸の端がボビンのうしろ側から矢印方向に出るように向けて（糸が左巻き）、ボビンを内がまに入れます。

※ ボビンから引き出される糸の状態の図が角板に表示されています。

④ ボビンが回転しないように、右手でボビンを軽く押さえます。
左手で糸の端を持ち、内がまの手前のみぞにかけ、さらに手前のつのの下をくぐらせます。

※ 糸を各部に確実にかけるために、手順④が終了するまで、右手でボビンを押さえた状態で行ってください。

⑤ つのの下をくぐらせた糸を矢印 1 の方向に引きあげて矢印 1 の右側のみぞに入れます。

※ 手順④で、内がまの手前のみぞに糸がかかっていないと、内がまの板ばねのあいだに糸が入らず、ボビンから直接矢印 1 の右側のみぞに通ってしまいます。
（左図、【B】参照）
その場合は手順④からかけ直してください。
正しくかけられていないと、ぬい不良の原因になります。

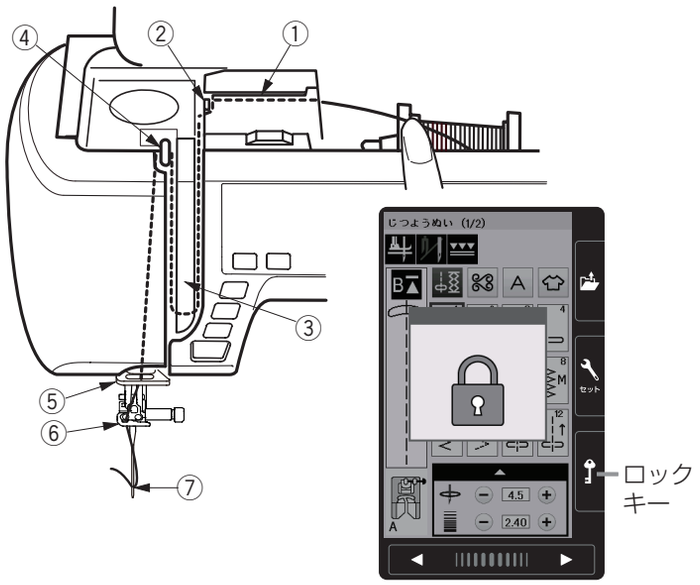
⑥ そのままみぞにそって矢印 2 の方向に糸を通し、下側のカッターにかけてから右に水平に引いて糸を切ります。

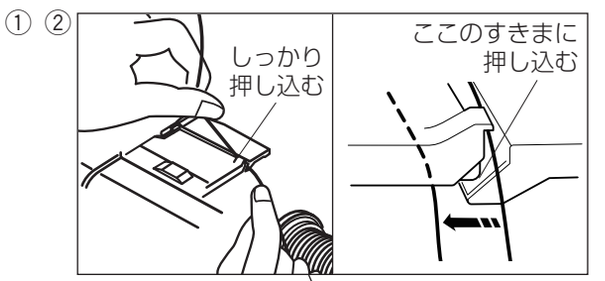
⑦ 角板を左側から合わせて取り付けます。

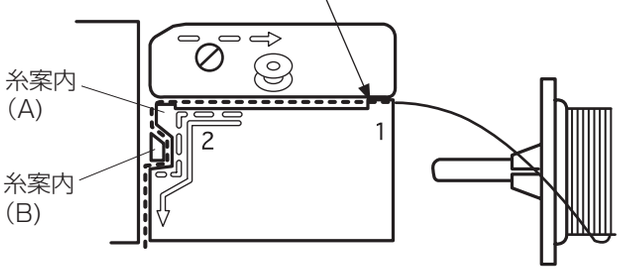
※ 通常は、下糸はこの状態のままでぬい始めることができます。
ぬい始めに下糸を針板の上に引き出す必要があるときは、「●下糸を針板の上に引き出す場合」（26 ページ）をごらんください。

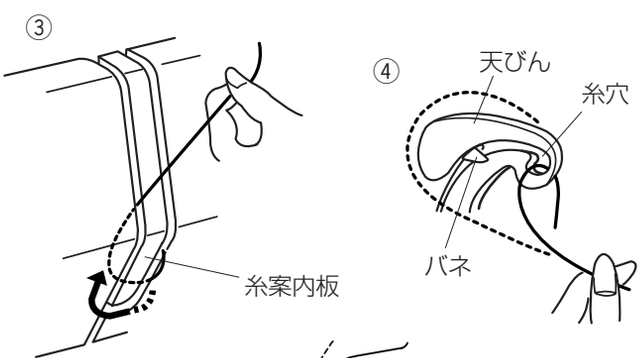
●上糸の準備

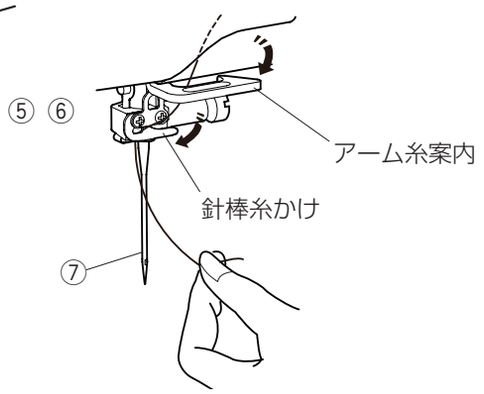
★上糸かけ











⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。
けがの原因になります。

※ 糸こまが外れるのを防ぐため、必ず糸こま押さえを使用してください。
※ 上糸かけは、糸を各部に確実にかけるために、常に右手で糸こま側の糸を押さえながら、左手で強めに引いてかけてください。

【準備】
(1) 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンで針と天びんを上にあげます。

(2) ロックキーを押して、ミシンをロック状態にします。
(押さえはさがった状態になります。)
※ ミシンがロック状態になっていないと、糸が正しくかけられず、ぬい不良の原因になります。
※ ロックキーの使い方は 11 ページをごらんください。

【上糸かけ】
① 糸を両手で持ち、糸案内カバーのすきまに「パチン」と音がするまで押し込みます。

② 右手で糸こま側の糸を押さえ、左手で糸案内 (A) と糸案内 (B) の順に糸をかけ、みぞにそって手前に「パチン」と音がするまで強めに引き出します。

③ 糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。

④ 天びんの右からうしろへまわして手前に引き、ばねを通過させて糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。

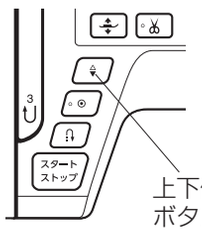
⑤ アーム糸案内に右からかけます。

⑥ 針棒糸かけに右からかけます。

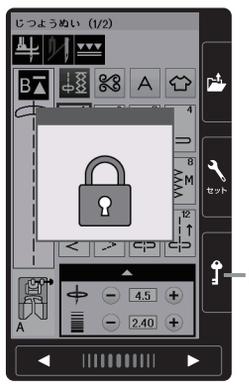
⑦ 糸通しを使って針穴に糸を通します。
糸通しの使い方は 25 ページをごらんください。

★糸通し

①



②

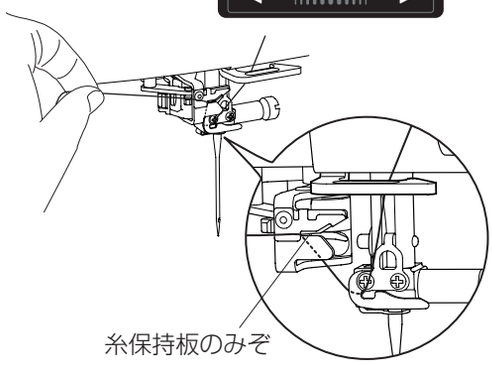


⚠ 注意
糸通しを使うときは、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。 けがの原因になります。

※ 針は 11 番～ 16 番、糸は 50 ～ 90 番が使用できます。

※ 2 本針のときは、糸通しは使えません。

③

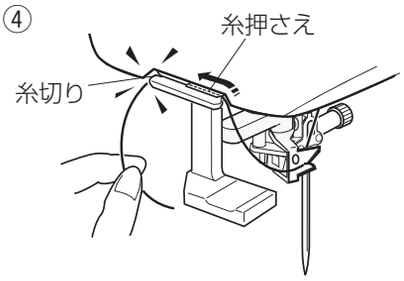


① 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンで針と天びんを上にあげます。

② ロックキーを押して、ミシンをロック状態にします。（押さえはさがった状態になります。）

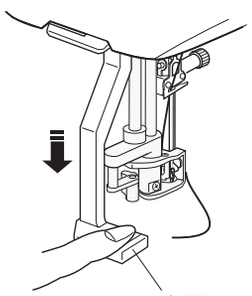
③ 糸保持板のみぞの奥まで糸を入れます。

④



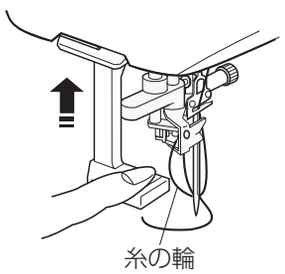
④ 糸切りに糸を手前側から向こう側にかけ、切ります。糸が糸押さえで保持されます。

⑤



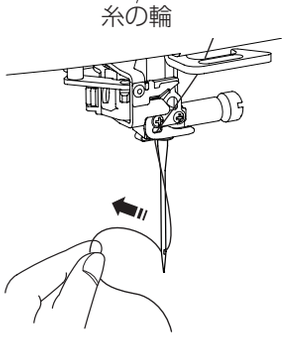
⑤ **<u>糸通しレバーの上に糸が無い事を確認して</u>**、糸通しレバーをいちばん下までさげます。

⑥



⑥ 糸通しレバーを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

⑦

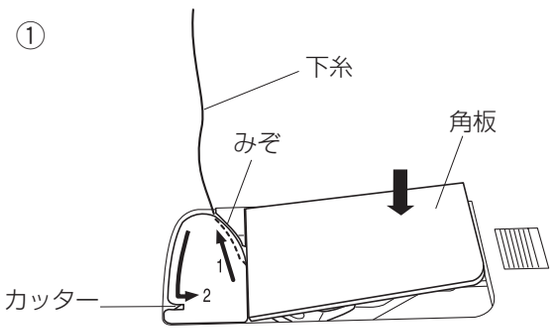


⑦ 糸の輪を向こう側に引いて針穴から糸の端を引き出します。

●下糸を針板の上に引き出す場合

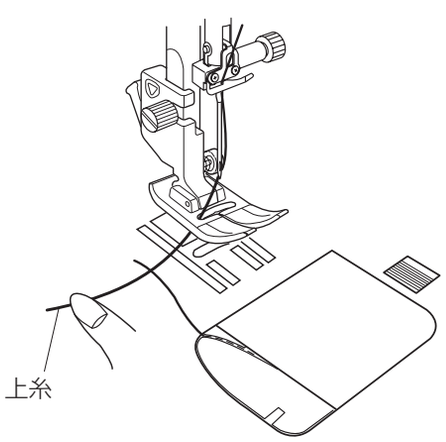
ギャザーやスモッキングなどをぬう場合のように、ぬい始めの下糸を長くする必要があるときだけ、下記手順①～④の方法で下糸を針板の上に引き出してください。

①



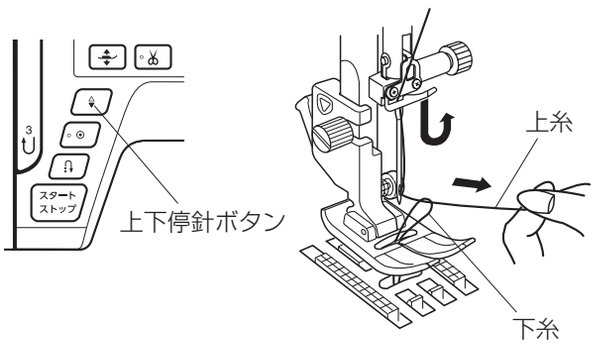
① 「●下糸の準備／★ボビンのセット」手順③～⑤（23ページ）と同じ方法で下糸を矢印 1 の方向に引きあげてみぞに入れたら、そのまま 10cm ほど向こう側に引き出しておき、角板を取り付けます。
（糸は、下側にあるカッターで切らないでください。）

②



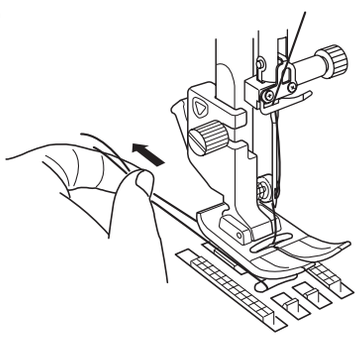
② 針に上糸を通し、押さえ上げをあげた状態で、上糸の端を指で押さえておきます。

③



③ 電源スイッチを入れ（ロック状態の場合はロック状態を解除し）、上下停針ボタンを押して針をさげ、もう一度押して針をあげます。
上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。

④

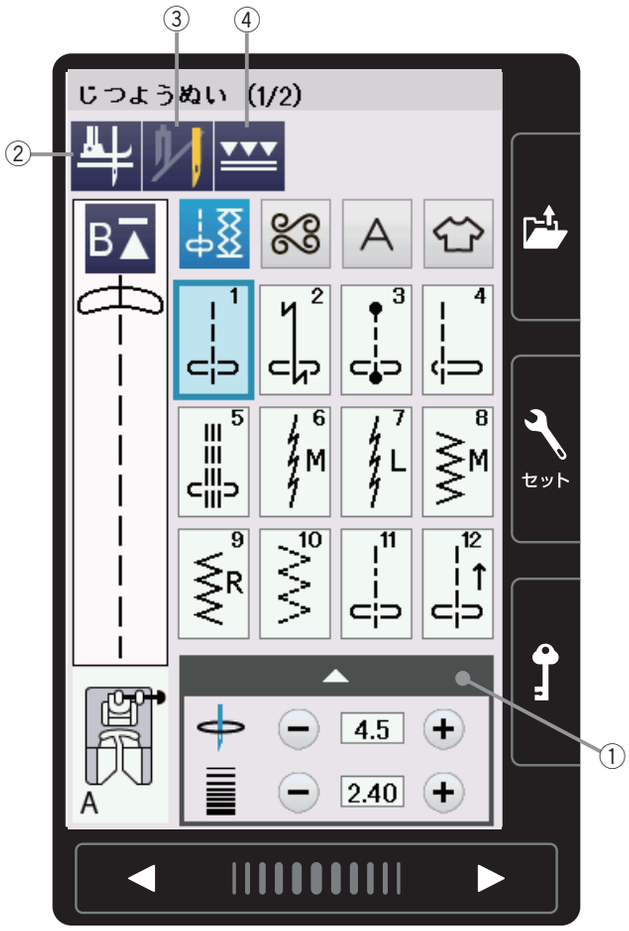


④ 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約 10cm ほど引き出して、そろえておきます。

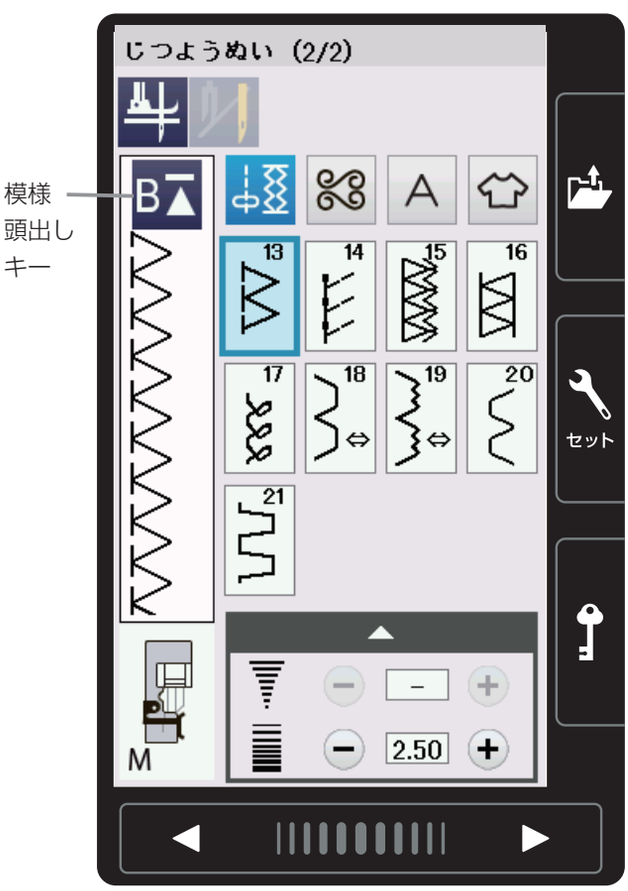
◎実用ぬい

●実用ぬいの画面

〔模様選択画面〕（1/2 ページ）



〔模様選択画面〕（2/2 ページ）



電源投入時はじつようぬいグループの模様選択画になります。
じつようぬいグループは、21 個の模様（模様番号 1 ～ 21）があり、2 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。

じつようぬいグループの画面は、模様選択キー・設定キー・先頭キーなどのキーと、選ばれている模様のぬい情報や設定状態が表示されています。

※ ぬい情報や設定状態の表示は、「◎操作方法／●画面（タッチパネル）」（10 ページ）をごらんください。

【設定キー】

その模様に設定されているぬい条件をお好みのぬい条件に変更します。
選ばれている模様によっては、グレー表示になっていて使用できない設定キーがあります。

① 調節キー

調節キーを押すと調節画面が全体表示されます。調節画面ではぬい目の幅（直線状模様の場合は針位置）、ぬい目のあらさ、糸調子の設定値を変更したり、押さえ圧の設定などを行うことができます。
（28 ～ 32 ページ参照）

② ピボットぬい設定キー

ピボットぬいを行うときに設定します。
ピボットぬいを設定すると、ミシンを止めたときに針が布にささり、押さえがあがった状態になります。
ぬい方向をかえてぬうときに、自分で押さえをあげる必要がなく、ぬい位置もずれずにきれいにぬうことができます。

③ 2 本針ぬい切りかえキー

付属の 2 本針を使用して 2 本針ぬいを行うときに、キーを押して 2 本針ぬいに設定します。
使い方は、「◎ 2 本針ぬい」（113 ページ）をごらんください。

④ 上送りぬい切りかえキー

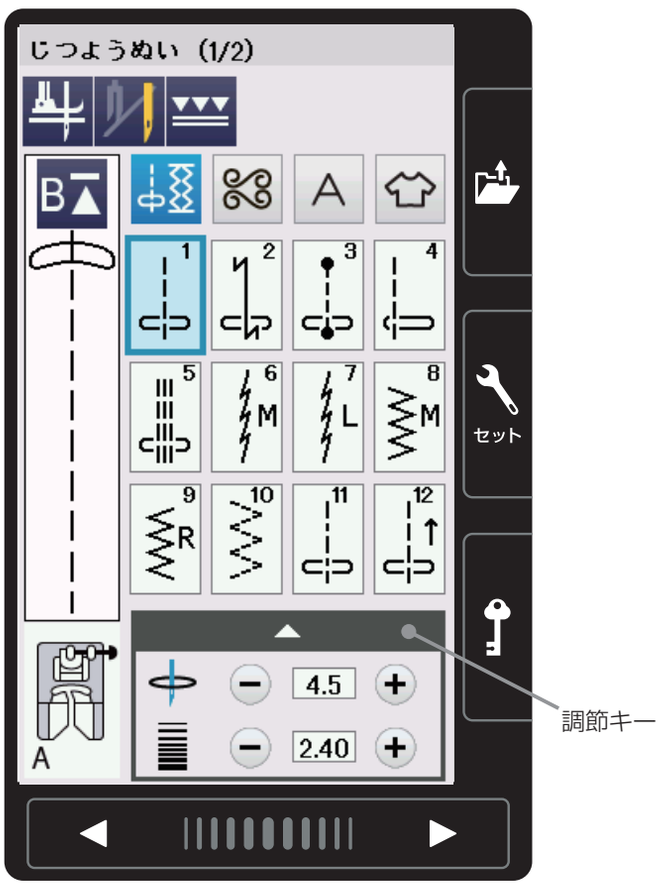
付属の上送り押さえを使用して上送りぬいを行うときに、キーを押して上送りぬいに設定します。
（35 ページ参照）

【模様頭出しキー】

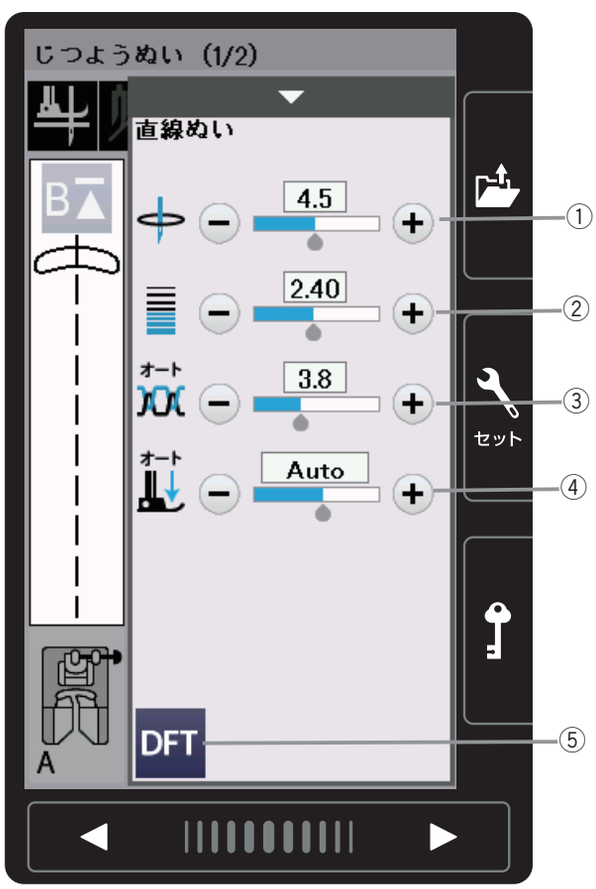
模様をぬっている途中でミシンを止めた場合、次にぬうときにその模様の最初からぬうことができます。
使い方は、「◎飾りぬい／●模様組み合わせモード／★模様頭出しキーの使い方」（68 ページ）をごらんください。

●実用ぬいの調節画面

〔模様選択画面〕



〔調節画面〕



模様選択画面の調節キーを押すと、調節画面が全体表示されます。

【例】直線ぬい

① ぬい目の幅調節キー

ぬい目の幅（直線状模様の場合は針位置）をかえることができます。（29 ページ参照）

② ぬい目のあらさ調節キー

ぬい目のあらさをかえることができます。
（30 ページ参照）

③ 糸調子調節キー

上糸と下糸の糸調子のバランスをかえることができます。（31 ページ参照）

④ 押さえ圧調節キー

模様を選ぶと、画面にその模様の代表的なぬいに適した押さえ圧 Auto（オート）が表示されます。
布送りがスムースでないときや、特殊なぬい方や布地の厚さによっては、数値を調節してください。

※ 一般的な押さえ圧が Auto（オート）と表示されている場合は、普通地、厚物地は「Auto ＋ 1 ～＋ 4」薄物地や伸縮性の布地は「Auto － 1 ～－ 4」の範囲で調節してください。

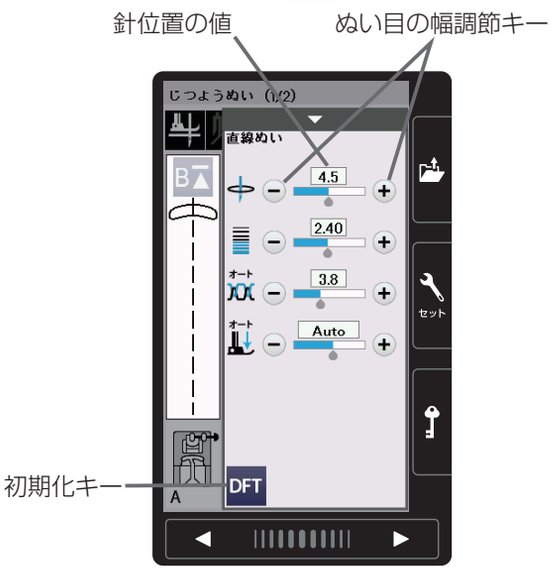
⑤ 初期化キー（DFT キー）

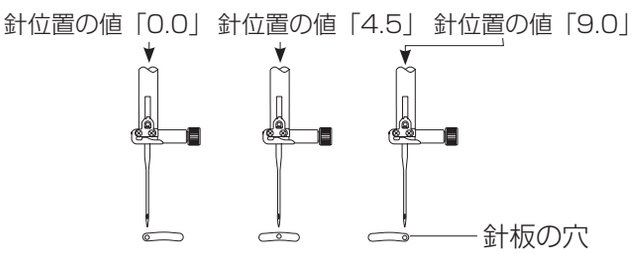
ぬい目の幅、ぬい目のあらさ、糸調子、押さえ圧を変更した場合、オート値（電源を入れたときに自動的に設定されている値）にもどすことができます。

※ もとの画面にもどるときは、調節キーを押してください。

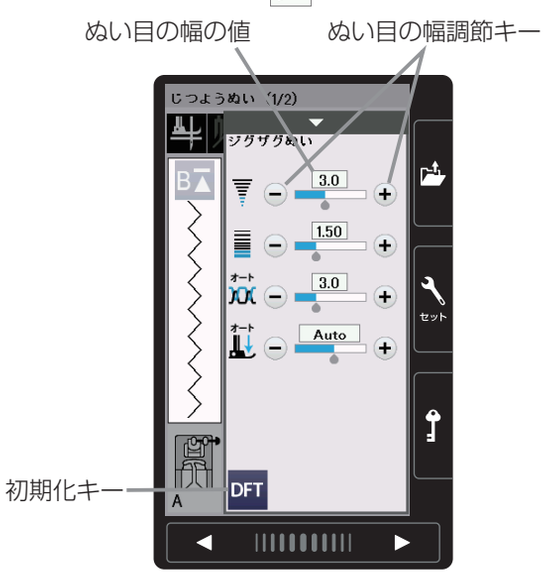
★ぬい目の幅調節キー

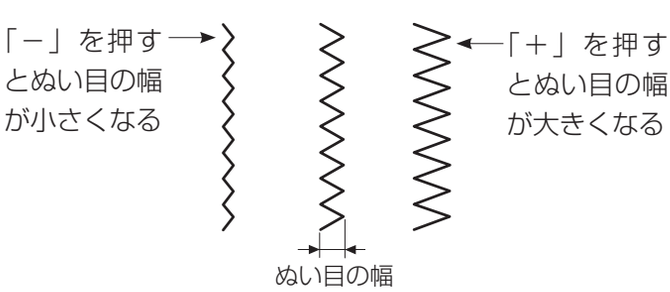
〔調節画面：模様  （直線模様）の例〕





〔調節画面：模様  の例〕





ぬい目の幅調節キーでぬい目の幅（直線状模様の場合は、針位置）をかえることができます。

「＋」を押すと表示されている数値が大きくなり、ぬい目の幅が広くなります。
直線状模様の場合は、針が右へ移動します。

「－」を押すと表示されている数値が小さくなり、ぬい目の幅がせまくなります。
直線状模様の場合は、針が左へ移動します。

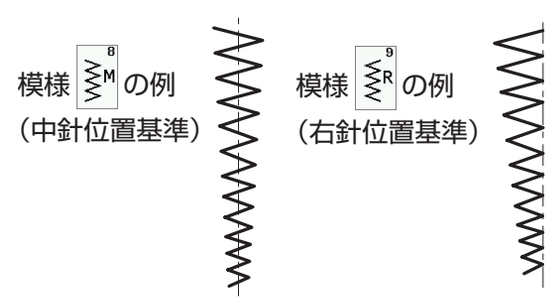
初期化キーを押すと、オート値（電源を入れたときに自動的に設定されている値）にもどすことができます。

※ 画面の数値は、ぬい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。
直線状模様の場合は、左針位置からの距離の目安をミリメートルで表示しています。
左針位置が「0.0」、中針位置が「4.5」、右針位置が「9.0」になります。

ぬい目の幅の基準位置

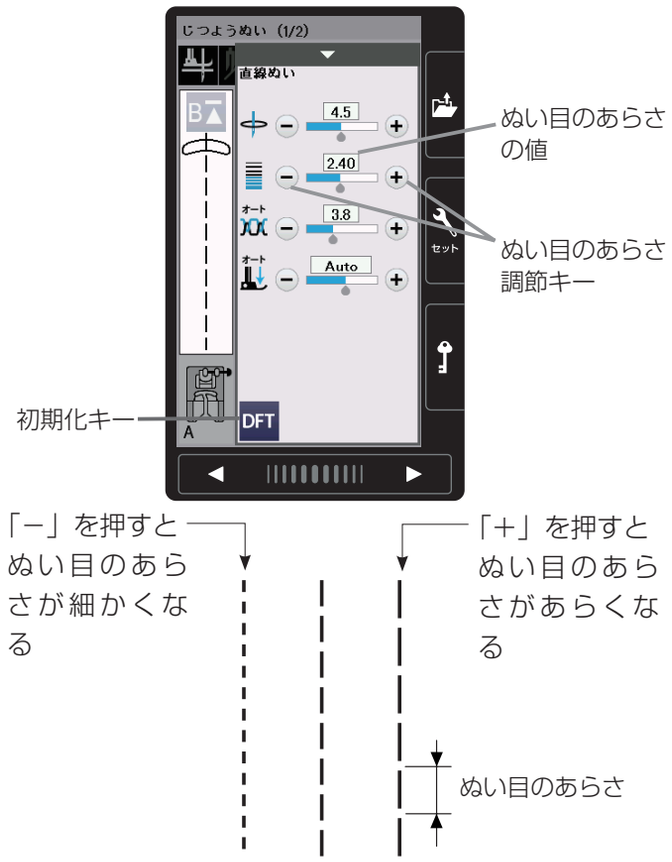
ミシンの天板の早見板や模様選択キーに表示されている模様  などのように、ぬい目のイラストの右に書かれている「L」「M」「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置を示します。

- 「L」が表示されている模様は、ぬい目の幅をかえたとき、左針位置を基準（固定）に右に幅が変化します。
- 「M」が表示されている模様は、ぬい目の幅をかえたとき、中針位置（中央）を基準（固定）に左右に幅が変化します。
- 「R」が表示されている模様は、ぬい目の幅をかえたとき、右針位置を基準（固定）に左に幅が変化します。

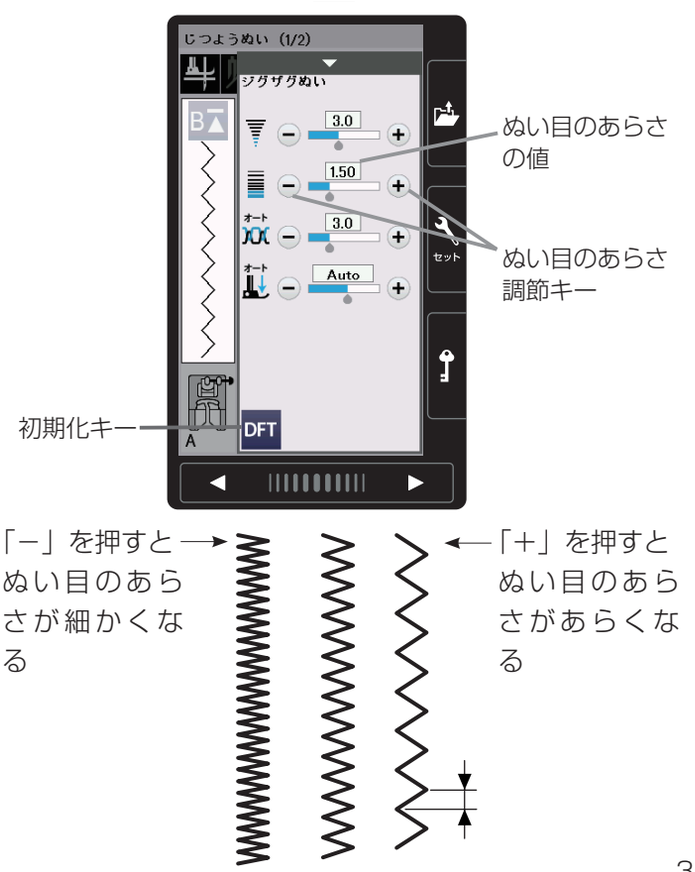


★ぬい目のあらさ調節キー

〔調節画面：模様  （直線模様）の例〕



〔調節画面：模様  の例〕



ぬい目のあらさ調節キーでぬい目のあらさをかえることができます。

「+」を押すと表示されている数値が大きくなり、ぬい目のあらさがあらくなります。

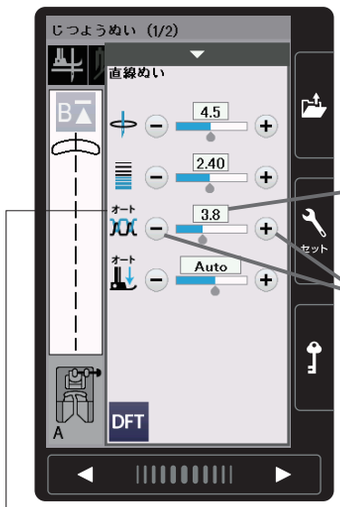
「−」を押すと表示されている数値が小さくなり、ぬい目のあらさが細かくなります。

初期化キーを押すと、オート値（電源を入れたときに自動的に設定されている値）にもどすことができます。

※ ぬい目のあらさは、布や糸によりかわりますので、画面表示の数値は目安としてミリメートルで表示しています。
また、返しぬいのぬい目のあらさは、表示数値より小さくなります。

★糸調子調節キー

〔調節画面〕（自動セット状態の画面）



（調整された状態の画面）



模様を選ぶと、標準的な条件において最適な糸調子に自動セットされ、上糸と下糸がバランスよくぬえます。
糸や布の種類、ぬい方などによって自動セットのままでは糸調子のバランスがとれない場合は、糸調子調節キーで調節します。

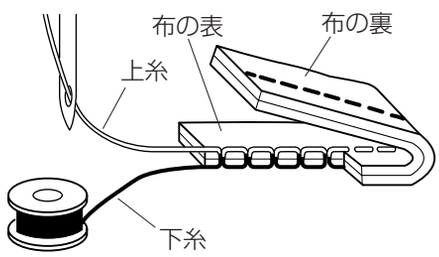
※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

※ 画面には、糸調子が自動セット状態の場合は「オート」、糸調子調節キーで調節されている場合は「マニュアル」と表示されます。

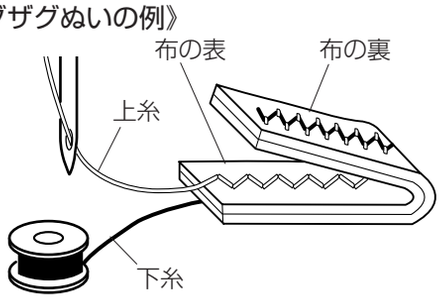
※ 模様ごとに自動セットされる糸調子（オート値）を、すべての模様に対して全体的に強くしたり、弱くしたりすることができます。
「◎ミシンの設定／【通常ぬい設定】①糸調子」（125ページ）をごらんください。

【バランスのとれた糸調子】

《直線ぬいの例》



《ジグザグぬいの例》

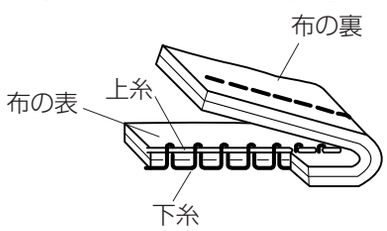


【バランスのとれた糸調子】

直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

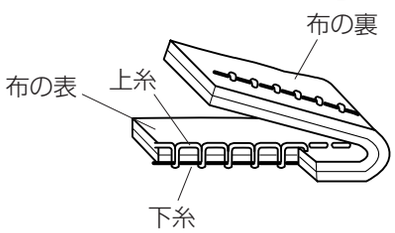
【上糸が強すぎる場合の調節】



【上糸が強すぎる場合の調節】

上糸が強すぎると下糸が布の表に引き出されます。
糸調子調節キーの「－」を押して数値を小さくします。

【上糸が弱すぎる場合の調節】



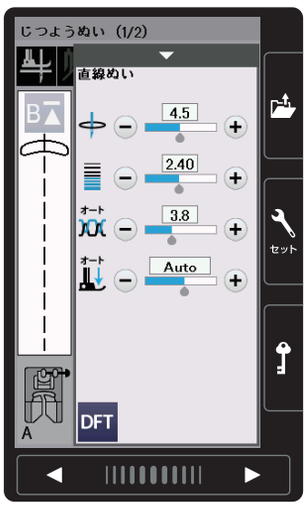
【上糸が弱すぎる場合の調節】

上糸が弱すぎると上糸が布の裏に引き出されます。
上糸が布の表でたるんだり、輪になる場合もあります。
糸調子調節キーの「＋」を押して数値を大きくします。

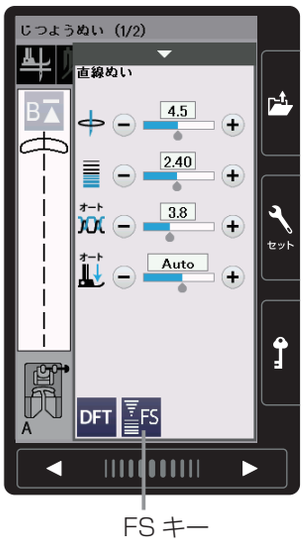
●ぬい目の幅（針位置）、ぬい目のあらさ、糸調子のオート値の変更

①　〔調節画面〕

「ステッチの調整値を保存 (FS) が「OFF」に設定されている場合

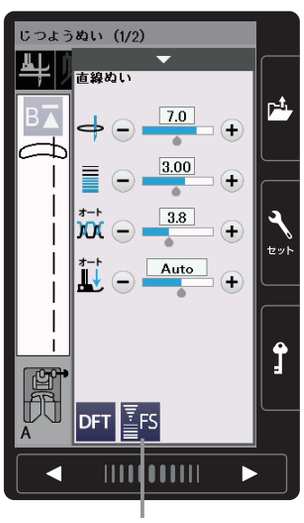


「ステッチの調整値を保存 (FS)」が「ON」に設定されている場合



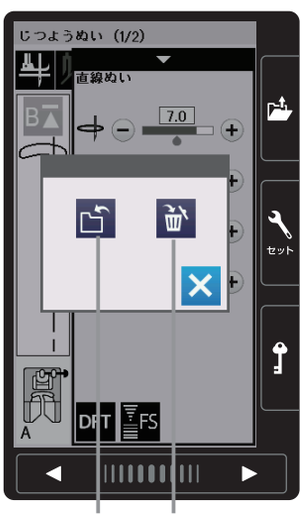
FS キー

②



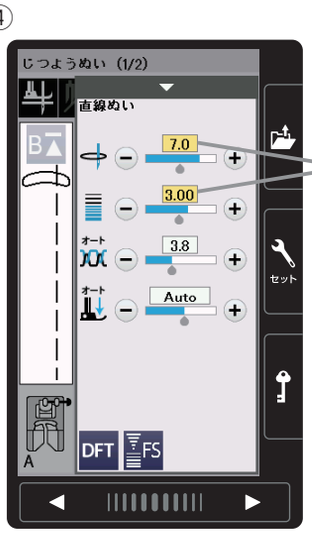
FS キー

③



保存キー　取り消しキー

④



黄色に塗られて、オート値が初期の状態から変更されていることを示します。

セットキーにより、通常ぬい設定の「ステッチの調整値を保存 (FS)」を「ON」に設定しておくと、ぬい目の幅（針位置）、ぬい目のあらさ、糸調子のオート値（電源を入れたとき、ミシンに自動的に設定されている値）押さえ圧をお好みの値に変更して保存することができます。

オート値をお好みの値に変更して保存しておくと、その模様を選ぶだけで、その設定した値でぬうことができます。

※ セットキーによる「ステッチの調整値を保存 (FS)」を「ON」に設定する方法は、「◎ミシンの設定／【通常ぬい設定】⑨ステッチの調整値を保存 (FS)」（127 ページ）をごらんください。

① セットキーにより、「ステッチの調整値を保存 (FS)」が「ON」に設定されていると、FS キー（オート値設定キー）が表示されます。

※ 初期の状態（購入時の設定状態）は、「OFF」に設定されています。

② 調節画面の調節キーにより、設定したい項目の数値を変更します。
左図の例では、針位置を「4.5」から「7.0」、ぬい目のあらさを「2.40」から「3.00」に変更しています。

③ 手順②の画面で FS キーを押します。
保存キーと取り消しキーが表示されているウインドウ画面が表示されます。

④ 手順③の画面で保存キーを押します。
ウインドウ画面が消え、数値を囲む枠が黄色に塗られて、針位置のオート値が「7.0」、ぬい目のあらさのオート値が「3.00」に設定されたことを示します。

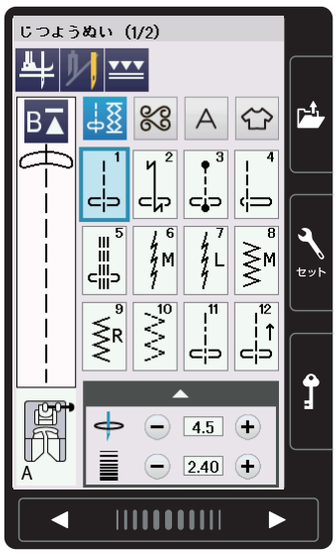
【変更したオート値を初期の状態にもどす方法】

手順③の画面で取り消しキーを押します。
数値を囲む枠の黄色が消え、オート値（電源を入れたとき、ミシンに自動的に設定されている値）が初期の状態（購入時の設定状態）にもどります。

※ 変更した全模様のオート値を一括して初期の状態（購入時の設定状態）にもどす方法は、「◎ミシンの設定／【通常ぬい設定】⑨ステッチの調整値を保存 (FS)」（127 ページ）をごらんください。

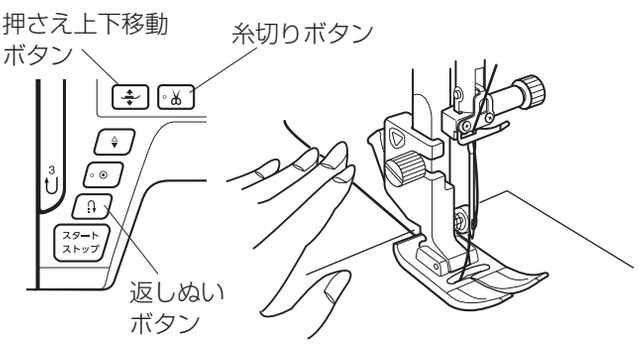
●直線（直線状模様）ぬい

★直線ぬい（中針位置）



① 模様.....

② 押さえ.....A：基本押さえ



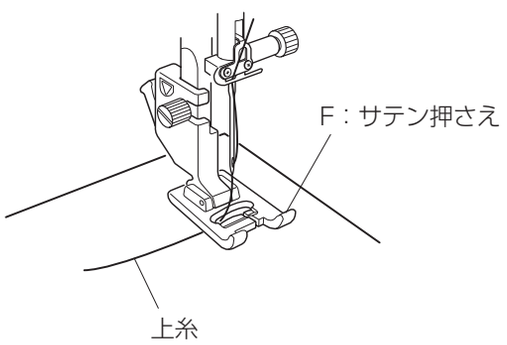
【ぬい始め】

① 上糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手で手前にまわして最初のぬい位置に針をさします。

② 押さえ上下移動ボタンで押さえをさげ、ミシンをスタートし、ぬいます。

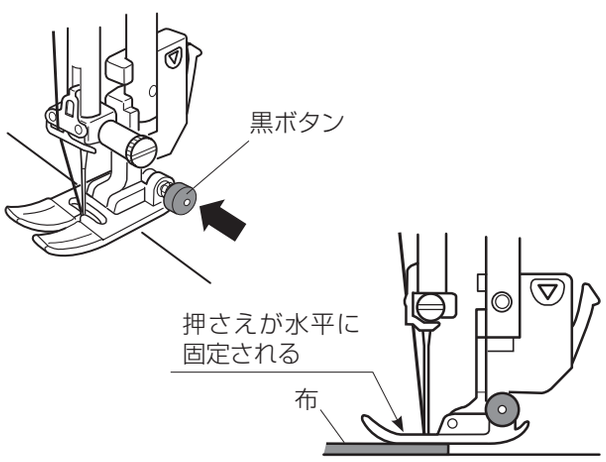
※ 下糸（ボビン）をセットした直後および糸切りボタンを使用して糸を切ったあとのぬい始めは、下糸は針板の上に引き出す必要はありませんが、上糸は必ず向こう側に引いて、押さえで押さえてください。

※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押します。



ぬい始めの糸の引き出し方

通常は、ぬい始めの上糸は押さえの向こう側に引き出して、押さえで押さえます。
ただし、F：サテン押さえ、F2：クラフトF押さえやR：ボタンホール押さえなどのように、押さえの向こう側（うしろ側）の底があがっていて、糸を押さえる部分がない押さえは、ぬい始めの糸は横方向に引き出して押さえてください。



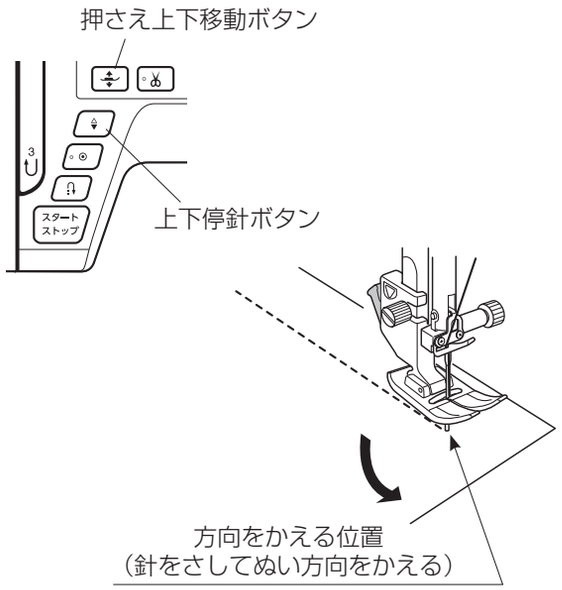
【厚手の布端のぬい始め】

① 最初のぬい位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

② 黒ボタンを押したまま押さえ上下移動ボタンを押して押さえをさげます。

③ 黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。

※ 黒ボタンを押した状態で押さえをさげると押さえが水平に固定され、段部をスムーズにぬい始めることができます。
ぬい始めると黒ボタンがもどり、押さえはもとの自由に動く状態になります。



【ぬい方向の変更】

① 布の方向をかえる位置まできたらミシンを停止します。

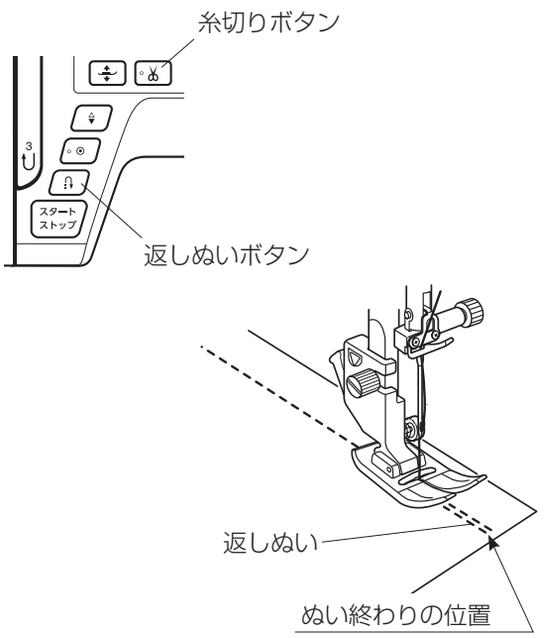
② 布に針がささっていない場合は、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上下移動ボタンで押さえをあげます。

※ 通常はミシンを停止すると、針が布にささった状態になっています。

③ 針を布にさしたままぬい方向をかえ、押さえ上下移動ボタンで押さえをさげてぬい始めます。

※ ぬい位置がずれずにきれいにぬうことができます。

※ ミシンを停止したとき、常に自動的に針が布にささり、押さえがあがった状態になるピボットぬいを設定することができます。ピボットぬいは「●実用ぬいの画面／【設定キー】／②ピボットぬい設定キー」（27 ページ）をごらんください。



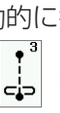
【ぬい終わり】

① ぬい終わりの位置で返しぬいボタンを押して数針返しぬいを行い、ミシンを停止します。

② 糸切りボタンを押して糸を切ります。

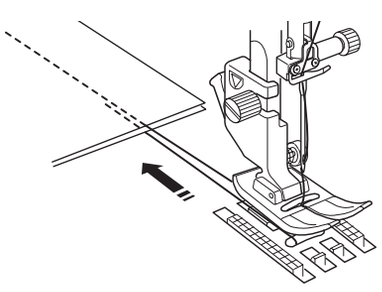
※ 針と押さえがさがった状態のままでも、糸切りボタンを押すと針と押さえは上の位置に移動します。

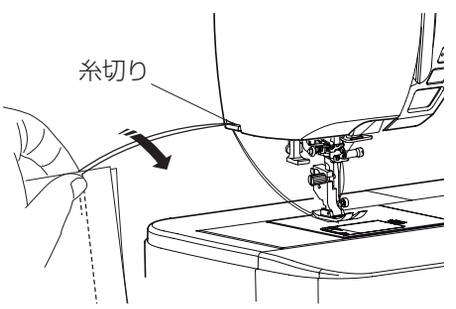
③ 布を向こう側に引き出します。

※ ぬい始めとぬい終わりのほつれ止めを自動的に行う自動返しぬい模様  と自動止めぬい模様  があります。
「★自動返しぬい」「★自動止めぬい」（36 ページ）をごらんください。

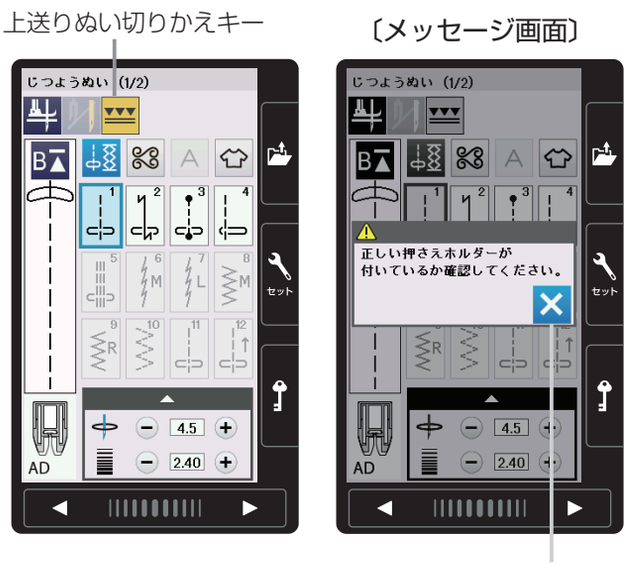
面板の糸切りの使い方

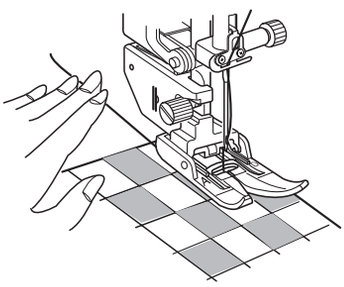
30 番および 30 番より太い糸や特殊な糸を切る場合は、ミシンの面板に付いている糸切りを使用してください。
針と押さえ上げをあげ、布を向こう側に引き出してから手前に返すようにして糸を切ります。

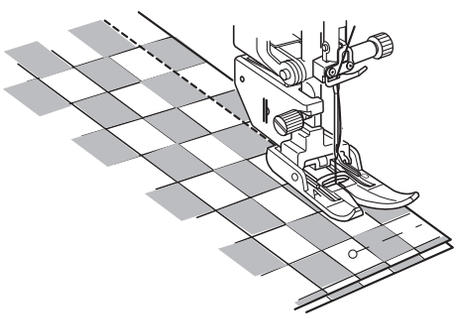




★上送り押さえの使い方







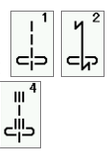
上布と下布でずれやすい布地や皮など送りにくい布地をぬう場合、上送り押さえを使用するときれいにぬうことができます。

上送り押さえが使用できる模様は、早見板に表示されている青い表示の模様です。

【準備】

① 上送りぬい切りかえキーを押します。
※ メッセージ画面が表示されますので、閉じるキーを押して、上送り押さえホルダーと AD: 上送り押さえを取り付けてください。

② 上送り押さえホルダーを取り付けます。
※ 上送り押さえホルダーの取り付け方は、「◎操作方法／●上送り押さえのセット方法」（16 ページ）をごらんください。

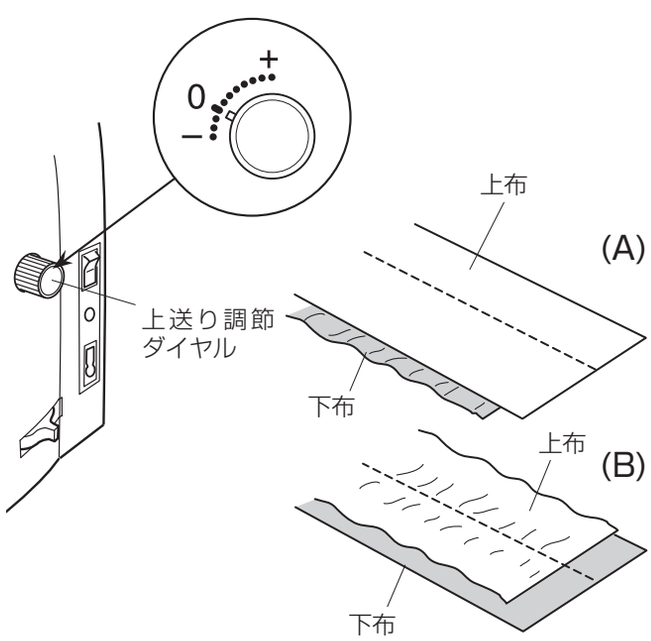
※ 上送りぬいに設定されているあいだ、模様  、キルトグループ模様  以外の模様は選ぶことができません。

※ 上送りぬいを解除する場合は、上送りぬい切りかえキーを押してください。

【ぬい方】

上糸を押さえの下に通して向こう側に引き出し、ぬい始めます。

※ しま地や格子じま、プリント地をぬうときは、布地の端と最初のしまをぬい目のはじめのところで注意深くそろえ、ぬい目の線に直角にピンを止め、ぬいます。



上布と下布がずれる場合

上布と下布でずれる場合は、上送り調節ダイヤルをまわして調節します。

A 図のようにずれる場合は、上送り調節ダイヤルを「＋」方向にまわします。

B 図のようにずれる場合は、上送り調節ダイヤルを「−」方向にまわします。

※ **上送り押さえを使用しないときは、必ず上送り調節ダイヤルの位置を「0」の位置にもどしてください。**

★自動返しぬい

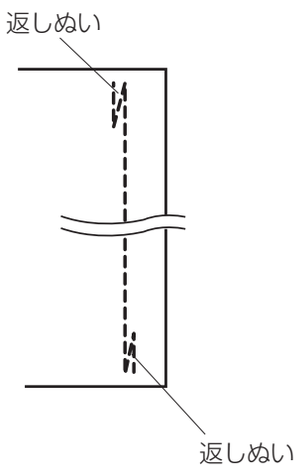
① 模様.....



② 押さえ.....A：基本押さえ







ぬい始めとぬい終わりにしっかりしたほつれ止め（返しぬい）を自動的に行うときに使います。

【ぬい始め】

ミシンをスタートさせると、ぬい始めに自動的に数針返しぬいを行います。

【ぬい終わり】(スタート / ストップボタン使用時)

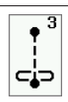
ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。
その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが停止します。

【ぬい終わり】（フットコントローラー使用時）

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。
ミシンを停止してからボタンを押した場合は、再度フットコントローラーを踏むと、その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが停止します。
運転したままボタンを押した場合は、その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが停止します。

★自動止めぬい

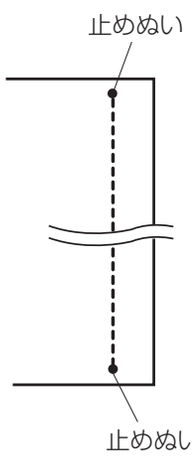
① 模様.....



② 押さえ.....A：基本押さえ







ぬい始めとぬい終わりに目立たないほつれ止め（止めぬい）を自動的に行うときに使います。

【ぬい始め】

ミシンをスタートさせると、ぬい始めに自動的に数針止めぬいを行います。

【ぬい終わり】(スタート / ストップボタン使用時)

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。
その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが停止します。

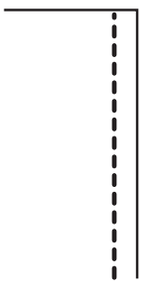
【ぬい終わり】（フットコントローラー使用時）

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。
ミシンを停止してからボタンを押した場合は、再度フットコントローラーを踏むと、その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが停止します。
運転したままボタンを押した場合は、その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが停止します。

★直線ぬい（左針位置）

① 模様..... 

② 押さえ.....A：基本押さえ 

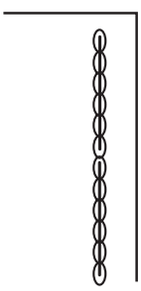


端ぬいや、薄物ぬいに使います。

★三重ぬい

① 模様..... 

② 押さえ.....A：基本押さえ 

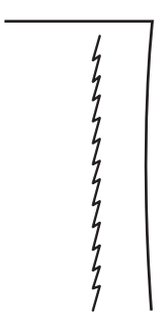


丈夫なぬい目で、厚い布や袋物、ズボンなどしっかりとぬい合わせたい場所に使います。

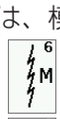
★伸縮ぬい（ニットステッチ）

① 模様..... 

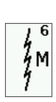
② 押さえ.....A：基本押さえ 



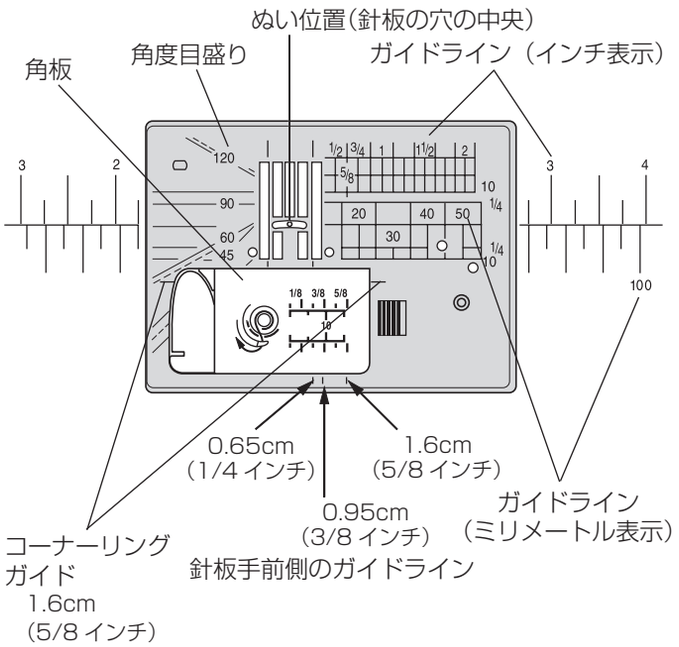
布が伸びても糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目で、ニット地のぬい合わせなどに使います。

※ 通常は、模様  を使用してください。
模様  は、厚い布に使用できます。

※ 模様   の場合、調節画面のぬい目の幅調節キーでの調節は、他の直線状模様と異なり、ぬい位置（針位置）ではなく、ぬい目の幅の調節になります。

※ 模様   のぬい目のイラストの右に書かれている「M」「L」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置です。
ぬい目の幅の基準位置は、「●実用ぬいの調節画面／★ぬい目の幅調節キー／〔ぬい目の幅の基準位置〕欄」（29 ページ）をごらんください。

★針板ガイドの使い方



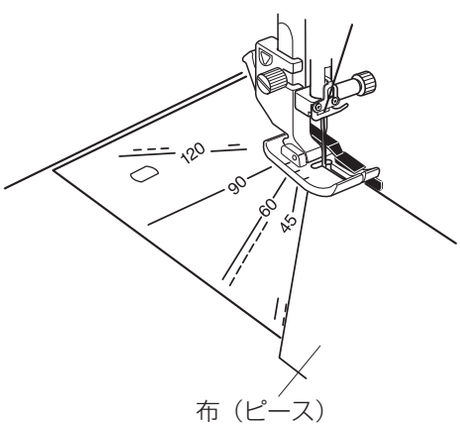
針板には、布のぬい位置を決めるための便利なガイドがいろいろ表示されています。

【ガイドライン】

布端を針板のガイドラインに合わせてぬうと、布端から正確な位置にぬうことができます。
ガイドラインの数字は、ぬい位置（針板の穴の中央）からガイドラインまでの距離を「インチ」と「ミリメートル」で表示しています。

※ ガイドラインは角板およびミシンのフリーアームにも表示されています。

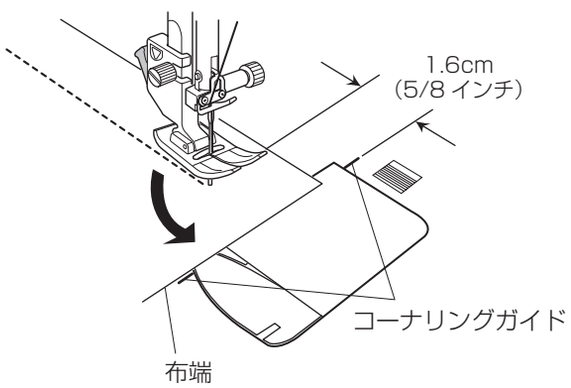
【角度目盛り】



角度目盛りは、パッチワークのピース作りに使うと便利です。
パッチワーク布（ピース）の角度と同じ角度目盛りに布端を合わせると、しるしなしでぬいしろ 0.65cm（1/4 インチ）のぬい始めの位置を決めることができます。

※ 使い方は、「◎用途選択／●パッチワーク／〔針板角度目盛りの使い方〕欄」（103 ページ）をごらんください。

【コーナーリングガイド】



布端から 1.6cm（5/8 インチ）のところで直角にぬい方向をかえるときに利用します。
ぬい方向をかえたあと布端から 1.6cm（5/8 インチ）の位置にぬうことができます。

① 布端がコーナーリングガイドのところにきたらミシンを停止します。

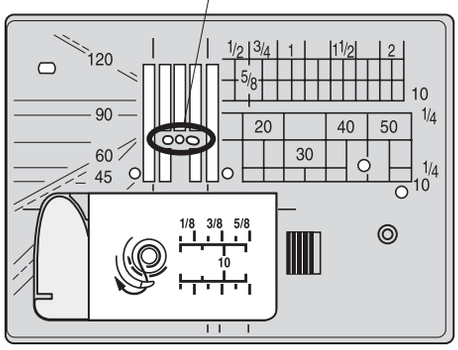
② 針を布にさした状態で押さえ上下移動ボタンで押さえをあげ、布を直角に回転させます。
布端が針板右側のガイドライン 1.6cm（5/8 インチ）の位置に合います。

③ 押さえ上下移動ボタンで押さえをさげ、ミシンをスタートさせます。

★直線ぬい用針板の使い方

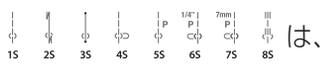
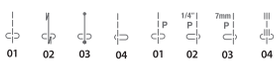
〔直線ぬい用針板〕

直線ぬい用針板は、針の入る場所が
3 個の丸穴になっています。



針板の穴の小さい「直線ぬい用針板」を使用すると、針が布にささるときのばたつきがおさえられ、ぬい目が美しく仕上がります。
直線ぬいの場合は、模様  を選び、直線ぬい用針板でぬうことをおすすめします。

※ 針板の交換方法は、「◎操作方法／●針板の外し方、付け方」（18 ページ）をごらんください。

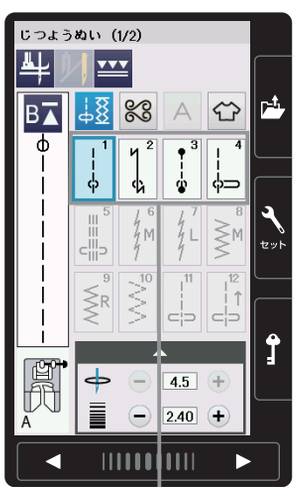
※ ミシンの早見板の直線模様  は、じつようぬいグループとキルトグループにある模様  と同じ模様です。
直線ぬい用針板が使用できるという意味で、模様番号の末尾に「S」を付けています。

〔メッセージ画面〕

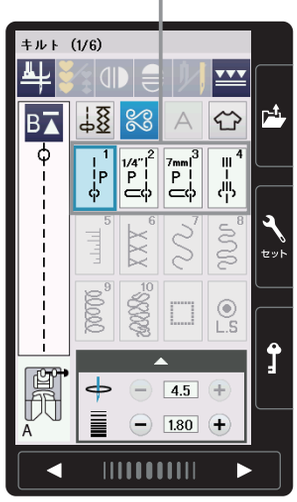


閉じるキー

〔模様選択画面〕



直線ぬい用針板でぬうことができる模様



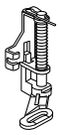
ロックキーを使用してロック状態で直線ぬい用針板に交換すると、メッセージ画面が表示されます。正しい押さえが取り付けられているか確認してください。
メッセージ画面の閉じるキーを押し、ロックキーを押してロック状態を解除すると模様選択画面にもどり、ぬうことができます。

※ 直線ぬい用針板が取り付けられているあいだは、じつようぬいグループ、キルトグループおよび用途選択グループの一部の模様しか選択できません。
選択できない模様は、模様選択キーの色がグレーになっていて、押しても受け付けられないようになっています。

※ 直線ぬい用針板が取り付けられているあいだ、キルトグループの  以外は調節画面のぬい目の幅調節キーで針位置を変更することはできません。

●しつけぬい

① 模様..... 

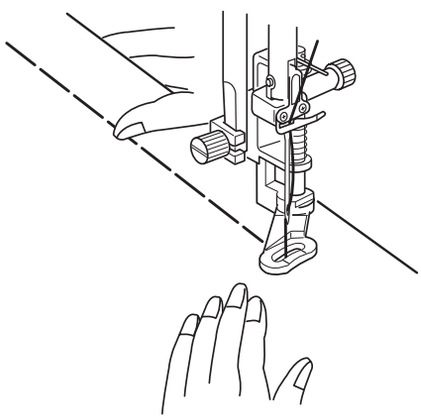
② 押さえ..... PD-H：フリーキルト押さえ 

③ 送り歯をさげます。（13 ページ参照）

しつけぬいの模様は、ミシンをスタートさせても布は送られずに、1 針ぬって停止します。（フットコントローラーの場合も、踏み続けていても 1 針ぬって停止します。）

ミシン停止時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の位置で停止します。

お好みの間かくを、1 針ずつ手で布を移動させてぬうことができます。

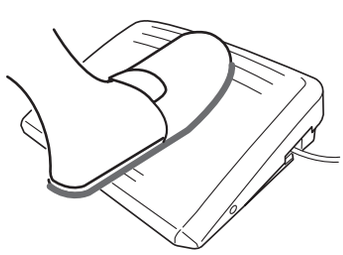


押さえホルダーを外し、PD-H: フリーキルト押さえを取り付けます。

※ 押さえホルダーの外し方は、「◎操作方法／●押さえホルダーの外し方、付け方」（15 ページ）、● PD-H: フリーキルト押さえの取り付け方」（17 ページ）をごらんください。

【ぬい方】

押さえ上下移動ボタンで押さえをさげ、布を前後にピンと張ってぬいます。
1 針ぬってミシンが停止したら、ぬい目をつまんで布を向こう側に必要な長さだけ引き出し、繰り返しぬいます。



フットコントローラーの利用

しつけぬいは、フットコントローラーを使用すると両手が使えて便利です。

※ フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

●つくろいぬい

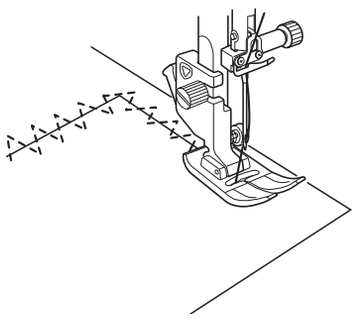
① 模様.....



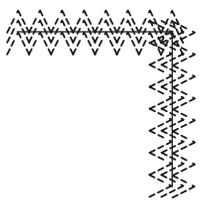
② 押さえ.....A：基本押さえ



①



②



ほつれている部分のぬい合わせをします。

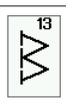
① ほつれた部分の布端をつき合わせてぬいます。

② はじめにぬったぬい目の両側をぬいます。
※ ほつれ具合によって、裏側から別布をあててぬいます。

●かがりぬい

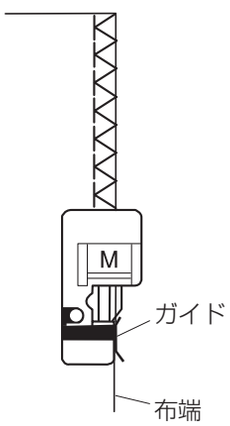
★かがりぬい（1）

① 模様.....



② 押さえ.....M：縁かがり押さえ



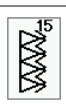


普通地、平織り 2 枚に適しています。
地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに使います。

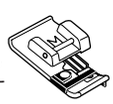
布端を押さえのガイドにあててぬいます。

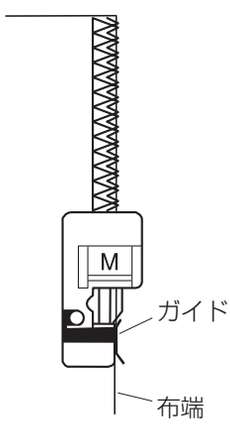
★かがりぬい（2）

① 模様.....



② 押さえ.....M：縁かがり押さえ





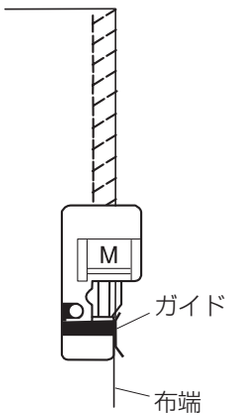
普通の布や厚い布およびほつれやすい布のしっかりした布端をかがるときに使います。

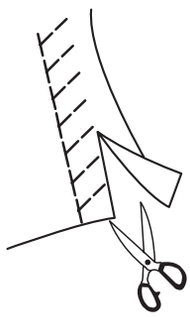
布端を押さえのガイドにあててぬいます。

★ニットステッチ（1）

① 模様..... 

② 押さえ.....M：縁かがり押さえ  A：基本押さえ 





伸縮性布地（ニット地など）のかがりに使います。

縁かがり押さえを使用する場合は、布端を押さえのガイドにあててぬいます。

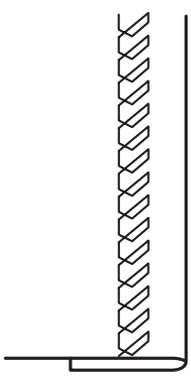
基本押さえを使用する場合は、ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

★ニットステッチ（2）

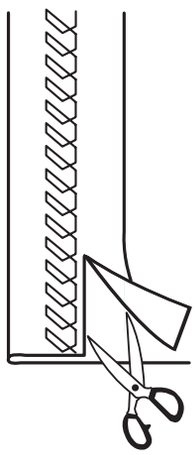
① 模様..... 

② 押さえ.....A：基本押さえ 

①



②



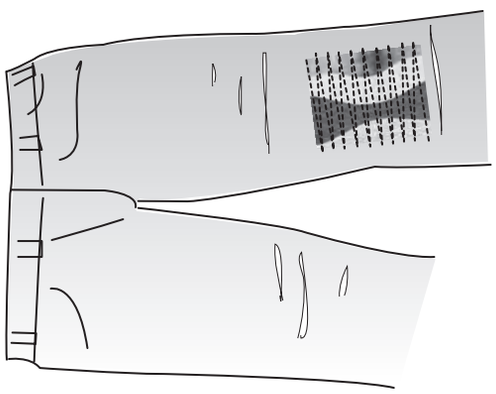
① ふちを折り曲げ、布の折り目にそってぬいます。

② 布の裏側の余分なところを、ぬい目近くで切り落とします。

●バック直線ぬい

① 模様..... 

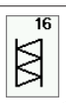
② 押さえ.....A：基本押さえ 



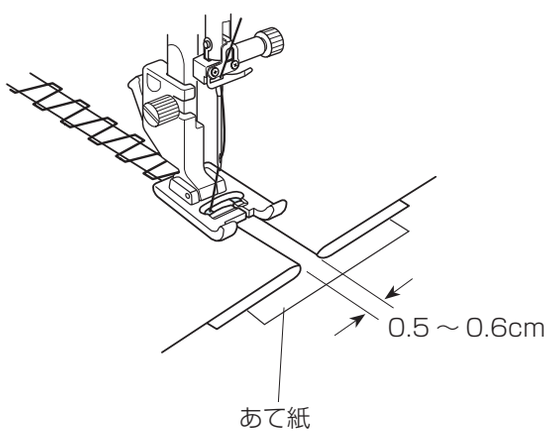
直線ぬいを通常の布の進む方向と逆方向にぬう（バックぬい）模様です。
布を回転しにくいときの繰り返しの往復ぬいに便利です。また、返しぬいボタンを押す必要がないため、両手を使って布を案内することができます。

模様  で必要なところまでぬい、模様  を選んで、もどる方向をぬいます。

●ファゴティング

① 模様.....  または 

② 押さえ.....F：サテン押さえ 

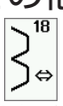
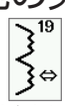


① 布端と布端の間かくを 0.5 ～ 0.6cm あけて、下にあて紙を置きます。

② 布の表から、間かくの中央を中心にしてぬいます。

③ あて紙を取ります。

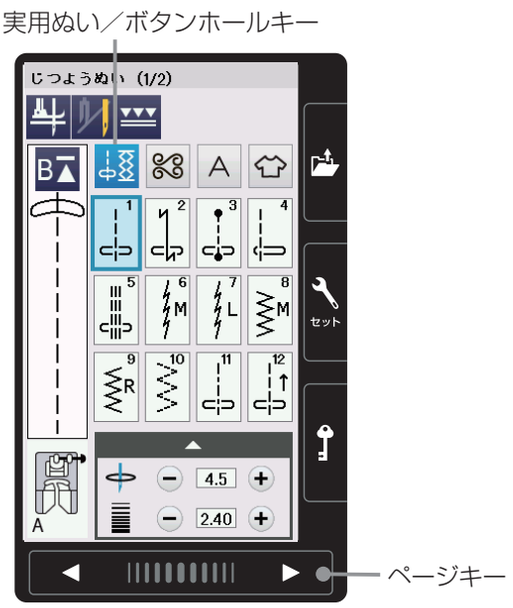
●その他の実用ぬい

模様   （まつりぬい）および模様  （シェルタック）のぬい方は、「◎用途選択」（87、89 ページ）をごらんください。

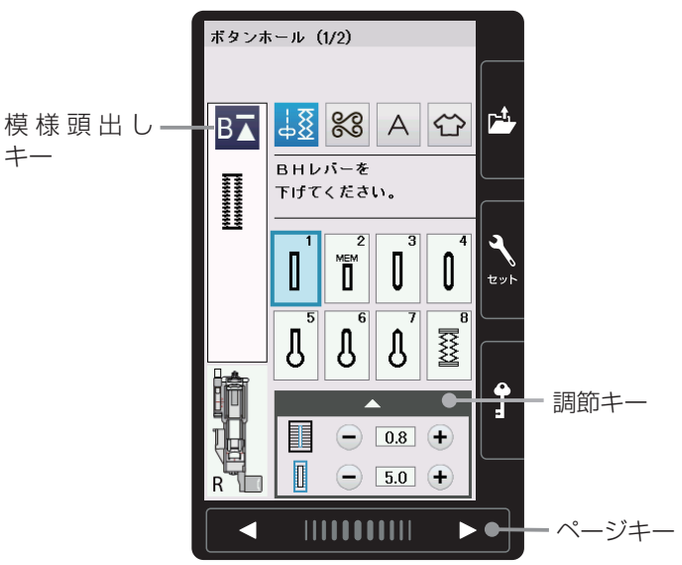
◎ボタンホール・特殊模様

●ボタンホール・特殊模様の画面

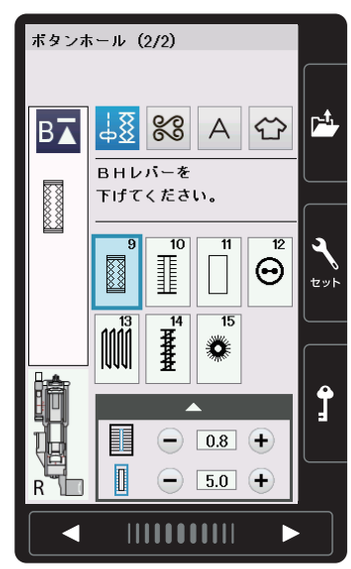
〔実用ぬいの模様選択画面〕（1/2 ページ）



〔ボタンホールの模様選択画面〕（1/2 ページ）



〔ボタンホールの模様選択画面〕（2/2 ページ）



実用ぬい／ボタンホールキーを押すと実用ぬいグループの模様選択画面になり、実用ぬいの初期画面からページキー（右側）を 2 回押すと、ボタンホールグループの模様選択画面になります。
ボタンホールグループは、11 個の模様（模様番号 1 ～ 11）と 4 種類の特殊模様（模様番号 12 ～ 15）があります。
2 つの画面（ページ）に分かれていて、ページキーで選択できます。

ボタンホールおよび特殊模様グループの画面は、模様選択キーや調節キーなどのキーの他に、選ばれている模様に関するいくつかのぬい情報や設定状態が表示されています。

※ ぬい情報や設定状態の表示は、「◎操作方法／●画面（タッチパネル）」（10 ページ）をごらんください。

※ 調節キーを押すと、調節画面になります。
調節画面の基本的な使い方は、「◎実用ぬい／●実用ぬいの調節画面」（28 ページ）をごらんください。
特殊な使い方については、このあとのそれぞれの模様の項の説明をごらんください。

※ ボタンホール、特殊模様は、模様が完成するとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

※ 模様頭出しキーの使い方は、「◎飾りぬい／●模様組み合わせモード／★模様頭出しキーの使い方」（68 ページ）をごらんください。

●ボタンホールの種類と用途

 スクエアボタンホール	普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホールです。
 メモリーボタンホール（スクエアボタンホール）	自分でボタンホールの長さを決めてぬうボタンホールです。 2.5cm 以上の長いボタンホールをぬうことができます。
 片ラウンドボタンホール	薄い布から普通の布に使います。ブラウス、子供服でよく使われます。
 両ラウンドボタンホール	薄い布に使います。薄手のブラウスでよく使われます。
 キーホールボタンホール	普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールです。 大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。
 ラウンドキーホールボタンホール	
 キーホールボタンホール（テーラーメイド）	模様 5 ～ 6 と同じキーホールボタンホールですが、片方の口を補強したボタンホールです。
 ニットボタンホール	伸縮性のある布に適したボタンホールです。 そのぬい目の形から飾りボタンホールとしても使われます。 ※　模様 10 は薄い布用です。
 ニットボタンホール	
 ニットボタンホール	
 たまぶちボタンホール	たまぶちボタンホールを作る最初の工程になります。

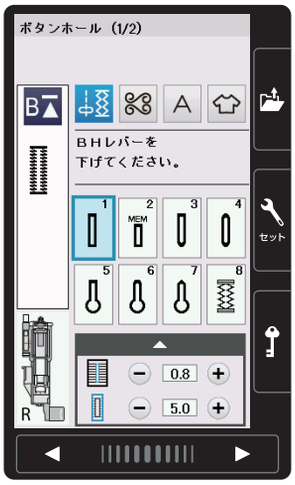
模様  （メモリーボタンホール）を除くボタンホールは、R：ボタンホール押さえにボタンをセットするだけで自動的に最適な長さのボタンホールをぬうことができます。（ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみ込むと自動的に決まります。）

※ ボタンの直径が 1.0 ～ 2.5cm までのボタンホールができます。
※ ボタンホールは、模様が完成するとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。（ミシン停止時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の位置で停止します。）

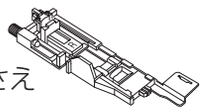
ボタンホールの注意事項

- 伸縮性のある布は、伸びないように裏に芯地を貼ってください。
- 厚物の段部や安定して布送りできない布などをぬうときは、ボタンホール安定板を使用してください。
- 使用する布のはぎれなどで試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。
- ボタンホールをぬう場所に、必ずマーク（しるし）を付けてください。

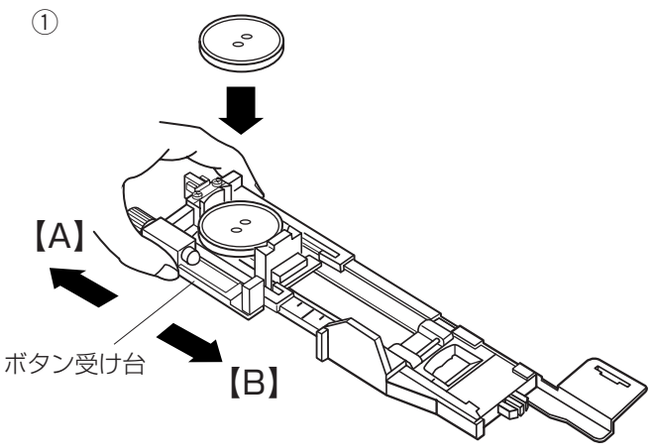
●スクエアボタンホール



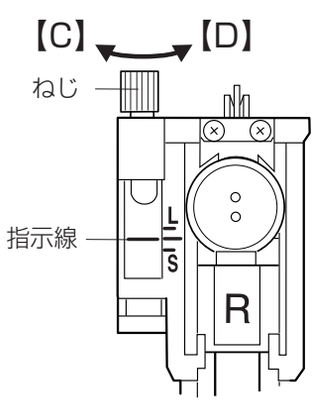
① 模様..... 

② 押さえ.....R：ボタンホール押さえ 

①



① ボタンホール押さえのボタン受け台（ボタンホルダー）を［A］方向へ引き、ボタンをのせて［B］方向にもどしてはさみ込みます。

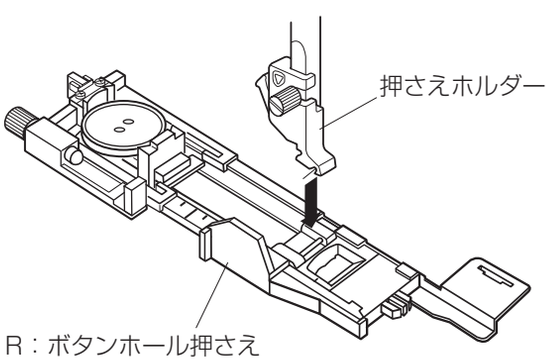


ボタンホール長さの微調節方法

ボタンホールを少し長めにぬいたいときは、ねじを［C］方向にまわして指示線を「L」側にします。
ボタンホールを少し短かめにぬいたいときは、ねじを［D］方向にまわして指示線を「S」側にします。

※ ぬい終わったあとはねじをもとの位置（指示線を目盛りの中央の位置）にもどしてください。

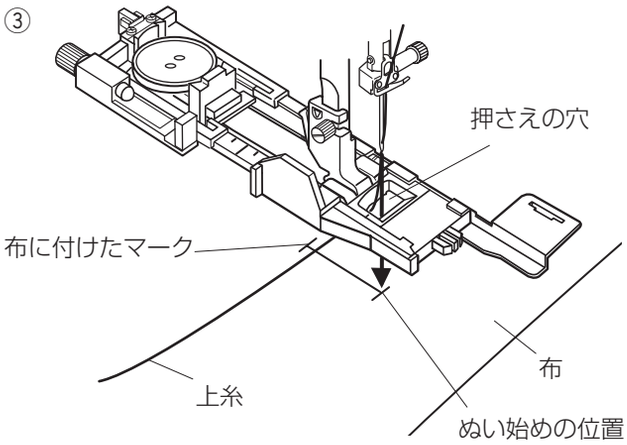
②



② ミシンにボタンホール押さえを取り付けます。

※ 押さえの取り付け方は、「◎操作方法／●押さえの外し方、付け方」（14 ページ）をごらんください。

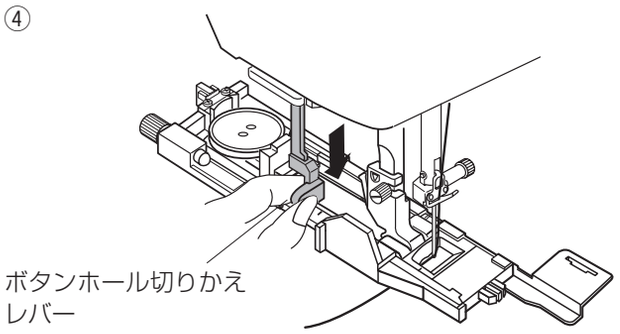
③



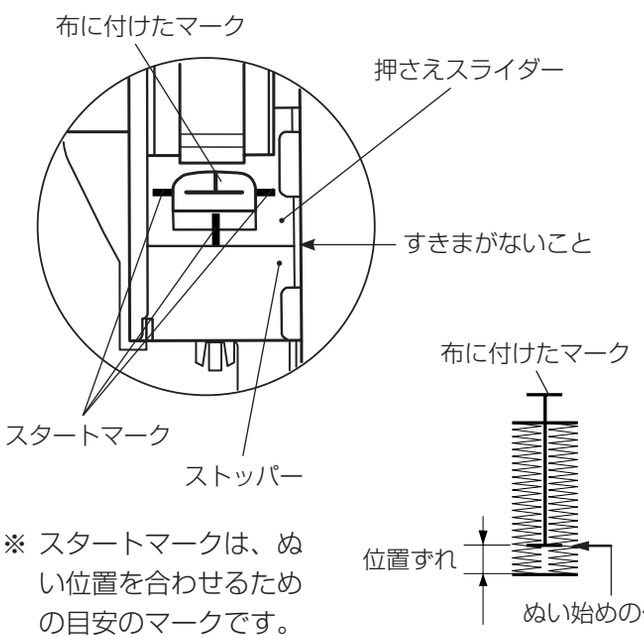
③ 押さえをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出します。
上糸を横に引き出した状態で布を入れ、布に付けたマークのぬい始めの位置に針をさし、押さえをさげます。

※ 押さえをさげるとき、押さえ前部のストッパーを向こう側に軽く押しつけた状態でさげ、ストッパーと押さえスライダーにすきまがあかないように注意してください。（下記〔ぬい始める前の確認〕欄参照）

④



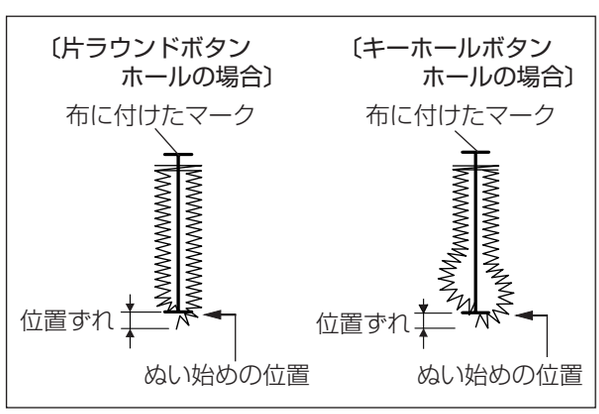
④ ボタンホール切りかえレバー（BH レバー）を止まるまでいっぱいに引きさげます。



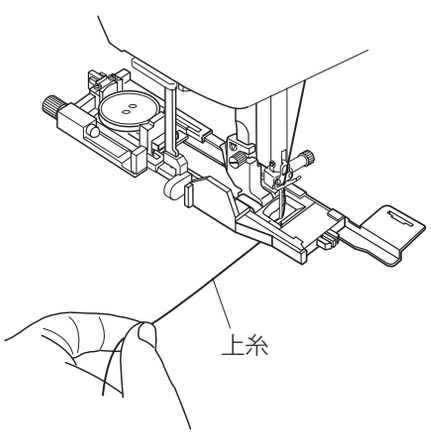
※ スタートマークは、ぬい位置を合わせるための目安のマークです。

ぬい始める前の確認

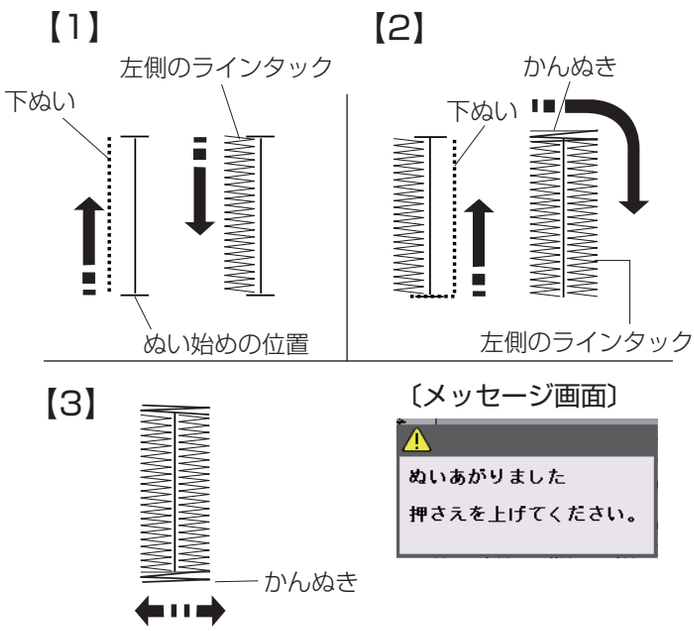
ぬい始める前に押さえスライダーとストッパーのあいだにすきまがないことを確認してください。
すきまがあると、ぬい終わったときにぬい位置がずれる場合があります。



⑤



⑤ 上糸を横に軽く引いて持ち、ミシンをスタートさせます。（ぬい始めから数針ぬったあとは、糸から手をはなしてください。）
ボタンホールをぬい終わったところでほつれ止めの止めぬいを行って、自動的にミシンが停止します。



〔メッセージ画面〕

【ぬい順序】

[1] 下ぬいをし、左側のラインタックをぬいます。

[2] 下ぬいをし、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。

[3] かんぬきと止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。
ぬい終わるとメッセージ画面が表示されます。

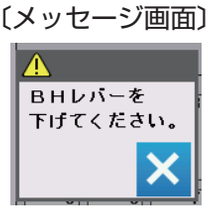
※ ボタンホールの重ねぬいをする場合には、そのままスタート／ストップボタンを押してぬいます。
重ねぬいをしない場合には、押さえ上下移動ボタンを押して、押さえをあげます。

ボタンホールの重ねぬい

ボタンホールをぬい終わったところで押さえ上げをあげずにもう一度ミシンをスタートさせると、ボリューム感のあるボタンホールの「重ねぬい」ができます。

「重ねぬい」は、必ず押さえ上げをあげずにそのままの状態でミシンを再スタートさせてください。
※ ボタンホールの重ねぬいで送りがつまるときには、ぬい目のあらさを大きくしてぬってください。

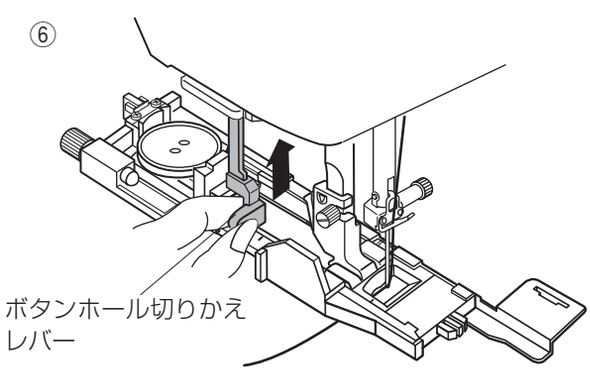
〔メッセージ画面〕



ボタンホール切りかえレバーをさげないでぬった場合

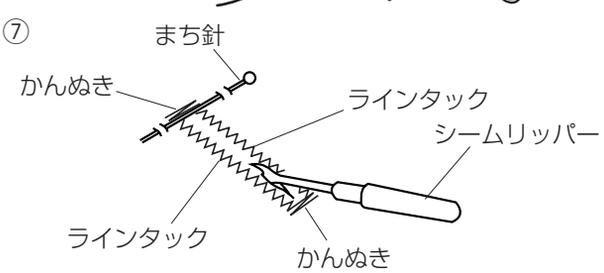
ボタンホール切りかえレバー（BH レバー）をさげないでミシンをスタートさせると、少しだけぬってミシンは停止します。このときメッセージ画面が表示されます。
ボタンホール切りかえレバーを引きさげて、ミシンを再スタートさせてください。

⑥



⑥ ぬい終わったら、ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに押しあげてもどします。

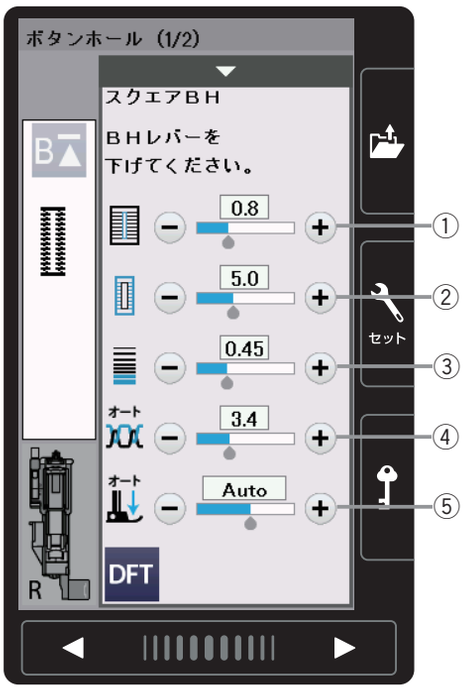
⑦



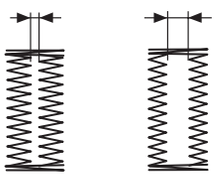
⑦ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーで左右のラインタックの糸を切らないようにボタン穴を切り開きます。

★ボタンホールの調節画面

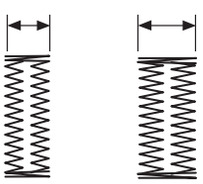
〔調節画面〕



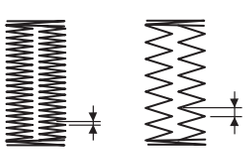
①《ボタン穴の幅の調節》



②《ぬい目の幅の調節》



③《ぬい目のあらさの調節》



模様選択画面の調節キーを押すと、調節画面が全体表示されます。

① ボタン穴の幅調節キー

ボタン穴の幅（ボタンホールの中幅）をかえることができます。

② ぬい目の幅調節キー

ボタンホール全体の幅をかえることができます。

③ ぬい目のあらさ調節キー

ぬい目のあらさをかえることができます。

④ 糸調子調節キー

上糸と下糸の糸調子のバランスをかえることができます。

⑤ 押さえ圧調節キー

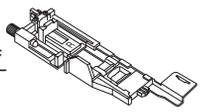
押さえ圧をかえることができます。

※ 調節画面の基本的な使い方は、「◎実用ぬい／●実用ぬいの調節画面」（28 ページ）をごらんください。

●メモリーボタンホール（スクエアボタンホール）

① 模様.....

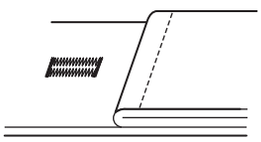
② 押さえ.....R：ボタンホール押さえ



F：サテン押さえ



〔段部近くの場合〕



メモリーボタンホールは、ボタンホールの長さを自分で決めてぬうボタンホールです。

※ ボタンホール切りかえレバーは、さげないでぬいます。

※ 2.5cm 以上の長いボタンホールをぬう場合や、厚い布の段部の近くをぬうときなど R：ボタンホール押さえを使用できない場合は、F：サテン押さえを使用してください。

※ 幅とあらさのかえ方は、「●スクエアボタンホール／★ボタンホールの調節画面」（49 ページ）をごらんください。

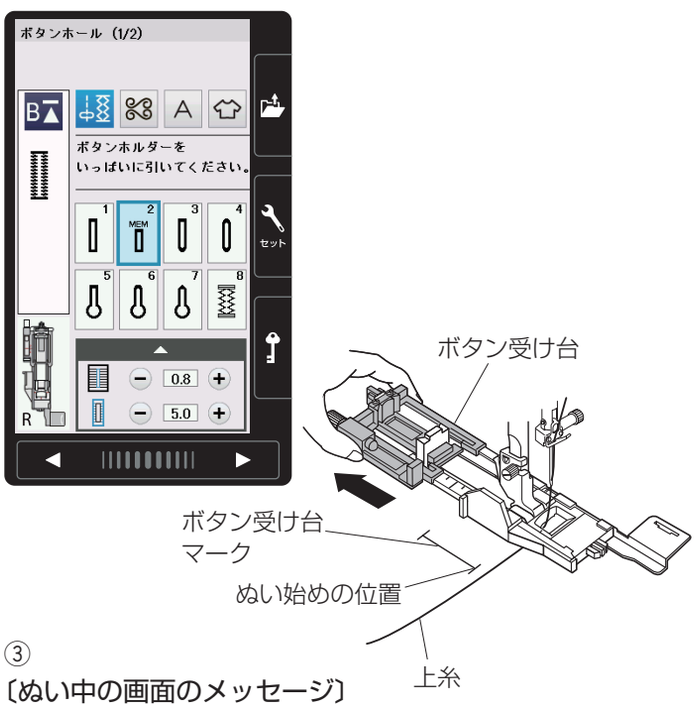
【ぬい方（R：ボタンホール押さえの例）】

① ボタン受け台（ボタンホルダー）を向こう側にいっぱいに引き出します。

② ミシンにボタンホール押さえを取り付けます。
上糸を横に引き出した状態で布を入れ、布に付けたマークのぬい始めの位置に針をさし、押さえをさげます。

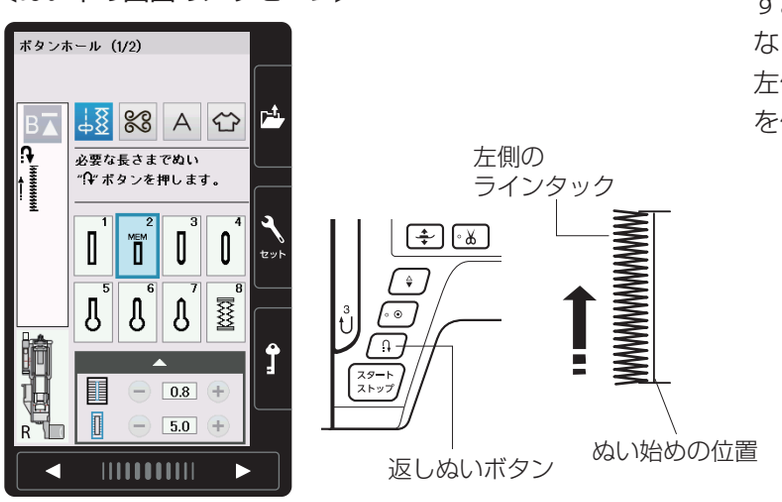
※ ぬい始める前の上糸と布のセット方法はスクエアボタンホールと同じです。「●スクエアボタンホール」の手順②③⑤（46 ～ 47 ページ）をごらんください。（ボタンホール切りかえレバーはさげないでください。）

① ②
〔ぬい始める前の画面のメッセージ〕



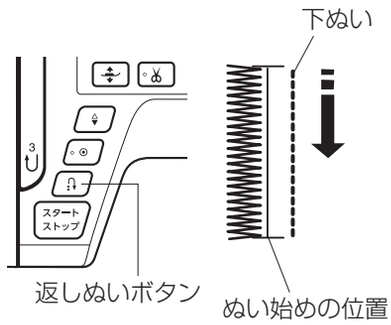
③ 上糸を横に軽く引いて持ち、ミシンをスタートさせます。（ぬい始めから数針ぬったあとは、糸から手をはなしてください。）
左側のラインタックを必要な長さまでぬったらミシンを停止し、返しぬいボタンを押します。

③
〔ぬい中の画面のメッセージ〕



④〔ぬい中の画面のメッセージ〕

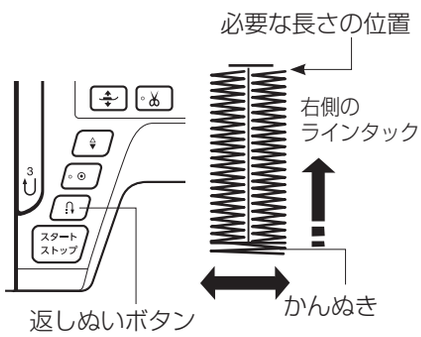




④ ミシンをスタートさせると、下ぬいを行います。
ぬい始めの位置にもどったらミシンを停止し、返しぬいボタンを押します。

⑤〔ぬい中の画面のメッセージ〕

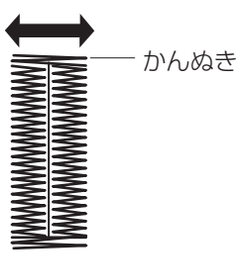




⑤ ミシンをスタートさせると、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。
必要な長さの位置にもどったらミシンを停止し、返しぬいボタンを押します。

⑥〔ぬい中の画面のメッセージ〕





⑥ ミシンをスタートさせると、かんぬきと止めぬいを行い、ミシンが自動的に停止します。

⑦〔ぬい完了後のメッセージ画面〕

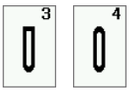


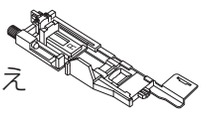
閉じるキー

⑦ ぬい終わるとメッセージ画面が表示されます。
ミシンは、手順③～⑥でぬったボタンホールの長さを記憶しています。

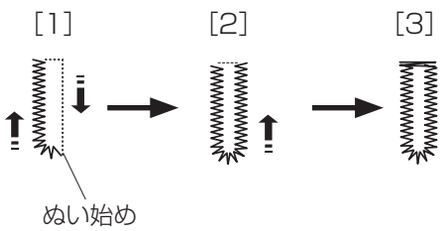
- 別の場所に同じ長さのボタンホールをぬう場合は、この画面の状態のまま布の位置をかえてミシンをスタートさせます。
返しぬいボタンを押さなくても同じ長さのボタンホールを自動的にぬってミシンは停止します。
- 同じ長さのボタンホールをぬう必要がない場合は、閉じるキーを押してメッセージ画面を消すと、記憶しているボタンホールサイズは取り消されます。

●ラウンドボタンホール

① 模様..... 

② 押さえ.....R：ボタンホール押さえ 

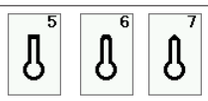
【ぬい順序】（模様  の例）

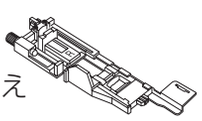


※ ぬい方は、「●スクエアボタンホール」と同じです。46 ～ 48 ページをごらんください。

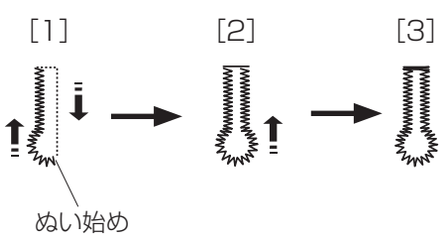
※ 幅とあらさのかえ方は、「●スクエアボタンホール／★ボタンホールの調節画面」（49 ページ）をごらんください。

●キーホールボタンホール

① 模様..... 

② 押さえ.....R：ボタンホール押さえ 

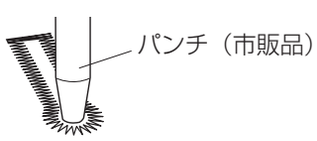
【ぬい順序】（模様  の例）



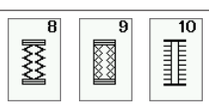
※ ぬい方は、「●スクエアボタンホール」と同じです。46 ～ 48 ページをごらんください。

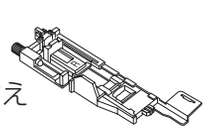
※ 幅とあらさのかえ方は、「●スクエアボタンホール／★ボタンホールの調節画面」（49 ページ）をごらんください。

※ キーホールボタンホールの穴は、パンチ（市販品）で丸穴を開けてからシームリッパーで切り開いてください。

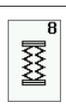


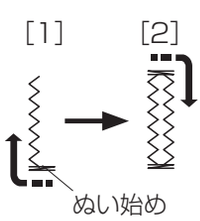
●ニットボタンホール

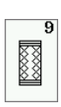
① 模様..... 

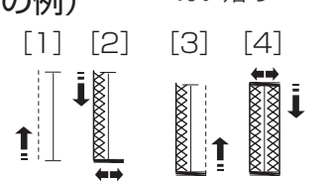
② 押さえ.....R：ボタンホール押さえ 

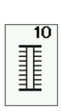
※模様  は薄い布用です。

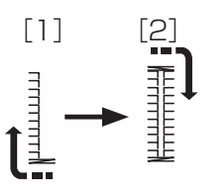
【ぬい順序】（模様  の例）



【ぬい順序】（模様  の例）



【ぬい順序】（模様  の例）



※ ぬい方は、「●スクエアボタンホール」と同じです。46 ～ 48 ページをごらんください。

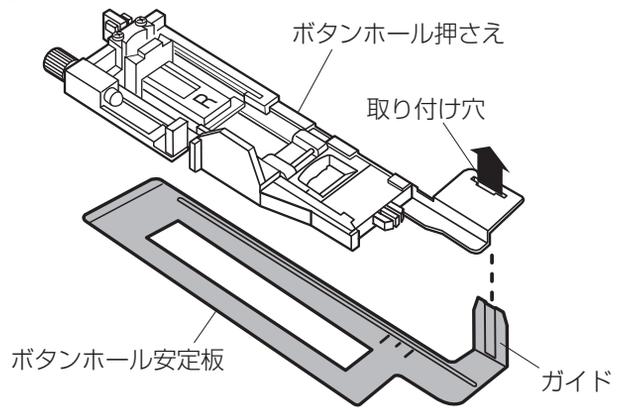
※ 幅とあらさのかえ方は、「●スクエアボタンホール／★ボタンホールの調節画面」（49 ページ）をごらんください。

※ 左右のぬい目のあらさがそろわないときは、「◎操作方法／●送り調節ねじ（模様の形の調節）」（13 ページ）をごらんください。

●ボタンホール安定板の使い方

厚物の段部や安定して布送りできない布などをぬうときにボタンホール安定板を使用すると、布送りをスムーズにしてぬうことができます。

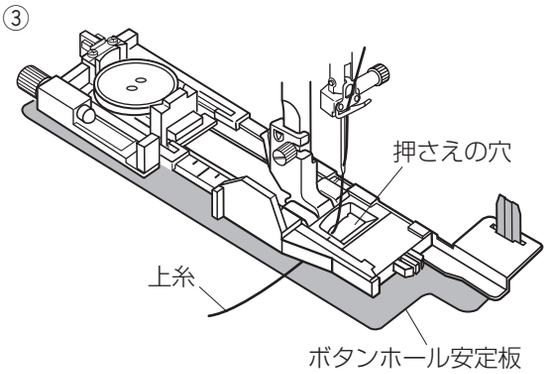
①



【使い方】

① ボタンホール押さえの取り付け穴に、ボタンホール安定板のガイド部分を差し込みます。

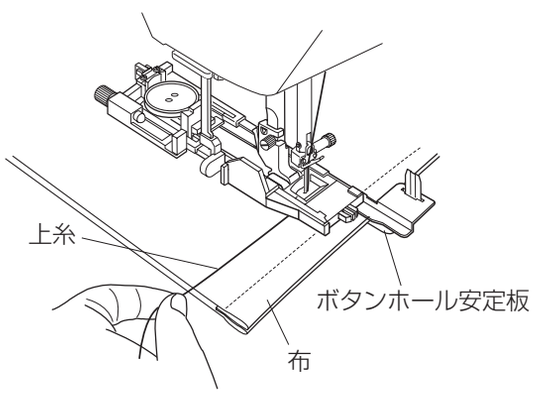
②③



② ボタンホール安定板を組み付けたボタンホール押さえをミシンに取り付けます。

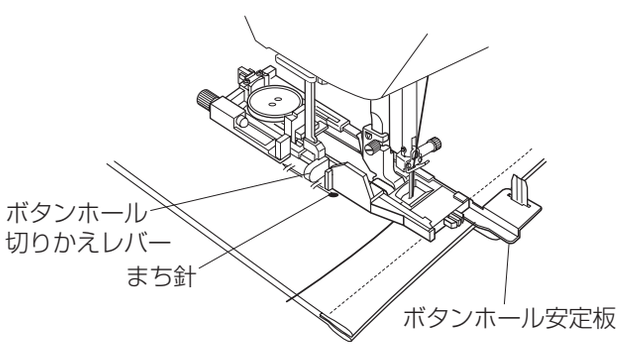
③ 押さえをあげ、上糸を押さえの穴から下に通し、ボタンホール押さえとボタンホール安定板のあいだから横に引き出します。

④



④ 上糸を横に引き出した状態でボタンホール押さえとボタンホール安定板のあいだに布を入れます。

※ ぬい方は、「★スクエアボタンホール」と同じです。46 ～ 48 ページをごらんください。



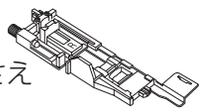
布がボタンホール切りかえレバーに触れて、うまくぬえない場合

弾力性のある厚い布（フリースなど）をぬう場合、布を送るときに浮きあがった布がボタンホール切りかえレバーに触れて誤操作を起こし、正しい形にぬえないことがあります。
このような場合は、布を送るときに布が浮きあがらないようにまち針で固定し、ボタンホール安定板を使用してぬってください。

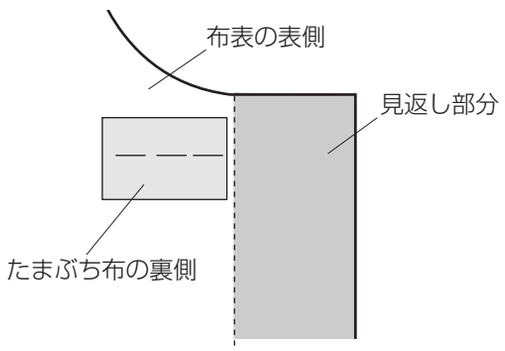
●たまぶちボタンホール

① 模様.....

② 押さえ.....R：ボタンホール押さえ

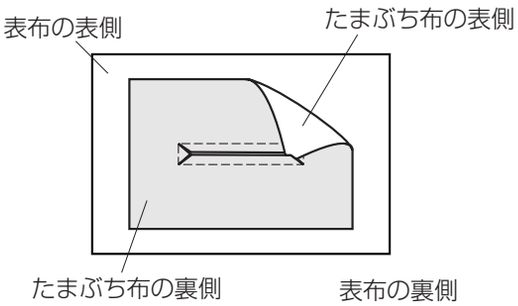


①



① バイヤス地のたまぶち布と表布をしつけぬいで止めます。

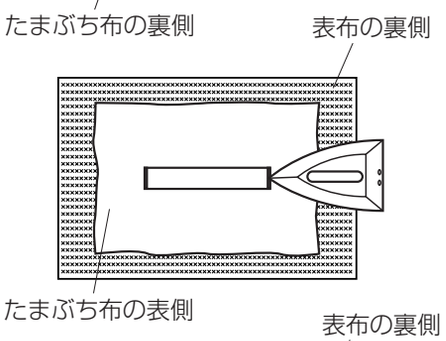
②



② ボタンホール押さえのボタン受け台にボタンをはさみ、ボタンホール切りかえレバーをさげてぬいます。
ぬい終わったらＹ字型に切り込みを入れ、たまぶち布を裏側に出します。

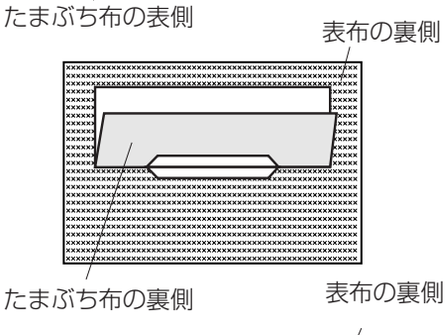
※ ぬい方は、「★スクエアボタンホール」（46 ～ 48 ページ）をごらんください。

③



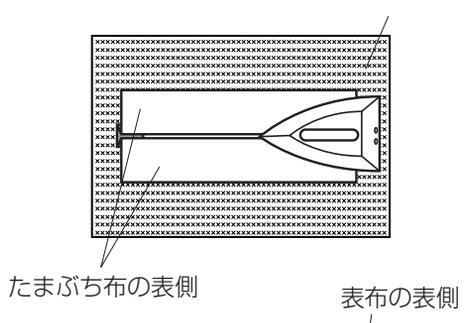
③ 表布の裏側にたまぶち布の表側全体が見えるまでたまぶち布を引き出し、アイロンの先で角を整えます。

④



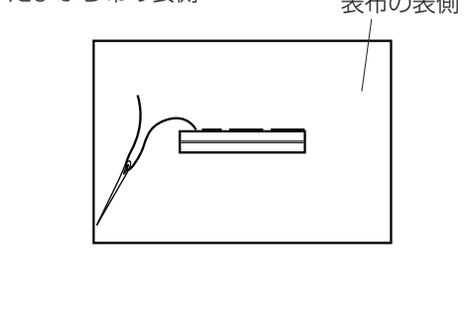
④ ぬいしろを正しく割ります。

⑤



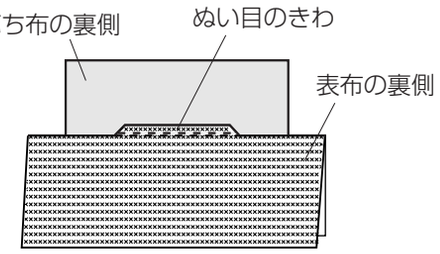
⑤ アイロンで幅を整えます。

⑥



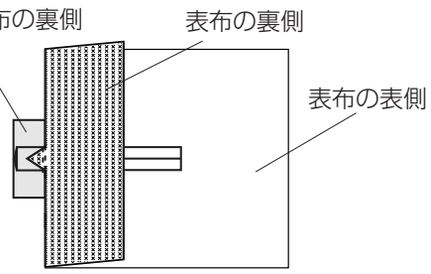
⑥ ぬい目にしつけをします。

⑦



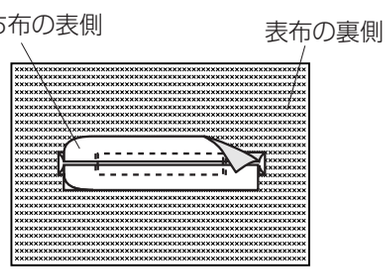
⑦ ぬい合わせたぬい目のきわをぬいます。

⑧



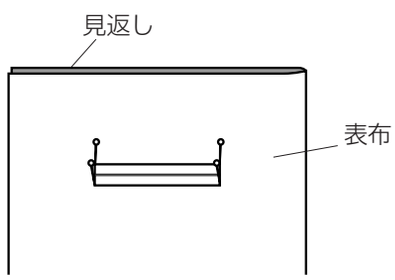
⑧ 三角の布に三重にぬいます。

⑨



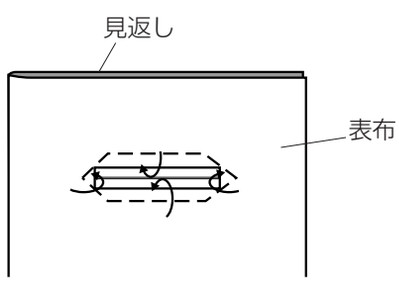
⑨ たまぶち布を穴から 1.0 ～ 1.5cm にたちおとします。
角は丸くたちおとします。

⑩



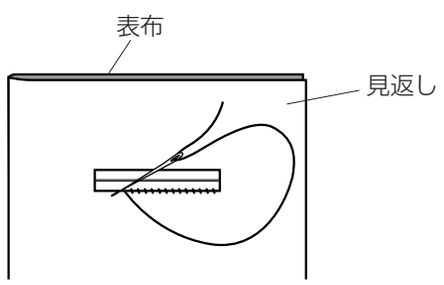
⑩ 見返しに、たまぶち穴の形のしるしを付けます。

⑪



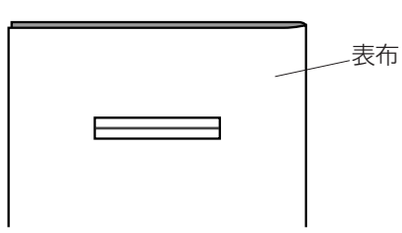
⑪ 見返しの表から手順②のようにＹ字型に切り込みを入れて、できあがりの幅に折り、切り込まれた布を見返しとたまぶち布のあいだに折り込みます。

⑫



⑫ 細かくまつります。

⑬



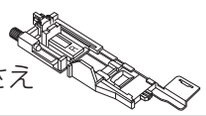
⑬ 完成です。

●芯入りボタンホール

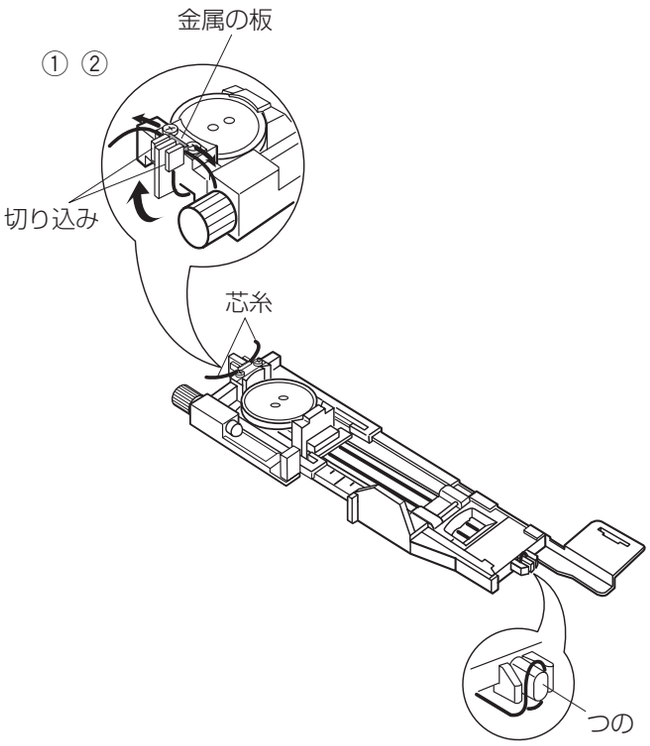
① 模様.....



② 押さえ.....R：ボタンホール押さえ



① ②



※ ぬい方は、「●スクエアボタンホール」と同じです。46 ～ 48 ページをごらんください。

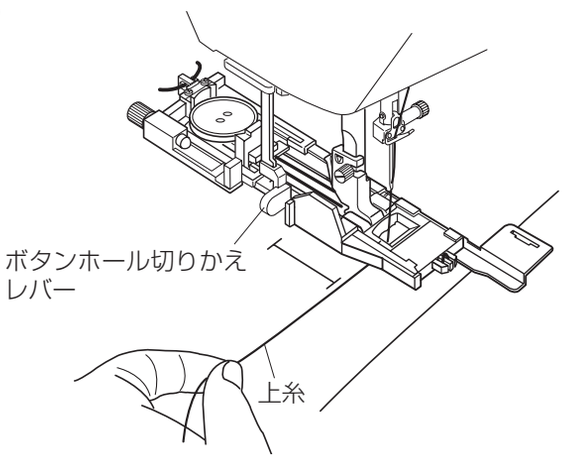
※ 使用する芯糸の太さに合わせてぬい目の幅（ボタンホールの全体の幅）およびボタン穴の幅（ボタンホールの中幅）を調節してください。

① ボタンホール押さえのボタン受け台にボタンをはさみ込んでから、芯糸の一方の端をボタンホール押さえ後部の左側の切り込みに入れ、横に引いて金属の板のあいだにはさみ込んで固定します。
芯糸は、押さえの下から前に引き、輪にして押さえ前部のつのにかけます。

② つのにかけた芯糸を、押さえの下を通して押さえ後部の右側の切り込みに入れ、横に引いて金属の板のあいだにはさみ込んで固定します。

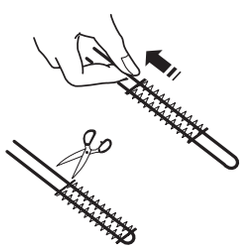
※ 芯糸は、たるみのないように強く張ってください。

③



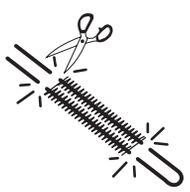
③ スクエアボタンホールの手順（46 ～ 48 ページ）と同じようにぬいます。

④



④ ぬい終わったら芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。
左右どちらの芯糸も引けない場合は、芯糸の両側を切ります。

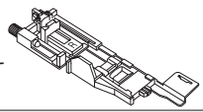
芯糸が引けない場合



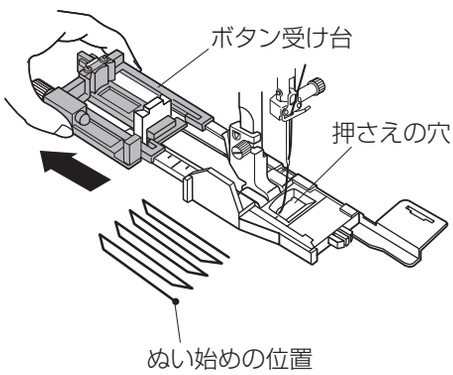
●つくろいぬい（ダーニング）

① 模様.....

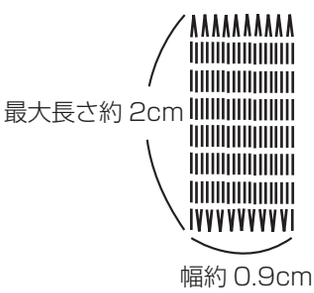
② 押さえ.....R：ボタンホール押さえ



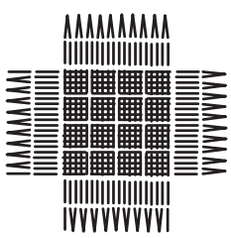
① ② ③



④



⑤



※ 模様 は、模様が完成するとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。（ミシン停止時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の位置で停止します。）

① ボタン受け台をいっぱいに引き出します。

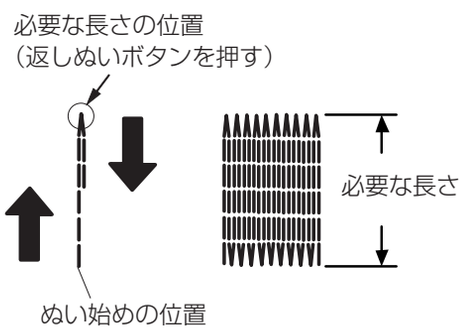
② 上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出します。

③ ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上下移動ボタンを押して、押さえをさげます。

④ ミシンをスタートさせ、自動的に停止するまでぬいます。

※ 自動的に停止するまでぬうと、最大約 2cm の長さをぬうことができます。（幅は約 0.9cm）
2cm より短い長さでぬう場合は、下記【2cm より短い長さでぬう場合】をごらんください。

⑤ 布の向きをかえてぬいます。



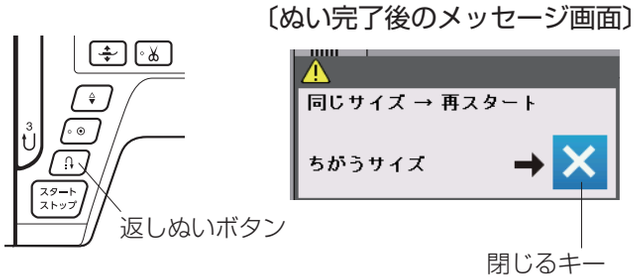
【2cm より短い長さでぬう場合】

最初に必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押します。押した位置から折り返しますので、自動的にミシンが停止するまでぬいます。

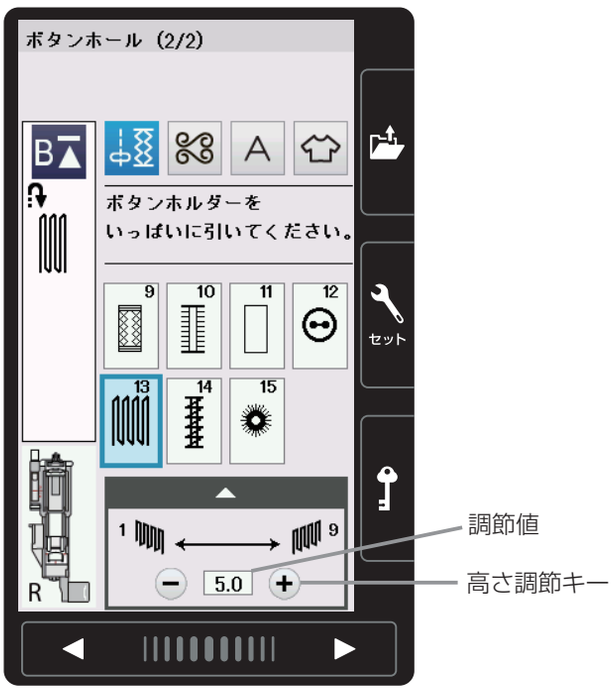
ぬい終わると、メッセージ画面が表示されます。ミシンはぬった長さを記憶しています。

- 別の場所に同じ長さのものをぬう場合は、この画面の状態のまま布の位置をかえてミシンをスタートさせます。
  返しぬいボタンを押さなくても同じ長さのものを自動的にぬってミシンは停止します。
- 同じ長さのものをぬう必要がない場合は、閉じるキーを押してメッセージ画面を消すと、記憶している長さは取り消されます。

〔ぬい完了後のメッセージ画面〕



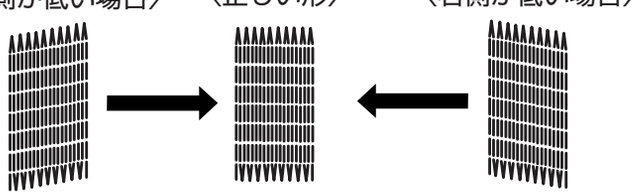
〔模様選択画面〕



「−」
↓
（「1.0」～「4.0」）
〈左側が低い場合〉

〈正しい形〉

「+」
↓
（「6.0」～「9.0」）
〈右側が低い場合〉



【形の整え方】

つくろいぬい（ダーニング）のぬい始め（左側）とぬい終わり（右側）の高さがそろわないときは、高さ調節キーで調節します。

「1.0」～「9.0」の範囲で調節できます。
（「5.0」はオート値）

- 左側が低い場合は、「−」を押します。
  …「1.0」～「4.0」

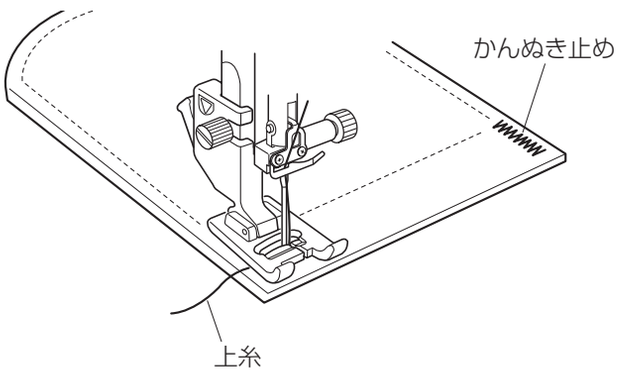
- 右側が低い場合は、「+」を押します。
  …「6.0」～「9.0」

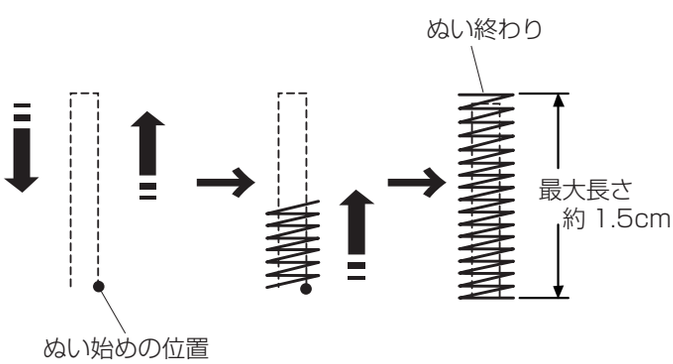
●かんぬき

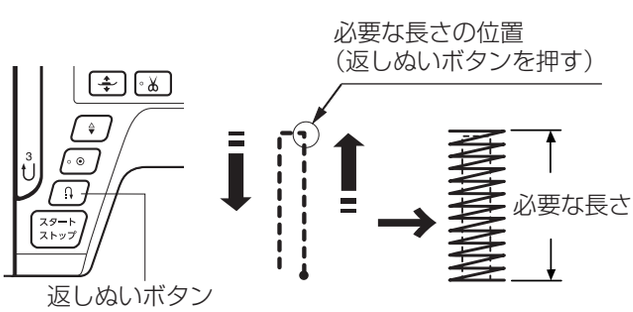
① 模様.....

② 押さえ.....F：サテン押さえ

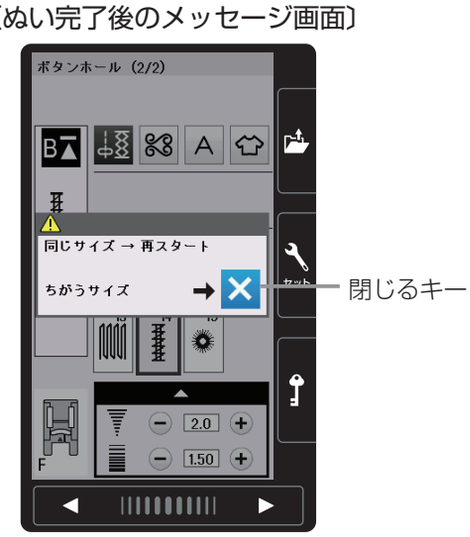








〔ぬい完了後のメッセージ画面〕



ポケットぐちなど、ぬい目に力がかかってほつれやすい部分などを補強します。

※ 模様 は、模様が完成するとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。（ミシン停止時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の位置で停止します。）

① ぬい始めの上糸を押さえの下から横に引き出しておきます。

② ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上下移動ボタンを押して、押さえをさげます。

③ ミシンをスタートさせ、自動的に停止するまでぬいます。

※ 自動的に停止するまでぬうと、最大約 1.5cm の長さのかんぬきをぬうことができます。
1.5cm より短い長さでぬう場合は、下記【1.5cm より短い長さでぬう場合】をごらんください。

※ ぬい目の幅やあらさは、調節画面のぬい目の幅調節キーとぬい目のあらさ調節キーでかえることができます。（ぬい目のあらさをかえると、自動でぬえる最大長さ「1.5cm」もかわります。）

【1.5cm より短い長さでぬう場合】

最初に必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押します。押した位置から折り返しますので、自動的にミシンが停止するまでぬいます。

ぬい終わると、メッセージ画面が表示されます。ミシンはぬった長さを記憶しています。

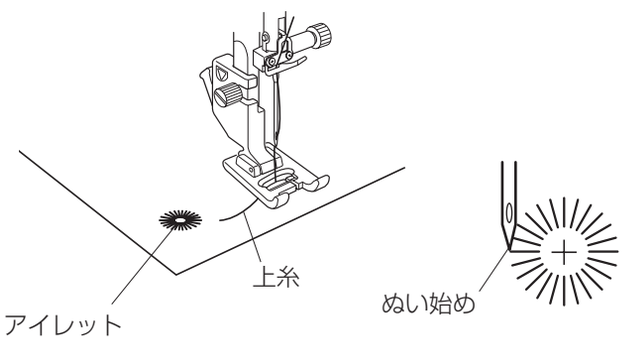
- 別の場所に同じ長さのものをぬう場合は、この画面の状態のまま布の位置をかえてミシンをスタートさせます。
  返しぬいボタンを押さなくても同じ長さのものを自動的にぬってミシンは停止します。
- 同じ長さのものをぬう必要がない場合は、閉じるキーを押してメッセージ画面を消すと、記憶している長さは取り消されます。

※ かんぬきの長さが 0.7cm、1cm、1.2cm の固定値の場合は、用途選択の模様から選ぶと、返しぬいボタンを押さなくても自動的にぬうことができます。
「◎用途選択／●かんぬき」（100 ページ）をごらんください。

●アイレット

① 模様..... 

② 押さえ.....F：サテン押さえ 



※ アイレット模様は、模様が完成するとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。（ミシン停止時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の位置で停止します。）

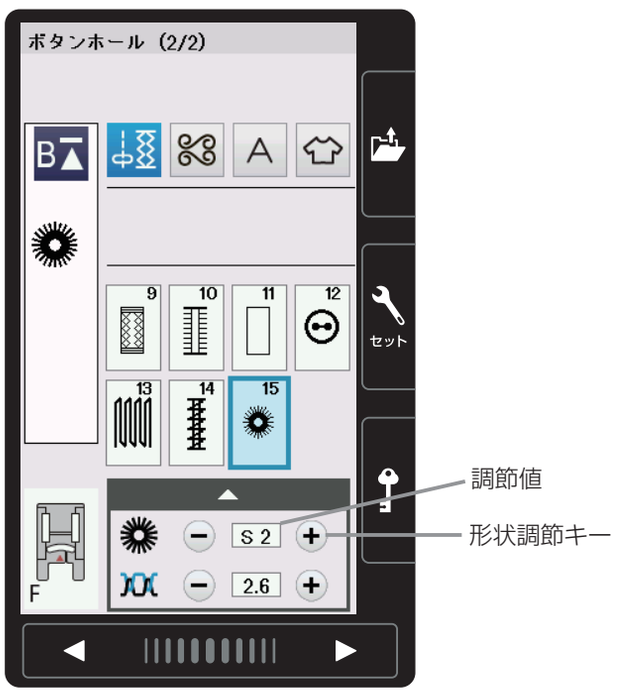
① ぬい始めの上糸を押さえの下から横に引き出しておきます。

② ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上下移動ボタンを押して、押さえをさげます。

③ ミシンをスタートさせ、自動的に停止するまでぬいます。

※ ぬい目の内側は、パンチ（市販品）などで穴を開けます。パンチの穴の大きさは、直径 0.25cm 以下のものをご使用ください。

〔模様選択画面〕



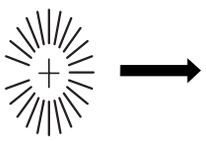
【形の整え方】

布によってアイレットの形がくずれる場合は、形状調節キーで調節します。

「S1」と「S3」で調節できます。（「S2」はオート値）

- ぬい目にすきまがある場合は、「−」を押して「S1」にします。
- ぬい目が重なる場合は、「+」を押して「S3」にします。

「S1」
〈すきまがある場合〉



〈正しい形〉



「S3」
〈重なる場合〉



●その他のボタンホールグループ模様

模様 

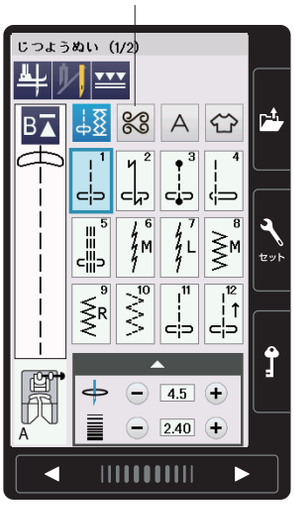
（ボタン付け）のぬい方は「◎用途選択／●ボタン付け」（97 ～ 99 ページ）をごらんください。

◎飾りぬい

●飾りぬいの画面

〔模様選択画面〕

飾りぬいキー



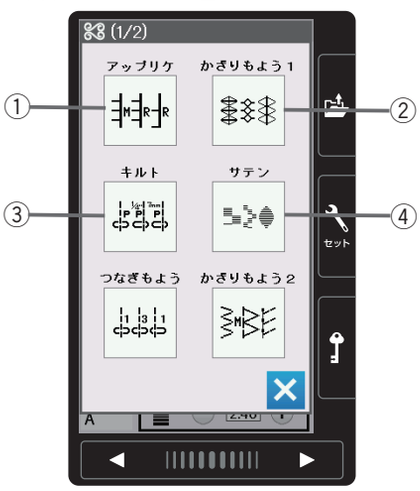
飾りぬいキーを押すと、飾りぬいの模様グループを選ぶ選択画面になります。
飾りぬいの模様グループは、9 個のグループがあり、2 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。

①アップリケグループ

アップリケキーを押すと、アップリケなどに使用する模様グループの模様選択画面になります。
アップリケグループは、14 個の模様とスペース模様および自動止めぬい模様があります。

アップリケのぬい方は、「◎用途選択／●アップリケ」（100 ～ 101 ページ）をごらんください。

〔模様グループ選択画面〕（1/2 ページ）



②かざりもよう 1 グループ

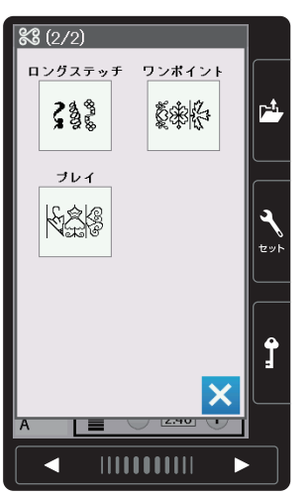
かざりもよう 1 キーを押すと、伝統的な飾り模様グループの模様選択画面になります。
かざりもよう 1 グループは、28 個の模様とスペース模様および自動止めぬい模様があり、3 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。

③キルトグループ

キルトキーを押すと、キルトなどに使用する模様グループの模様選択画面になります。
キルトグループは、51 個の模様とスペース模様および自動止めぬい模様があり、6 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。

キルトのぬい方は、「◎用途選択／●パッチワーク、●キルティング」（102 ～ 112 ページ）をごらんください。

〔模様グループ選択画面〕（1/2 ページ）

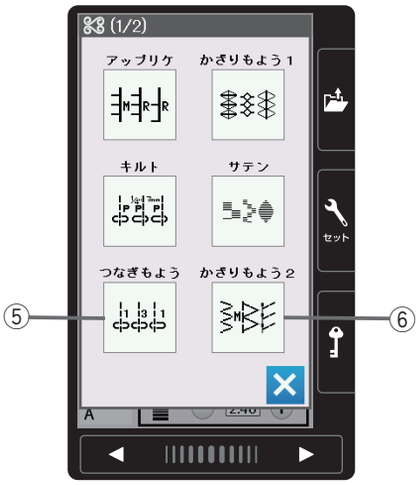


④サテングループ

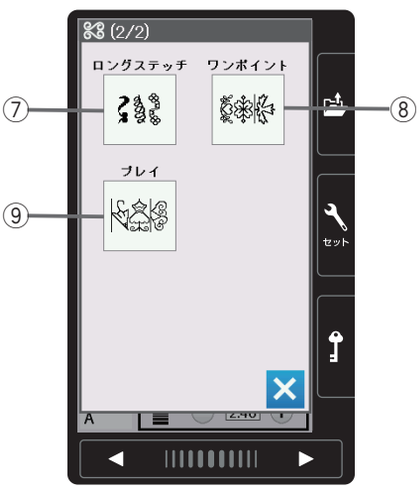
サテンキーを押すと、サテン（ぬい目を密着させた模様）グループの模様選択画面になります。
サテングループは、14 個の模様とスペース模様および自動止めぬい模様があります。
サテングループの模様は他の飾りぬいの模様グループと異なり、ぬい目のあらさをかえずに模様の長さを 2 ～ 5 倍にかえることができる模様長さ調節機能があります。

模様長さ調節機能の使い方は、74 ページをごらんください。

〔模様グループ選択画面〕（1/2 ページ）



〔模様グループ選択画面〕（1/2 ページ）



⑤ つなぎもようグループ

つなぎもようキーを押すと、模様と模様の間かくをあけるためのつなぎもようグループの模様選択画面になります。
つなぎもようグループは、7 個の模様とスペース模様および自動止めぬい模様があります。

つなぎ模様の使い方は、75 ページをごらんください。

⑥ かざりもよう 2 グループ

かざりもよう 2 キーを押すと、装飾的なかざりもよう 2 グループの模様選択画面になります。
かざりもよう 2 グループは、60 個の模様とスペース模様および自動止めぬい模様があり、6 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。

⑦ ロングステッチグループ

ロングステッチキーを押すと、ロングステッチグループ（1 つの模様の長さが長い装飾模様）の模様選択画面になります。
ロングステッチグループは、9 個の模様とスペース模様および自動止めぬい模様があります。

⑧ ワンポイントグループ

ワンポイントキーを押すと、具象的な飾り模様（形がはっきりした模様）グループの模様選択画面になります。
ワンポイントグループは、14 個の模様とスペース模様および自動止めぬい模様があり、2 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。

⑨ プレイグループ

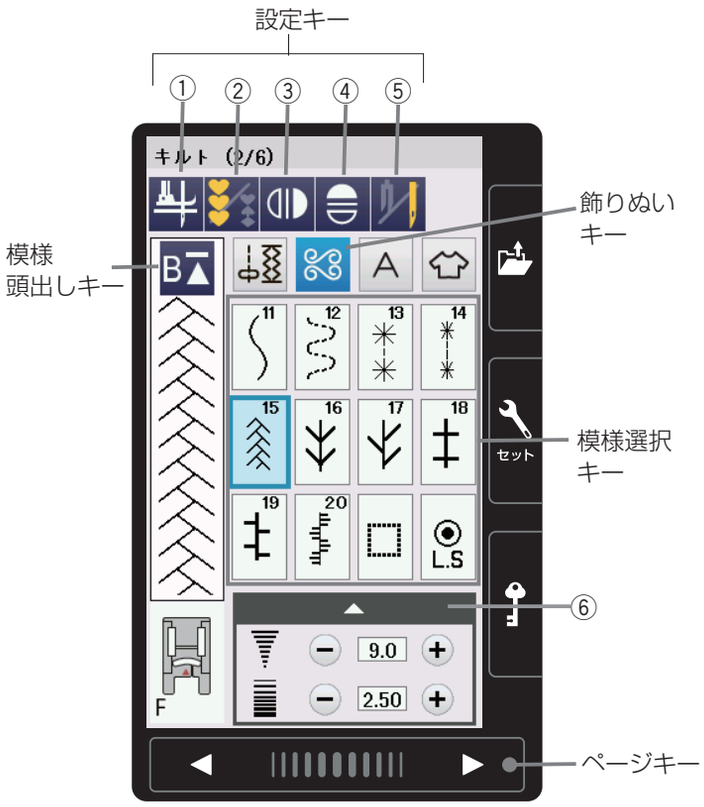
プレイキーを押すと、遊び心が入った飾り模様グループの模様選択画面になります。
プレイグループは、7 個の模様とスペース模様および自動止めぬい模様があります。

※ 付属のステッチコンポーザーで作成した模様が読み込まれると、「模様グループ選択画面」にユーザー作成模様のキーが表示されます。
ステッチコンポーザーの使い方は、ステッチコンポーザーの画面にあるヘルプをごらんください。

★模様選択画面

〔模様選択画面〕

キルトグループ 2/6 ページの例



模様グループ選択キーを押すと、その模様グループの模様選択画面になります。
模様選択画面が 2 つ以上のページ（画面）に分かれている場合は、ページキーで選択できます。

模様選択画面は実用ぬい模様の画面と同様、模様選択キー・設定キー・模様頭出しキーなどのキーと、選ばれている模様のぬい情報や設定状態が表示されています。

※ ぬい情報や設定状態の表示は、「◎操作方法／●画面（タッチパネル）」（10 ページ）をごらんください。

【設定キー】

その模様に設定されているぬい条件をお好みのぬい条件に変更します。
※ 選ばれている模様や設定状態によっては、キーの色がグレーになっていて使用できないキーがあります。

① ピボットぬい設定キー

ピボットぬいを行うときに設定します。
（27 ページ参照）

② 模様組み合わせキー

模様を組み合わせてぬうときに、キーを押して模様組み合わせモードに設定します。（64 ページ参照）

③ 左右反転キー

選んだ模様を左右反転した形でぬうことができます。
（66 ～ 67 ページ参照）

④ 上下反転キー

選んだ模様を上下反転した形でぬうことができます。
（66 ～ 67 ページ参照）

⑤ 2 本針ぬい切りかえキー

付属の 2 本針を使用して 2 本針ぬいを行うときに、キーを押して 2 本針ぬいに設定します。
使い方は、「◎ 2 本針ぬい」（113 ～ 114 ページ）をごらんください。

⑥ 調節キー

調節キーを押すと調節画面が全体表示になります。
調節画面の基本的な使い方は、「◎実用ぬい／●実用ぬいの調節画面」（28 ページ）をごらんください。

【模様頭出しキー】

模様をぬっている途中でミシンを止めた場合、次にぬうときにその模様の最初からぬうことができます。
模様組み合わせモード設定中は、ぬいかけた模様の最初または組み合わせ模様の最初のどちらからでもぬうことができます。（68 ページ参照）

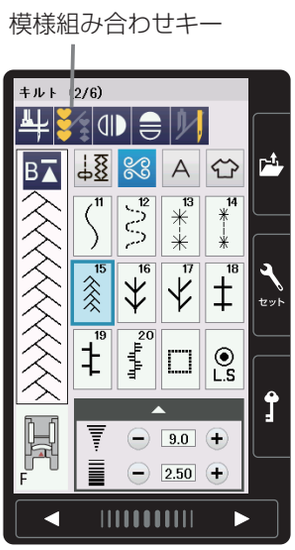
●模様組み合わせモード

〔模様選択画面／通常モード〕

キルトグループ 2/6 ページの例

模様組み合わせキーの状態：

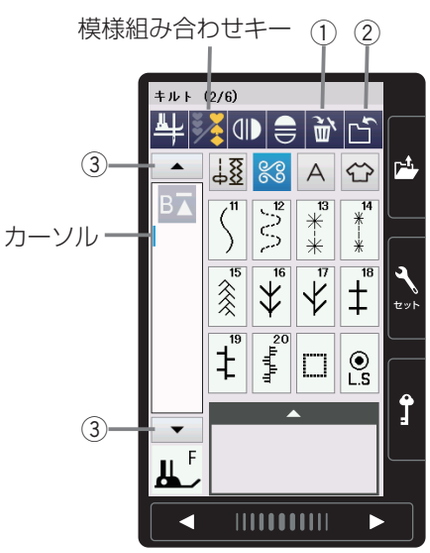




〔模様選択画面／模様組み合わせモード〕

模様組み合わせキーの状態：





設定キーの模様組み合わせキーを押すと、通常モードの模様選択画面から模様組み合わせモードの模様選択画面にかわります。

模様組み合わせモードに設定すると

■ 通常モードでは選んだ模様を 1 つだけ繰り返し連続してぬいますが、模様組み合わせモードではお好みの模様を組み合わせてぬうことができます。

- 模様は、最大 100 個まで組み合わせることができます。（組み合わせる模様で異なります。）
- 組み合わせができる模様は、飾りぬいの模様グループと文字ぬいの模様グループです。

※ 文字ぬいの模様グループは、「◎文字ぬい」（76 ページ）をごらんください。

■ 編集機能を使うと、組み合わせた模様の内容を変更することができます。（70 ページ参照）

■ 組み合わせた模様をミシンに保存したり、USB メモリに保存することができます。

【模様組み合わせモードの画面】

通常モードから模様組み合わせモードに切りかえると、2 本針ぬい切りかえキーがなくなり、削除キー、保存キーおよび組み合わせた模様を確認したり選択するためのカーソル移動キーが画面上に追加されます。

※ 模様組み合わせモードは、2 本針ぬいができません。

① 削除キー

カーソルの付いている模様を削除することができます。模様を組み合わせた状態でカーソルが最後の模様の下側にある場合は、最後の模様を削除することができます。（70 ページ参照）

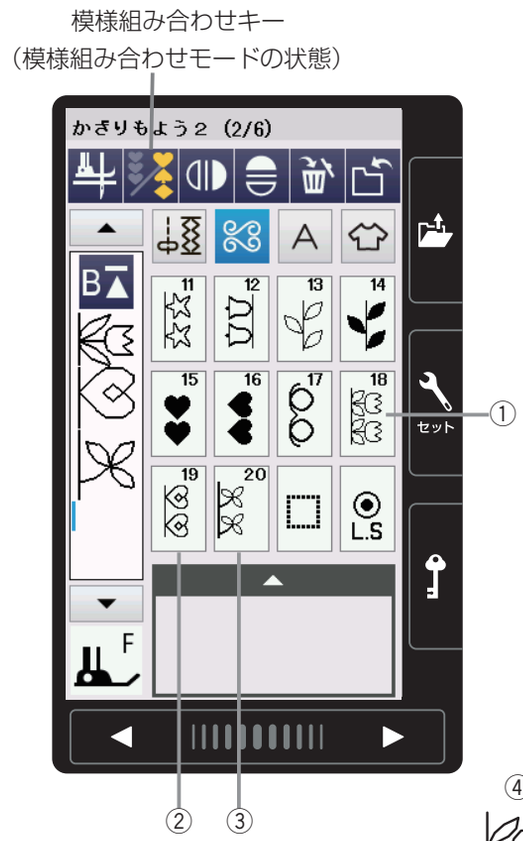
② 保存キー

組み合わせた模様をミシンに保存したり、USB メモリに保存するときに使います。
使い方は、「◎模様データの保存・呼び出し／●模様データの保存」（115 ページ）をごらんください。

③ カーソル移動キー

カーソルを移動させて、組み合わせた模様の中から変更したい模様（場所）を選ぶことができます。
（70 ページ参照）

★模様組み合わせぬいの例



① 模様組み合わせモードの状態で、かざりもよう２グループの模様 18 を選びます。

② 模様 19 を選びます。

③ 模様 20 を選びます。

④ ミシンをスタートさせると、３つの模様を繰り返しぬいます。
ぬい終わりの模様の途中で止めぬいボタンを押すと、その模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

※ 止めぬいボタンの使い方は、「◎操作方法／●操作ボタン／【止めぬいボタン】」（9 ページ）をごらんください。

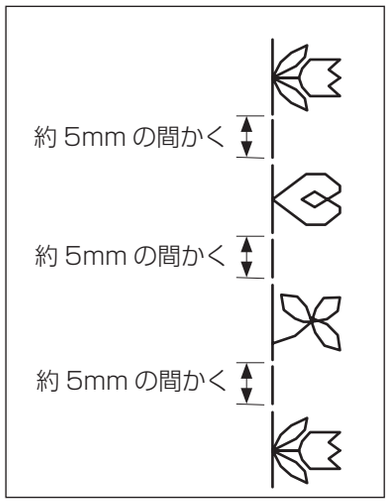
かざりぬいもようグループの模様 □ および模様 L.S の使い方

■ 画面右下の模様選択キー □ は、スペース模様です。

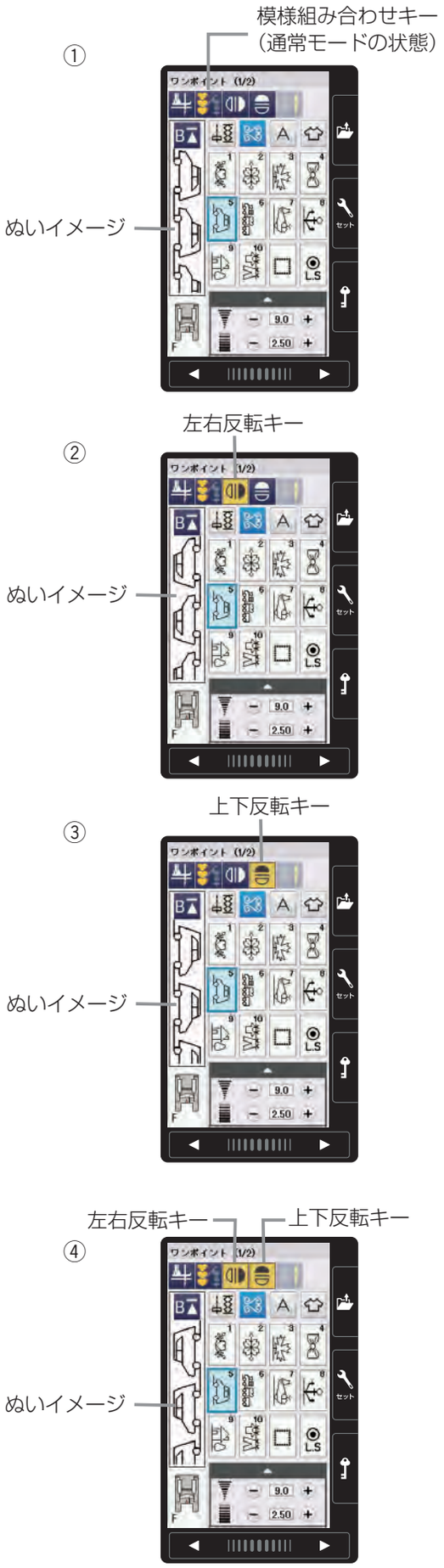
1 個につき約 5mm の間かくをあけることができます。
間かくの値は、調節画面のぬい目のあらさ調節キーで小さくできます。
右図は、各模様のあいだにスペース模様を 1 個組み合わせた例です。

■ 画面右下の模様選択キー L.S は、自動止めぬい模様です。

模様を 1 つだけまたは複数組み合わせた最後に自動止めぬい模様を組み合わせると、模様を 1 つだけまたは組み合わせた模様の数だけぬったあと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。



★反転キーの使い方



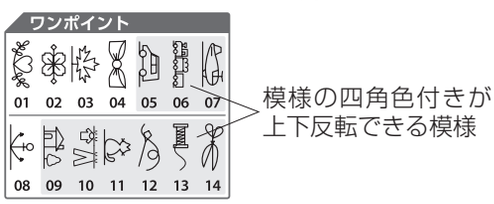
左右反転キーまたは上下反転キーを使うと、選んだ模様の形を左右または上下反転した形でぬうことができます。

左右反転と上下反転を組み合わせることができます。

通常モードおよび模様組み合わせモードどちらでも使用できます。

※ 上下反転できる模様は、ミシンの早見板に表示されている模様を四角に塗って表示しています。
また、通常モードの場合は、上下反転できない模様が選ばれているとき、上下反転キーの色がグレーになっています。

〔早見板／ワンポイントグループの例〕



【左右反転、上下反転のぬい方】（通常モードの例）

① 模様を選びます。
（ワンポイントグループの模様  の例）

② 模様を左右反転した形でぬう場合は、左右反転キーを押します。左右反転キーが黄色表示になります。

※ 左右反転キーをもう一度押すと解除されます。

③ 模様を上下反転した形でぬう場合は、上下反転キーを押します。上下反転キーが黄色表示になります。

※ 上下反転キーをもう一度押すと解除されます。

④ 模様を左右反転と上下反転を組み合わせた形でぬう場合は、左右反転キーと上下反転キーを押します。
画面の左右反転キーと上下反転キーが黄色表示になります

【例】サテングループの模様 06 を、通常の形と左右反転の形で交互にぬう（模様組み合わせモードの例）

① 模様組み合わせモードの状態で、模様 06 を選びます。

② 左右反転キーを押します。
（カーソル上に模様がない場合は反転予約になります。）

③ 模様 06 を選びます。

④ ミシンをスタートさせると、基本の形の模様と左右反転させた模様を交互にくり返しぬいます。

※ ぬい終わりの模様の途中で止めぬいボタンを押すと、その模様を完成させたあとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。
止めぬいボタンの使い方は、「◎操作方法／●操作ボタン／【止めぬいボタン】」（9 ページ）をごらんください。



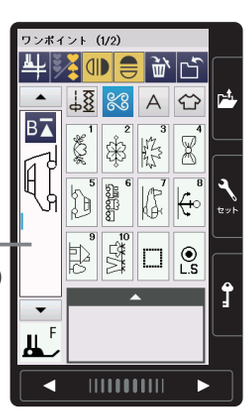


反転機能のご注意

通常モード・組み合わせモード共に、左右および上下反転キーで反転させたとき、反転キーをもう一度押して反転マークを取り消すまで反転機能の設定は継続します。（次の模様を選んでも反転した形になります。）
ただし、上下反転機能の場合は、上下反転に設定された状態で上下反転できない模様を選ぶと、上下反転機能の設定が取り消されますのでご注意ください。

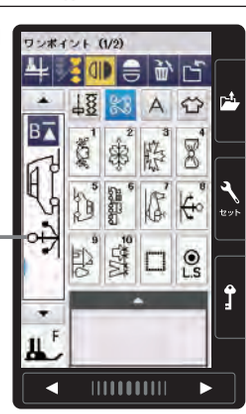
左右および上下反転が設定された状態で、模様 05 が選ばれた状態 → 上下反転できない模様 08 を選ぶと、上下反転機能だけが取り消され、模様 08 は左右だけが反転した形になる。

〔組み合わせモードの例〕



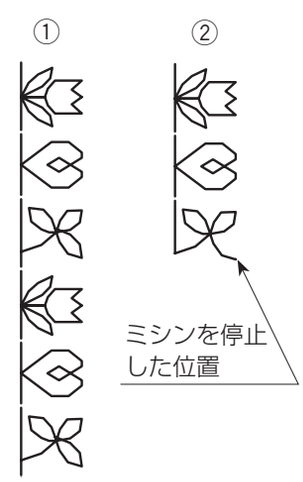
ぬいイメージ
（左右と上下が反転した形）

〔組み合わせモードの例〕

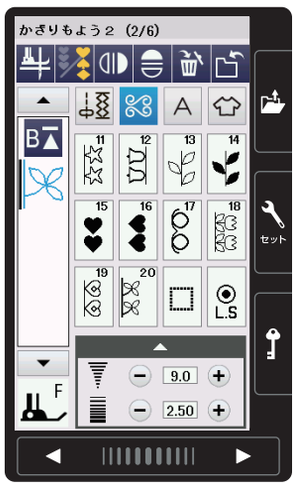


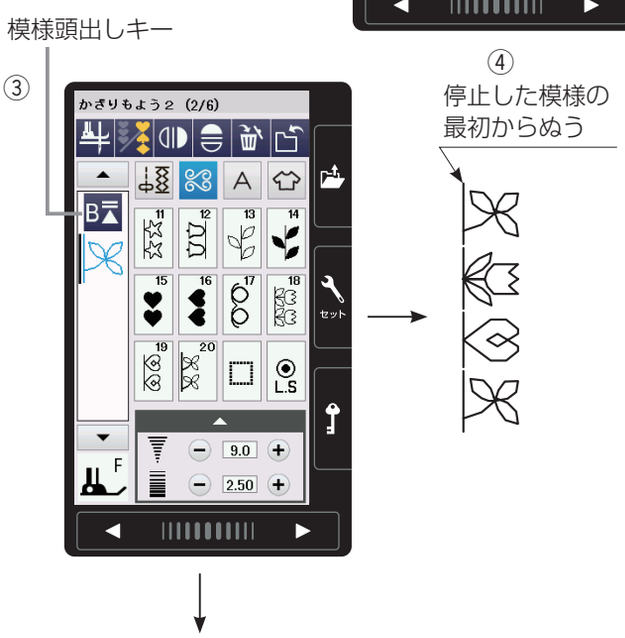
ぬいイメージ
（左右だけが反転した形）

★模様頭出しキーの使い方



〔ミシンを停止したときの画面〕







模様頭出しキーを使うと、模様をぬっている途中でミシンを止めた場合、次にぬうときにその模様の最初からぬうことができます。
通常モードおよび模様組み合わせモードどちらでも使用できます。
模様組み合わせモード設定中は、ぬいかけた模様の最初または組み合わせ模様の最初のどちらからでもぬうことができます。

【例】模様組み合わせモードで、かざりもよう２グループの模様  を組み合わせてぬっている場合

【ぬいかけた模様の最初からぬう場合】

① 組み合わせた模様のぬいイメージ。

② ミシンを停止した位置。

③ 模様頭出しキーを押します。

※ 模様頭出しキーを押すと、表示が  にかわります。

④ ミシンをスタートさせると、途中で停止した模様（3番目の模様）の最初からぬいます。

※ 模様頭出しキーの表示が  のとき、ぬい途中の模様の最初からぬいます。

【組み合わせた模様の最初からぬう場合】

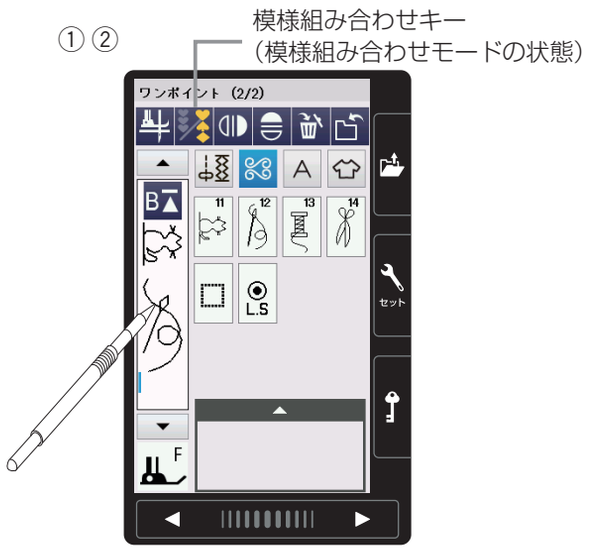
④ 上記、【ぬいかけた模様の最初からぬう場合】の手順③で模様頭出しキーを押すと、表示が  にかわるので、もう１回模様頭出しキーを押します。

※ 模様頭出しキーを２回続けて押すと、表示が  にかわります。

⑤ ミシンをスタートさせると、組み合わせた模様の最初（1番目の模様）からぬいます。

※ 模様頭出しキーの表示が  のとき、組み合わせた模様の最初からぬいます。

★プレビュー機能

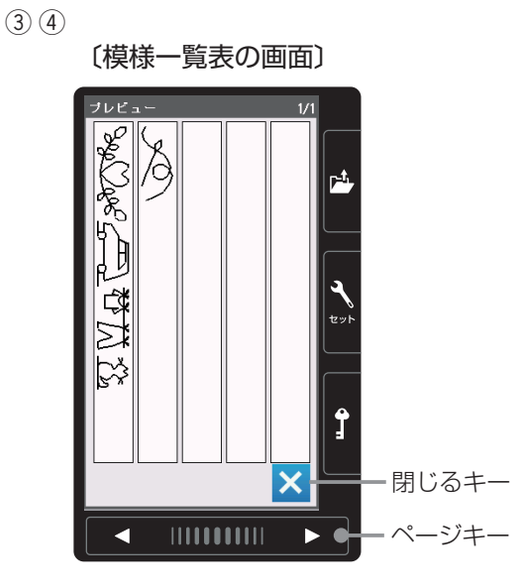


模様組み合わせモード設定中は、模様のぬいイメージが表示される場所がキーになり、ぬいイメージを表示する場所で表示しきれないすべての模様を一覧表で確認（プレビュー）できます。

【プレビュー機能の使い方】

① 模様組み合わせモードの状態で、ワンポイントループの模様  を選んだ直後の画面。

② 模様のぬいイメージが表示される場所を押します。

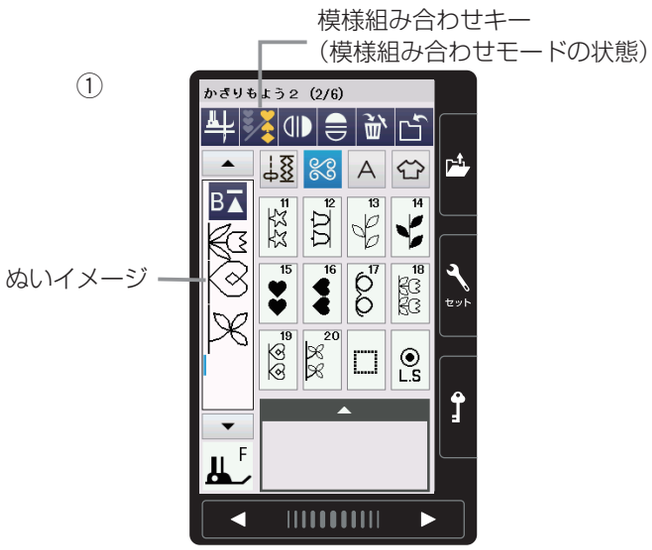


③ 模様一覧の画面にかわり、組み合わせた模様のすべてが確認できます。

※ すべての模様が 1 ページ（1 画面）で表示されない場合は、ページキーを押して次のページ（画面）に切りかえます。

④ 確認が終わったら、閉じるキーを押して模様選択画面にもどします。

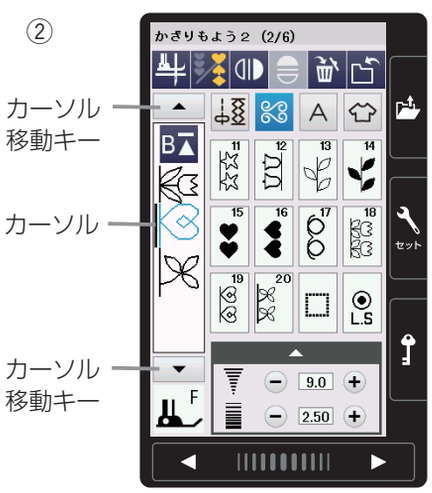
★編集機能



模様組み合わせモード設定中は、編集機能を利用すると、模様を組み合わせたあとでも、ぬったあとでも、組み合わせた模様の一部を削除したり、別の模様を追加したり、模様の形を反転させたり、模様のぬい目の幅やあらさなどの設定値を変更したりすることができます。

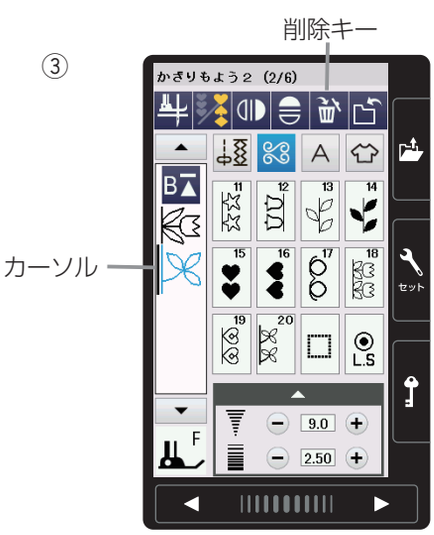
【編集機能の使用例】

① 模様組み合わせモードの状態で、かざりもよう２グループの模様  を組み合わせた直後の画面。



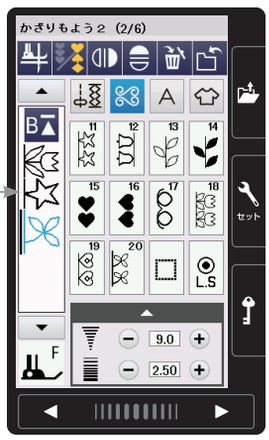
② カーソル移動キー ▲ を２回押して、画面のぬいイメージの模様  にカーソルを合わせます。
カーソルの付いた模様が青色にかわります。

※ カーソルを模様の先頭側に移動する場合は ▲ キー、模様のうしろ側に移動する場合は ▼ キーを押します。



③ 削除キーを押します。
カーソルの付いている模様  が削除され、カーソルは次の模様  に移動します。

④



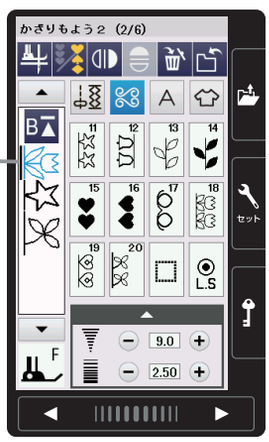
模様 11 が追加される

④ 模様 11 を選びます。

模様 18 と模様 20 のあいだに模様 11 が追加されます。

※ 模様の設定値の変更や模様の削除は、カーソルの付いている模様（青色の模様）に対してできます。
また、カーソルの付いている模様（青色の模様）の前に新しく選んだ模様が追加されます。

⑤

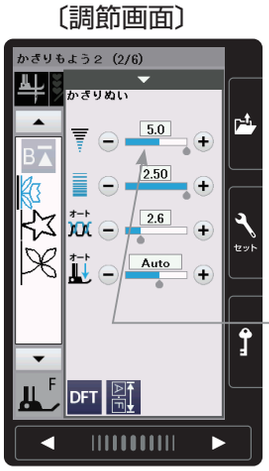


カーソル

⑤ カーソル移動キーを 2 回押して、画面のぬいイメージの模様 18 にカーソルを合わせます。

〔調節画面〕

⑥

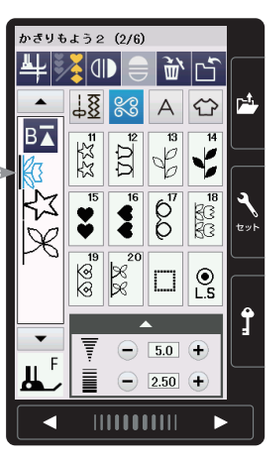


ぬい目の幅の設定値を「9.0」から「5.0」に変更する

⑥ 調節キーを押して調節画面にし、ぬい目の幅の設定値を「9.0」から「5.0」に変更します。

※ 調節画面の基本的な使い方は、「◎実用ぬい／●実用ぬいの調節画面」（28 ページ）をごらんください。

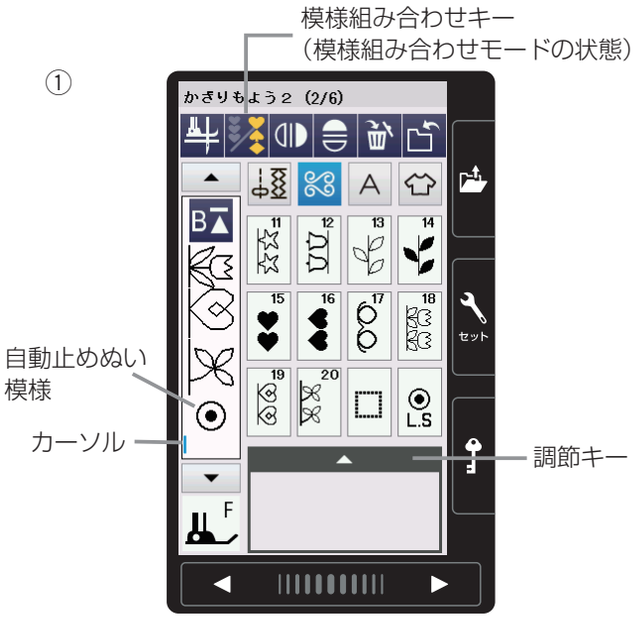
⑦



模様 18 のぬい目の幅が変更される

⑦ 模様 18 のぬい目の幅が変更できました。

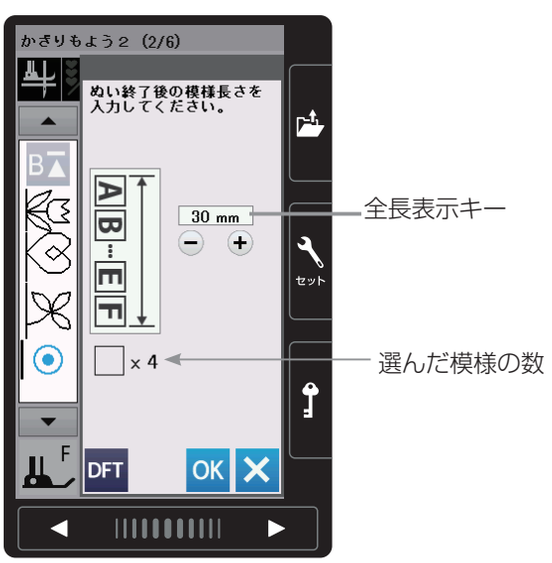
★模様全長表示機能



〔調節画面〕



〔模様の全長表示画面〕（補正前）



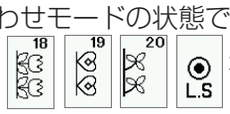
模様組み合わせモード設定中は、模様を 1 つだけぬったとき、または組み合わせた模様をぬったときの全長（目安）を知ることができます。

模様をぬったときの全長は、布の種類や厚さ、ぬいの速さ、および模様の種類などのぬい条件で異なります。

同じようなぬい条件で一度試しぬいをして表示の数値を補正しておくと、次回確認するときに実際のぬい長さに、より近い表示になります。

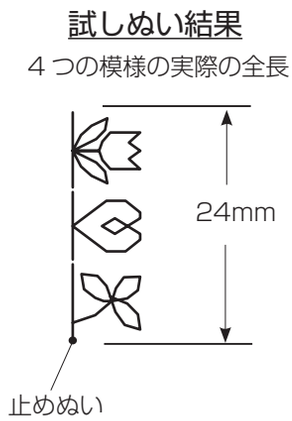
※ **一度補正すると、その補正値は、他の模様や他の組み合わせ模様（文字ぬいを含む）にも適用されます。また、ミシンの電源スイッチを切っても記憶されています。**
補正後に、ぬい条件の大きく異なるぬいで模様の全長を知りたい場合は、再度、同じような条件で試しぬいをして表示されている数値を補正し直してください。

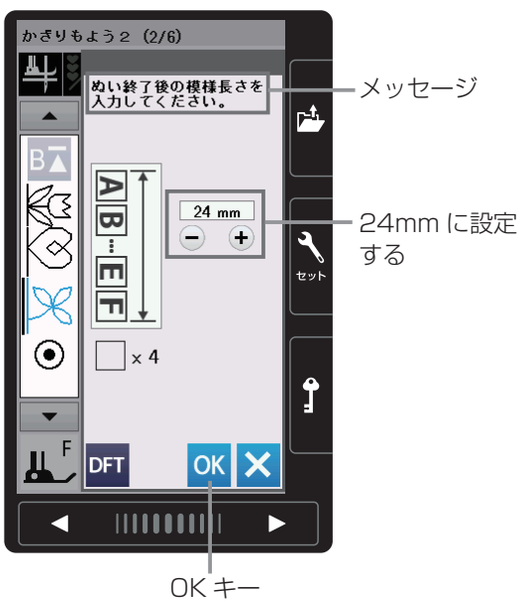
【模様全長表示機能の使用例】

① 模様組み合わせモードの状態で、かざりもよう 2 グループの模様  を組み合わせた直後の画面。

② 調節キーを押して調節画面にし、調節画面の中の全長表示キーを押して、模様の全長表示画面にします。
この画面で自動止めぬい模様を含めて 4 つの模様の全長の目安（例では 30mm）を知ることができます。

③





③ 画面のメッセージにしたがい、同じぬい条件で試しぬいをし、止めぬいを含む 4 つの模様の実際の全長（例では 24mm）を「+」または「−」キーで入力し、OK キーを押して確定します。

④ 〔模様の全長表示画面〕（補正後）



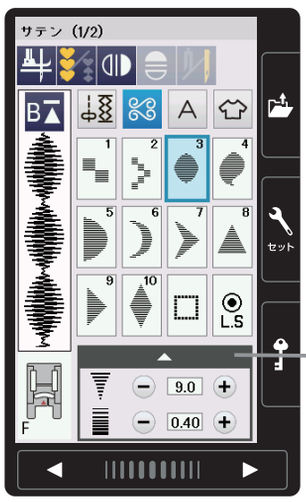
④ 次回からは、同じ模様の場合でも、別の組み合わせ模様の場合でも、模様の全長表示画面を表示させると、実際のぬいにより近い全長（目安）が表示されます。このとき全長表示画面は、補正されていることを示すためにメッセージの表示がありません。
（左の画面例は、別の組み合わせ模様で全長表示画面を表示させた場合）

※ 補正前の初期の状態（購入時の設定状態）にもどす場合は、初期化キーを押して OK キーを押してください。

●模様の長さ調節機能（エロンゲーション）

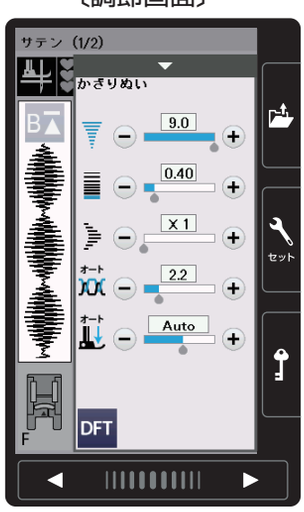
〔模様選択画面／サテングループ〕

①

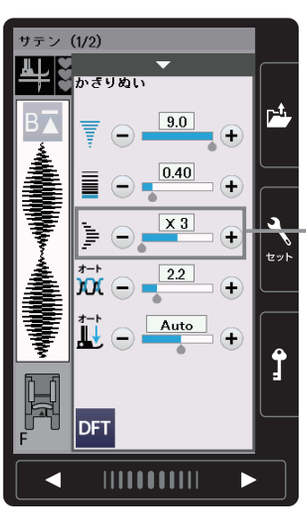


②

〔調節画面〕



③



サテングループの模様は、他の飾りぬいの模様グループと異なり、ぬい目のあらさをかえずに模様の長さを２～５倍にかえることができます。
通常モードおよび模様組み合わせモードどちらでもできます。

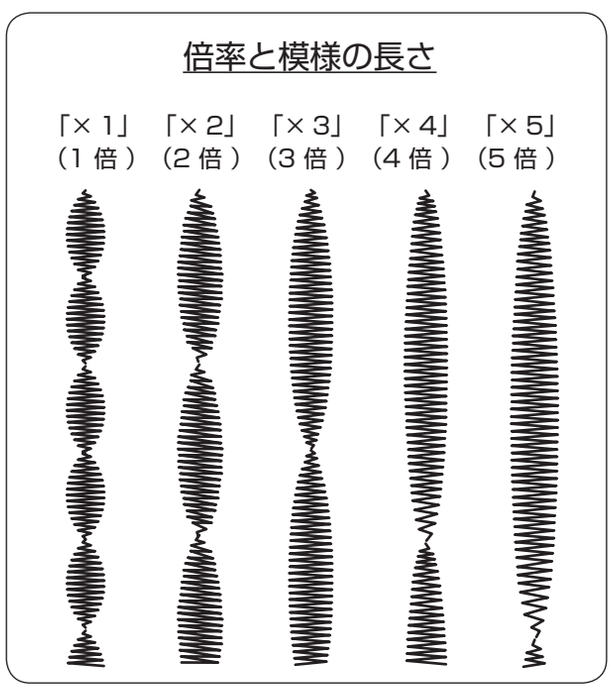
※ サテングループの模様はぬい目の細かい飾り模様（密着模様）です。布が縮む場合は、裏に芯地を貼ってください。

【模様の長さの調節例】

① サテングループの模様  を選びます。
03

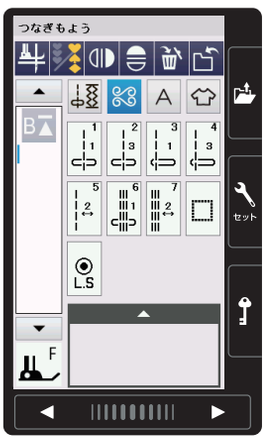
② 調節キーを押して、調節画面を全体表示させます。

③ 模様の長さ調節キーを押して模様の長さをかえます。
設定した倍率でぬうことができます。



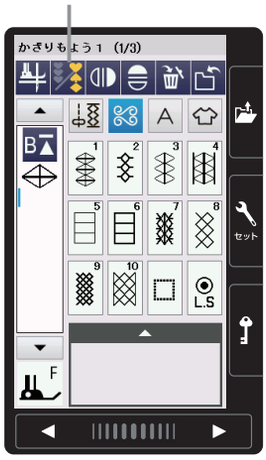
●つなぎもようグループの使い方

〔模様選択画面／つなぎもようグループ〕

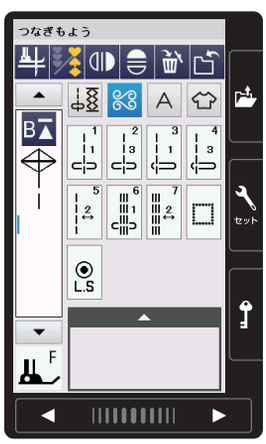


模様組み合わせキー
（模様組み合わせモードの状態）

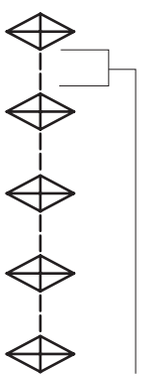
①



②



③

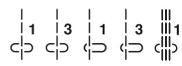


つなぎもよう  のぬい
05

※ 中針位置の直線のぬい目が２つ入っている。

つなぎもようグループの模様は、模様と模様の間かくを直線ぬいを使ってあけるときに使います。

模様選択キーに表示されている模様の右側の数字「1」「2」「3」は、つなぎ模様を 1 つ組み合わせたときのつなぎ模様（直線ぬい）のぬい目の数を示します。

模様 
01 02 03 04 06 は、針位置やぬい目のあらさのオート値（電源を入れたとき、ミシンに自動的に設定されている値）が設定されていて、そのオート値はぬい目の幅調節キーとぬい目のあらさ調節キーでかえることができます。

模様 
05 07 は、針位置やぬい目のあらさのオート値が設定されていないで、その値はつなぎ模様の 1 つ前に記憶されている模様と同じ値になり、ぬい目の幅調節キーとぬい目のあらさ調節キーでかえることはできません。
（針位置は、前の模様のぬい終わりの針位置になります。）

【例】 模様組み合わせモードで、かざりもよう 1 グループの模様  **のあいだに模様**  **を組み合わせて、間かくをあける**

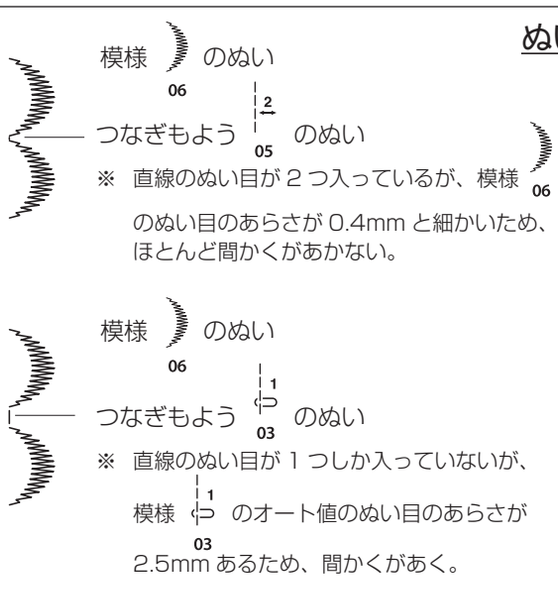
① 模様組み合わせモードの状態で、かざりもよう 1 グループの模様  を選びます。

② つなぎもようグループの模様  を選びます。

③ ミシンをスタートさせると、模様  の間かくがあいた状態でくり返しぬいます。

※ 模様と模様のあいだに、中針位置の直線のぬい目が２つ入っています。

ぬい目のあらさが細かい模様につなぎ模様を使う場合



模様 のぬい
06

つなぎもよう のぬい
05

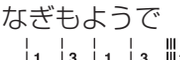
※ 直線のぬい目が２つ入っているが、模様  のぬい目のあらさが 0.4mm と細かいため、ほとんど間かくがあかない。

模様 のぬい
06

つなぎもよう のぬい
03

※ 直線のぬい目が 1 つしか入っていないが、模様 のオート値のぬい目のあらさが 2.5mm あるため、間かくがあく。

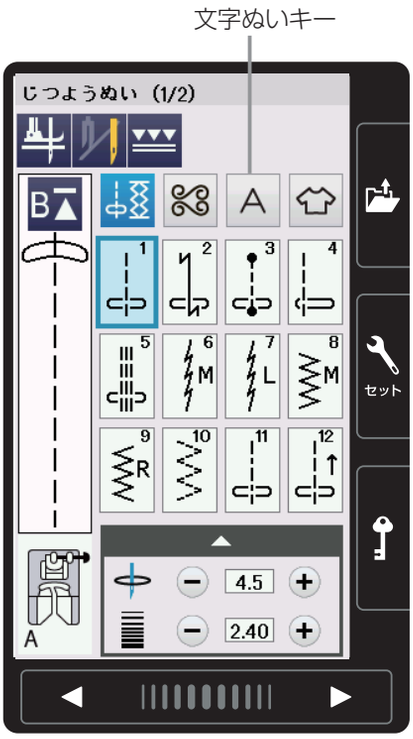
例えば、サテングループの模様  のように、ぬい目のあらさが細かい模様の次につなぎもよう  を使うと、つなぎ模様のぬい目のあらさは 1 つ前の模様のぬい目のあらさと同じになるため、つなぎもようのぬい目のあらさも細かくなって、次の模様とほとんど間かくがあきません。

ぬい目のあらさが細かい模様のあとにつなぎもようで間かくをあけたい場合は、つなぎもよう  を使用してください。

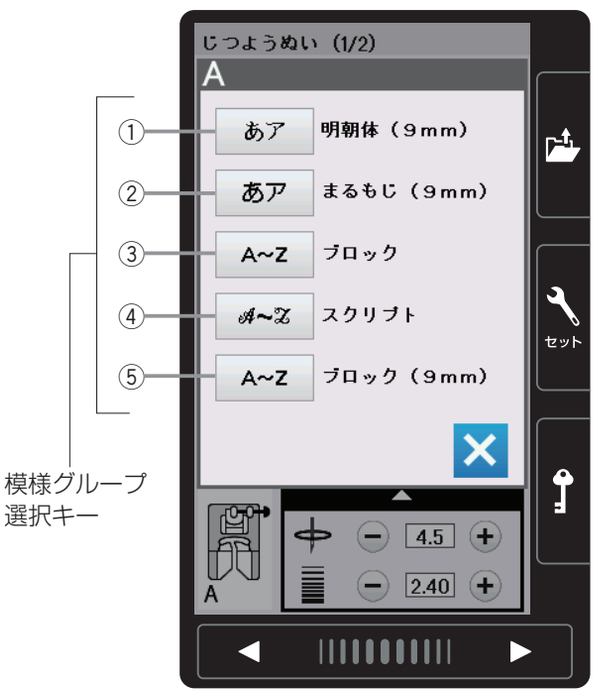
◎文字ぬい

●文字ぬいの画面

〔模様選択画面〕



〔模様グループ選択画面〕



文字ぬいキーを押すと、文字ぬいの模様グループ（書体）を選ぶ選択画面になります。
文字ぬいの模様グループは、5 個にグループ分けしてあります。

① 明朝体（9mm）グループ

「明朝体（9mm）」キーを押すと、明朝体（ひらがな･カタカナ、およびスペース模様 2 個）の模様選択画面になります。
明朝体（9mm）グループは、3 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。
※　文字のサイズ（高さ）は、最大 9mm あります。

② まるもじ（9mm）グループ

「まるもじ（9mm）」キーを押すと、まるもじ（ひらがな・カタカナ、およびスペース模様 2 個）の模様選択画面になります。
まるもじ（9mm）グループは、3 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。
※　文字のサイズ（高さ）は、最大 9mm あります。

③ ブロック体グループ

「ブロック」キーを押すと、ブロック体（英字・数字・記号・ヨーロッパ文字、およびスペース模様 3 個）の模様選択画面になります。
ブロック体グループは、5 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。
※　文字構成全体の高さ（枠）が最大 9mm で、個々の文字サイズ（高さ）は 9mm より小さくなります。



④ スクリプト体グループ

「スクリプト」キーを押すと、スクリプト体（英字・数字･記号･ヨーロッパ文字､およびスペース模様 3 個）の模様選択画面になります。
スクリプト体グループは、5 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。
※　文字構成全体の高さ（枠）が 9mm で、個々の文字高さは 9mm より小さくなります。（上記ブロック体グループと同じです。）

⑤ ブロック体（9mm）グループ

「ブロック（9mm）」キーを押すと、ブロック体（英字の大文字・数字・記号、およびスペース模様 3 個）の模様選択画面になります。
ブロック体（9mm）グループは、3 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。
※　文字のサイズ（高さ）は、9mm あります。

★模様選択画面

〔模様選択画面〕

明朝体グループ 1/3 ページの例



〔模様選択画面〕

明朝体グループ 1/3 ページの例



模様グループ選択キーを押すと、その模様グループ（書体）の模様選択画面になります。
模様選択画面が 2 つ以上のページ（画面）に分かれている場合は、ページキーで選択できます。

模様選択画面は実用ぬい模様や飾りぬい模様の画面と同様、模様選択キー・設定キー・模様頭出しキーなどのキーと、選ばれている模様のぬい情報や設定状態が表示されています。

※ ぬい情報や設定状態の表示は、「◎操作方法／●画面（タッチパネル）」（10 ページ）をごらんください。

【設定キー】

その模様に設定されているぬい条件をお好みのぬい条件に変更します。

※ 選ばれている模様や設定状態によっては、キーの色がグレーになっていて使用できないキーがあります。

① ピボットぬい設定キー

ピボットぬいを行うときに設定します。
（27 ページ参照）

② 文字高さ切りかえキー

文字の高さを約 2/3 にし、文字を小さく（低く）することができます。

③ ひらがな・カタカナ切りかえキー

ひらがなとカタカナを切りかえることができます。
模様選択キーの表示も同時に切りかわります。
（78 ページ参照）

④ 横書き・縦書き切りかえキー

横書きと縦書きを切りかえることができます。
（78 ページ参照）

※ 横書きと縦書きを組み合わせることはできません。

⑦ 大文字・小文字切りかえキー

大文字と小文字を切りかえることができます。
模様選択キーの表示も同時に切りかわります。

※ 設定キーの中の⑤「削除キー」、⑥「保存キー」、および模様頭出しキーの使い方は、飾りぬいと同じです。組み合わせた文字内容を確認できるプレビュー機能および編集機能、模様全長表示機能も飾りぬいと同じです。「◎飾りぬい／●模様組み合わせモード」（64 ページ）をごらんください。

●文字ぬいの例

■ 文字ぬいは、飾りぬいの模様組み合わせモードと同様、お好みの模様を組み合わせてぬうことができます。
- 模様は、最大 100 個まで組み合わせることができます。（組み合わせる模様で異なります。）
- 組み合わせができる模様は、文字ぬいの模様グループと飾りぬいの模様グループです。

※ 飾りぬいの模様グループは、「◎飾りぬい」（61 ページ）をごらんください。

■ 文字を 1 つだけまたは複数の文字を組み合わせてぬった場合、最後の文字をぬって自動的にミシンは停止します。（ミシン停止時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の位置で停止します。）
ぬわれた文字のぬい始めとぬい終わりには、ほつれ止めの止めぬいが入っています。

※ 文字と飾りぬい模様を組み合わせてぬった場合、組み合わせた模様の最後が文字の場合は、最後の文字をぬって自動的にミシンは停止します。組み合わせた模様の最後が文字以外の模様の場合は、組み合わせた模様をくり返しぬいます。

■ 編集機能を使うと、組み合わせた模様の内容を変更することができます。

※ 編集機能は、「◎飾りぬい／●模様組み合わせモード／★編集機能」（70 ページ）をごらんください。

■ 組み合わせた模様をミシンに保存したり、USB メモリに保存することができます。

文字ぬいの注意事項

- 必ず同じ布地で試しぬいをしてください。
- 針は付属のブルー針（柄の部分が青色の針）、押さえは F：サテン押さえを使用してください。
- 伸びる布地、薄手の布地などをぬう場合は、布の裏に市販品の芯地を貼るかまたはトレーシングペーパーや薄い紙を布の下に敷いてぬってください。
- 文字や記号を組み合わせた場合、隣り合う模様によっては間かくがせまくなったり、広くなることがあります。気になる場合はスペース模様で調節してください。（80 ページ〔スペース模様〕欄参照）

〔模様選択画面〕

明朝体グループの例

① 1/3 ページ

横書き・縦書きキー



② 2/3 ページ

ひらがな・カタカナ切りかえキー



【例】明朝体の横書きで文字「マイがっこう」をぬう

① 「明朝体（9mm）」キーを押して明朝体の模様選択画面を表示させ、横書き・縦書き切りかえキーで横書き（ よこ ）を選びびます。

※ 縦書きの場合は、最初の文字を選ぶ前に、横書き・縦書き切りかえキーを押して、キーの表示を たて にします。

② ひらがな・カタカナ切りかえキーを押して、キーの表示を あ から ア にかえます。
ページキーで 2/3 ページを表示させ、文字「マ」を選びます。

※ ひらがな・カタカナ切りかえキーを押すと、画面の模様選択キーの表示もカタカナに切りかわります。

③ 1/3 ページ

④ 3/3 ページ
ひらがな・カタカナ
切りかえキー



③ ページキーで 1/3 ページを表示させ、文字「イ」を選びます。

④ ひらがな・カタカナ切りかえキーを押して、キーの表示を アぁ から あ にかえ、ページキーで 3/3 ページを表示させ、文字「が」を選びます。

※ ひらがな・カタカナ切りかえキーを押すと、画面の模様選択キーの表示もひらがなに切りかわります。

⑤ 2/3 ページ

⑥ 1/3 ページ



⑤ ページキーで 2/3 ページを表示させ、文字「っ」を選びます。

⑥ ページキーで 1/3 ページを表示させ、文字「こ」を選びます。

⑦ ⑧ 1/3 ページ

ぬいイメージ



⑦ ページキーで 1/3 ページを表示させ、文字「う」を選びます。

⑧ ミシンをスタートさせると、「マイがっこう」をぬったあと自動的にミシンは停止します。

明朝体 2/3 ページの例



ブロック体 1/5 ページの例



スペース模様

明朝体と丸文字の模様選択画面 2/3 ページにある □ □ ブロック体、スクリプト体の模様選択画面 1/5 ページおよびブロック体（9mm）の模様選択画面 1/3 ページにある □ □ □ は、スペース模様です。

文字と文字の間かくをあけてぬうときに使います。

文字と文字のあいだに組み合わせて記憶してください。

□ は約 2.5mm、□ は約 3.5mm（明朝体と丸文字はなし）、□ は約 5mm の間かくがあきます。

※ 上記間かくの長さは、ぬい目のあらさがオート値（電源を入れたとき、ミシンに自動的に設定されている値）のときの値です。
調節画面のぬい目のあらさ調節キーで設定値を変更すると、間かくがかわります。

★統一糸調子機能

①



すべての組み合わせ模様の糸調子をオート値（電源を入れたとき、ミシンに自動的に設定されている値）と異なる別の統一した値に設定したいとき、飾りぬいの場合は、調節画面の糸調子調節キーで模様ごとに設定する必要があります。

文字ぬいの場合は、統一糸調子機能により、組み合わせ模様（文字）ごとに設定しないで、一括して統一した糸調子を設定することができます。

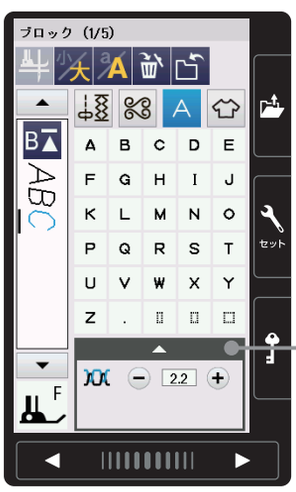
【設定例】

① 文字を選びます。（ブロック体「ABC」の例）

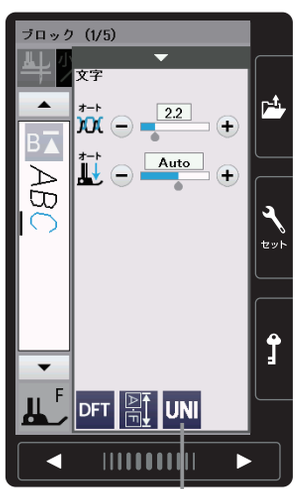
② 調節キーを押します。

③ 調節画面にし、統一糸調子キーを押します。

②



③



調節キー

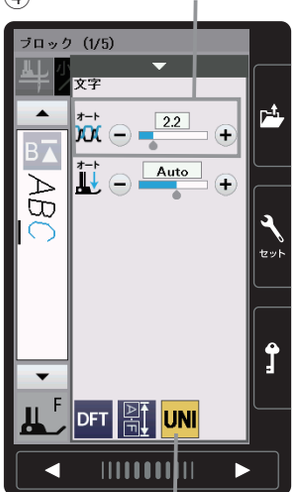
統一糸調子キー

糸調子調節キー
（設定例は「3.0」

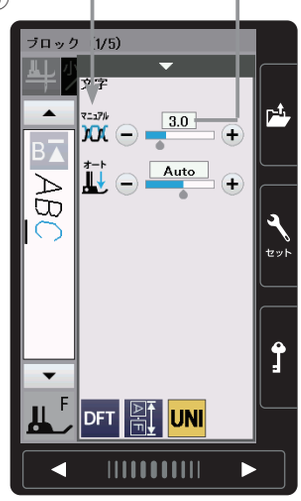
糸調子設定状態の
画面表示「マニュアル」

④

糸調子調節キー



⑤



統一糸調子キー

④ 統一糸調子キーの色が黄色にかわります。糸調子調節キーで設定したい値に変更します。
（設定例は「3.0」）

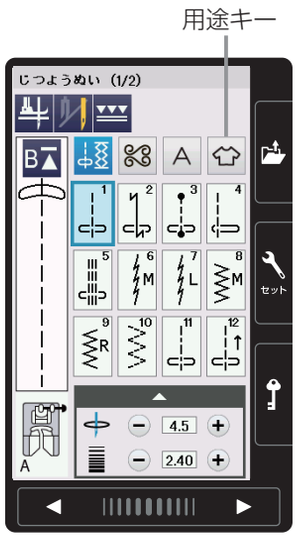
⑤ 組み合わせた「ABC」すべての文字を糸調子「3.0」でぬうことができます。
画面の糸調子の設定状態を示す表示が、「オート」から「マニュアル」にかわっています。

※ 統一糸調子を解除する場合は、統一糸調子キーを押すと、統一糸調子機能のセット前の値にもどります。
※ 組み合わせた文字を削除キーですべて削除した場合、および文字ぬい以外の模様グループの模様を選んだ場合も統一糸調子機能は解除されます。

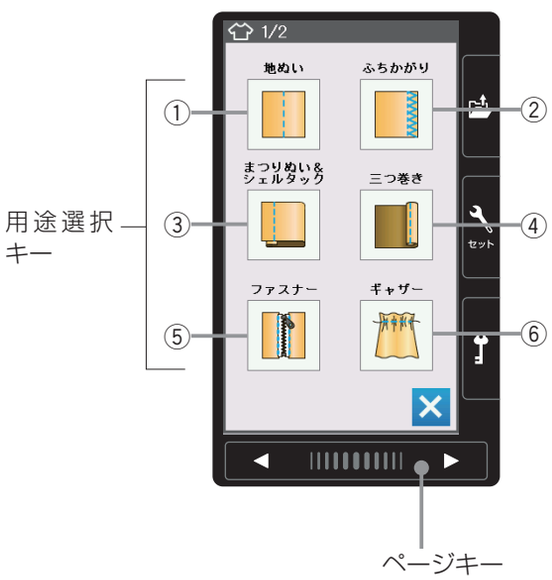
◎用途選択

●用途選択の画面

〔模様選択画面〕



〔用途選択画面〕(1/2 ページ)



用途キーを押すと、ぬいの用途に適した模様が直接選べる用途選択画面になります。
用途選択画面は、12 個の用途選択キーがあり、2 つのページ（画面）に分かれていて、ページキーで選択できます。

※ 用途選択により選んだ模様に設定されている「ぬい目の幅・ぬい目のあらさ・糸調子」などの値は、ぬいの用途に適した値になっています。

① 地ぬい

「地ぬい」キーを押すと、4 種類の地ぬいの用途選択画面 になります。4 種類の中から目的のキーを押すと、それぞれの用途に適した地ぬいの模様選択画面になります。地ぬいは、12 種類の模様があります。（85 ページ参照）

② ふちかがり

「ふちかがり」キーを押すと、縁かがりの模様選択画面になります。縁かがりは 4 種類の模様があります。（86 ページ参照）

③ まつりぬい・シェルタック

「まつりぬい&シェルタック」キーを押すと、まつりぬいとシェルタックのどちらかを選ぶ用途選択画面になります。
目的のキーを押すと、まつりぬいまたはシェルタックの模様選択画面になります。
まつりぬいは 2 種類、シェルタックは 3 種類の模様があります。（87 ～ 89 ページ参照）

④ 三つ巻き

「三つ巻き」キーを押すと、三つ巻きの模様選択画面になります。三つ巻きは、3 種類の模様があります。（90 ページ参照）

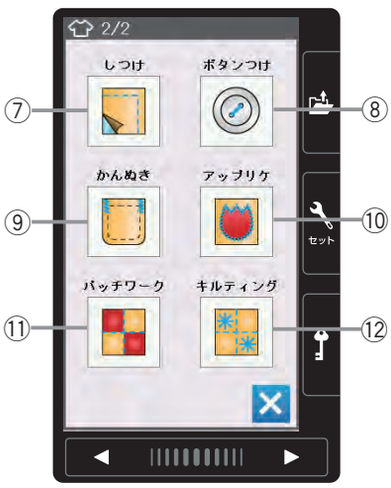
⑤ ファスナー付け

「ファスナー」キーを押すと、2 種類のファスナー付けの用途選択画面になります。2 種類の中から目的のキーを押すと、それぞれの用途に適したファスナー付けの模様選択画面になります。ファスナー付けは、10 種類の模様があります。（91 ～ 95 ページ参照）

⑥ ギャザー

「ギャザー」キーを押すと、ギャザーの模様選択画面になります。ギャザーは、2 種類の模様があります。（96 ページ参照）

〔用途選択画面〕(2/2 ページ)



⑦ しつけぬい

「しつけ」キーを押すと、しつけぬいの模様選択画面になります。しつけぬいは、2 種類の模様があります。(97 ページ参照)

⑧ ボタン付け

「ボタンつけ」キーを押すと、ボタン付けの模様選択画面になります。ボタン付けは、2 種類の模様があります。(97 ～ 99 ページ参照)

⑨ かんぬき

「かんぬき」キーを押すと、かんぬきの模様選択画面になります。かんぬきは、4 種類の模様があります。(100 ページ参照)

⑩ アップリケ

「アップリケ」キーを押すと、アップリケの模様選択画面になります。アップリケは、6 種類の模様があります。(100、101 ページ参照)

⑪ パッチワーク

「パッチワーク」キーを押すと、パッチワークの模様選択画面になります。パッチワークは、3 種類の模様があります。(102、103 ページ参照)

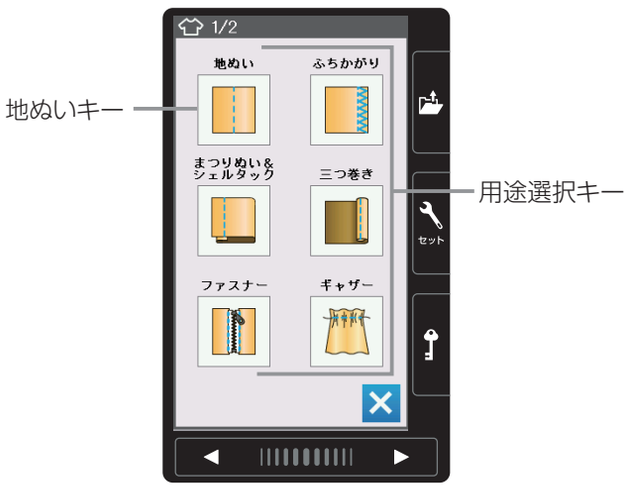
⑫ キルティング

「キルティング」キーを押すと、6 種類のキルティングの用途選択画面になります。6 種類の中から目的のキーを押すと、それぞれの用途に適したキルティングの模様選択画面になります。キルティングは、24 種類の模様があります。(104 ～ 112 ページ参照)

★模様選択画面

地ぬい／伸びない布地用の模様を選ぶ例

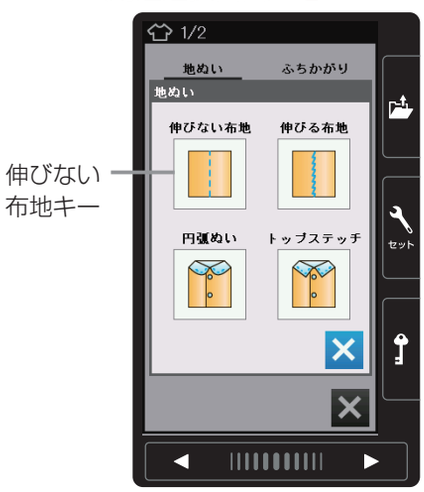
〔用途選択画面〕(1/2 ページ)



①上の画面で地ぬいキーを押す

↓

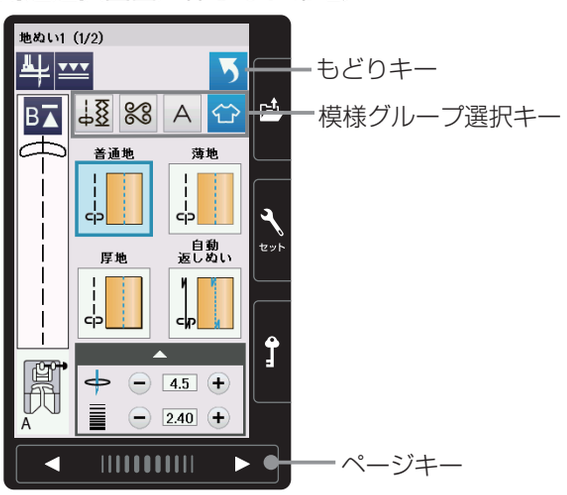
〔用途選択画面／地ぬいの２段階目〕



②上の画面で伸びない布地キーを押す

↓

〔用途選択画面／伸びない布地〕



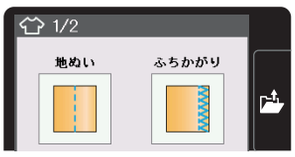
用途選択画面の用途選択キーを押すと、その用途に使用する模様選択画面になります。
模様選択画面が２つ以上のページ（画面）に分かれている場合は、ページキーで選択できます。

「地ぬい」「まつりぬい･シェルタック」「ファスナー付け」「キルティング」は２段階の用途選択画面で構成されていますので、用途選択キーを２回押すと模様選択画面になります。

※ 模様選択画面のもどりキーを押すと、１つ前の用途選択画面にもどります。
用途選択のぬいが終わって、他の模様グループを選ぶ場合は、模様選択画面の模様グループ選択キーで目的の模様グループを選んでください。

●地ぬい

〔用途選択画面／地ぬい〕

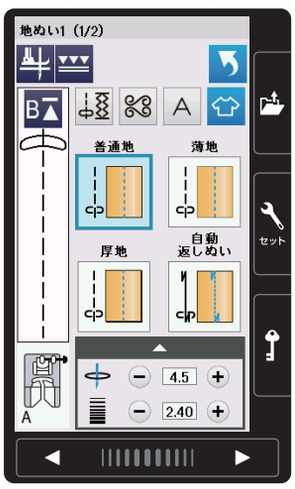


用途選択画面の「地ぬい」キーを押すと、4 種類の地ぬいの用途選択画面になります。
4 種類の中から目的のキーを押すと、それぞれの用途に適した地ぬいの模様選択画面になります。
地ぬいに適した 12 種類の模様が選択できます。

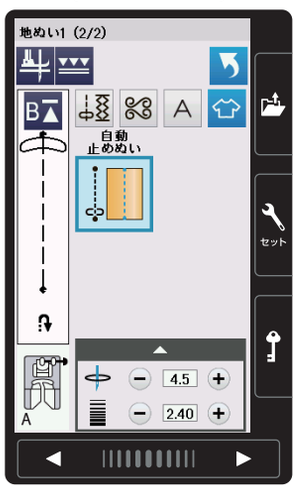
※ ぬい方は、「◎実用ぬい／●直線（直線状模様）ぬい」（33 ページ）をごらんください。

〔用途選択画面／伸びない布地〕

（1/2 ページ）



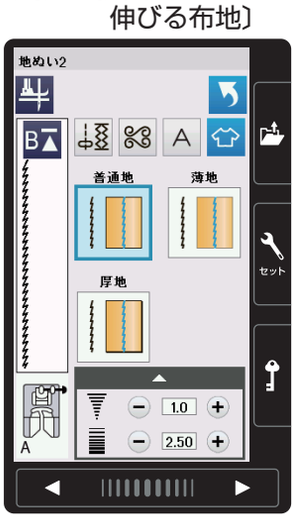
（2/2 ページ）



【伸びない布地】

デニム、ブロード、シーチング、ローンなどに適した 5 種類の模様が選択できます。

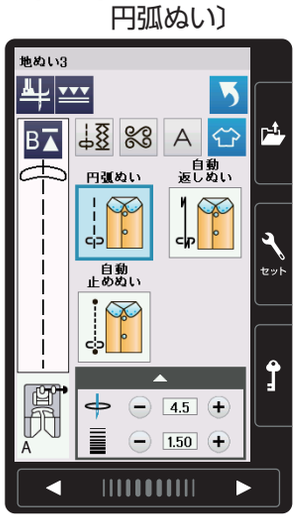
〔用途選択画面／伸びる布地〕



【伸びる布地】

ジャージー、ニット、トリコットなど伸縮性布地に適した 3 種類の模様が選択できます。

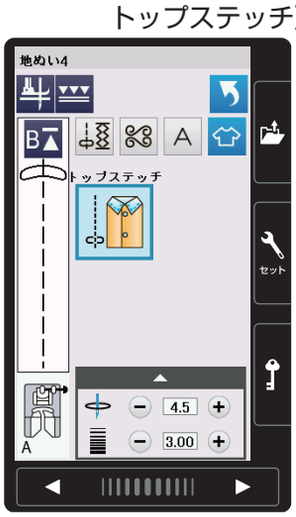
〔用途選択画面／円弧ぬい〕



【円弧ぬい】

円弧ぬいに適した 3 種類の模様が選択できます。

〔用途選択画面／トップステッチ〕

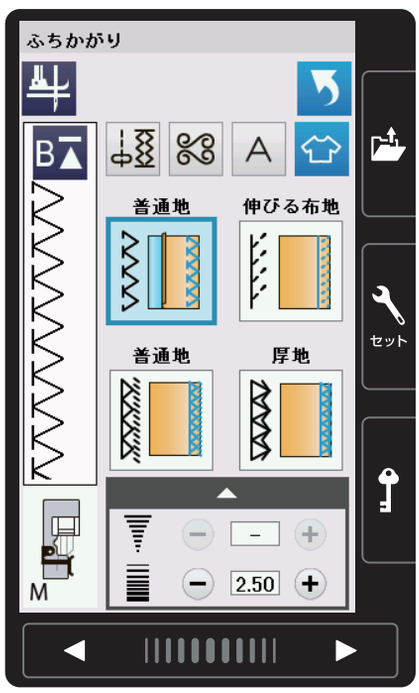


【トップステッチ】

トップステッチに適した模様が選択できます。

●ふちかがり

〔用途選択画面／ふちかがり〕

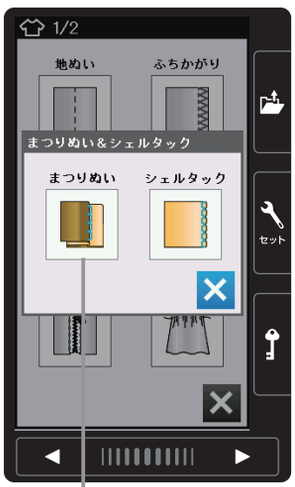


用途選択画面の「ふちかがり」キーを押すと、ふちかがりの模様選択画面になります。
ふちかがりに適した 4 種類の模様が選択できます。

※ ぬい方は、「◎実用ぬい／●かがりぬい」（41 ページ）をごらんください。

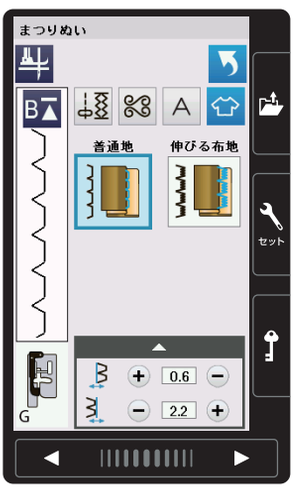
●まつりぬい

〔用途選択画面／
まつりぬい・シェルタック〕

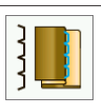


まつりぬいキー

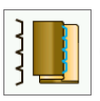
〔模様選択画面／
まつりぬい〕



用途選択画面の「まつりぬい&シェルタック」キーを押すと、まつりぬいとシェルタックのどちらかを選ぶ用途選択画面になります。
「まつりぬい」キーを押すと、まつりぬいの模様選択画面になります。
まつりぬいに適した 2 種類の模様が選択できます。

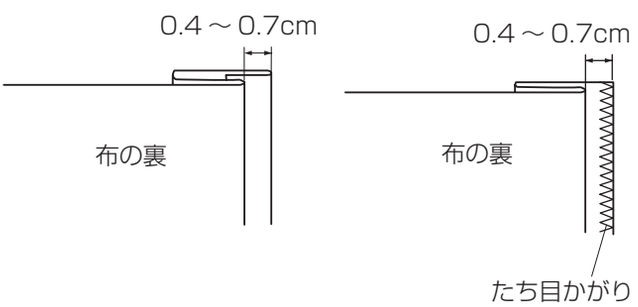
① 模様.....  （普通地）

② 押さえ..... G：まつりぬい押さえ 

【ぬい方】（模様  の例）

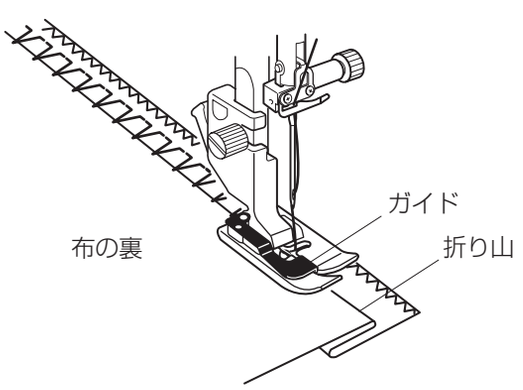
①

〈薄い布、普通の布の場合〉 〈厚い布の場合〉



① 布を折ります。

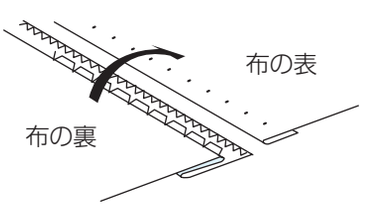
②



② 折り山をガイドに合わせてぬいます。

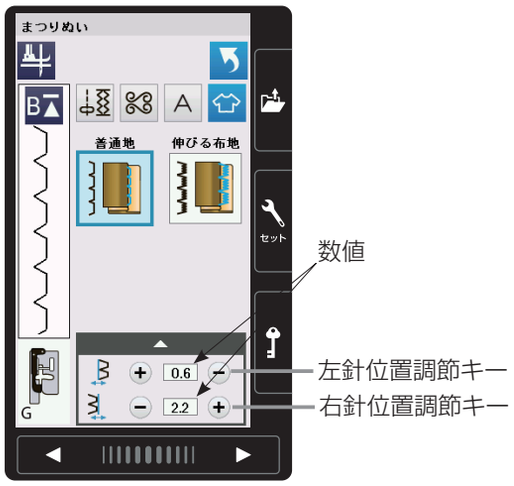
※ 針が折り山から外れないように、また必要以上に針が折り山にかかりすぎないように、左針位置調節キーまたはぬい目の幅調節キーで左針位置（折り山側の針位置）を調節してください。
（次ページ【針位置の調節方法】参照）

③

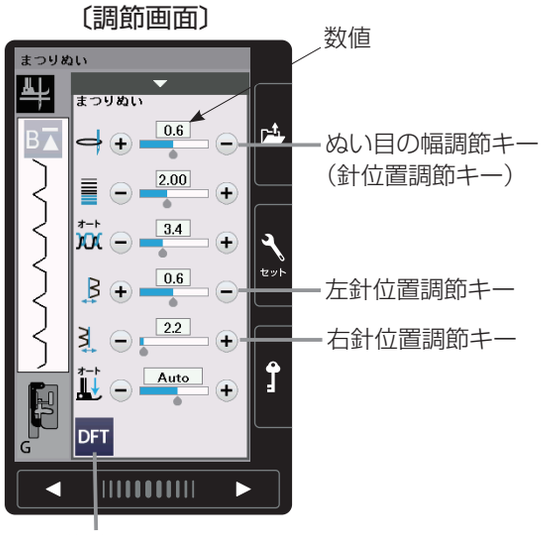


③ ぬい終わったら布を広げます。

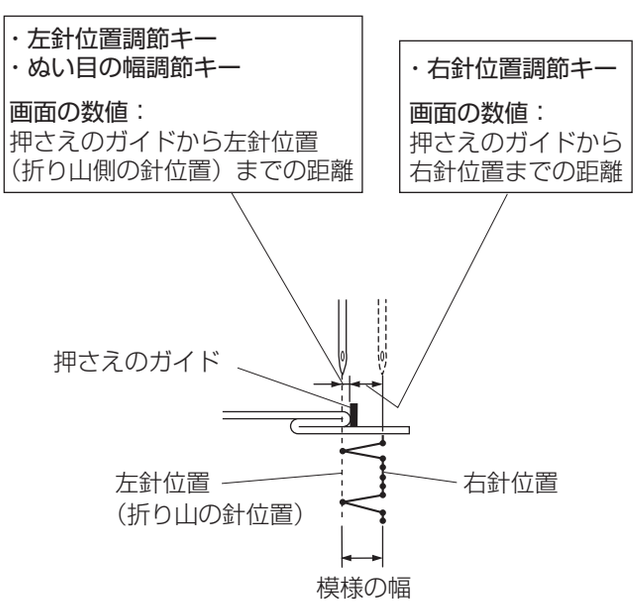
〔模様選択画面／まつりぬい〕



〔調節画面〕



画面の数値と針位置の関係



【針位置の調節方法】

※ 下記、左針位置調節キーおよび右針位置調節キーは、調節キーを押して表示される調節画面にもあります。どちらを使用しても同じ設定ができます。
調節画面の基本的な使い方は、「◎実用ぬい／●実用ぬいの調節画面」（28 ページ）をごらんください。

《左針位置調節キー》

左側の針位置（折り山側の針位置）をかえることができます。右側の針位置は固定なので、左に模様の幅が変化します。

画面の数値は、押さえのガイドから左針位置までの距離の目安をミリメートルで表示しています。

- 「＋」を押すと表示されている数値が大きくなり、左針位置が左へ移動します。
- 「－」を押すと表示されている数値が小さくなり、左針位置が右へ移動します。

《右針位置調節キー》

右側の針位置をかえることができます。左側の針位置は固定なので、右に模様の幅が変化します。

画面の数値は、押さえのガイドから右針位置までの距離の目安をミリメートルで表示しています。

- 「＋」を押すと表示されている数値が大きくなり、右針位置が右へ移動します。
- 「－」を押すと表示されている数値が小さくなり、右針位置が左へ移動します。

《ぬい目の幅調節キー（針位置調節キー）》

模様の幅をかえずに左側の針位置（折り山側の針位置）をかえることができます。

画面の数値は、押さえのガイドから左針位置までの距離の目安をミリメートルで表示しています。

- 「＋」を押すと表示されている数値が大きくなり、左針位置が左へ移動します。（模様全体が左に移動します。）
- 「－」を押すと表示されている数値が小さくなり、左針位置が右へ移動します。（模様全体が右に移動します。）

※ 変更した値をオート値（電源を入れたとき、ミシンに自動的に設定されている値）にもどす場合は、調節画面の初期化キーを押してください。

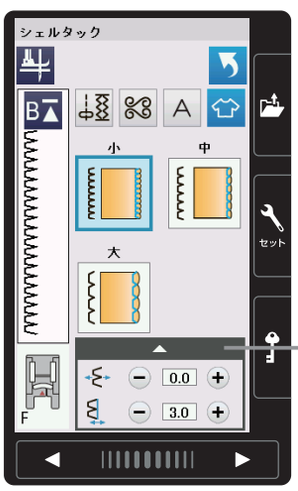
●シェルタック

〔用途選択画面／
まつりぬい・シェルタック〕



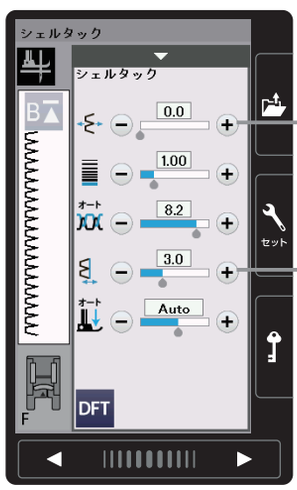
用途選択画面の「まつりぬい&シェルタック」キーを押すと、まつりぬいとシェルタックのどちらかを選ぶ用途選択画面になります。
「シェルタック」キーを押すと、シェルタックの模様選択画面になります。
シェルタックに適した３種類の模様が選択できます。

〔模様選択画面／シェルタック〕



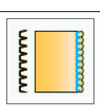
調節キー

〔調節画面〕

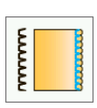


模様位置調節キー

右針位置調節キー

① 模様.....  （小）

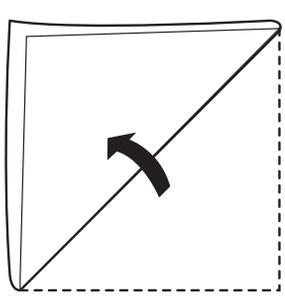
② 押さえ..... F：サテン押さえ 

【ぬい方】（模様  の例）

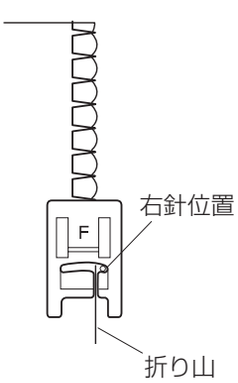
① 布をバイヤスに２つ折りにします。

② 右の針位置が布の折り山のきわ（布の外側）におりるようにしてぬいます。

①



②



【針位置の調節方法】

※ 下記、模様位置調節キーおよび右針位置調節キーは、調節キーを押して表示される調節画面にもあります。どちらを使用しても同じ設定ができます。
調節画面の基本的な使い方は、「◎実用ぬい／●実用ぬいの調節画面」（28 ページ）をごらんください。

《模様位置調節キー》

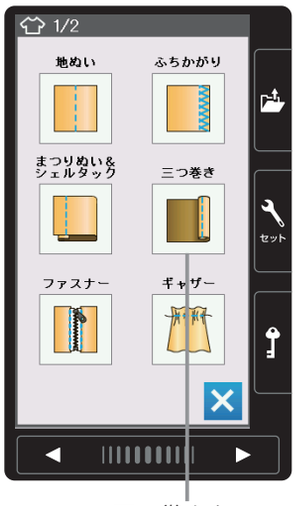
模様の幅をかえずに、模様のぬい位置を左右に移動させることができます。

《右針位置調節キー》

右側の針位置をかえることができます。左側の針位置は固定なので、右に模様の幅が変化します。

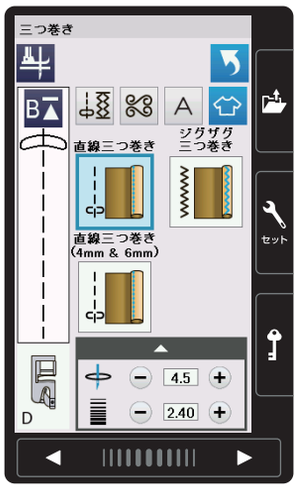
●三つ巻きぬい

〔用途選択画面〕
（1/2 ページ）



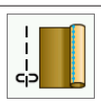
三つ巻きキー

〔模様選択画面／三つ巻き〕

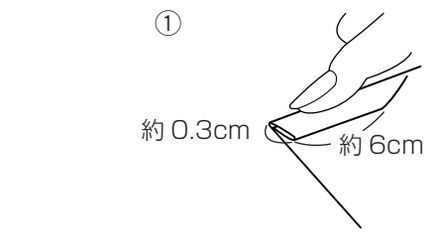


用途選択画面の「三つ巻き」キーを押すと、三つ巻きぬいの模様選択画面になります。
三つ巻きぬいに適した 3 種類の模様が選択できます。

※ 模様  直線三つ巻き（4mm & 6mm）は、オプションの「D1：三つ巻き押さえ」または「D2：三つ巻き押さえ」を使用して、標準の三つ巻き幅より広い幅をぬう場合に使います。

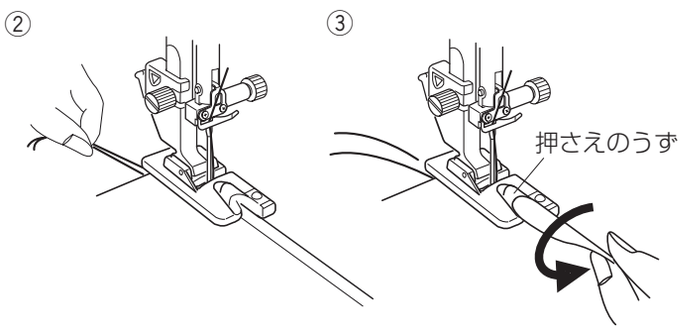
① 模様.....  （直線三つ巻き）
② 押さえ..... D：三つ巻き押さえ 

【ぬい方】（模様  の例）



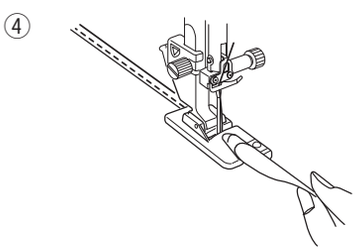
① 布端約 6cm の長さを、約 0.3cm の幅で三つ折りにします。

※ 折り目がつきにくい布は、アイロンで折り目をつけるとぬいやすくなります。

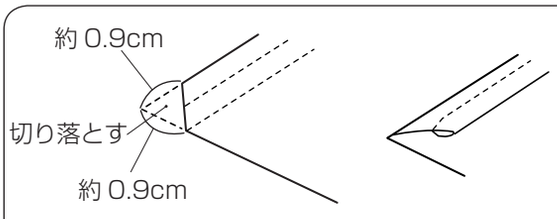


② 最初のぬい位置に針をさして押さえをさげ、上糸を向こう側に引きながら 1 ～ 2cm ぬってミシンを停止します。

③ 針を布にさした状態で押さえをあげ、布の三つ折りの部分を開いて、布端を押さえのうずの中に巻き込みます。



④ 押さえをさげ、布端を立てて、左寄りに引きぎみに持ちあげながらぬいます。

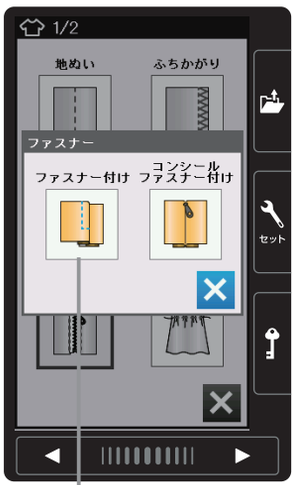


布端の始末

三つ巻きぬいの重なる角の部分は、厚みをうすくするために布端を切り落として折り合わせます。

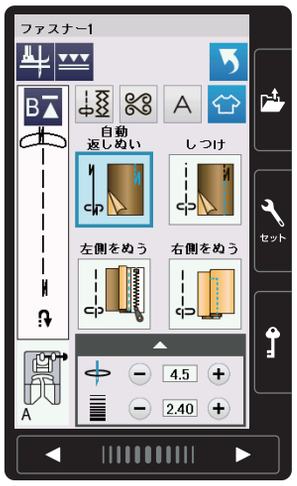
●ファスナー付け

〔用途選択画面／
ファスナー〕

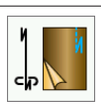
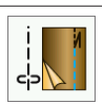


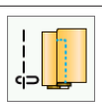
ファスナー付けキー

〔模様選択画面／
ファスナー 1〕



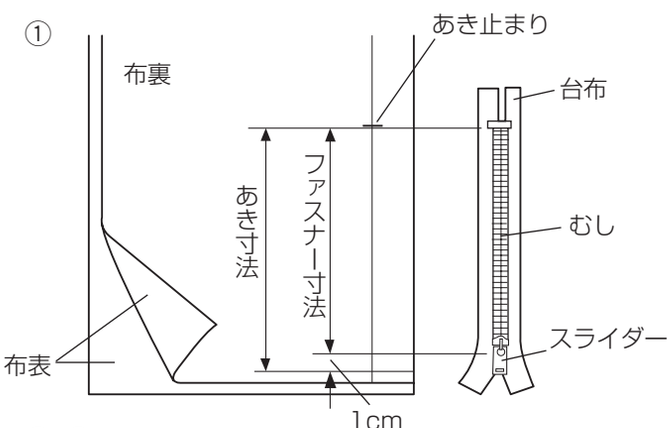
用途選択画面の「ファスナー付け」キーを押すと、2 種類のファスナー付けの用途選択画面になります。
2 種類の中から目的のキーを押すと、それぞれの用途に適したファスナー付けの模様選択画面になります。
ファスナー付けに適した 4 種類の模様が選択できます。

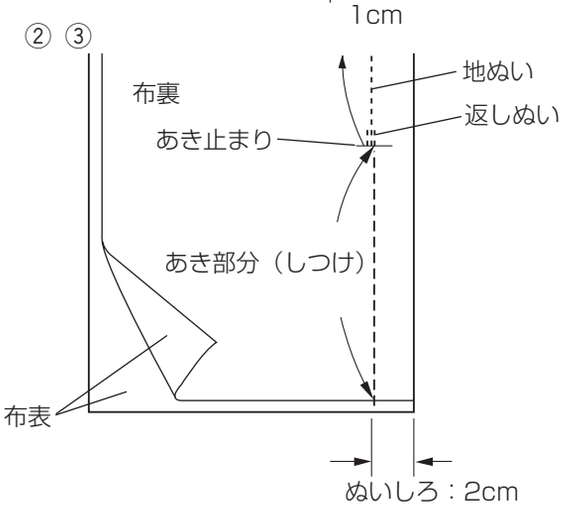
① 模様.....

（自動返しぬい）

（しつけ）

（左側をぬう）

（右側をぬう）

② 押さえ.....A：基本押さえ

E：ファスナー押さえ



【ぬい方】（左脇あきのぬい方例）

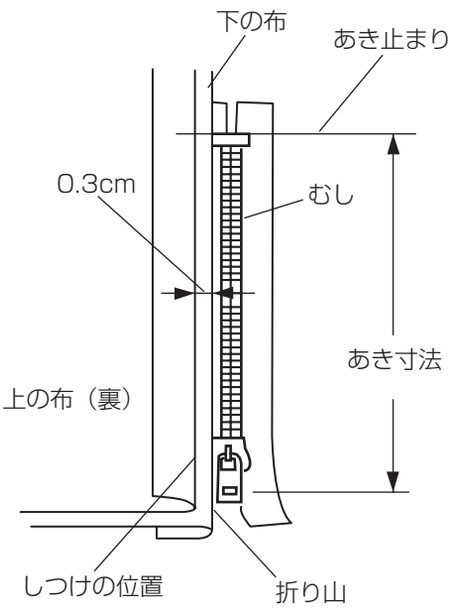
① ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法は、ファスナー寸法に 1cm プラスした寸法です。

② 模様  （自動返しぬい）を選び、A：基本押さえで、布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。

※ 自動返しぬいのぬい方は、「◎実用ぬい／●直線（直線状模様）ぬい／★自動返しぬい」（36 ページ）をごらんください。

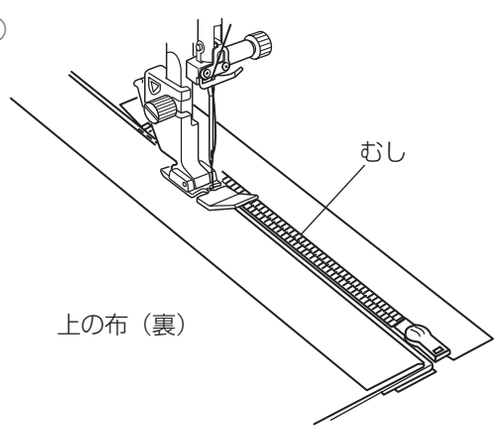
③ 模様  （しつけ）を選び、あき部分のしつけをします。

④



④ ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを 0.3cm 出してアイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

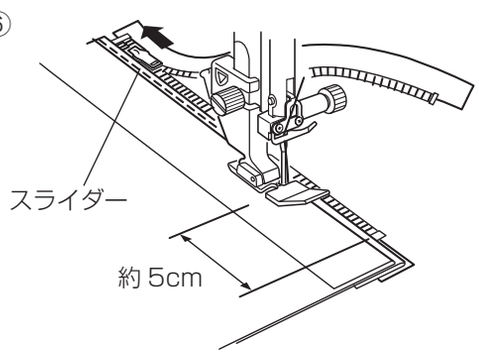
⑤



⑤ 模様  （左側をぬう）を選び、E：ファスナー押さえに付けかえ、むしのきわを押さえの右側面にあて、あき止まりからファスナーの左側をぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは数針返しぬいをします。

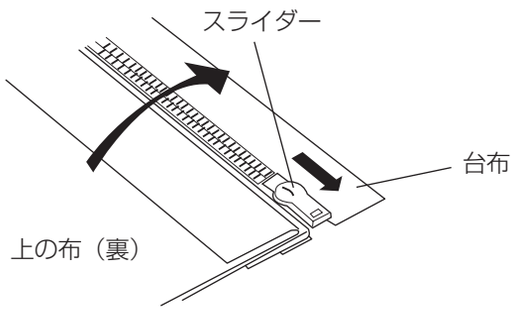
⑥

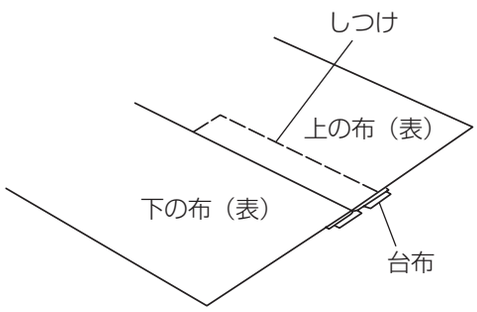


⑥ ファスナーの端から約 5cm ほど手前でミシンを停止し、針を布にさした状態で押さえをあげ、スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりのほつれ止めは数針返しぬいをします。

⑦

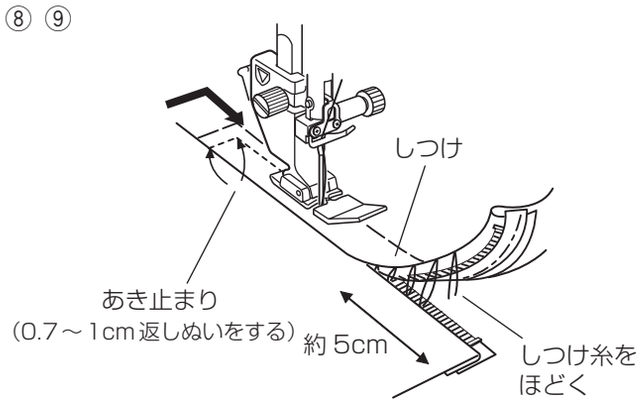


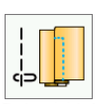


⑦ ファスナーを閉じ、スライダーを上にたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。

模様  （しつけ）を選び、A：基本押さえに付けかえ、かぶせた布と台布をしつけで止めます。

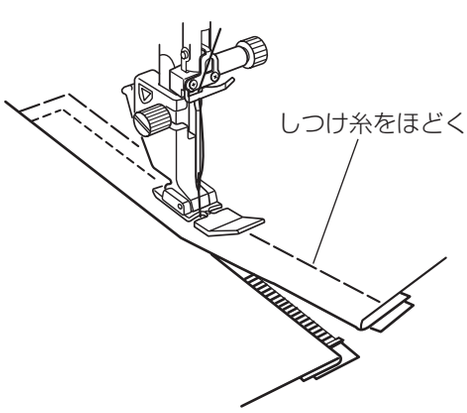
⑧ ⑨



⑧ 模様  （右側をぬう）を選び、E：ファスナー押さえに付けかえ、上の布のあき止まりを 0.7 ～ 1cm ほど返しぬいしてから、むしのきわを押さえの左側面にあて、ファスナーの右側をぬいます。

⑨ ファスナーの上側を 5cm ほど残したところでミシンを停止し、針を布にさした状態で押さえをあげ、手順③でぬったしつけ糸をほどき、スライダーを押さえの向こう側にずらします。

⑩



⑩ 押さえをさげて残りの部分をぬいます。
ぬい終わったら手順⑦でぬったしつけ糸をほどきます。

●コンシールファスナー付け（オプション）

〔用途選択画面／
ファスナー〕



コンシルファスナー
付けキー

コンシールファスナー付けキーを押すと、コンシールファスナー付けに必要な模様選択画面になります。
模様選択画面は 6 個の模様選択キーがあります。

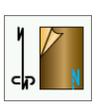
※ コンシールファスナ付け押さえは、オプションになります。

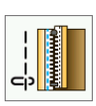
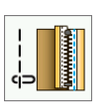
〔模様選択画面／
ファスナー 2〕
（1/2 ページ）



〔模様選択画面／
ファスナー 2〕
（2/2 ページ）



① 模様.....

（自動返しぬい）

（しつけ）

（ぬいしろに
ぬいとめる）

（ぬいしろに
ぬいとめる）

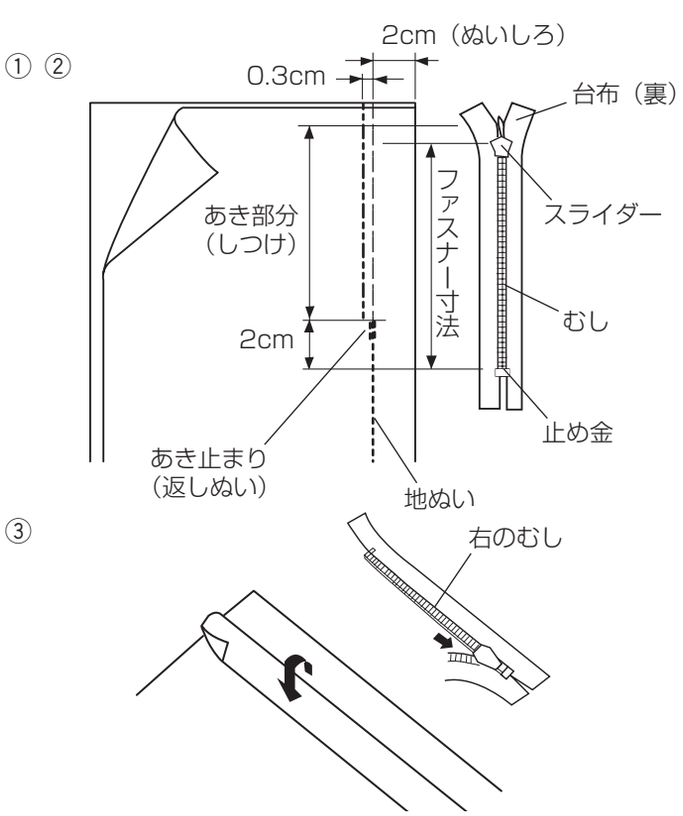
（コンシールファスナー
右側）

（コンシールファスナー
左側）

② 押さえ..... A：基本押さえ

E：ファスナー押さえ

Z：コンシールファスナー押さえ

【ぬい方】

※ コンシールファスナーは、あき寸法より 2cm くらい長いものを準備します。

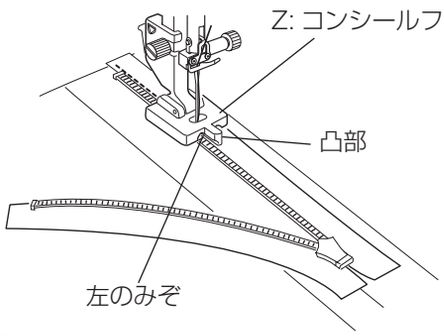
① 模様  （自動返しぬい）を選び、A：基本押さえで、布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。

※ 自動返しぬいのぬい方は、「◎実用ぬい／●直線（直線状模様）ぬい／★自動返しぬい」（36 ページ）をごらんください。

② 模様  （しつけ）を選び、あき部分は地ぬい線より内側に 0.3cm の位置をしつけをします。

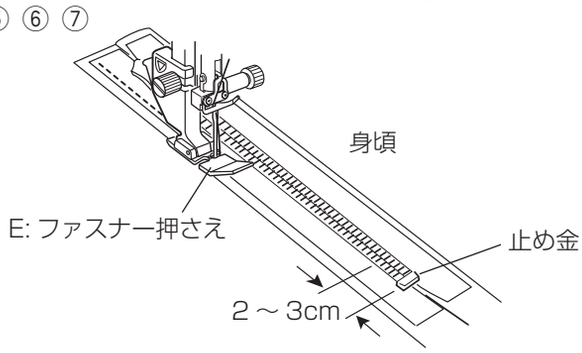
③ ぬいしろの上側の布を身頃側へ折り返します。
ファスナーを裏返しにセットし、ファスナーを開いて右のむしを折り山にあてておきます。

④



④ 模様  （コンシールファスナー右側）を選び、Z: コンシールファスナー押さえに付けかえます。
右側のむしを立てて、押さえの左のみぞに入れ、むしの部分を押さえの凸部にあてながら、あき止まりまでぬっていきます。
※ ぬい始め、ぬい終わりのほつれ止めは数針返しぬいをします。

⑤ ⑥ ⑦

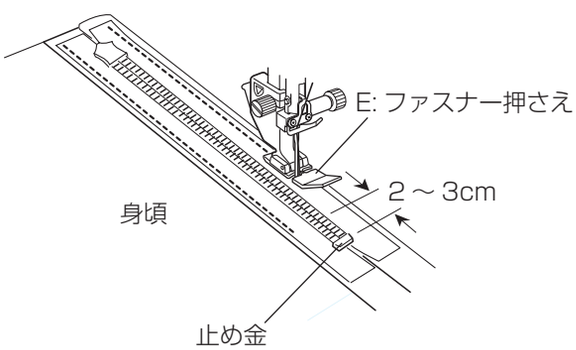


⑤ 押さえをあげ、ファスナーを閉じます。

⑥ 模様  （ぬいしろにぬいとめる）を選び、Z: コンシールファスナー押さえを外し、E: ファスナー押さえをセットします。

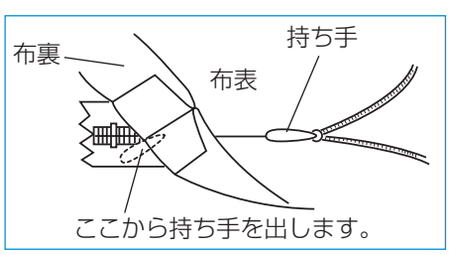
⑦ 身頃を右側に折り返して、ぬいしろに左側の台布の端を止め金から 2 ～ 3cm のところまでぬい付けます。
※ ぬい始め、ぬい終わりのほつれ止めは数針返しぬいをします。

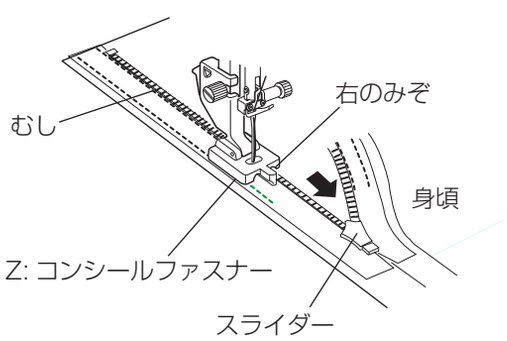
⑧



⑧ 模様  （ぬいしろにぬいとめる）を選び、身頃を左側に折り返して、ぬいしろに右側の台布の端を止め金から 2 ～ 3cm のところまでぬい付けます。
ぬい終わりに返しぬいをします。

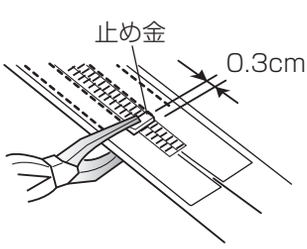
⑨





⑨ 模様  （コンシールファスナー左側）を選び、Z: コンシールファスナー押さえに付けかえます。
②でぬったしつけ糸をほどき、スライダーを止め金までおろします。
表から持ち手を布とファスナーの間に入れるとスライダーは止め金までさがります。
身頃を右側に折り返します。
左のむしを立てて押さえの右のみぞに入れ、④と同じ方法でぬっていきます。

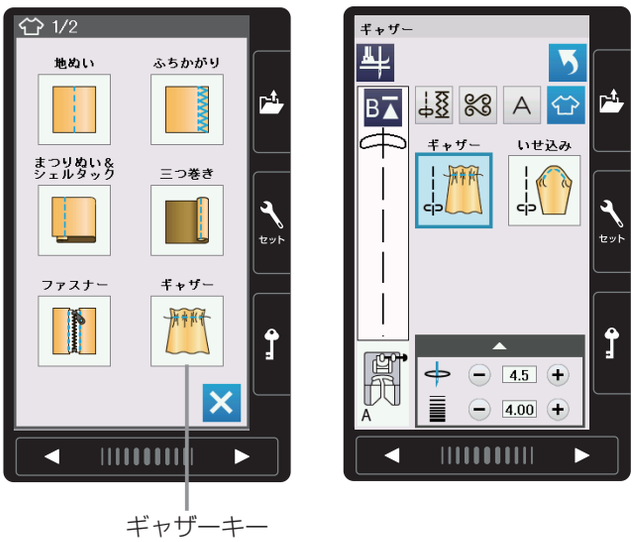
⑩



⑩ 止め金をファスナーのあき止まりの位置より 0.3cm くらい上でペンチで固定します。

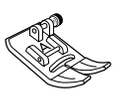
●ギャザー

〔用途選択画面〕(1/2 ページ)〔模様選択画面／ギャザー〕



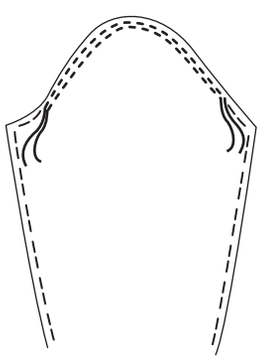
用途選択画面の「ギャザー」キーを押すと、ギャザーの模様選択画面になります。
ギャザーに適した 2 種類の模様が選択できます。

① 模様.....  (いせ込み)

② 押さえ..... A：基本押さえ 

【ぬい方】(模様  の例)

① ②

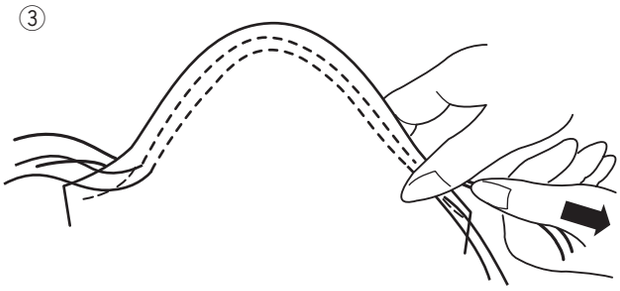


① 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約 10cm ほど引き出しておきます。

※ 下糸を針板の上に引き出す方法は、「◎ぬう前の準備／●下糸を針板の上に引き出す場合」(26 ページ)をごらんください。

② 0.5 ～ 0.7cm の間かくで 2 本平行にぬいます。

③



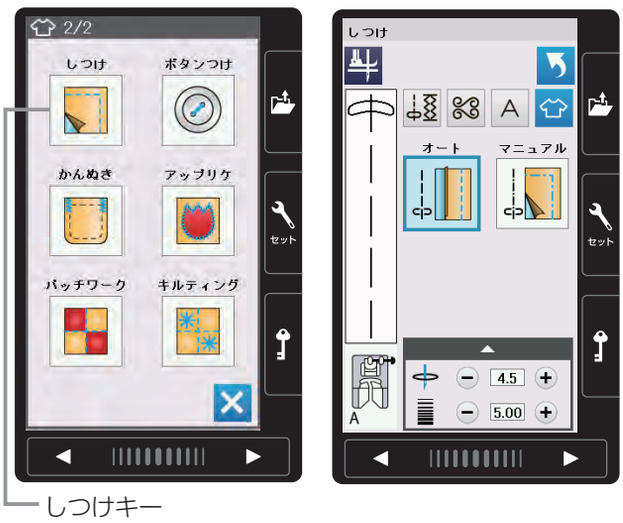
③ 布を軽くつまみ、上糸をそのままにして下糸を両側から引き、まるみを付けます。

※ ひだがよらないように注意して糸を引いてください。

●しつけ

〔用途選択画面〕
(2/2 ページ)

〔模様選択画面／しつけ〕



しつけキー

用途選択画面の「しつけ」キーを押すと、しつけの模様選択画面になります。
しつけに適した 2 種類の模様が選択できます。

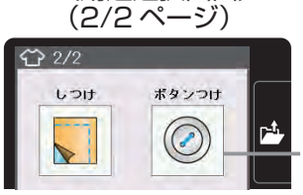
模様  (オート) は、ぬい目のあらさが最大値（約 0.5cm）の直線ぬいを自動的にぬうことができます。
あとで糸をほどきやすいように、糸調子が弱く設定されています。

模様  (マニュアル) は、お好みの間かくを 1 針ずつ手で布を移動させてぬうことができます。

ぬい方は、「◎実用ぬい／●しつけぬい」(40 ページ) をごらんください。

●ボタンつけ

〔用途選択画面〕
(2/2 ページ)



ボタンつけキー

〔メッセージ画面〕



閉じるキー

〔模様選択画面／ボタンつけ〕

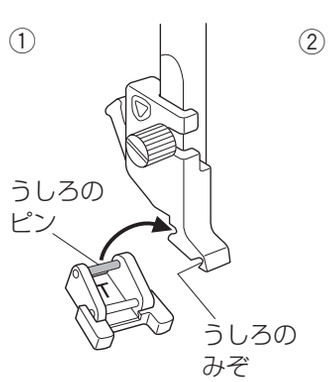


用途選択画面の「ボタンつけ」キーを押すと、ボタン付けの模様選択画面になります。
ボタンつけに適した 2 種類の模様が選択できます。

※ ボタンつけキーを押すと、「送り歯を下げてください。」のメッセージが表示されます。送り歯を確認して、閉じるキーを押します。

⚠ 注意

必ず針がボタンの左右の穴におりることを確認してください。ボタンに針があたると針が折れ、けがの原因になります。



ボタン付け押さえの取り付け方

押さえを交換する場合の基本操作は、「◎操作方法／●押さえの外し方、付け方」(14 ページ) をごらんください。

① 押さえのうしろのピンを押さえホルダーのうしろのみぞにかけます。

② 押さえのうしろを軽くささえながら押さえ上げをさげて取り付けます。

① 模様.....  （普通のボタンつけ）

② 押さえ..... T：ボタン付け押さえ 

③ 送り歯をさげます。（13 ページ参照）

【普通のボタンつけのぬい方】（模様  の例）

※ 模様  （普通のボタンつけ）は、ぬいが終了すると自動的にミシンが停止します。（ミシン停止時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の位置で停止します。）

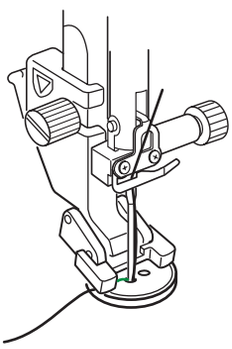
① 〔模様選択画面／ボタンつけ〕



① ボタンの左右の穴の間かくをはかり、模様選択画面（調節画面）の間かく調節キーで、画面の数値を間かくと同じ値に設定します。（最大 7.0mm まで調節できます。）

※ 間かく調節キーは、調節キーを押して表示される調節画面にもあります。どちらを使用しても同じ設定ができます。

② ③ ④ ⑤



② ボタンを押さえの下に置き、はずみ車を手で手前にまわしてボタンの左の穴に針をさします。

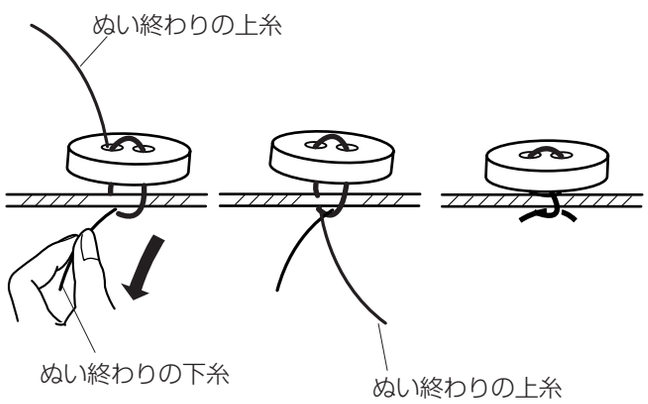
③ ボタンの左右の穴が真横になるようにして、押さえをさげます。

④ はずみ車を手で手前にまわし、針がボタンにあたらないで、ボタンの右の穴に入ることを確認します。

※ 針がボタンにあたる場合は、間かく調節キーで調節してください。（左側の針位置は固定で、右側の針位置が移動します。）

⑤ ミシンをスタートさせると、必要な針数をぬったあと自動的にミシンは停止します。

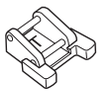
⑥ ⑦



⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を 10 ～ 20cm 残して切ります。（糸切りボタンで切らないでください。）

⑦ ぬい始めの上糸と下糸をボタンのきわで、はさみで切ります。
ぬい終わりの上糸と下糸は、下糸を引いて上糸を布の裏側に引き出し、上糸と下糸を結んでから切ります。

① 模様.....  （根巻きボタンつけ）

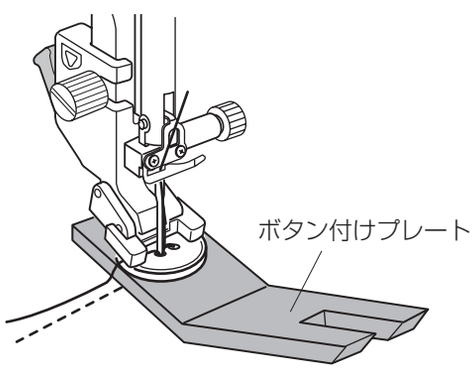
② 押さえ..... T：ボタン付け押さえ 

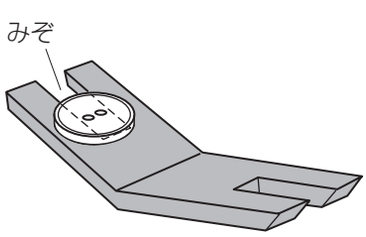
③ 送り歯をさげます。（13 ページ参照）

〔模様選択画面／ボタンつけ〕

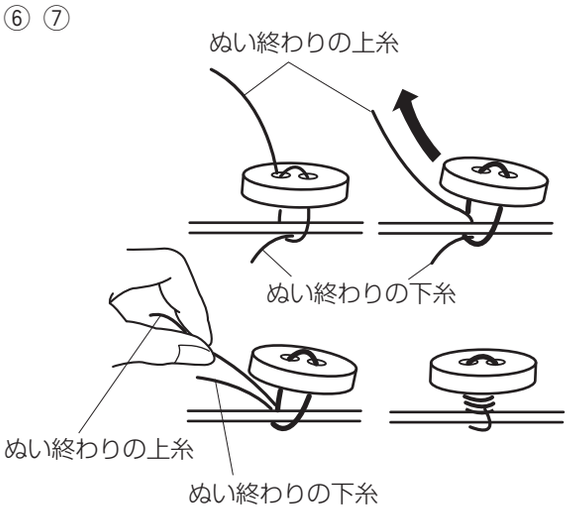


① ② ③ ④ ⑤





⑥ ⑦



【根巻きボタンつけのぬい方】（模様  の例）

根巻きボタンつけは、付属のボタン付けプレートを使用してぬいます。（ボタンの厚さが厚いものは使用できません。）

※ 模様  （根巻きボタンつけ）は、ぬいが終了すると自動的にミシンが停止します。（ミシン停止時の針位置設定が下位置停止になっていても針は上の位置で停止します。）

① ボタンの左右の穴の間かくをはかり、模様選択画面（調節画面）の間かく調節キーで、画面の数値を間かくと同じ値に設定します。（最大 7.0mm まで調節できます。）

※ 間かく調節キーは、調節キーを押して表示される調節画面にもあります。どちらを使用しても同じ設定ができます。

② ボタンを押さえの下に置き、はずみ車を手で手前にまわしてボタンの左の穴に針をさします。

③ ボタンの下にボタン付けプレートを差し込み、ボタンの左右の穴が真横になるようにして、押さえをさげます。

※ ボタン付けプレートは、みぞの部分がボタン穴の下になるように差し込んでください。

※ ボタン付けプレートは 、厚い方が 4.5mm、うすい方が 3mm になっています。根巻きの用途に合わせてお選びください。

④ はずみ車を手で手前にまわし、針がボタンおよびボタン付けプレートにあたらないで、ボタンの右の穴に入ることを確認します。

※ 針がボタンにあたる場合は、間かく調節キーで調節してください。（左側の針位置は固定で、右側の針位置が移動します。）

⑤ ミシンをスタートさせると、必要な針数をぬったあと自動的にミシンは停止します。

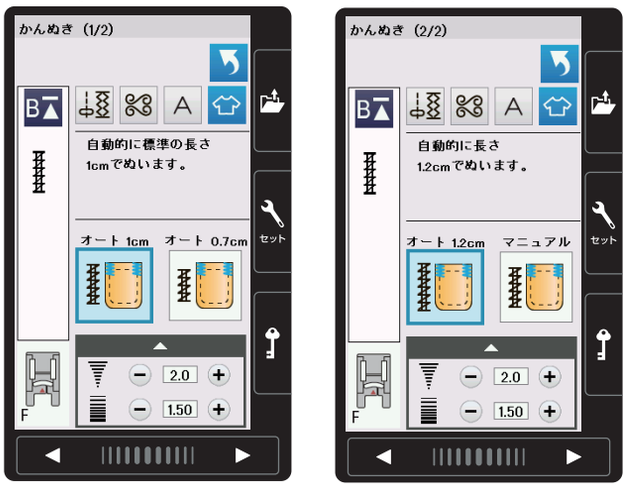
⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を 10 ～ 20cm 残して切ります。（糸切りボタンで切らないでください。）

⑦ ぬい始めの上糸と下糸をボタンのきわで、はさみで切ります。
ぬい終わりの上糸と下糸は、上糸をボタンと布のあいだに引き出し、次にその上糸を引いて下糸をボタンと布のあいだに引き出します。
上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻き付けて結びます。

●かんぬき

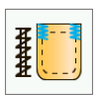
〔模様選択画面／かんぬき〕

（1/2 ページ）　（2/2 ページ）



用途選択画面の「かんぬき」キーを押すと（83 ページ参照）、かんぬきの模様選択画面になります。
かんぬきに適した 4 種類の模様が選択できます。

模様  （オート）は、かんぬきの長さがそれぞれ 1cm、0.7cm、1.2cm の固定値になっています。

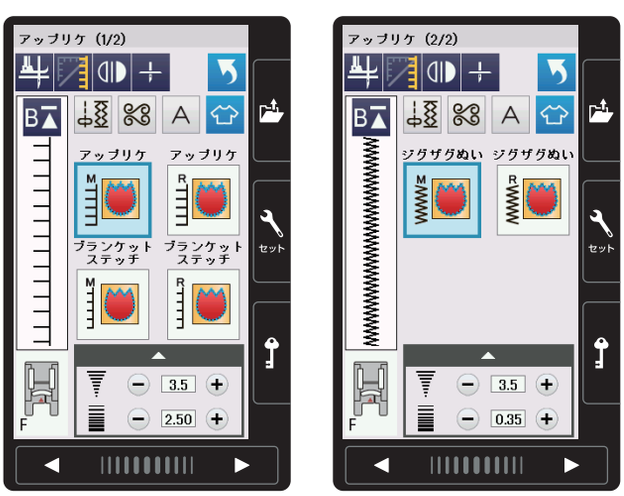
模様  （マニュアル）は、お好みの長さ（最大 2.5cm）がぬえます。

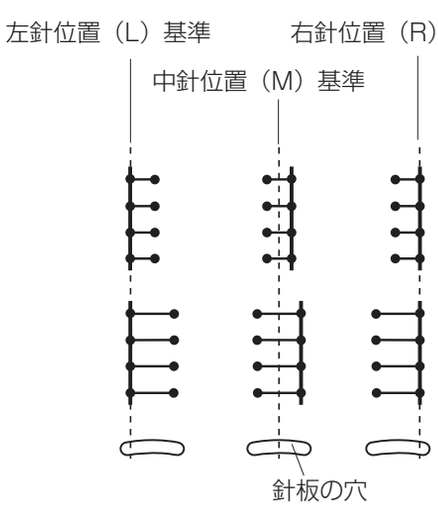
ぬい方は、「◎ボタンホール／●かんぬき」（59 ページ）をごらんください。

●アップリケ

〔模様選択画面／アップリケ〕

（1/2 ページ）　（2/2 ページ）





用途選択画面の「アップリケ」キーを押すと（83 ページ参照）、アップリケの模様選択画面になります。
アップリケに適した 6 種類の模様が選択できます。

画面の模様選択キーに表示されている「M」「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置です。

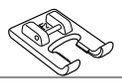
模様  の「M」は、ぬい目の幅をかえたときに、中針位置（中央）を基準（固定）に左右に幅が変化します。

模様  の「R」は、ぬい目の幅をかえたときに、右針位置を基準（固定）に左に幅が変化します。

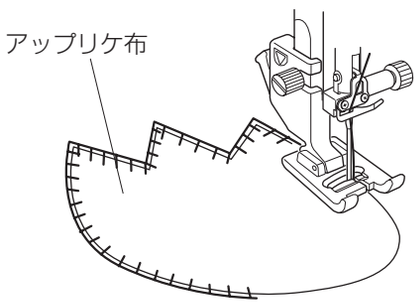
※ アップリケに使用できる模様は、飾りぬい模様グループのアップリケグループにもあります。
アップリケグループの模様選択キーに表示されている「L」は、上記同様、ぬい目の幅をかえたときに、左針位置を基準（固定）に右に幅が変化します。
飾りぬい模様グループは、「◎飾りぬい」（61 ページ）をごらんください。

① 模様.....  （アップリケ）

② 押さえ..... F：サテン押さえ 

または F2：クラフト押さえ 

【ぬい方】（模様  の例）

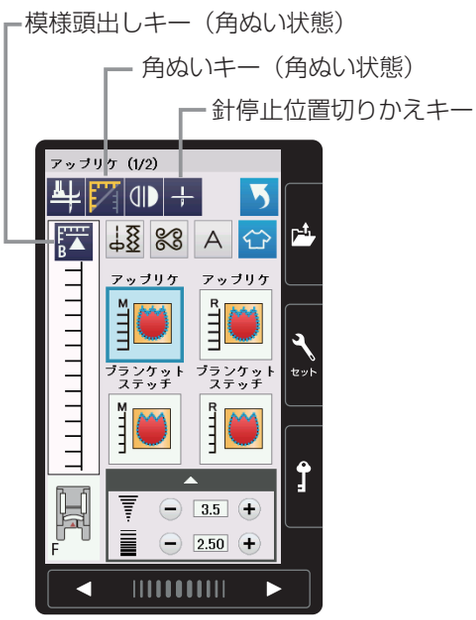


アップリケ布をのり付けするか、しつけで止めます。
模様の針位置が右のときに、アップリケ布の縁の外側にささるようにぬいます。

カーブのところや方向転換するところでは、アップリケ布の外側に針がささった位置でミシンを停止し、針をさしたまま押さえをあげて方向をかえるときれいに仕上がります。

※ピボットぬい設定キーを使用すると便利です。
「◎実用ぬい／●実用ぬいの画面」（27 ページ）をごらんください。

〔模様選択画面／アップリケ〕



針停止位置切りかえキーの使い方

セットキーによるミシンの設定で、針停止位置の設定が「上位置停止」に設定されていても、用途選択の 6 種類のアップリケ模様を選択すると、ミシンが停止したときの針位置は下位置になります。ミシンを停止したときの針位置を上にしたい場合は、模様選択画面の針停止位置切りかえキーを押して上位置停止状態にしてください。

 ：下位置停止状態　  ：上位置停止状態

※ セットキーによる、針停止位置の設定は、「◎ミシンの設定／【通常ぬい設定】②針停止位置」（125 ページ）をごらんください。

角ぬいキーの使い方

模様選択画面の角ぬいキーを利用すると、角の部分で方向転換してから模様頭出しキーにより模様を最初からぬっても、模様のぬい始めにほつれ止めの止めぬいが入らないので、模様をきれいにぬうことができます。

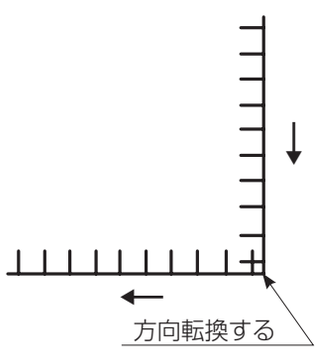
※ 模様頭出しキーは、「◎飾りぬい／●模様組み合わせモード／★模様頭出しキーの使い方」（68 ページ）をごらんください。

① 角ぬいキーを押してキーの表示を角ぬいの状態にします。（角ぬいの状態にセットすると、模様頭出しキーの表示も角ぬい状態の表示にかわります。）

 ：通常の状態　  ：角ぬいの状態

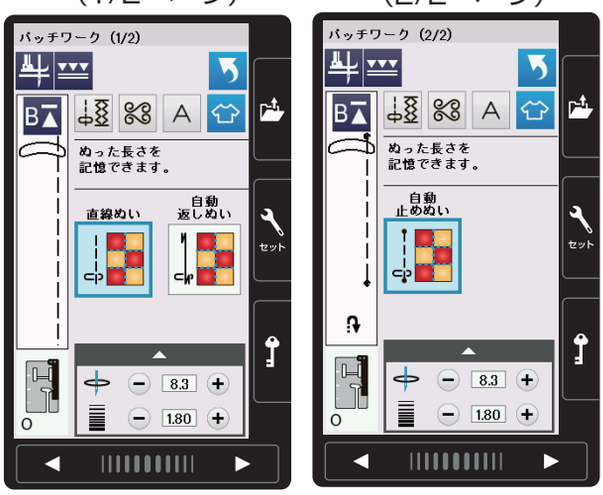
② 方向転換するところのアップリケ布の外側に針がささった位置でミシンを停止します。

③ 針をさしたまま押さえをあげて布の方向をかえ、模様頭出しキーを押してからミシンをスタートさせます。

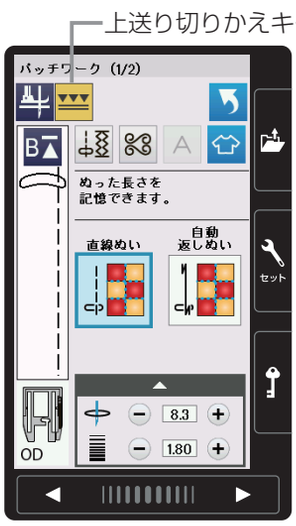


●パッチワーク

〔模様選択画面／パッチワーク〕
（1/2 ページ）　（2/2 ページ）

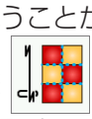


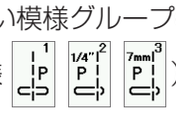
〔模様選択画面／パッチワーク〕（上送り）
（1/2 ページ）



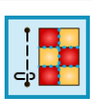
用途選択画面の「パッチワーク」キーを押すと、パッチワークの模様選択画面になります。
パッチワーク（ピーシング）に適した 3 種類の模様が選択できます。

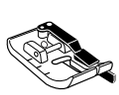
※ 3 種類の模様は、O：パッチワーク押さえを利用してぬうと、0.65cm（1/4 インチ）のぬいしろを正確にぬうことができます。

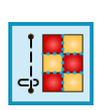
※ 模様   は、自動返しぬいおよび自動止めぬいです。
自動返しぬいおよび自動止めぬいのぬい方は、「◎実用ぬい／●直線（直線状模様）ぬい／★自動返しぬい、★自動止めぬい」（36 ページ）をごらんください。

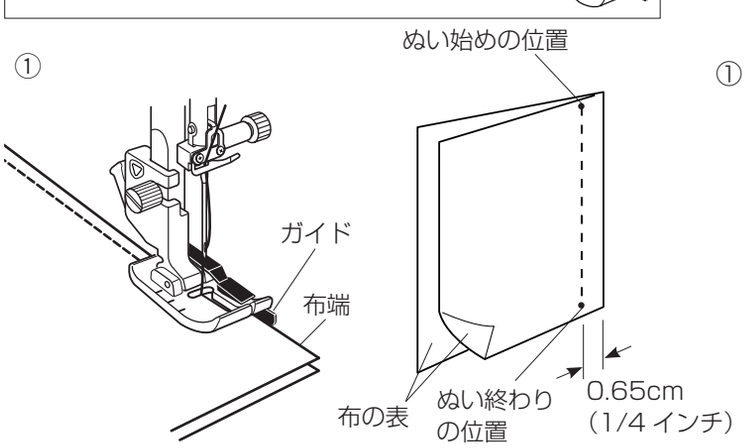
※ ピーシング用の模様は、飾りぬい模様グループのキルトグループにもあります。（模様  ）
模様  は、上記、パッチワークの 3 種類の模様と同様、パッチワーク押さえを利用してぬうと、1/4 インチのぬいしろを正確にぬうことができます。
模様  は、パッチワーク押さえを利用してぬうと、0.7cm のぬいしろを正確にぬうことができます。
飾りぬい模様グループは、「◎飾りぬい」（61 ページ）をごらんください。

※ 上送りぬい切りかえキーを押すと、使用する押さえ表示が OD：パッチワーク用上送り押さえになりますが、標準付属品には含まれていませんので、ご了承願います。
なお、OD：パッチワーク用上送り押さえは、オプション品にて対応予定です。

① 模様.....  （自動止めぬい）

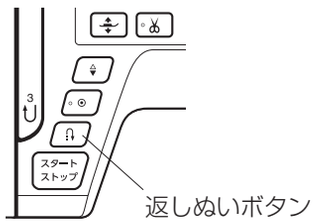
② 押さえ..... O：パッチワーク押さえ 

【ぬい方】（模様  の例）



① 布を中表に合わせ、ぬい始めの位置からミシンをスタートさせ、ぬい終わりの位置でミシンを停止します。

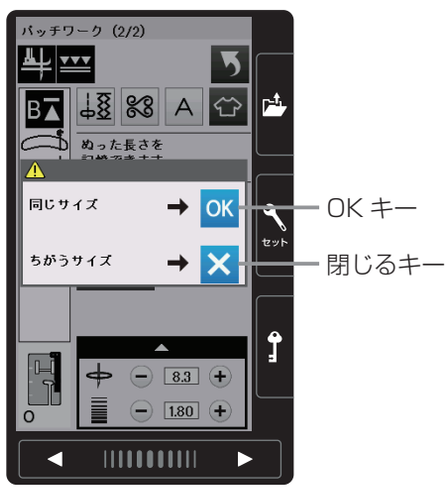
②



② 返しぬいボタンを一度押します。
その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

③

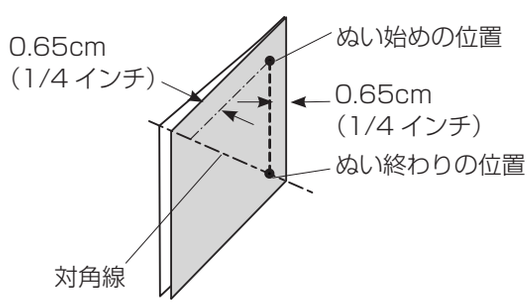
〔ぬい完了後のメッセージ画面〕



③ ミシンが停止するとメッセージ画面が表示されます。

- 引き続き同じ長さをぬう場合は、OK キーを押します。ぬい長さが記憶され、ミシンをスタートさせるだけで、返しぬいボタンを押さなくても同じ長さのものを自動的にぬってミシンは停止します。
- 異なる長さをぬう場合は、閉じるキーを押します。

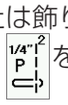
※ ぬい目のあらさの調節は、模様選択画面上でできます。調節キーを押して表示される調節画面にもあります。どちらを使用しても同じ設定ができます。



針板角度目盛りの使い方

パッチワーク布（ピース）の角度と同じ角度目盛りに布端を合わせると、しるしなしで 0.65cm（1/4 インチ）のぬい始めの位置を決めることができます。

【例】レモンスター

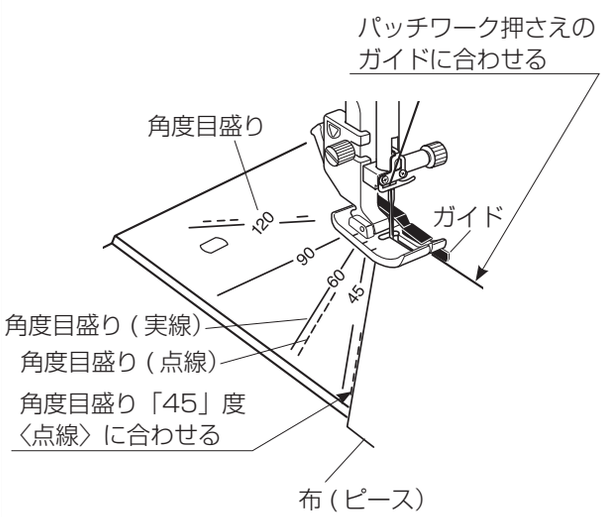
① パッチワーク押さえをセットし、用途選択のパッチワーク 3 種類の模様、または飾りぬい模様グループのキルトグループ、模様  を選びます。

② ピースの対角線に折り目を付けます。

③ ぬい始めは、布端をパッチワーク押さえのガイドおよび角度目盛り「45」度〈点線〉に合わせて布を置きます。

※ パッチワーク押さえを使わず基本押さえなどを使用する場合は、飾りぬい模様グループのキルトグループ、模様  （中針位置の直線）を選び、布端を針板のガイドライン 1/4 インチおよび角度目盛り「45」度〈実線〉に合わせて布を置きます。

④ ぬい終わりは対角線までぬいます。



●キルティング

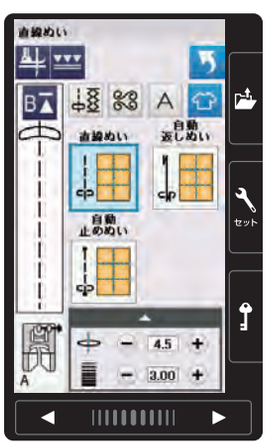
〔用途選択画面〕(2/2 ページ)〔用途選択画面／キルティング〕



用途選択画面の「キルティング」キーを押すと、6 種類のキルティングの用途選択画面になります。
6 種類の中から目的のキーを押すと、それぞれの用途に適したキルティングの模様選択画面になります。

★直線ぬい

〔模様選択画面／直線ぬい〕



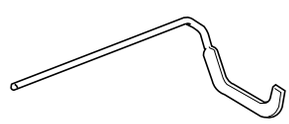
キルティングの用途選択画面の「直線ぬい」キーを押すと、3 種類の直線ぬいの模様が選択できます。

※ ぬい方は、「◎実用ぬい／●直線（直線状模様）ぬい」（33 ページ）をごらんください。

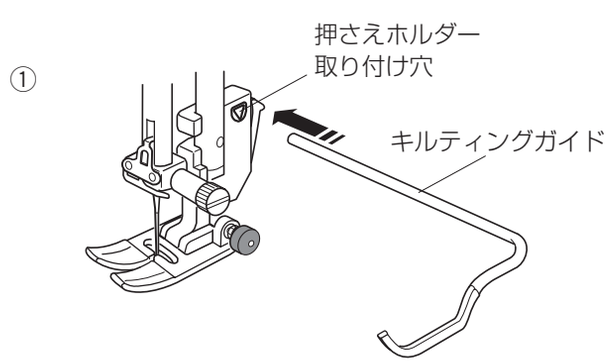
【キルティングガイドの使い方】

キルティングガイドを利用すると、前にぬったぬい目と平行に等間かくでぬうことができます。

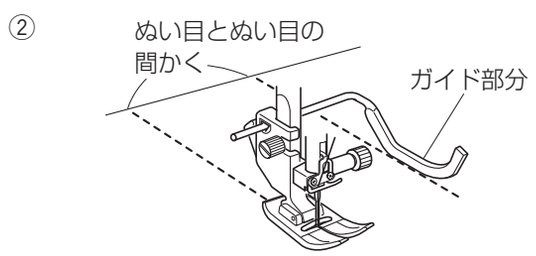
〔キルティングガイド〕



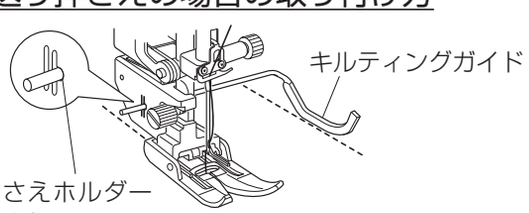
① 押さえホルダーのうしろの取り付け穴にキルティングガイドを差し込みます。（針位置とキルティングガイドのガイド部分までの距離がぬう間かくになります。）



② キルティングガイドのガイド部分にとなりのぬい目を合わせながらぬいます。



上送り押さえの場合の取り付け方



★とじぬい

〔用途選択画面／
キルティング〕



とじぬいキー

〔模様選択画面／とじぬい〕



キルティングの用途選択画面の「とじぬい」キーを押すと、4 種類のとじぬいの模様が選択できます。

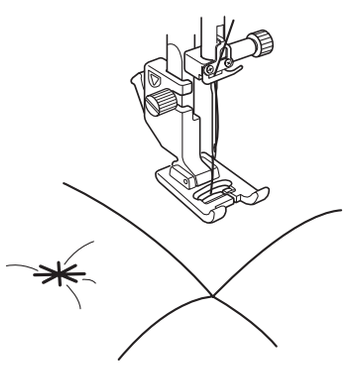
厚みのあるキルト綿をとじるときに使用します。

※ とじぬい模様は 1 つの模様が完成すると、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

① 模様.....  （とじぬい 1）

② 押さえ..... F：サテン押さえ 

【ぬい方】（模様  の例）



ミシンをスタートさせ、自動的に停止するまでぬいます。

★フリーキルティング

〔用途選択画面／
キルティング〕



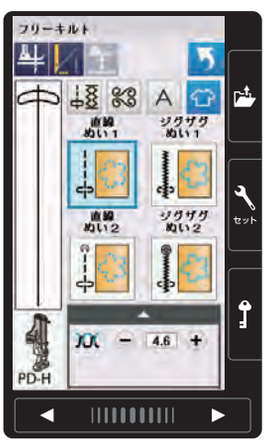
フリーキルトキー

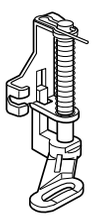


キルティングの用途選択画面の「フリーキルト」キーを押すと、４種類のフリーキルティングの模様が選択できます。

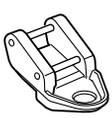
※ フリーキルトを選択すると、送り歯があがっている場合、「送り歯を下げてください。」のメッセージがでますので、送り歯ドロップつまみで送り歯をさげてください。（13 ページ参照）

〔模様選択画面／
フリーキルト〕





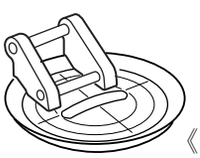
《PD-H：フリーキルト押さえ》



《QC：丸穴キルト押さえ》



《QO：前あきキルト押さえ》



《QV：透明キルト押さえ》

【各種フリーキルト押さえの特長】

《PD-H：フリーキルト押さえ》

直線模様、ジグザグ模様を使用します。
普通地や厚手のキルトに使用する基本的な押さえです。

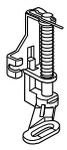
《QC：丸穴キルト押さえ／ QO：前あきキルト押さえ》

直線模様を使用します。
フリーキルトの基本的な押さえです。
押さえ高さの調整が出来、一定の高さでぬう押さえです。
前あきの押さえは、手元が見えやすいので細かな作業に適しています。

《QV：透明キルト押さえ》

ジグザグ模様を使用します。
押さえ高さの調整が出来、一定の高さでぬう押さえです。
手元で見やすく、安定して布を押さえるので、段差のある作品にも適しています。
また、ガイド線があるので先にぬったラインにガイド線を合わせて、次のラインを均等にぬうことができます。

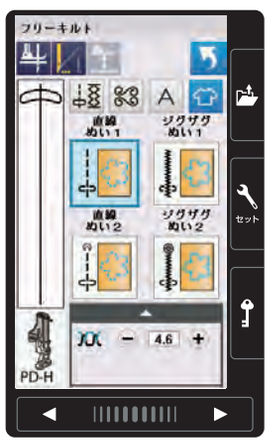
① 模様.....  （直線ぬい 1）



② 押さえ..... PD-H：フリーキルト押さえ

③ 送り歯をさげます。（13 ページ参照）

〔模様選択画面／
フリーキルト〕



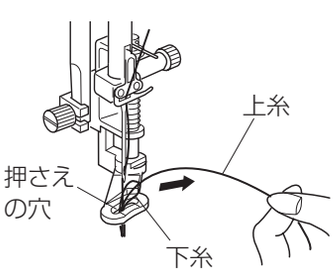
【PD-H：フリーキルト押さえのぬい方】

（模様  の例）

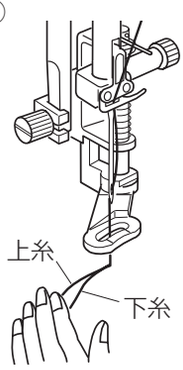
※ PD-H：フリーキルト押さえの取り付け方は、「◎操作方法／● PD-H：フリーキルト押さえの取り付け方」（17 ページ）をごらんください。

両手で布を案内しながら中くらいのスピードでぬいます。
1 針あたり 3 mm以上布を動かさないでください。

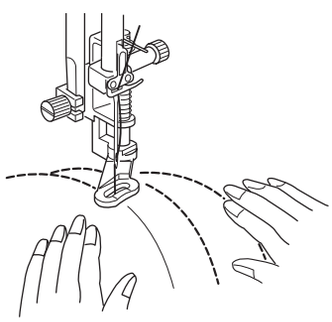
① ② ③



④



⑤

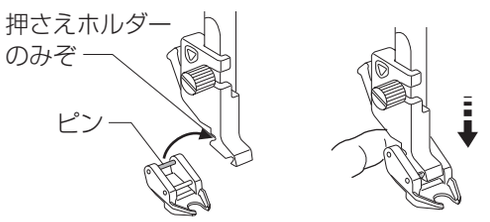


① 布をセットし、上糸の端を針から離れたところで持ちます。（上糸は押さえの穴に入れないでください。）
② ミシンをスタートさせます。
ミシンは 1 針ぬって停止します。
③ 上糸を上に引いて、下糸を引き出します。
※ 下糸を布の裏側でぬい込まないために、布の上に下糸を引き出します。
④ 引き出した上糸と下糸を押さえの穴から下に通し、布の上のぬい込まない位置に手で押さえます。
⑤ もう一度ミシンをスタートさせてぬい始めます。
図案にそって両手で布を案内しながらキルティングします。

※ キルト押さえを使用するときは、布を前後に強く引っ張らないでください。針折れ、けが、故障の原因になります。

⚠ 注意

キルト押さえの取り外し・取り付けは、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。けがの原因になります。

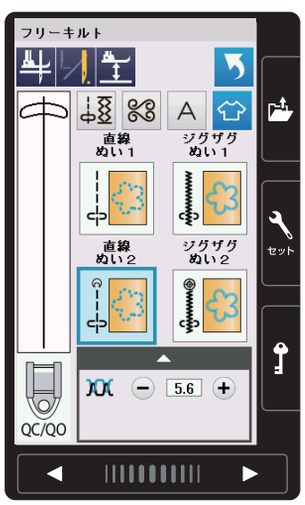


（例）QO：前あきキルト押さえ

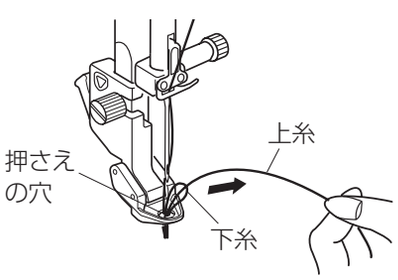
① 模様.....  （直線ぬい２）

② 押さえ..... QC：丸穴キルト押さえ

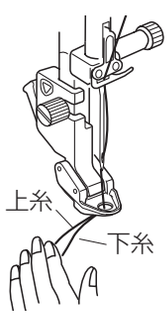
③ 送り歯をさげます。（13 ページ参照）



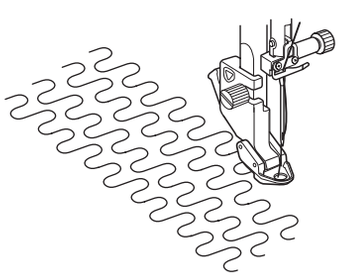
① ② ③



④



⑤



【QC：丸穴キルト押さえ／ QO：前あきキルト押さえ／ QV：透明キルト押さえの取り付け方】

① 電源スイッチを入れた状態で、上下停針ボタンを押して針をあげます。
② ロックキーを押して、ミシンをロック状態にします。
※ ロックキーの使い方は 11 ページをごらんください。
③ 使用しない押さえを外します。
④ 押さえのうしろのピンを押さえホルダーのうしろのみぞにかけます。
⑤ 押さえのうしろを軽く押さえながら押さえ上げをさげます。
※ 取り外すときは、電源スイッチを入れた状態でロックキーを押してミシンをロック状態にし、押さえホルダーのレバーを押して、押さえを外します。

【QC：丸穴キルト押さえ／ QO：前あきキルト押さえのぬい方】

（模様  の例）

両手で布を案内しながら中くらいのスピードでぬいます。1 針あたり 3 mm以上布を動かさないでください。

布の種類や厚さによってはすきまがあいたり、強く押さえすぎたりする場合があります。その場合は押さえ高さの調節をしてください。（110ページをごらんください。）

① 布をセットし、上糸の端を針から離れたところで持ちます。（上糸は押さえの穴に入れないでください。）
② ミシンをスタートさせます。
ミシンは 1 針ぬって停止します。
③ 上糸を上に引いて、下糸を引き出します。
※ 下糸を布の裏側でぬい込まないために、布の上に下糸を引き出します。
④ 引き出した上糸と下糸を押さえの穴から下に通し、布の上のぬい込まない位置に手で押さえます。
※ QO：前あきキルト押さえは押さえの穴がないので、引き出した上糸と下糸を横にして、押さえておきます。
⑤ もう一度ミシンをスタートさせてぬい始めます。
図案にそって両手で布を案内しながらキルティングをぬいます。

※ キルト押さえを使用するときは、布を前後に強く引っ張らないでください。針折れ、けが、故障の原因になります。

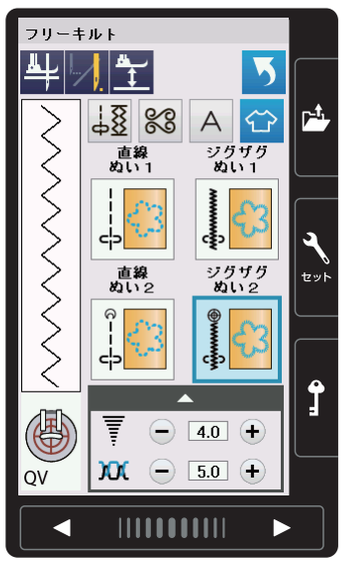
① 模様.....  （ジグザグぬい２）

② 押さえ..... QV：透明キルト押さえ

③ 送り歯をさげます。（13 ページ参照）

【QV：透明キルト押さえのぬい方】

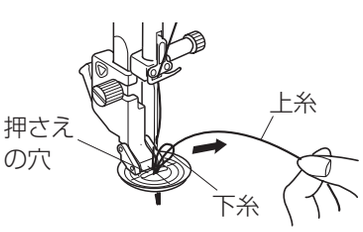
（模様  の例）



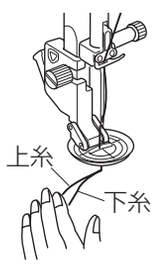
両手で布を案内しながら中くらいのスピードでぬいます。
１針あたり３mm以上布を動かさないでください。

布の種類や厚さによってはすきまがあいたり、強く押さえすぎたりする場合があります。その場合は押さえ高さの調節をしてください。（110ページをごらんください。）

① ② ③



④



① 布をセットし、上糸の端を針から離れたところで持ちます。（上糸は押さえの穴に入れないでください。）

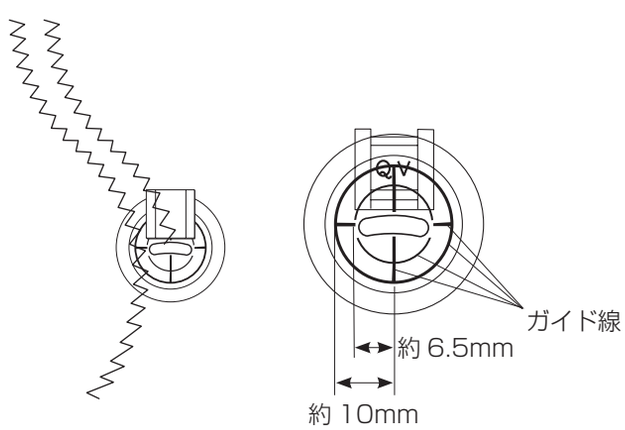
② ミシンをスタートさせます。
ミシンは１針ぬって停止します。

③ 上糸を上に引いて、下糸を引き出します。

※ 下糸を布の裏側でぬい込まないために、布の上に下糸を引き出します。

④ 引き出した上糸と下糸を押さえの穴から下に通し、布の上のぬい込まない位置に手で押さえます。

⑤



⑤ もう一度ミシンをスタートさせてぬい始めます。
図案にそって両手で布を案内しながらガイド線に合わせ、等間隔にキルティングすることができます。

※ キルト押さえを使用するときは、布を前後に強く引っ張らないでください。針折れ、けが、故障の原因になります。

〔模様選択画面／フリーキルト〕



〔押さえ高さ調節画面〕



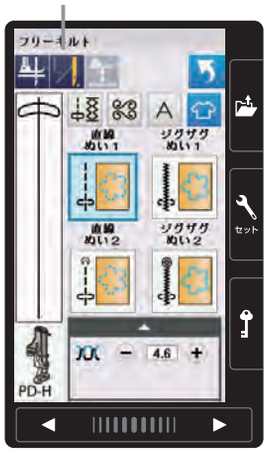
押さえ高さ調節

PD-H：フリーキルト押さえは、ぬい中最適な押さえ高さ（押さえの下面が布に軽く触れる位置）に自動セットされますが、QC：丸穴キルト押さえ、QO：前あきキルト押さえ、QV：透明キルト押さえの場合、布の種類や厚さによってはすきまがあいたり、強く押さえすぎたりする場合があります。その場合は押さえ高さの調節をしてください。

① 押さえ高さ調節キーを押します。(模様直線ぬい 2 の例)
② 押さえ高さ調節画面が表示されます。
※ 高さのオート値（電源を入れたとき、ミシンに自動的に設定されている値）は、1.5mm です。
③ 押さえ高さを高くするときは、「+」キーを押します。
押さえ高さを低くするときは、「−」キーを押します。
④ OK キーを押します。変更した値が確定されて、前の画面にもどります。
※ 閉じるキーを押すと押さえ高さが変更されないで、前の画面にもどります。
※ 変更した値をオート値にもどす場合は、初期化キーを押して、OK キーを押します。

〔模様選択画面／フリーキルト〕

1 針停止キー



1 針停止キーの使い方

- フリーキルティング模様を選んだ直後、模様選択画面の 1 針停止キーの表示は  になっています。

  この状態でミシンをスタートさせるとミシンは自動的に 1 針ぬって停止し、キーの表示が  にかわります。

  この表示の状態でミシンを再スタートさせると連続してぬいます。
- 最初から連続してぬいたい場合は、1 針停止キーを押してキーの表示を  にかえてください。

※  キーは、押すごとに 2 つの表示が切りかわります。

- フリーキルト模様をぬったあと、そのまま同じ模様を別の場所にぬう場合、ミシンをスタートさせてから自動的に 1 針ぬって停止したいときは、1 針停止キーを押してキーの表示を  にかえてください。

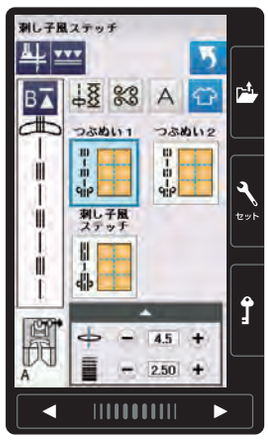
★刺し子風ステッチ

〔用途選択画面／
キルティング〕



刺し子風ステッチキー

〔模様選択画面／
刺し子風ステッチ〕



キルティングの用途選択画面の「刺し子風ステッチ」キーを押すと、３種類の刺し子風ステッチの模様が選択できます。

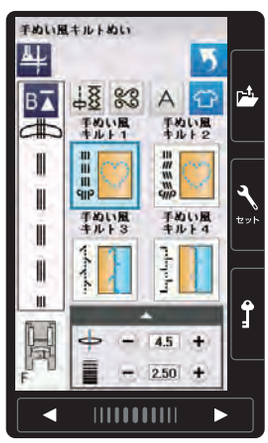
★手ぬい風キルトぬい

〔用途選択画面／
キルティング〕



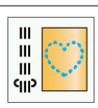
手ぬい風キルトぬいキー

〔模様選択画面／
手ぬい風キルトぬい〕

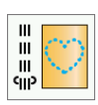


キルティングの用途選択画面の「手ぬい風キルトぬい」キーを押すと、４種類の手ぬい風キルトぬいの模様が選択できます。

※ 手ぬい風キルトぬいの模様は、飾りぬい模様グループのキルトグループ 5/6、6/6 ページにもあります。

① 模様.....  （手ぬい風キルト 1）

② 押さえ..... F：サテン押さえ 

【ぬい方】（模様  の例）



手ぬい風キルトぬいの模様は、下糸が上に引きあげられるので、ステッチが手ぬい風に見えます。

上糸はナイロン糸、下糸は普通の糸を使用してぬいます。
針は 14 ～ 16 番を使用します。

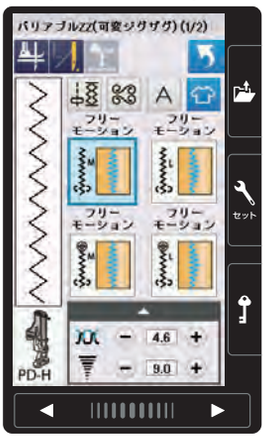
★バリアブル ZZ(可変ジグザグ)

〔用途選択画面／
キルティング〕



バリアブル ZZ
（可変ジグザグ）キー

〔模様選択画面／
バリアブル ZZ〕
（1/2 ページ）

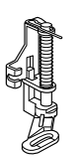


（2/2 ページ）



① 模様..... （フリーモーション）

② 押さえ..... PD-H：フリーキルト押さえ



キルティングの用途選択画面の「バリアブル ZZ（可変ジグザグ」キーを押すと、6 種類の可変ジグザグぬいの模様が選択できます。

【ぬい方】（模様 の例）

これらの模様はフリーキルティングを行うとき、ニーリフトを使用して、ひざでぬい目の幅を自由にかえることができるので両手が使えて便利です。（ぬっているとき、ニーリフトを右側に押すほどぬい目の幅が大きくなります。）

模様 は、ぬい目の幅が中央を基準に左右に変化します。

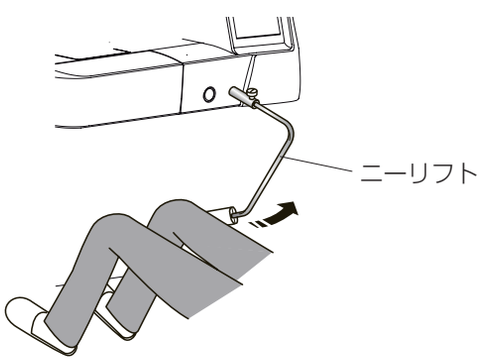
模様 は、ぬい目の幅が左側を基準に右に変化します。

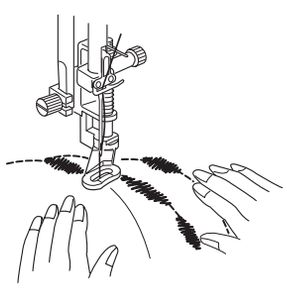
※ ミシンが停止しているときにニーリフトを操作すると、通常の使用方法と同様、押さえのあげさげができます。ニーリフトの取り付け方および通常の操作方法は、「◎操作方法／●ニーリフト」（12 ページ）をごらんください。

※ 選んだ模様によって使用する押さえが異なります。正しい押さえを使用してください。
PD-H : フリーキルト押さえの取り付け方は、「◎操作方法／● PD-H : フリーキルト押さえの取り付け方」（17 ページ）をごらんください。
QV：透明キルト押さえの取り付け方は、（108 ページ）をごらんください。

※ ぬい方や 1 針停止キーの使い方は、「★フリーキルティング」（110 ページ）と同じです。

※ ニーリフトの移動量に対する針の振る量（ぬい目の幅）をかえることができます。「◎ミシンの設定／【通常ぬい設定】／⑥バリアブル ZZ（可変ジグザグ）感度調整」（126 ページ）をごらんください。



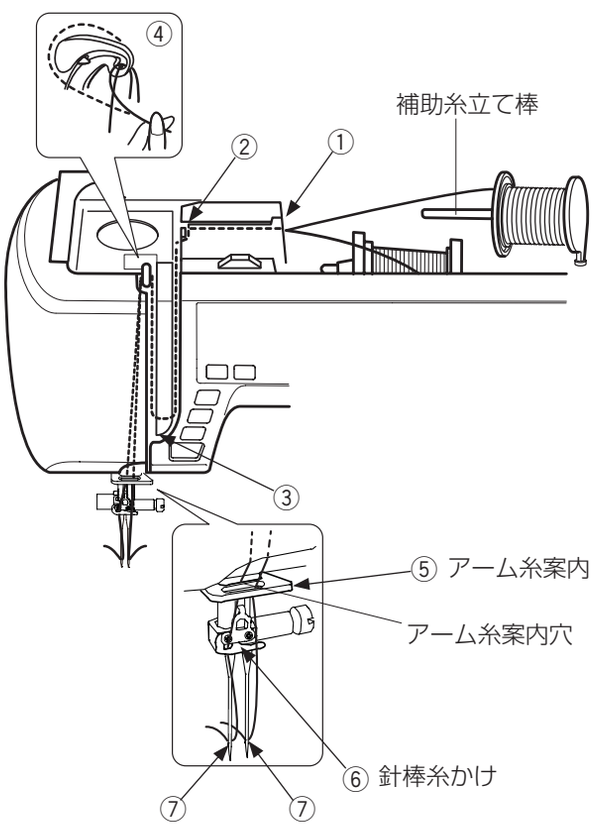


◎ 2 本針ぬい

⚠ 注意
針を交換するときは、必ずロックキーによりミシンをロック状態にしてから行ってください。 けがの原因になります。

付属の 2 本針を使用して 2 本針ぬいを行うと、きれいな飾りぬいができます。

- 2 本針ぬいは、実用ぬいグループおよび飾りぬいの模様グループができます。
  （模様によってはできない模様があります。）
  ボタンホールグループ、飾りぬい模様の模様組み合わせモード、文字ぬいおよび用途選択の模様はできません。
- 2 本針ぬいは、付属の 2 本針をご使用ください。
  2 本針の交換方法は、「◎操作方法／●針の取りかえ」（19 ページ）をごらんください。
- ぬい終わりの上糸と下糸はミシンの面板に付いている糸切りで切ってください。
  （糸切りボタンを使用しないでください。）
  面板の糸切りの使い方は、「◎ぬう前の準備／●直線（直線状模様）ぬい／★直線ぬい（中針位置）／〔面板の糸切りの使い方〕欄」（34 ページ）をごらんください。
- 2 本針ぬいは、試しぬいをして確認してください。



【上糸のかけ方】

※ 2 本針ぬいを行うときは、補助糸立て棒を使います。
補助糸立て棒の取り付け方法は、「◎ぬう前の準備／●下糸の準備／★補助糸立て棒の使い方」（21 ページ）をごらんください。

※ 糸は、60 番および 60 番より細い糸を使用してください。

2 つの糸こまから引き出した 2 本の糸は、途中でよじれないように①～⑦の手順で正しくかけてください。

①～④
糸のかけ方は、針が 1 本のときの通常の上糸かけの手順①～④と同じです。
「◎ぬう前の準備／●上糸の準備／★上糸かけ」（24 ページ）をごらんください。

⑤ 1 本の糸はアーム糸案内に右からかけます。
もう 1 本の糸はアーム糸案内の穴に通します。

⑥ 1 本の糸は針棒糸かけに右からかけます。
もう 1 本の糸は針棒糸かけにはかけません。

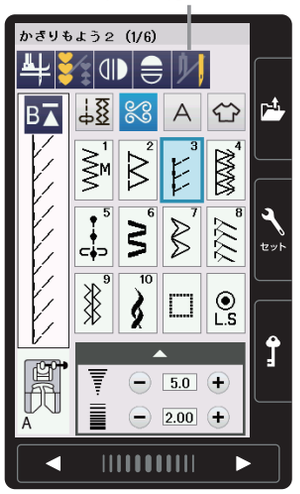
⑦ 2 本針に左右に分けて糸を通します。

※ 2 本針は糸通しが使えません。針穴に糸を通すときは、手で針の手前から向こう側に通してください。

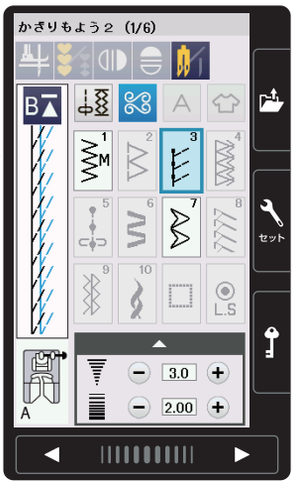
① ②

〔模様選択画面〕
1 本針ぬい設定状態

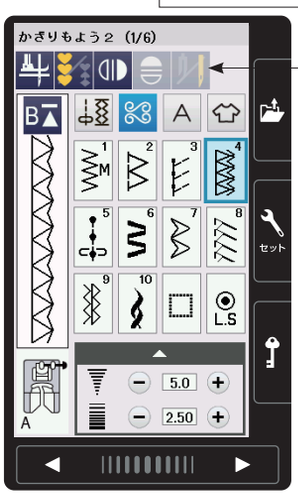
2 本針ぬい切りかえキー



〔模様選択画面〕
2 本針ぬい設定状態



〔画面【A】〕 2 本針ぬいに適さない模様が選ばれている場合の画面



2 本針ぬい切りかえキー（表示がグレー）

③ 《模様  の例》



④ 〔針交換確認のメッセージ画面〕



OK キー

【ぬい方】

（飾りぬい模様／飾り模様 2 グループ、模様  の例）

① 模様選択画面の 2 本針ぬい切りかえキーを押して 2 本針ぬい設定にします。

 ：1 本針ぬい設定状態

 ：2 本針ぬい設定状態

※ ぬい目の幅が最大 3.0mm に制限されます。
直線状模様の場合は、針位置が 3.0 ～ 6.0 の範囲に制限されます。
2 本針ぬいを行うときは、安全のために、必ず 2 本針ぬい切りかえキーを押して 2 本針ぬい設定状態にしてください。

※ 2 本針ぬい設定状態にすると、2 本針ぬいに適さない模様の模様選択キーの色がグレーにかわり、キーを押しても受け付けられないようになります。
1 本針ぬい設定状態で 2 本針ぬいに適さない模様が選ばれているときは、2 本針ぬい切りかえキーの色がグレーになっていて、押しても受け付けられないようになっています。（左図、画面【A】参照）
2 本針ぬいに設定する場合は、2 本針ぬいに適した模様を選んでキーの色をかえてから 2 本針ぬい設定状態にしてください。

② ぬう模様に適した押さえに交換します。

※ 2 本針ぬいに使用する押さえは、A：基本押さえまたは F：サテン押さえです。
画面の押さえ表示にしたがった押さえを使用してください。

③ 上糸を、A：基本押さえを使用している場合は押さえの下から向こう側に、F：サテン押さえを使用している場合は押さえの下から横に引き出し、押さえ上げをさげてぬい始めます。

※ ぬい方向をかえるときは、針をあげてから布の方向をかえてください。

④ 2 本針ぬいが終了したら通常の針に交換します。

※ 2 本針を取り付けた状態で通常のぬいを行うと、針が押さえや針板にあたる場合があります。

※ 2 本針ぬい設定状態は、もう一度 2 本針ぬい切りかえキーを押すか、電源スイッチを一度切り、再度電源スイッチを入れると解除されます。
2 本針ぬい切りかえキーを押した場合は、針交換確認のメッセージ画面が表示されます。OK キーを押すとメッセージ画面が消えます。

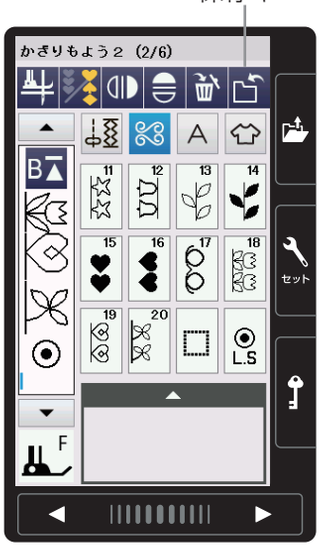
◎模様データの保存・呼び出し

組み合わせた模様データをミシンやUSBメモリに保存し（ファイルセーブ）、いつでも呼び出して（ファイルオープン）ぬうことができます。

●模様データの保存

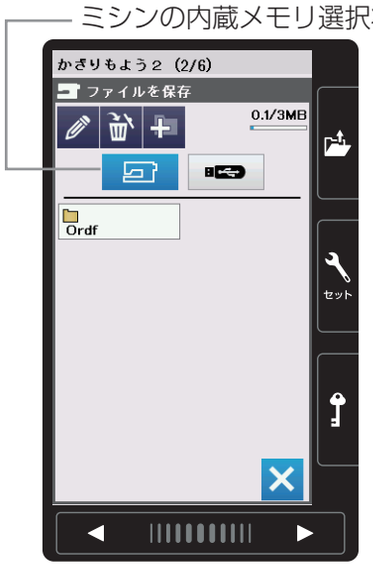
〔模様選択画面〕

①　保存キー



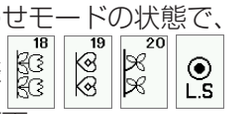
②　〔ファイルを保存画面〕

ミシンの内蔵メモリ選択状態



飾りぬいの模様組み合わせモードおよび文字ぬいでできます。

【ミシンの内蔵メモリに保存する】
（かざりもよう２の例）

① 模様組み合わせモードの状態で、かざりもよう２グループの模様  を組み合わせた直後の模様選択画面。

保存キーを押して「ファイルを保存」画面を表示させます。

② ミシンに用意されているフォルダに保存する場合は、「ファイルを保存」画面の Ordf を押します。

※ 新しいフォルダを作成して保存する場合は、【新規フォルダの作成方法】（116ページ）をごらんください。

※ 手順②や③の画面で、フォルダやファイルが１画面に表示しきれない数だけ保存されている場合は、ページキーで次のページ（画面）を確認できます。

 … ネーム書きかえキー
すでに名前の付いているフォルダ名やミシンに用意されているファイル名を変更するときに使います。
（117ページ参照）

 … 削除キー
フォルダを削除するときに使います。
（118ページ参照）

 … 新規フォルダキー
新しいフォルダを作成するときに使います。（116ページ参照）

 … 内蔵メモリキー
ミシンの内蔵メモリに保存するときに選びます。

 … USBメモリキー
USBメモリに保存するときに選びます。

Ordf … ミシンに用意されているフォルダです。

③ 〔Ordf 画面〕



③ ミシンに用意されているファイル名「M_001」で保存する場合は、「Ordf」画面の OK キーを押すと模様データがミシンに保存され、模様選択画面にもどります。

※ すでに「M_001」名で保存されているデータがある場合は、自動的に番号が繰り上げられ、「M_002」が表示されます。

※ お好みのファイル名で保存する場合は、【ネーム書きかえキーの使い方】（117 ページ）をごらんください。

※「もどり」キーを押すと 1 つ前の「ファイルを保存」画面に、閉じるキーを押すと模様選択画面に、データは保存されずにもどります。

---

① 〔新規名称画面〕



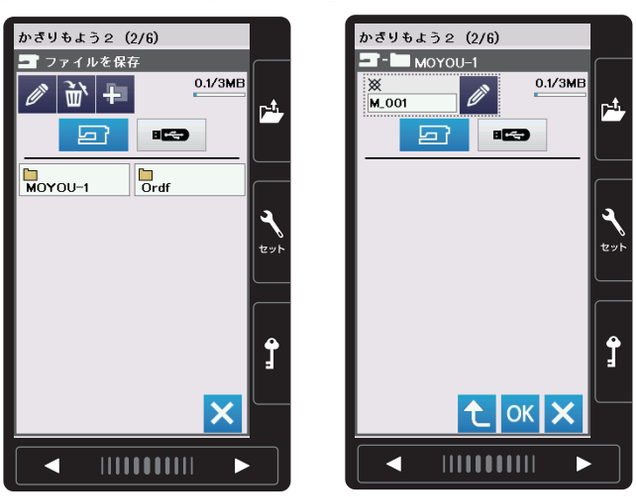
【新規フォルダの作成方法】

ミシンに用意されているフォルダを使わないでお好みのフォルダを作成してデータを保存する場合は、下記の手順で保存します。

① 前ページ手順②の「ファイルを保存」画面の新規フォルダキー  を押して「新規名称」画面を表示させ、文字キーによりお好みの名前（8 文字以内）を付けて OK キーを押し、再度「ファイルを保存」画面を表示させます。（例では、「MOYOU−1」と入力）

※ 文字の入力中に修正したい場合は、カーソル移動キーで取り消したい文字にカーソルを合わせ、削除キーで取り消すことができます。

②〔ファイルを保存画面〕 ③ 〔MOYOU-1 画面〕



②「ファイルを保存」画面に、新規に作成した「MOYOU−1」フォルダが表示されるので、 

を押して「MOYOU−1」画面を表示させます。

③「MOYOU−1」画面の OK キーを押すと、ファイル名「M_001」の模様データがフォルダ名「MOYOU−1」に保存され、模様選択画面にもどります。

①〔ファイルを保存画面〕

ネーム書きかえキー（青色）



②

ネーム書きかえキー（黄色）



③〔新規名称画面〕



〔ファイルを保存画面〕



【ネーム書きかえキーの使い方】

ネーム書きかえキーは、すでに作成されているフォルダの名前を書きかえたり、ミシンに用意されているファイル名「M_001」等を使わずに、お好みのファイル名を付けて保存するときに使います。

作成されているフォルダの名前を変更する場合

① 模様選択画面の保存キーを押して「ファイルを保存」画面を表示させ、ネーム書きかえキーを押してキーの表示を黄色にかえます。

※ キーの色が黄色の状態でフォルダの名前をかえることができます。

② 名前をかえたいフォルダ（例えば MOYOU-1 ）を押して「新規名称画面」を表示させます。

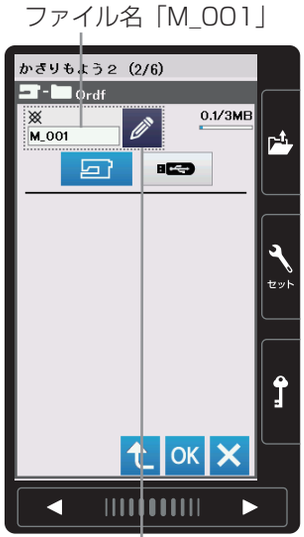
③ 文字キーによりお好みの名前（8 文字以内）を付けて OK キーを押します。（例では、「ST−10」）
再度「ファイルを保存」画面が表示され、フォルダ名が「ST−10」に書きかえられています。

※ 名前の入力方法は、【新規フォルダの作成方法】（116 ページ）を参照してください。

---

①〔Ordf 画面〕

ファイル名「M_001」



ネーム書きかえキー

②〔新規名称画面〕



OK キー

ファイルにお好みの名前を付けて保存する場合

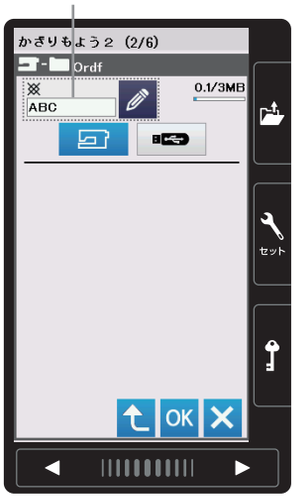
① 例えば、【ミシンの内蔵メモリに保存する】手順③（116 ページ）の「Ordf」画面のファイル名「M_001」をお好みのファイル名に書きかえる場合は、「Ordf」画面のネーム書きかえキーを押して「新規名称画面」を表示させます。

② 文字キーによりお好みの名前（8 文字以内）を付けて OK キーを押します。（例では、「ABC」）

※ 名前の入力方法は、【新規フォルダの作成方法】（116 ページ）を参照してください。

③ 〔Ordf 画面〕

ファイル名「ABC」



③ 再度「Ordf」画面が表示され、ファイル名が「ABC」に書きかえられているので、OK キーを押すとファイル名「ABC」でデータを保存することができます。

---

① 〔ファイルを保存画面〕 ②

削除キー（青色）



削除キー（黄色）



【フォルダの削除方法】

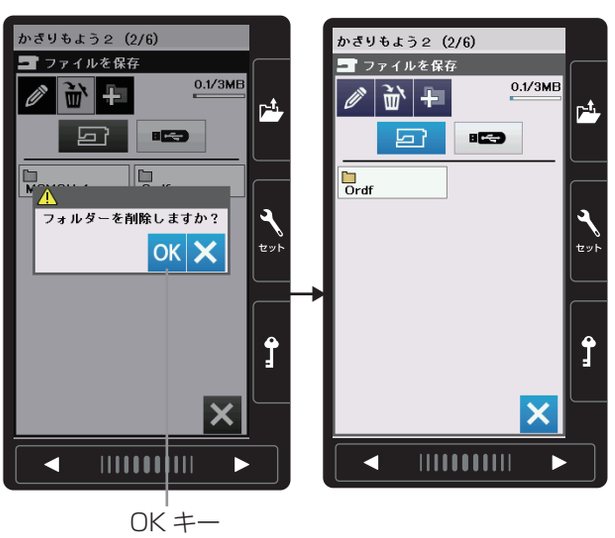
不要になったフォルダは削除キーにより削除することができます。

①「ファイルを保存」画面で、削除キーを押してキーの表示を黄色にかえます。

※ キーの色が黄色の状態でフォルダを削除することができます。

② 削除したいフォルダ（例えば MOYOU-1 ）を押します。

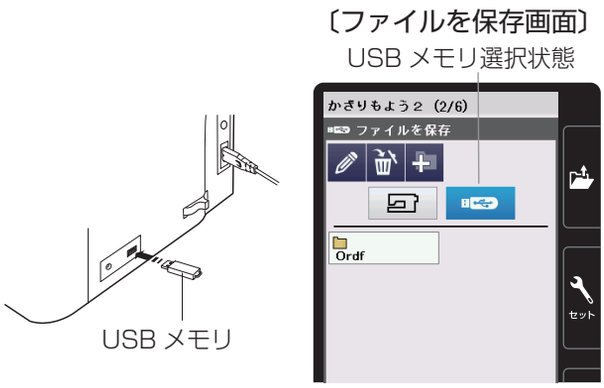
③ 〔メッセージ画面〕 〔ファイルを保存画面〕



OK キー

③ フォルダを削除してよいか確認するためのメッセージ画面が表示されるので、OK キーを押します。
再度「ファイルを保存」画面が表示され、フォルダ「MOYOU−1」が削除されています。

〔ファイルを保存画面〕



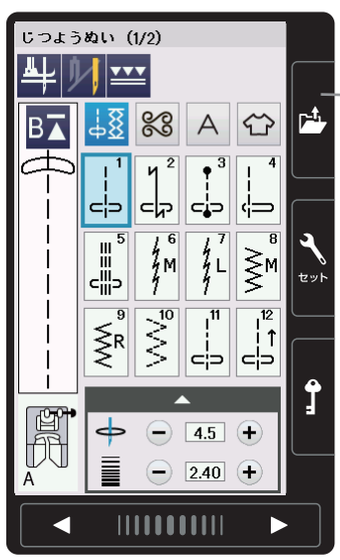
USB メモリに保存する場合

ミシンの内蔵メモリに保存しないで、USB メモリに保存する場合は、ミシン右側の USB 差し込み口に USB メモリを差し込み、「ファイルを保存」画面の [USB] を押して、キーの色を青色にかえます。
データの保存方法は、ミシンの内蔵メモリに保存する方法と同じです。

※ ミシンの内蔵メモリや USB メモリに模様データを保存中（転送中）に電源スイッチを切ったり、USB メモリを抜かないでください。データが破損するおそれがあります。

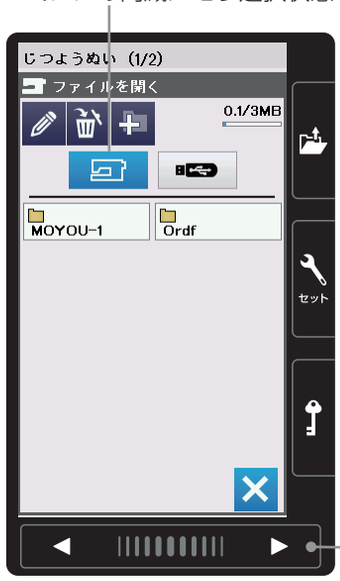
●模様データの呼び出し

①



②

〔ファイルを開く画面〕
ミシンの内蔵メモリ選択状態



【ミシンの内蔵メモリから呼び出す】

① 通常ぬいの状態でファイルオープンキーを押します。

②「ファイルを開く」画面のフォルダの中から呼び出したいファイル（模様データ）が入っているフォルダを押します。（例では、[Ordf] ）

※ 手順②や③の画面で、フォルダやファイルが 1 画面に表示しきれない数だけ保存されている場合は、ページキーで別のページ（画面）を表示できます。

- … **ネーム書きかえキー**
  すでに名前の付いているフォルダ名やファイル名を変更するときに使います。（117 ページ参照）
- … **削除キー**
  フォルダやファイルを削除するときに使います。（118 ページ参照）
- … **新規フォルダキー**
  新しいフォルダを作成するときに使います。（116 ページ参照）
- … **内蔵メモリキー**
  ミシンの内蔵メモリから呼び出すときに選びます。
- … **USB メモリキー**
  USB メモリから呼び出すときに選びます。

※「ネーム書きかえキー」「削除キー」「新規ホルダキー」の使い方は、模様データの保存の場合と同じです。

③ 〔Ordf 画面〕



一覧表示キー【A】



一覧表示キー【B】

〔模様選択画面〕



③「Ordf」画面のファイルの中から呼び出したいファイル（模様データ）を押すと、模様データを保存したときと同じ状態の模様選択画面が表示され、ぬうことができます。

※ 一覧表示キー【A】が選択されている場合は、ファイルが２列で表示され、１ページ 10 個のファイルを表示することができます。

一覧表示キー【B】が選択されている場合は、ファイルが１列で表示され、１ページ５個のファイルを表示することができます。
ファイル名が最大２行で表示されるので、パソコンなどで付けた長いファイル名を表示するときに便利です。

◎ミシンの設定

セットキーを押すと、ミシンを初期の状態（購入時の設定状態）からお好みの状態に設定することができます。
設定内容は、【共通設定】【通常ぬい設定】【言語設定】の３つに分かれています。

〔設定の初期画面〕（共通設定 1/4 ページ）



【キーのはたらき】

① セットキー

ミシンの設定内容が変更できる設定画面になります。

② 共通設定キー

通常ぬいの共通項目の設定画面になります。

③ 通常ぬい設定キー

通常ぬい専用項目の設定画面になります。

④ 言語設定キー

画面に表示されている言語の設定画面になります。

⑤ ページキー

現在表示されている設定画面の次または前のページ（画面）を表示させるときに使います。

⑥ OK キー

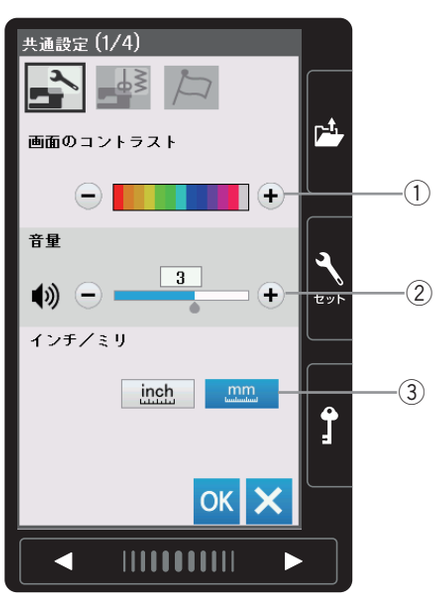
変更した内容を確定し、セットキーを押す前の画面にもどります。

⑦ 閉じるキー

変更した内容を確定しないで、セットキーを押す前の画面にもどります。

※ 設定内容を変更しても、OK キーを押さないで閉じるキーを押した場合は、変更した内容は何も受け付けられず、セットキーを押す前の画面にもどります。

〔共通設定画面〕（1/4 ページ）



【共通設定】

４つのページ（画面）に分かれていて、10 項目の通常ぬいの共通項目の設定ができます。

① 画面のコントラスト

画面のコントラストを「＋／－」キーで調節することができます。

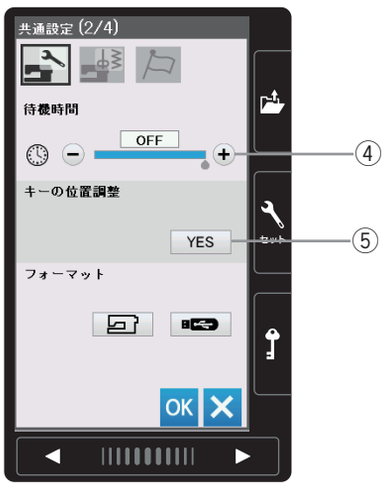
② 音量

キーを操作したときに鳴るブザーの音量を「＋／－」キーで調節することができます。
〈0（消音）～５の６段階、初期値：3〉

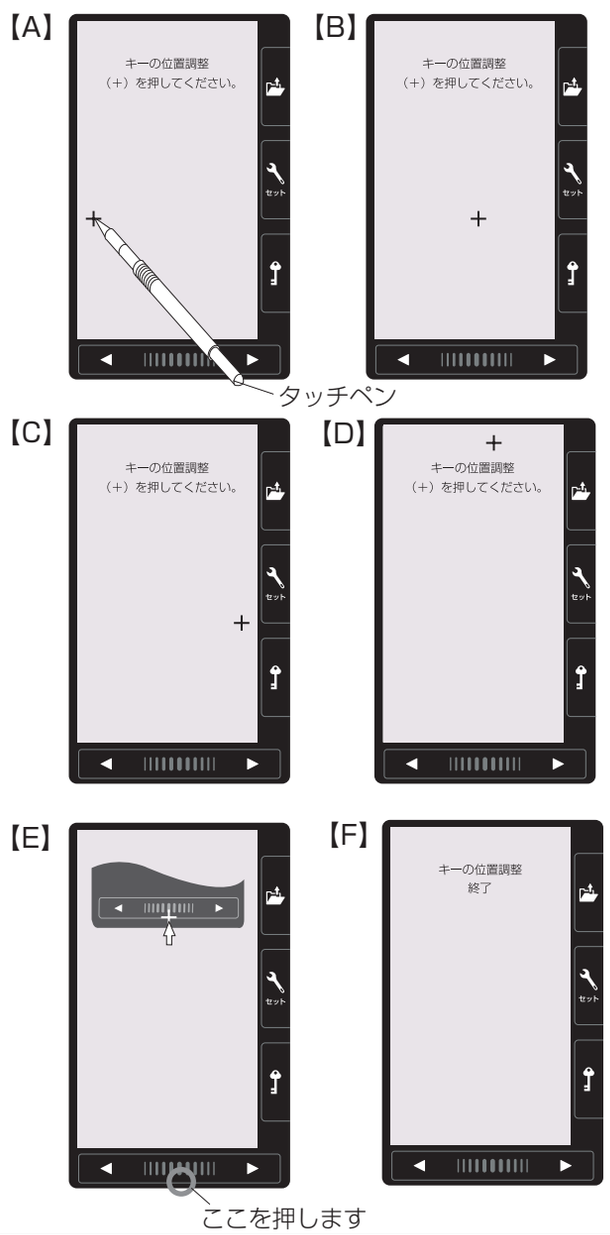
③ インチ / ミリ表示

画面に表示される数値の単位をインチとミリに切りかえることができます。
〈初期：ミリ〉
※ 画面に単位の「mm」または「inch」が表示されているものが切りかわります。調節画面のぬい目の幅やあらさの数値はかわりません。

〔共通設定画面〕（1/4 ページ）



〔キーの位置調整画面〕



④ 待機時間（省エネモード）

電源を入れたままミシンを使用しない状態が続いた場合、一定時間が経過するとミシンランプが消え、ミシンは省エネモードになります。その時間を設定することができます。

〈1 ～ 30 分および OFF（なし）、初期値：OFF（なし）〉

※ 省エネモード中は、画面や操作ボタンに触れると使用中のもとの画面にもどり、ミシンランプも点灯します。

⑤ キーの位置調整

画面上のキー表示の位置と実際のキーの位置がずれていて、押しても受け付けられない場合に調整することができます。

調整する場合は、画面の YES キーを押して、キーの位置調整画面を表示させ、付属のタッチペンで「+」の中心を押します。

押すと、次の画面に切りかわるので、順番に（A）～（E）の画面の「+」の中心を押します。

（E）の画面は、ページキー中央の下側を押します。

（E）の画面が終了すると（F）の画面を数秒表示し、共通設定画面にもどります。

〔共通設定画面〕（2/4 ページ）



⑥ フォーマット

ミシンの内蔵メモリおよび USB メモリをフォーマットします。

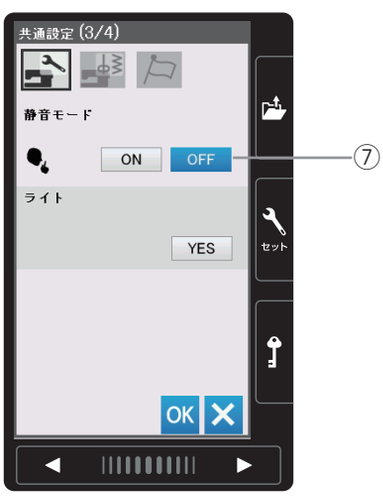
フォーマットする場合は、画面の [内蔵メモリ] キー（ミシンの場合）または [USB] キー（USB メモリの場合）、を押してフォーマット画面を表示させ、OK キーを押します。

※ フォーマットすると、現在保存されているぬいデータがすべて消えますのでご注意ください。

〔フォーマット画面〕



〔共通設定画面〕（3/4 ページ）



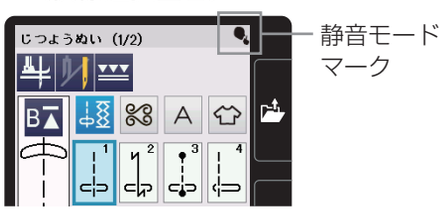
⑦ 静音モード

ミシンの動作音を静かにしたい場合、静音モードでミシンの動作音をおさえることができます。静音モードでは、音量は 1（設定が 0 のときは 0 のまま）、通常ぬいのスロースタート調整はゆっくりの速度になります。

〈初期：OFF〉

※ 静音モード中は、設定画面の対応項目の右側と、通常ぬいの右上に静音モードマークが表示されます。

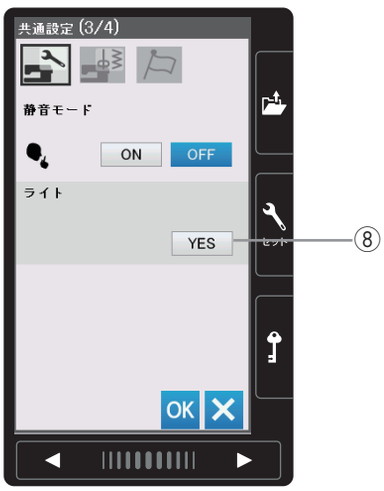
〔模様選択画面〕



〔共通設定画面〕



〔共通設定画面〕（3/4 ページ）



〔ライト設定画面〕



⑧ ライト

3 カ所のライトの「ON」と、「OFF」を設定することができます。
〈初期：3 カ所とも ON〉

設定する場合は、画面の YES キーを押してライト設定画面を表示させ、 キーを押して ON/OFF 状態を変更し、 OK キーを押します。内容が決定され、共通設定画面にもどります。

※ 共通設定画面の OK キーが押されるまで確定はされません。

〔共通設定画面〕（4/4 ページ）



⑨ 背景色

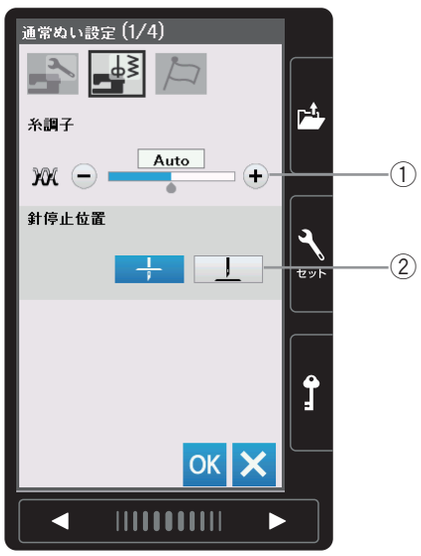
画面の背景色を 3 色から設定することができます。
〈初期値：白色〉

⑩ すべて初期状態にもどす

通常ぬいの共通項目、通常ぬい設定項目で設定したすべての内容を初期の状態（購入時の設定状態）にもどすことができます。
言語の設定はもどりません。

初期の状態にもどす場合は場合は、画面の YES キーを押し、続けて OK キーを押します。
言語の設定を除く変更したすべての内容が初期の状態にもどり、セットキーを押す前の画面にもどります。

〔通常ぬい設定画面〕（1/4 ページ）



【通常ぬい設定】

４つのページ（画面）に分かれていて、９項目の通常ぬい専用項目の設定ができます。

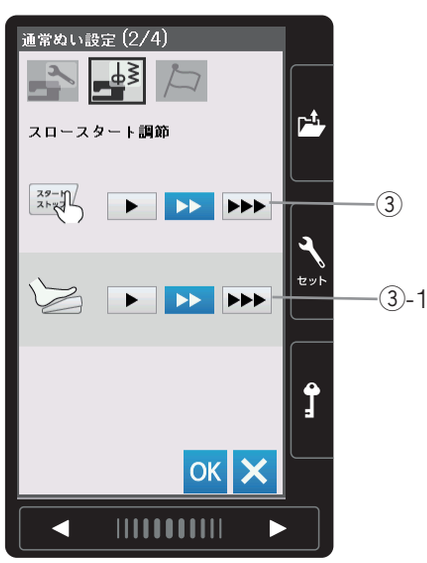
① 糸調子

模様を選ぶと、標準的な条件において最適な糸調子に自動セットされますが、この自動セットされる値 Auto（オート値）をすべての模様に対して全体的に強くしたり（＋）、弱くしたり（－）することができます。
〈Auto － 5 ～ Auto ＋ 5 の 11 段階、初期値：Auto〉

② 針停止位置

ミシンを停止したときに、針を上の位置で停止するか下の位置（布にささった位置）で停止するかの設定をすることがができます。
（ ：下位置停止、 ：上位置停止）
〈初期：下位置停止〉

〔通常ぬい設定画面〕（2/4 ページ）



③ スロースタート調節

ミシンをスタートさせたとき、ゆっくり動きはじめてからスピードコントロールつまみでセットした速さになりますが、その動きはじめの速度をゆっくり（ ）、普通（ ）、速め（ ）の３段階にかえることができます。
上段はスタート / ストップボタン使用時、下段はフットコントローラー使用時の調節（③-1）ができます。
〈初期：普通〉

〔通常ぬい設定画面〕（3/4 ページ）



④押さえ上げ高さ（ピボット）

ぬいを止めたとき押さえが自動で上げる高さを調整することができます。
数値が大きいほど、押さえ上げの高さが高くなります。
「＋／－」キーで設定します。
〈0.5 ～ 6.0mm の 12 段階、初期値：3.0mm〉

⑤押さえ圧

押さえ圧は最適になるように自動で調節されますが、お好みの圧に設定することができます。
Auto（オート）に対して強くしたり（＋）、弱くしたり（－）することができます。
〈Auto － 5 ～ Auto ＋ 4 の 10 段階、初期値：Auto〉

⑥バリアブル ZZ（可変ジグザグ）感度調整

バリアブル ZZ（可変ジグザグ）をぬうとき、ニーリフトで動く量を調整することができます。
「1」に設定すると、ニーリフトを小さく動かすだけで、針棒は動く設定になります。
「3」に設定すると、ニーリフトを大きく動かすと、針棒が動く設定になります。
「＋／－」キーで設定します。
〈1 ～ 3 の 3 段階、初期：2〉

〔通常ぬい設定画面〕（4/4 ページ）



⑦通常ぬいオートストップ時の糸切り

通常ぬいオートストップ時の糸切りを「ON」に設定すると、ぬい終わったあと糸切りボタンを押さなくても自動で糸を切ることができます。
〈初期：OFF〉
※「ON」に設定すると、ボタンホールグループの模様および文字ぬいなど、模様の最後にほつれ止めの止めぬいが入っていて、ぬい終わると自動的にミシンが停止する模様は、ミシンが停止すると同時に自動的に糸を切ります。
その他の模様も、止めぬいボタンまたは返しぬいボタンでぬい終わりに止めぬいを入れてミシンを停止した場合、ミシンが停止すると同時に自動的に糸を切ります。

〔通常ぬい設定画面〕（4/4 ページ）



ステッチの調整値を保存

〔確認のためのメッセージ画面〕



お好み記憶モード

〔確認のためのメッセージ画面〕



⑧ ステッチの調整値を保存（FS）

模様を選ぶと、模様のぬい目の幅やあらさ、糸調子などはオート値（電源を入れたとき、ミシンに自動的に設定されている値）にセットされますが、ステッチの調整値を保存を「ON」に設定すると、オート値を模様ごとにお好みの値に変更して記憶することができます。オート値をお好みの値に変更して記憶しておくと、その模様を選ぶだけで、その設定した値でぬうことができます。

〈初期：OFF〉

※ オート値をお好みの値に記憶した場合、通常ぬい設定画面のステッチの調整値を保存を「OFF」に設定すると、変更した全模様のオート値は初期の状態（購入時の設定状態）にもどります。
変更したオート値は記憶されていますので、再度「ON」に設定すると、変更したオート値にもどすことができます。全模様の調整値を削除する場合は、 キーを押してください。確認のためのメッセージ画面が表示されるので、メッセージ画面の OK キーを押します。
閉じるキーを押すと、前の画面にもどります。

※ オート値をお好みの値に変更して記憶する方法は、「◎実用ぬい／●ぬい目の幅（針位置）、ぬい目のあらさ、糸調子のオート値の変更」（32 ページ）をごらんください。

⑨ お好み記憶モード（リジューム）

お好み記憶モードを「ON」に設定すると、電源スイッチを入れたとき、前回最後にぬっていた模様の画面を表示し、ぬい目の幅やあらさ、糸調子などの設定値も前回と同じ条件でぬうことができます。

〈初期：OFF〉

※ お好み記憶モードが「ON」に設定された状態で電源スイッチを入れると、前回のぬい画面を表示するかを確認するためのメッセージ画面が表示されます。メッセージ画面の OK キーを押すと前回最後にぬっていた模様の画面になります。
閉じるキーを押すと、じつようぬいの初期画面になります。

〔言語設定画面〕



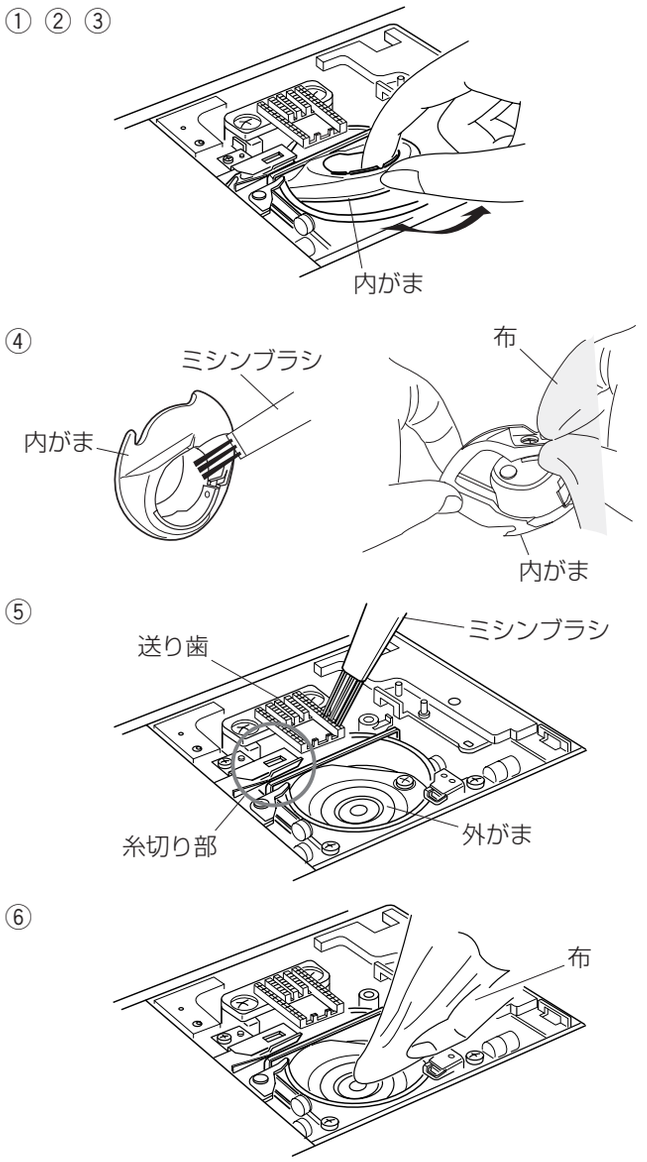
【言語設定】

画面に表示されている言語を 13 カ国の中から設定することができます。

設定する場合は、設定したい言語を選び、OK キーを押します。
〈初期：日本語〉

◎ミシンのお手入れ

●かまと送り歯、糸切り部の掃除



⚠ 注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。感電・火災・けがの原因になります。

【内がまの取り外しと掃除】

① 針と押さえを外します。

② 針板を外し、ボビンを取り出します。
※ 針板の外し方、付け方は、「◎操作方法／●針板の外し方、付け方」（18 ページ）をごらんください。

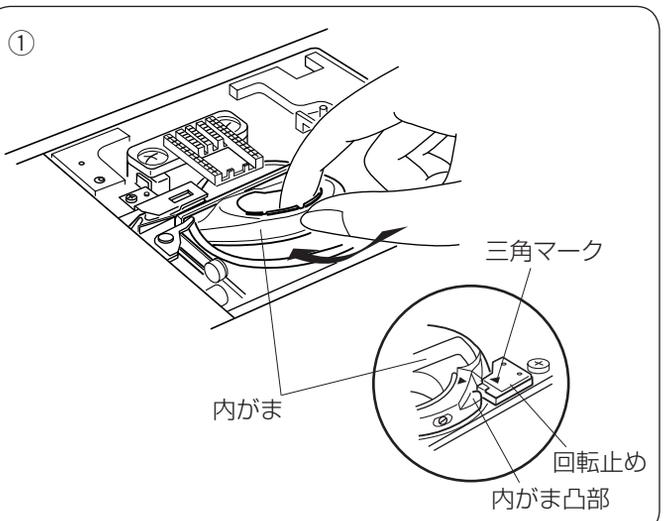
③ 内がまの手前を上に引きながら外します。

④ 内がまを付属のミシンブラシで掃除し、やわらかい布で軽くふきます。

⑤ 送り歯、糸切り部のごみをミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

⑥ 外がまの中央部をやわらかい布で軽くふきます。

※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸いとってください。



【内がまの組み付け】

① 内がまを取り付けます。
内がまの三角マークと回転止めの三角マークを合わせ、内がまの凸部が回転止めの左側にくるように取り付けます。

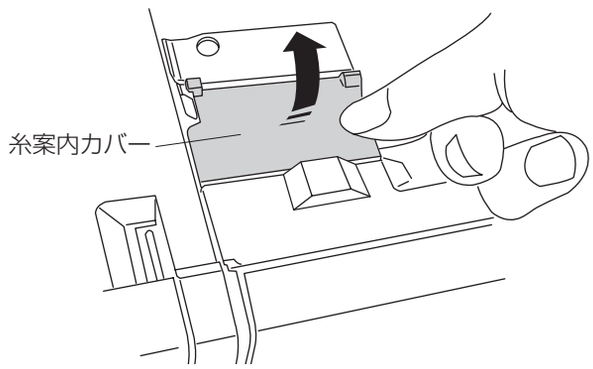
② 針板を取り付けます。

③ 押さえ、針を取り付けます。

お願い ミシンの使用頻度が高い場合、上記お手入れでは取りのぞけない部分に糸くずやほこりがたまり、ぬい不良の原因になります。ミシンの使用頻度が高い場合は、定期的にミシン内部の掃除をすることをおすすめします。お買い上げの販売店にご相談ください。

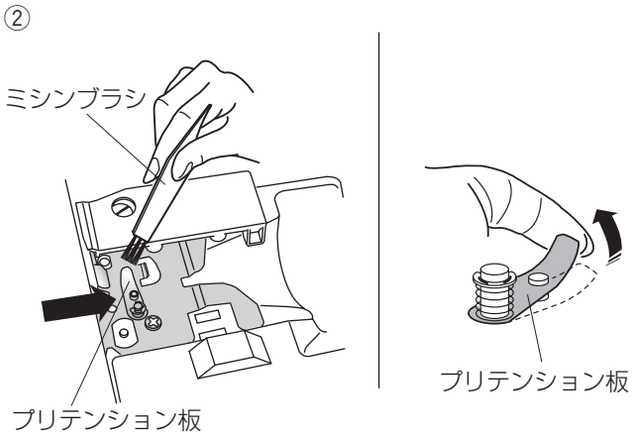
●糸案内カバーの掃除

①



① 天板を上に開け、糸案内カバーの右側を持ち上げて、ミシンから外します。

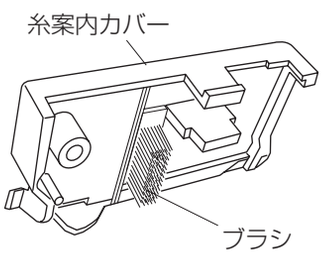
②



② ミシンの糸の通り道を付属のミシンブラシなどで掃除します。

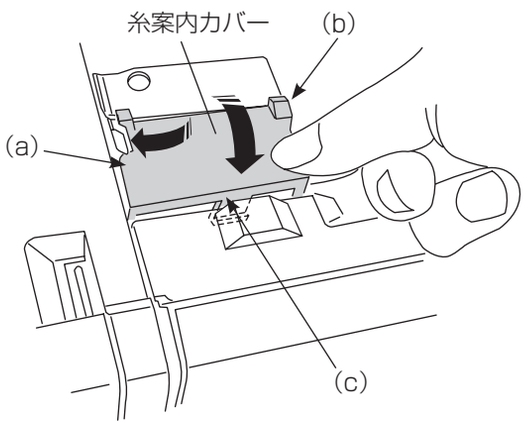
※ プリテンション板の先端を持ち上げて、内側も掃除してください。

③



③ 糸案内カバー裏側のブラシを掃除します。

④

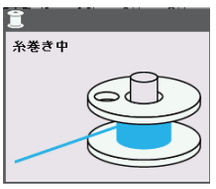


④ 糸案内カバーの取り付けは、先に左側を合わせ上部を軽く押し込み（a)、次に右上側を押しつけ（b)、最後に手前を押しつけて（c)、糸案内カバーをはめ込みます。

◎こんなときには

●注意メッセージが表示された場合

注意メッセージ	原因	処置
⚠ 針棒をゆっくり上げてください。	針棒が下がった状態で電源を入れた。	手ではずみ車を手前にゆっくりまわし、針棒をあげます。
⚠ フットコントローラーを外してください。	フットコントローラーを接続したまま、スタート／ストップボタンを押したときに表示されます。	スタート／ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続を外します。
⚠ 押さえ・針を上げて、 電源を入れなおしてください。	イニシャライズ時に動作が止められた（糸通し軸や針棒が何かに引っかかって動かない等）ときに表示されます。	押さえと針を上げ、電源を入れ直します。
⚠ 押さえを確認して下さい。	針板をセットしたあとに表示されます。	ぬい（模様、針板）にあった押さえに交換します。
⚠ ぬいあがりました 押さえを上げてください。	ボタンホールぬいが終了すると表示されます。	ボタンホールの重ねぬいをしない場合は、押さえを上げます。続けてボタンホールの重ねぬいをするときには、押さえを上げずにそのままスタートします。
⚠ BH レバーを下げてください。	ボタンホール切りかえ（BH）レバーを下げないで、ボタンホールをぬったとき表示されます。	ボタンホール切りかえ（BH）レバーを下げてからぬいます。
⚠ 針を確認してください。 2 本針設定をキャンセルしました。	2 本針設定をキャンセルしたとき表示されます。	針を交換します。
⚠ 正しい押さえホルダーが付いているか確認してください。	上送りぬい切りかえキーが押されたときに表示されます。	使用するホルダーが上送りホルダーか通常ぬいのホルダーかを確認し、ホルダーをセットします。
⚠ 警告 物がはさまっていませんか？ 布が厚すぎませんか？ 針が曲がっていませんか？ 確認後スタートしてください。	ミシン運転時に負荷がかかり、上軸がロックしたときに表示されます。	15 秒程待ち、物がはさまっていないか確認します。 布厚を確認します。 針が曲がっていないか確認します。 内がまがずれていないか確認します。

注意メッセージ	処置
	ミシンの電源スイッチが入っている場合は、針板が外れているあいだ、針板が外れていることを示すメッセージ画面が表示されています。 針板を取り付けたとき、このメッセージ画面が消えることを確認してください。 消えない場合は、もう一度取り付け直してください。
	糸巻き軸が下糸巻き位置にセットされているあいだ糸巻き中のメッセージ画面が表示されています。 メッセージが表示されているあいだスタート／ストップボタン以外のキーの操作は受け付けません。 ・他の操作を行う場合は、糸巻き軸をもとの位置（左側）にもどしてください。

●ブザー音の種類

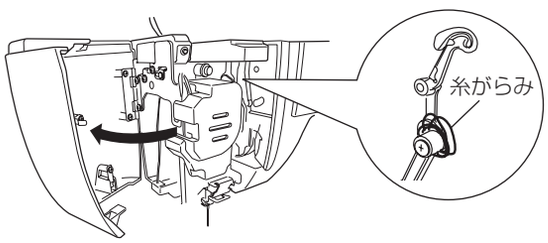
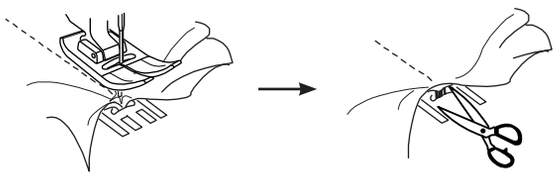
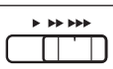
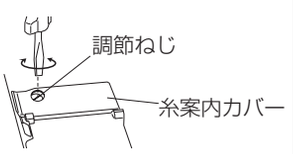
ブザー音	内　　容
ピッ	正しい操作をしたときの受け付け音です。
ピッピピー	ボタンホールなどのぬいが終わったときの終了音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

※ 正しい操作をしたときの受け付け音は鳴らなくすることができます。「◎ミシンの設定／【共通設定】／②音量」（121 ページ）をごらんください。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる	1．上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4．針の付け方がまちがっている。 5．針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。 6．ぬい始めに上糸を押さえで押さえていない。 7．糸がかまなどにからまっている。 8．糸こまに上糸が引っかかっている。	24 ページ参照 31 ページ参照 19 ページ参照 19 ページ参照 19 ページ参照 33 ページ参照 129 ページ参照 糸こま押さえを付ける
下糸が切れる	1．下糸の通し方がまちがっている。 2．内がまの中にごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり回転がなめらかでない。 4．下糸の巻き方がゆるい。	23 ページ参照 129 ページ参照 ボビンを交換する 巻く速度を速くする
針が折れる	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．針止めねじのしめつけがゆるんでいる。 3．布に対して針が細すぎる。 4．ぬい終わったとき布を手前に引いている。 5．模様に合った押さえを使用していない。	19 ページ参照 19 ページ参照 19 ページ参照 布を向こう側に出す 指定の押さえに交換する
ぬい目がとぶ	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．布に対して針と糸が合っていない。 3．ぬい目がとぶようなときに、付属のブルー針、パープル針を使っていない。 4．上糸のかけ方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	19 ページ参照 19 ページ参照 19 ページ参照 24 ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸、下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布に対して針が太すぎる。 4．布に対してぬい目があらすぎる。 5．押さえ圧が合っていない。	31 ページ参照 23、24 ページ参照 19 ページ参照 ぬい目を細かくする 28 ページ参照
ぬいずれがおこる	1．押さえ圧が合っていない。	28 ページ参照
布送りがうまくいかない	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が細かすぎる。 3．送り歯があがっていない。	129 ページ参照 ぬい目をあらくする 13 ページ参照
ぬい目に輪ができる	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	31 ページ参照 19 ページ参照
ボタンホールがうまくぬえない	1．布に対してぬい目のあらさが合っていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 3．ボタンホール切りかえレバーがさがっていない。	49 ページ参照 45 ページ参照 47、48 ページ参照
音が高い	1．かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯にごみがたまっている。 3．電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音がでる。	129 ページ参照 129 ページ参照 異常ではありません
糸切りボタンでうまく糸が切れない	1．使用している糸が太すぎる。 2．糸がからまっている。	9 ページ参照 129 ページ参照

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
ミシンが動かない	1．電源のつなぎ方がまちがっている。 2．かまに糸やごみがたまっている。 3．ボビンに糸がからまっている。 4．押さえ上げがさがっていない。 5．下糸巻きをした後、糸巻き軸が糸巻きの位置（右側）にある。 6．上糸が外れ、ボビンにからまって（ガチャガチャ音がする）いる。 7．上糸が天びんから外れ、他の部品にからまっている。 	6 ページ参照 129 ページ参照 ボビンの糸を確認する 12 ページ参照 22 ページ参照 上糸かけを確認する ［天びんの糸外れ確認］  からまっている糸を取る ［からまっている糸の取り方］ 手順 1．電源スイッチを切る 手順 2．面板をあける 手順 3．からまっている糸を取る 手順 4．上糸をかけ直す（24 ページ参照） 手順 5．面板をしめる
布裏で糸がからまる	1．上糸のかけ方がまちがっている。 	24 ページ参照 ［からまっている糸の取り方］ 手順 1．電源スイッチを切る 手順 2．押さえ上げをあげ、ハサミで布裏の糸を切る 手順 3．針板を外す（18 ページ参照） 手順 4．ボビン、内がまを外し、からまっている糸を取る（129 ページ参照） 手順 5．内がま、ボビンをセットし、針板を取り付ける（129 ページ参照） 手順 6．上糸をかけ直す（24 ページ参照）
模様がきれいにぬえない	1．ボビンのセットがまちがっている。 （ボビンの入れる方向／下糸が内がまのばねに入っていない。）	23 ページ参照
ボビンにうまく下糸が巻けない	1．スピードコントロールつまみを  「はやい」にしていない。 2．糸のかけ方がまちがっている。 3．ボビンの上  または下  に巻きが偏っている。 ↓（調節ねじを左にまわす）　↓（調節ねじを右にまわす） 	7、21 ページ参照 21、22 ページ参照 調整ねじをまわす 注意：調整ねじのまわす範囲は 1 回転までにしてください。部品が外れます。

※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 長時間使うと操作ボタンや操作パネル付近の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

◎模様一覧表

【通常ぬい模様】

【じつようぬい】



01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

【ボタンホール】



01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15

【アップリケ】



01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

【かざりもよう 1】



01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

【キルト】



01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30



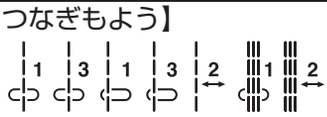
31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51

【サテン】



01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

【つなぎもよう】



01 02 03 04 05 06 07

【かざりもよう 2】



01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30



31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60

【ロングステッチ】



01 02 03 04 05 06 07 08 09

【ワンポイント】



01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14

【プレイ】



01 02 03 04 05 06 07

【直線針板】

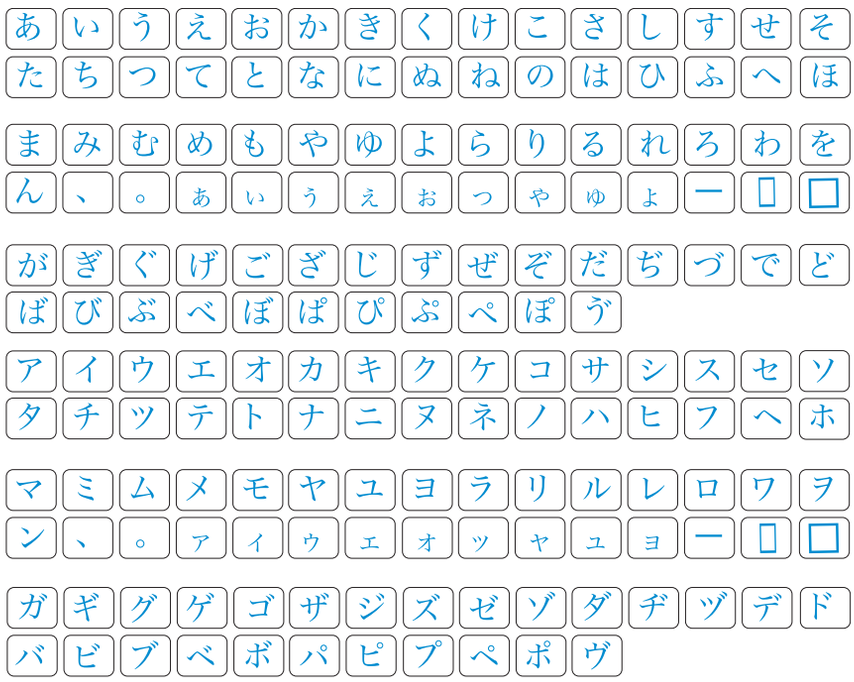


1S 2S 3S 4S 5S 6S 7S 8S

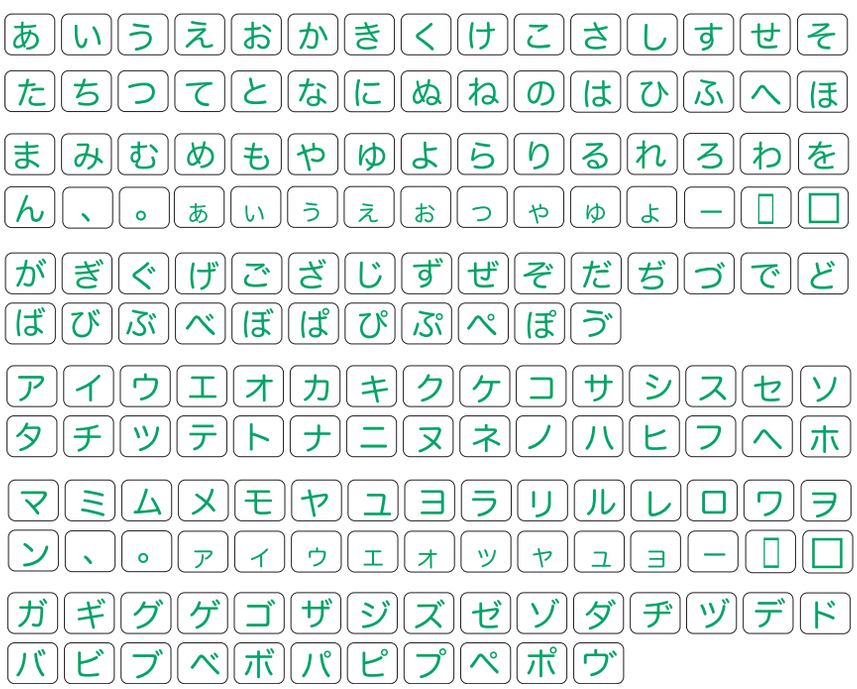
※模様の四角色付きが上下反転できる模様です。

【文字ぬい模様】

明朝体（9mm）



まるもじ（9mm）

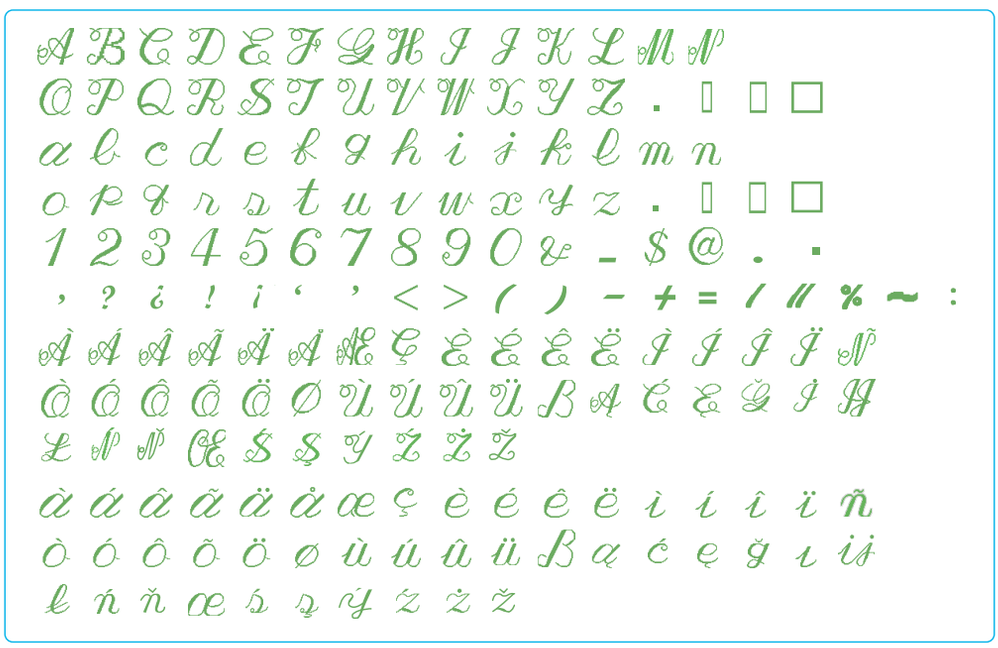


【文字ぬい模様】

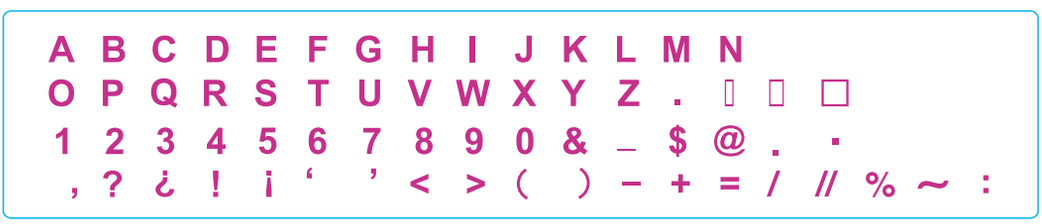
ブロック



スクリプト



ブロック（9mm）



♥ MEMO ♥

♥ MEMO ♥

♥ MEMO ♥

仕　　様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	55W
外形寸法	幅 50.4cm× 奥行 23.6cm× 高さ 31.6cm
質　　量	11.2kg（本体）
使　用　針	家庭用　HA X 1
最高ぬい速度	毎分 1000 針（直線模様） フットコントローラー使用時 毎分 1000 針（直線模様）

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
  ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
  1. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  2. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  3. お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  4. お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社
〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

お客様相談室　TEL. 0120-026-557（フリーダイヤル）
042-661-2600
受付　平日　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00
（土・日・祝日・年末年始を除く）

メールでのお問い合わせは、ホームページ http://www.janome.co.jp
問合せフォームをご利用ください。

JANOME

863800513③